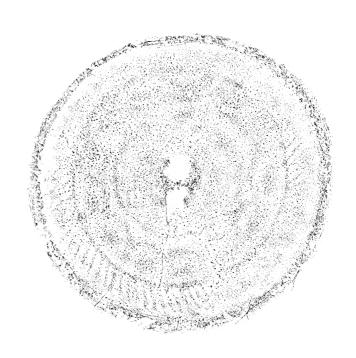
# ヲスギ遺跡

-県道鈴麦線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査-



2003.3

熊本県教育委員会

Copyright by Board of Education ,Kumamoto Prefectural Office

# ヲスギ遺跡

- 鹿本郡植木町滴水所在の遺跡-



2003.3 熊本県教育委員会



出土 金属器・玉類



出土 縄文土器・土製品



出土 弥生土器



ヲスギ遺跡遠景



1~4区全景



5区全景



6区全景

# 序文

熊本県教育委員会は、県道鈴麦線道路改良事業に伴い、平成6・7・8・10 年度の3次にわたり鹿本郡植木町に所在するヲスギ遺跡の発掘調査を実施しま した。

今回の発掘調査では、縄文時代・弥生時代・古代の集落を発見しました。 特に弥生時代の竪穴住居跡からは様々な遺物が出土しました。青銅の鏡や鏃、ガラス小玉は、当時の儀礼や生活を知るうえで貴重なものです。

本報告書が、広く県民の皆様の文化財に対する認識と理解の深まりに貢献し、 地元植木町をはじめとする地域の歴史、社会教育、学術研究の進展に寄与する ことが適うならば、望外の喜びです。

末尾となりましたが、発掘調査を実施するにあたり文化財保護の観点から多大な協力をいただいた県土木部道路建設課、鹿本地域振興局土木部、植木町教育委員会をはじめとする地元関係者の方々及び御指導を賜りました諸先生方に深甚より感謝申し上げます。

平成15年3月31日

熊本県教育長 田 中 力 男

- 1 本書は、熊本県鹿本郡植木町滴水に所在するヲスギ遺跡の報告書である。
- 2 発掘調査は、県道鈴麦線改良工事に伴い、県土木部の依頼を受け、熊本県教育委員会が実施した。調査費については、全額土木部が負担した。
- 3 遺物の整理は、熊本県教育庁文化課文化財資料室で行った。
- 4 遺跡の発掘調査は平成6・7・8・10年度に実施し、整理作業を平成12年度から14年度まで実施した。
- 5 本書で用いる地形図は、県農政部・土木部から提供された図幅並びに国土地理院発行の2万5千分の1及び5万分の1地形図をもとに作成した。
- 6 現地での写真撮影は高木正文、池本利直、池田朋生、三木ますみ、河原京子、前川真由美、堤 英介が行った。 遺構実測は前記7人の他、本山千絵、古庄貞子、中原照子、野口ツユ子、古山、渡辺和幸、有働、青木(立)、 東りえ、松尾すみ子、国武いつ子、井出晴美、吉田智子、内田英美、麻生豊子、落石孝子、佐野新子、古庄貞子、 松尾たか子、宮本厚子、笠うめ子、磯野が行った。

航空写真撮影は、㈱朝日航洋 (スカイサーベイ) に委託した。

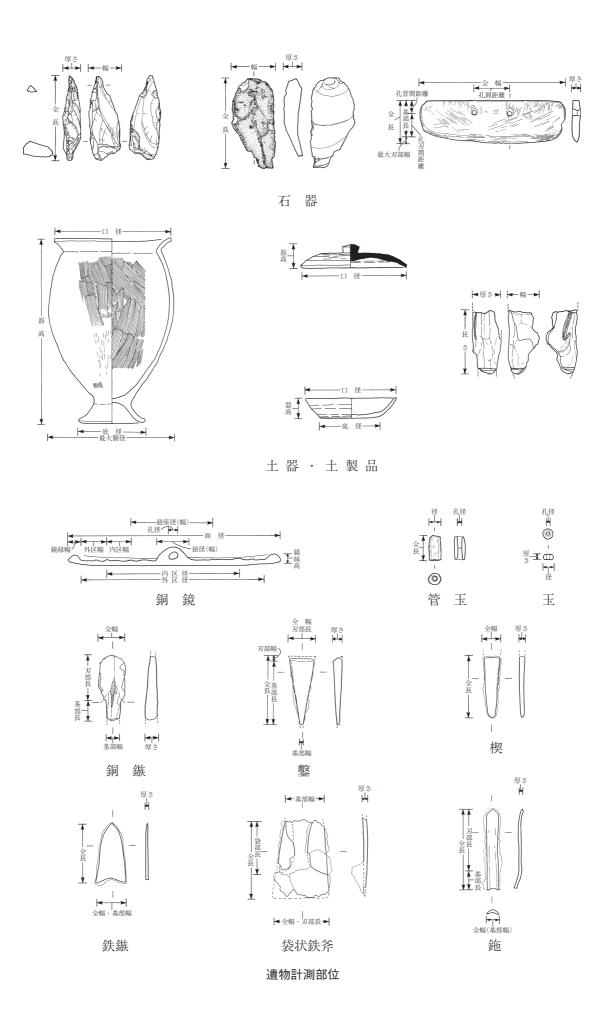
7 遺物の実測は、土器を主に梅田亜耶、河原京子、貞苅美津子、平川早苗、上田まゆみ、川井田久子、村田百合子、金子美代子、古閑満代、田中知恵美、井上裕美、坂本貴美子、宮崎典子、玉類を園田智子、貞苅、石器を梅田、貞 苅、古閑、田中、村田が行った。

製図は、遺構を主に川井田、上田、玉類を貞苅、園田、土器を梅田、貞苅、平川、石器を貞苅、園田が行った。 遺物の写真撮影は、村田百合子が行い、これを貞苅、平川、上田、園田が補助した。

- 8 本書の執筆は、各調査区調査担当者の助言のもと亀田 学が執筆した。ただし、6区の縄文時代早期の土器については、山下義満が執筆した。
- 10 整理後の保管は熊本県文化財資料室で行っている。
- 11 本書の編集は、熊本県教育庁文化課が行い、池田、梅田の援助を得て亀田が担当した。

# 凡 例

- 1 遺構図版 方位 国土座標第Ⅱ系を基準とし、方位もそれに準じた。単位はmで表して、省略した。
- 2 遺跡地区名 遺跡全体の地区(図4)の通りである。調査区により地区名の表記が異なっていたが、それを踏襲した。
- 3 遺構名略号 次の通りである。SB:竪穴住居(5区)、SI:竪穴住居(6区)、SK:土坑・貯蔵穴、SX:その他; ただし、4区については本文ではSXを土坑として扱っている。
- 4 遺構番号 遺構番号は、調査区ごとに遺構確認段階で検出した順に付し、その前に略号を付した。
- 5 遺構図版 標高 標高は、東京湾平均海水面(Tokyo Peil [T.P.])に基づく。
- 6 遺構図版 縮尺 遺構図版は、各ブロックごとに掲載し、土坑は1/40、竪穴住居は1/80である。これに該当し ないものについては、その縮尺を図版中に示した。
- 7 遺構図版 線種 遺構平面図は原則として完掘状態で掲載し、遺構上端の推定線は破線で示した。
- 8 **遺構図版** スクリーントーンの指示は各図面上で示した。硬化面については、平面図は網かけで、断面図では極 太線で指示した。
- 9 遺物図版 縮尺 遺物実測は原則として土器を1/4、石器のうち石製穂積具、、砥石等と鉄器は1/2で、ナイフ形石器、尖頭器、スクレイパー、使用痕剥片等2/3で掲載した。但し、これに該当しないものは、その縮尺を図中に示した。拓本及び径の復元できない破片の立面図は、断面の左側に内面図、右側に外面図を掲載した。
- 10 **遺物図版** 線種 外形線、中心線及び区画線は実線、稜線は一点破線または二点破線、推定線は破線で示した。 また、須恵器については、断面を塗りつぶしている。顔料については、網掛けで指示している。
- 11 遺物観察表 すべての実測個体について、遺物観察表を掲載した。その凡例は、各観察表の欄に別記した。



# 本 文 目 次

第 I 章 調査	生の経過	<u> </u>		(2)	4区の調査
第1節 訓	周査に呈	至る経緯と経過1			①竪穴住居16
第2節 訓	周査の約	且織1		(3)	5区の調査
第Ⅱ章 遺跡	亦の環境	<del></del> 3			①竪穴住居17
第Ⅲ章 調査	をの成り	Ę			②土坑20
第1節 訓	周査のプ	5法4			③不明遺構21
第2節 基	<b>基本層</b> 原	F4			④遺物包含層の遺物21
第3節 訓	周査結り	Rの概要······4		(4)	6区の調査
第4節 名	<b>予調査</b>	区の成果			①竪穴住居22
第1項	旧石器	号時代の遺物5			②土坑28
第2項	縄文門	寺代早・前期の遺構・遺物			③遺物包含層の遺物29
	(1)	5区の調査	第5項	古代の	り遺構・遺物
		①不明遺構5		(1)	5区の調査
		②遺物包含層の遺物5			①竪穴住居30
第3項	縄文門	寺代後・晩期の遺構・遺物	第6項	[ 中世の	り遺構・遺物
	(1)	1区の調査		(1)	5区の調査
		①遺物包含層の遺物7			①土坑31
	(2)	2区の調査		(2)	6区の調査
		① 1 号土坑7			①土坑32
		②遺物包含層の遺物8			②不明遺構34
	(3)	3区の調査8	第Ⅳ章 考	古学的分	<b></b>
	(4)	4 区の調査8	第1節	弥生時代	<b>犬</b> の竪穴住居群について35
		①土坑8	第2節	玉類につ	ついて36
	(5)	5区の調査	第3節	石製穂抗	<b></b>
		①埋設土器10	第4節	鏡につい	3737
		②土坑11	第V章 ま	とめ	
		③遺物包含層の遺物11	第1節	旧石器時	寺代38
	(6)	6区の調査	第2節	縄文時仁	尺早期38
		①竪穴住居12	第3節	縄文時作	弋後・晩期38
		②遺物包含層の遺物14	第4節	弥生時代	弋後期39
第4項	弥生時	寺代の遺構・遺物	第5節	古代	39
	(1)	3区の調査	第6節	中世	39
		①竪穴住居16			

# 図 面 (Pl.) 目 次

第1図	ヲスギ遺跡周辺遺跡分布図1	第22図	5区検出弥生時代遺構配置図
	(S=1/50000) 附;分布表1 ·········1		(S=1/400) ·····19
第2図	ヲスギ遺跡周辺遺跡分布図2	第23図	SB12·SK42·SX25 平面, 断面図19
	(S=1/50000) 附;分布表2 ······2	第24図	SB15·SB18 平面, 断面図
第3図	ヲスギ遺跡周辺地図		炉·貯蔵穴······20
	(S=1/4,000) ·····6	第25図	SB17·SB39 平面, 断面図21
第4図	ヲスギ遺跡調査区全体図及び	第26図	6区検出弥生時代遺構配置図
	5 区・6 区グリット分割図7		(S=1/500) ·····22
第5図	5 区等高線8	第27図	SI15(SX50)·SI19 平面,断面図22
第6図	ヲスギ遺跡基本土層図8	第28図	SI17·SI18·SI23 平面, 断面図23
第7図	1 区∼ 4 区遺構配置図 (S=1/250) ····· 9	第29図	SI24-A·B·SI28 平面,断面図24
第8図	5 区遺構配置図 (S=1/200) ······10	第30図	SI25·SI29 平面, 断面図25
第9図	6 区遺構配置図 (S=1/200) ······11	第31図	SI40-A 平面,断面図26
第10図	5 区検出縄文時代早期遺構配置図	第32図	SI40-B炭化材出土状況平面,断面図 …26
	( S = 1/400) ·····12	第33図	SX16-A遺物出土状況平面,断面図27
第11図	SX19 平面,断面図12	第34図	SX16-B平面,断面図27
第12図	2 区検出縄文時代後・晩期遺構配置図	第35図	5 区検出古代遺構配置図
	(S=1/400) ·····13		(S=1/400) ·····28
第13図	1号土坑遺物出土状況平面,断面図13	第36図	SB05 平面,断面図28
第14図	4 区検出縄文時代後・晩期遺構配置図	第37図	SB05内竃検出状況,
	( S = 1/400) ·····14		竃内遺物出土状況29
第15図	$SX01 \sim SX06 \cdot SX10 \cdot SX11$	第38図	5区検出中世遺構配置図
	平面,断面図14		(S=1/400) ·····30
第16図	5 区検出縄文時代後・晩期遺構配置図	第39図	SK01·SK02 平面,断面図 ······30
	( S = 1/400) ·····15	第40図	$SK03 \cdot SK04 \cdot SK08 \cdot SK09 \cdot SK1 4$
第17図	$SX24 \cdot SX26 \cdot SX35 \cdot SX36 \cdot SX38$		平面, 断面図 ·····31
	平面, 断面図15	第41図	6区検出中世遺構配置図
第18図	6 区検出縄文時代後・晩期遺構配置図		(S=1/500) ·····32
	(S = 1/500),	第42図	SK01·SK02·SK05平面, 断面図32
	SI34·SI39 平面,断面図16	第43図	$SK07 \cdot SK08 \cdot SK13 \cdot SK20 \cdot SX14 $
第19図	SI35~SI38 平面,断面図17		Pit群平面, 断面図33
第20図	3 区検出弥生時代遺構配置図	第44図	5 · 6 区出土石器実測図
	(S = 1/400),		(旧石器·縄文時代早期) ······34
	1号住居跡平面,断面図18	第45図	5 ・ 6 区出土石器実測図
第21図	4 区検出弥生時代遺構配置図		(縄文時代後・晩期)35
	(S = 1/400),	第46図	2・4・5区出土石器実測図
	2号住居跡平面,断面図18		(縄文時代後・晩期~弥生時代)36

6区出土縄文土器実測図(後・晩期)…45	第55図	7図 5区遺物包含層出土石器実測図	第47図
4 · 5 区住居跡出土弥生土器実測図46	第56図	(縄文時代後・晩期~弥生時代)37	
5区SB15出土弥生土器実測図47	第57図	B図 6区遺物包含層等出土石器実測図	第48図
5 区住居跡出土弥生土器実測図 ······48	第58図	(縄文時代後・晩期~弥生時代)38	
5区SX25出土弥生土器実測図49	第59図	D図 6 区遺物包含層等出土石器実測図	第49図
6 区住居跡出土弥生土器実測図 150	第60図	(縄文時代後・晩期~弥生時代)39	
6 区住居跡出土弥生土器実測図 251	第61図	0図 6区出土縄文土器実測図1 (早期)40	第50図
6区出土弥生土器実測図52	第62図	1図 6区出土縄文土器実測図2 (早期)41	第51図
5 · 6 区出土須恵器·土師器実測図	第63図	2図 2・4区出土縄文土器実測図	第52図
(古代・中世)53		(後・晩期) …42	
2 · 6 区遺物包含層出土土製品実測図…54	第64図	3図 5区出土縄文土器実測図(後・晩期)…43	第53図
5 · 6 区出土玉類実測図55	第65図	4図 5区出土埋設土器実測図	第54図
5 · 6 区出土銅製品·鉄製品実測図 ·····56	第66図	(縄文時代後・晩期)44	

# 観 察 表 (Tab.) 目 次

第1表	竪穴住居法量表・・・・・・1
第2表	土坑ほか法量表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第3表	石器観察表 1
第4表	石器観察表 2
第5表	土器観察表・・・・・・・・・・5 ~16
第6表	玉類観察表1
第7表	銅製品·鉄製品観察表····

# 写 真 (Ph.) 目 次

Ph. 1	1~4区調査区全景		5区SX25遺物出土状況(南から)
	1区全景遺物出土状況(北から)		5区SK42完掘状況(東から)
	2区全景遺物出土状況		6区SI15検出状況(東から)
	3 区全景遺物出土状況		6 区SI15・SI19完掘状況(西から)
	4 区全景遺物出土状況(北から)		6 区SI17完掘状況(西から)
	4 区全景遺物出土状況 (南から)		6区SI18完掘状況(東から)
<b>Ph.</b> 2	5区縄文時代早期,		6区SI23完掘状況(南から)
	2 ・ 4 ・ 5 区縄文時代後・晩期遺構	Ph. 6	6 区弥生時代遺構
	5区SX19完掘状況		SI24-B完掘状況(北から)
	5区SX19遺物出土状況		SI24-A遺物出土状(北西から)
	2区1号土坑完掘状況		SI24-A銅鏡出土状況(西から)
	2区1号土坑遺物出土状況		SI28完掘状況(西から)
	4区SX06上層遺物出土状況(北から)		SI25完掘状況(西から)
	5区SX24埋設土器出土状況 (東から)		SI29完掘状況(西から)
	5区SX24完掘状況(東から)		SI40遺物出土状況(東から)
	5区SX36土層断面(南から)		SX16完掘状況(南から)
Ph. 3	5 · 6 区縄文時代後 · 晚期遺構	Ph. 7	5 区古代・中世遺構
	5区SX38完掘状況(西から)		SB05北側竃検出状況(南から)
	6区SI34検出状況(南から)		SB05遺物出土状況(南から)
	6 区SI34完掘状況(北から)		SB05遺物出土状況(西から)
	6 区SI39完掘状況(西から)		SB05竃検出状況(北から)
	6 区SI35·SI37·SI38検出状況		SK03断面(西から)
	(西から)		SK03完掘状況(西から)
	6 区SI35検出状況(北西から)		SK04完掘状況(北から)
	6 区SI36遺物出土状況(北から)		SK08-A・B完掘状況(北東から)
	6 区SI36検出状況(北から)	Ph. 8	5・6区中世遺構
Ph. 4	3~5区弥生時代遺構		5区SK09完掘状況(西から)
	3区1号住居跡完掘状況		5区SK14完掘状況(西から)
	4区2号住居跡検出状況		6 区SK01完掘状況(南から)
	4区2号住居跡遺物出土状況		6 区SK02完掘状況(北から)
	5区SB17完掘状況(東から)		6 区SK05完掘状況(北から)
	5区SB15検出状況(北から)		6 区SK07完掘状況(北から)
	5区SB15完掘状況(南から)		6区SK08完掘状況(南から)
	5区SB18検出状況(北から)		6区SK13完掘状況(東から)
	5区SB18銅鏃出土状況(北から)	Ph. 9	2・4区縄文土器(後・晩期)
<b>Ph.</b> 5	5 · 6 区弥生時代遺構		2区1号土坑・遺物包含層

5 区SB39検出状況 (北から) 4 区SX01 · SX02

Ph. 10 5 区縄文土器 (後・晩期) Ph. 25 1 · 2 区縄文土器 (後·晚期) SX26 (埋設土器含む) 1 区黒色磨研・突帯文土器 2 区磨消縄文・黒色磨研土器 SX35・遺物包含層 Ph. 11 5 · 6 区縄文土器 (後·晚期) Ph. 26 5 · 6 区縄文土器 (後·晚期) 5 区SX24 · SX26 · 遺物包含層 5 区磨消縄文·組織痕土器等 6 区SI37・遺物包含層 6 区貝殼腹緣文·貝殼条痕等 Ph. 12 3~5区弥生土器 Ph. 27 6 区縄文土器 (後・晩期) 3 区遺物包含層 6 区磨消縄文 4区2号住居跡 6 区黑色磨研土器 (SI37 · SI38) Ph. 28 6 区縄文土器 (後·晚期) 5区SB15 Ph. 13 5 区弥生土器 1 6 区磨消縄文・浮文等 SB15 · SB17 · SB18 6 区不明土器等 Ph. 14 5 区弥生土器 2 Ph. 29 6 区縄文土器 (後·晚期) SB18 · SB39 · SX25 6 区黒色磨研土器等 Ph. 15 6 区弥生土器 1 6 区刻目突帯・注口土器・把手 Ph. 30 5 区弥生土器、2 · 6 区土製品 SI15 · SX50 Ph. 16 6 区弥生土器 2 5 区免田式土器等 SI15 · SX50 2 · 6 区土偶 · 不明土製品等 Ph. 17 6 区弥生土器 3 Ph.31 5 · 6 区旧石器 · 縄文時代 SI17 · SI19 · SI24 · 遺物包含層 (早期、後・晩期) 石器 Ph. 18 6 区弥生土器 4 5・6区ナイフ形石器・尖頭器 SI40·SX16·遺物包含層 5 区剥片・石核・スクレイパー等 Ph. 19 6 区弥生土器·5 区古代土器 Ph. 32 2 · 4 · 5 · 6 区縄文時代(後·晚期) 6 ⊠SX16 ~弥生時代石器 6 区打製土堀具·使用痕剥片等 5 区SB05 Ph. 20 5 · 6 区古代土器 · 6 区土製品 2 · 4 · 5 区砥石 · 石製穂摘具 5 ⊠SB05 · SK08 Ph. 33 5 区縄文時代(後·晚期)~弥生時代石器 6 区SK13 · SX14 · 遺物包含層 石製穂摘具未製品(打製石製穂摘具) Ph. 34 6 区縄文時代(後·晚期)~弥生時代石器 Ph. 21 5 区縄文土器(早期) 押型文土器(楕円・山形)等 石製穂摘具・石製穂摘具未製品(打製石 Ph. 22 5 · 6 区縄文土器(早期) 製穂摘具) 石製穂摘具未製品(打製石製穂摘具) 5 区円筒形土器 (撚糸文・条痕文) Ph. 35 1 · 6 区縄文時代(後·晚期)~ 6 区押型文土器(楕円・山形) Ph. 23 6 区縄文土器(早期) 弥生時代石器 6区石製穂摘具未製品(打製石製穂摘具) 押型文土器(楕円) Ph. 24 6 区縄文土器 (早期) · 1区凹石等 1 区縄文土器 (後·晚期) Ph. 36 5 · 6 区鉄製品 6 区押型文土器(山形) 5 区鉄鏃・鉇・鉄鑿 6 区鉄鏃・楔・袋状鉄斧 1区黒色磨研土器

- Ph. 37 5 · 6 区銅製品
  - 6 区連弧文鏡系小形仿製鏡· 5 区銅鏃
  - 6 区連弧文鏡系小形仿製鏡 X 線写真
- Ph. 38 5 · 6 区玉類
  - 5 区ガラス小玉・管玉
  - 6区ガラス小玉
  - 5・6区ヒスイ製小玉・管玉
  - 5・6区玉類集合

# 第1章 調査の経過

# 第1節 調査に至る経緯と経過

平成5 (1993) 年度熊本鈴麦線の建設が計画された。路線内の一部が周知の埋蔵文化財であり、広域の工事のため、熊本県教育庁文化課は、鹿本土木事務所及び土木部道路建設課との協議を実施した。その結果を受けて、平成5年度から計画路線の踏査及び確認調査を高木正文を担当者として実施した。調査成果として縄文時代~中世の遺物包含層が検出され、埋蔵文化財が良好に残存することが判明した。本調査を実施した1~3区については、平成5年度に埋蔵文化財が発見された場所である。平成5年度中に試掘・確認調査が必要と判断した部分すべてを調査を実施できなかったため、事業課と継続協議を実施し、翌年の平成6年度の7月11日~7月14日まで高木正文を担当者とし第2次の試掘・確認調査を実施した。調査は、重機及び人力により実施した。

調査の結果、路線の一部に縄文時代早期の土坑等の遺構及び縄文時代後・晩期の土器、弥生時代の土器、 中世の土器が含まれる遺物包含層を検出し、埋蔵文化財が良好に残存することが判明した。

県文化課は、平成5年度の試掘・確認調査結果と併せて鹿本土木事務所及び道路建設課と協議を実施した。その結果、本調査を実施する箇所及び時期を決定し、平成6年度より、道路建設課と協議のうえ、第1次調査(1~4区)を平成6年10月11日~平成7年3月31日、平成7年5月23日から6月13日まで実施した。その後、鹿本土木事務所及び道路建設課と継続協議を実施し、2次調査(5区)を平成8年1月から7月31日まで、3次調査(6区)は平成10年6月15日から平成10年12月22日まで実施した。

報告書作成業務については、鹿本土木事務所及び道路建設課と協議のうえ、継続事業ということで、現地調査終了後とした。それをうけて、調査終了後、平成12年度より、土器や石器などの洗浄作業等の1次整理から実施した。現地調査の結果、縄文時代早期~中世にいたる多量の土器や遺構を検出したために事業課と協議しながら、平成14年度まで整理作業及び報告書を作成した。

# 第2節 調査の組織

調査主体 熊本県教育委員会

[発掘調査、平成6年度]

調査責任者 桑山裕好(文化課長)、丸山秀人(課長補佐)

調 査 総 括 松本健郎 (主幹兼文化財調査第2係長)

調 査 事 務 白井哲哉 (課長補佐)、木下英治 (主幹兼経理係長)、高濱保子 (参事)、高宮優美 (主任主事)

調 査 担 当 高木正文(参事)、河原京子(嘱託)

[発掘調査、平成7年度]

調查責任者 桑山裕好(文化課長)、丸山秀人(教育審議員兼課長補佐)

調 査 総 括 松本健郎(主幹兼文化財調査第2係長)

調 査 事 務 白井哲哉 (課長補佐)、木下英治 (主幹兼経理係長)、高宮優美 (主任主事)、東 修 (主事)

調 査 担 当 池本利直(文化財保護主事)、池田朋生(学芸員)、本山千絵(嘱託)、前川真由美(嘱託)

#### [発掘調査、平成8年度]

調查責任者 桑山裕好(文化課長)、丸山秀人(教育審議員兼課長補佐)

調 査 総 括 島津義昭 (主幹兼文化財調査第1係長)

調査事務局 淵上重喜(教育審議員兼課長補佐)、江尻靖子(総務係長)、高宮優美(参事)、

東 修(主事)、岸本誠司(主事)

調 査 担 当 池本利直(文化財保護主事)、池田朋生(学芸員)、本山千絵(嘱託)、前川真由美(嘱託)

#### 「発掘調査 平成10年度]

調查責任者 豊田貞二(教育審議員兼文化課長)、川上康治(課長補佐)

調 査 総 括 松本健郎 (課長補佐 文化財調査第1係担当)

調査事務局 伊津野 博(課長補佐)、小斉久代(総務係長)、岸本誠司(主事)、川口久夫(主事)、

東 修(主事)

調 査 担 当 江本 直 (参事)、三木ますみ (学芸員)、前川真由美 (嘱託)、堤 英介 (嘱託)

#### [報告書作成、平成12年度]

整理作業責任者 阪井大文(文化課長)、島津義昭(課長補佐)

整理作業総括 江本 直(主幹兼文化財調査第2係長)

整 理 事 務 局 川上康治 (課長補佐)、小斉久代 (総務係長)、廣瀬泰之 (参事)、川口久夫 (主事)

整理作業担当 村崎孝宏(文化財保護主事)

### [報告書作成、平成13年度]

整理作業責任者 阪井大文(文化課長)、島津義昭(課長補佐)

整 理 事 務 局 小田信也 (課長補佐)、中村幸宏 (主幹兼総務係長)、廣瀬泰之 (参事)、杉村輝彦 (主事)

整理作業総括 野田拓治(主幹·文化財資料室長)、木﨑康弘(文化財調査第2係長)

整理作業担当 池田朋生(文化財調査第1係主任学芸員)、林ゆり(嘱託)、梅田亜耶(嘱託)

#### [報告書作成、平成14年度]

整理作業責任者 成瀬烈大(文化課長)、島津義昭(教育審議員兼課長補佐)

整 理 事 務 局 小田信也(教育審議員兼課長補佐)、中村幸宏(主幹兼総務係長)、天野寿久(主任主事)、 杉村輝彦(主事)、

整理作業総括 野田拓治(主幹・文化財資料室長)、木崎康弘(文化財調査第2係長)

整理作業担当 亀田 学(主任学芸員)、梅田亜耶(嘱託)

整 理 協 力 者 池田朋生(熊本県立装飾古墳館)、池本利直(熊本県立荒尾養護学校)

高見 淳・前川真由美 (七城町教育委員会)、堤 英介 (益城町教育委員会)

藤丸詔八郎(北九州市立考古博物館)、中原幹彦(植木町教育委員会)

古森政次 (熊本県企画部文化企画課)

# 第11章 遺跡の環境

ヲスギ遺跡は、熊本県鹿本郡植木町に所在する。熊本県の中央部に位置する現植木町中心街の西方約3kmの大和丘陵の西北端に立地する。現在でも玉名地方に通じる道として利用されている一角である。標高約85mで、縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。菊池川の支流である木葉川の左岸の低位段丘上、いわゆる菊池台地上に立地する。遺跡の北側には、神ノ木川が流れ、2つの河川に囲まれた台地上に位置する。

今回出土した遺構の時代で中心となるのは、弥生時代である。主に集落のうちの住居群を検出したが、植木町教育委員会の調査では、住居群の東側に弥生時代後期の木棺墓や土壙墓群を検出している。周辺を踏査をすると、台地の末端には遺物の散布は見られず、台地中央、現在田原坂ニュータウン手前まで土器の散布が見られる。河川や台地の位置関係から今回調査した部分は弥生集落の北東部にあたる。また、5区の調査区の北東側に V字溝の断面が見られたが、詳細は不明である。仮に集落を囲む環溝であれば、環溝集落になり、居住区のごく一部を調査したと考えられる。

木葉川の右岸、神ノ木川の左岸には、銅鉾が4点出土している轟遺跡がある。今回の調査で小形仿製鏡や銅鏃が出土したので、県内でも青銅器の出土が多い地域と考えられる。弥生時代中期の集落である轟今古閑遺跡や内山遺跡、甕棺が出土している滴水西原遺跡が存在する。滴水尖り遺跡では中期の集落と甕棺墓が併せて出土している。その他、轟田中原遺跡でも弥生土器が採集されている。このようにヲスギ遺跡の北東の木葉川の左岸には、弥生時代中期の住居群と墓地群が近接する集落が約500~600mの範囲で広がっている。ヲスギ遺跡が弥生時代中期にさかのぼる遺構・遺物は極少量しか出土していないことから考えて、周辺の中期集落がこの地に集落を移していったと考えられる。また東側3kmに位置する坪井川等に開削される台地に立地する小糸山遺跡群では、弥生時代後期の環溝集落が検出されている。鉄器類の出土が多く、鉄器の製作・消費にかかる集落と想定できる。ヲスギ遺跡では、鉇、鉄鏃、鉄斧などが出土しているが数点であり、検出した竪穴住居等の遺構に比較して鉄器の出土量が少なく、集落の性格に差があると考えられる。

ヲスギ遺跡では縄文時代早期と後・晩期の遺構・遺物が出土している。早期では煙道付炉等の遺構や押型文や条痕文等の時期の遺物包含層を調査している。ヲスギ遺跡の約1㎞南側の丘陵に位置する笹尾遺跡では、縄文時代早期の集石炉や炉穴を検出している。ヲスギ遺跡の西側の生野原遺跡でも縄文時代早期の土器が採集されている。縄文後・晩期の遺跡は木葉川の岸の台地上に点在する。笹尾遺跡のほか、旧北部町の山海道、太郎迫遺跡など、中心集落が立地する。太郎迫遺跡では、縄文後期の住居跡、土坑のほか、多量の縄文土器・石器等が出土している。縄文時代後期の標識遺跡にもなっている遺跡である。また、ヲスギ遺跡の立地するすぐ北側の滴水向原遺跡でも縄文後・晩期の遺跡が立地している。周辺の台地上には後期を中心に晩期まで集落が散在していたと考えられる。

周辺の古代遺跡の詳細は不明であるが、塔の本遺跡では、土壙墓が検出されその中から中国浙江省にある越州窯産の青磁瓜形水注などがほぼ完形で出土している。共伴の須恵器から9世紀後半から10世紀前半にかけてのものと推定され、年代的に考えて今回5区で調査された竪穴住居の廃絶後のさほど経たない時期のものと考えられる。この地域が古代において山本郡の範囲であることから、その繁栄を示すものであれば、その前段階の集落縁辺部の様相の一端を調査したと考えられる。

また、中世の集落は詳細は不明であるが、周辺の丘陵部には、轟城跡、鞍掛山城跡、埋原城など中世の城館も立地している。

その他、踏査すると八つ手状に伸びる段丘上の先端に地神らしき祠が各2基存在し、五輪塔の一部等が点 在している。

# 第Ⅲ章 調査の成果

# 第1節 調査の方法

表土及びⅡ層の一部を重機により除去し、掘り下げを実施した。Ⅲ層で古代~中世の遺構を検出した。その後Ⅳ層上面から中層にかけて、弥生時代の遺構を検出し、Ⅳ層下層で縄文時代晩期を検出した。縄文時代早期はⅤ層上面で検出した。

原則的に、遺物の取り上げおよび遺構実測のグリッド(区画)については、国土座標第 $\Pi$ 系を基準とし、10mを基本単位に設定した。設定したグリッドの名称は、調査区ごとに独自に設定しており、 $5\cdot 6$ 区については、第4図の様になっている。

遺物は一部については、レベルを付記して取り上げを実施したが、遺物包含層は、グリッドごと・層位ごとに、遺構については遺構ごとに層位により取り上げを実施した。

遺構の実測図については、1/20を標準とした。遺構配置図については1/100で実測を実施した。

## 第2節 基本層序 (第6図)

調査区の基本層序は、盛土 (I層)、黒褐色土〜黒色土 (II層;耕作土 [一部クロボク;古代遺物包含層])、 黄褐色土 (II層;上面:古代遺構面;弥生時代後期包含層)、暗褐色土 (IV層;上面:弥生時代後期遺構面; 縄文時代後・晩期遺物包含層)、暗灰色土 (V層;上面:縄文時代早期遺構面;縄文時代早期〜旧石器時代 遺物包含層)、白黄色土 (VI層;レスまたはローム)である。

## 第3節 調査結果の概要

5・6区からナイフ形石器が1点ずつ出土している。いずれも原位置に近い出土状況ではなく、今回調査 した区域に旧石器時代の遺構が存在する可能性は少ない。

縄文時代早期には、連結土坑と想定できる遺構を検出した他、遺物包含層から尖頭器、押形文土器、撚糸文土器、条痕文土器等が出土した。今回調査した地区では5区を中心に6区周辺に縄文時代早期の遺構が広がっていたと考えられる。

縄文時代後期には、竪穴住居や土坑を検出し、集落が営まれていたことが判明した。後期が集落の最盛期で、晩期終末まで集落が継続していた可能性が高い。6区を中心に竪穴住居が広がると考えられる。土偶や注口土器等も出土している。

遺跡の主たる時期は、弥生時代後期である。中型・小型の竪穴住居を検出した。小形仿製鏡や銅鏃等の儀礼に使用されていた遺物の他、特に玉類が1つの住居でまとまって出土している。竪穴住居は5・6区を中心に広がっているが、細長い2・3区の調査区にも竪穴住居が1基ずつ検出されたことから今回調査した全域に住居域が広がっていると考えられる。ジョッキ形土器もほぼ完形で数点出土している。

古代は1軒の竪穴住居が検出された。煙道部も残存しており、竈の構造を推定できる良好な資料である。 古代の集落の縁辺部を調査したと考えられる。

中世では、土壙が数基出土し、状況から考えて墓域が検出されたと考えられる。

## 第4節 各調査区の成果

### 第1項 旧石器時代の遺物 (第44図、Ph. 31)

旧石器時代では、5区でV層中よりナイフ形石器が出土した。また、6区からも縄文時代の住居跡から1点ナイフ形石器が出土している。いずれも原位置に近い出土状況ではなく、今回調査した区域に旧石器時代の遺構が存在する可能性は少ない。

いずれも横長剥片を素材とするもので、鋭利な一側辺を刃部とし、一側縁を加工したナイフ形石器と考えられる。石材は安山岩である。

## 第2項 縄文時代早・前期の遺構・遺物

調査の概要 (第10図、Ph. 2)

縄文時代早期については、不明遺構1基(SX19)を検出した。検出面はV層中である。

遺物包含層から楕円や山形の押型文や円筒形条痕(撚糸文)文土器などが出土していることから、当該時期の遺構と推定される。

#### (1) 5区の調査

#### ①不明遺構

SX19 (第11図、Ph. 2)

位置 5区の調査区中央に位置する。検出面の標高は約82.5mである。

形態 掘り方は楕円形で、長軸約3.8m、短軸約2.8mを測る。長軸の方向は東西である。中央は、10cmの深さにくぼんだ状況である。炉のような形状を呈する。底面は平坦ではなく、中央部付近がやや深くなる緩やかなU字状を呈する。底面は、全体的に熱焼成を受けている。中央よりやや西側に特に焼成が顕著でやや窪んだ部分が残存する。東側にも同様な浅い窪んだ部分が残存する。

遺物出土状況 遺物は中央付近に床面よりやや浮いた状況で出土している。縄文時代晩期土器や弥生時代土器の細片を含む。早期にさかのぼる遺物は数点しか存在しない。周辺部には礫が出土している。焼成を顕著に受けているものもなく、原位置に近い状況で出土した遺物はない。いずれも流れ込みの遺物と推定できる。まとめ 遺物の出土状況が各時期を含むことや、遺構の底面が焼けていることや2カ所に特に焼成が顕著で窪んだ部分が存在することから煙道付炉の可能性を指摘できよう。Ⅳ層中から押形文土器や円筒形条痕文土器や撚糸文土器が出土している(Ph.21・22)ことなどから時期的には、検出面等も合わせて考えると円筒形条痕文土器もしくは押型文土器に伴う時期に所属することが想定できよう。

# ②遺物包含層の遺物

#### a. 石器 (第44図、Ph.31)

Ⅳ層中から尖頭器が3点出土している。第44図4・5・6である。V層から第44-3図1点も出土している。 第44図3は周縁からの細かい剥離により側縁を調整後、基部及び先端部を細かい剥離で調整している。 4は平坦剥離を行い、側縁部は両面から調整剥離を行っている。特に片面に細かい調整剥離を行って、先端

を尖らせ整形している。ほぼ刃部は対称である。

5は、半月状を呈する。平坦剥離の後、先端部の曲線の強い側に特に剥離を行い、刃部を作り出している。 6は、平面は半月状を呈し、片面の基部に礫面を残し、反対の面に剥片素材の面を大きく残す。曲線の強い 側面の片側から細かい剥離を施し、刃部を形成している。尖頭器以外にも石匙等としての用途も想定される。 b. 土器 (第50·51図、Ph.21~24)

#### ア. 縄文時代早期土器

#### ① 押型文土器

完形資料には恵まれなかったが、文様体から何れも早期に想定されるものである。文様体は楕円・山形が確認される。楕円文は口縁部資料から直口または外反するが、一部ラッパ状に外反するものもあり、口縁部資料として第50図 $1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 6 \cdot 7 \cdot 8 \cdot 9 \cdot 10$ がある。1は直口するが、 $2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 6$ は外反し、また $8 \cdot 9 \cdot 10$ はラッパ状に外反している。8は波状口縁であろう。施文は外器面上位の口唇部にかけての施文は見られる 4 があるが他には見られない。外器面縦位が主であるが 1 は斜行である。また $4 \cdot 8$  は縦位後横位が見られる。内器面施文が見られるのは $8 \cdot 9$  で何れも横位であるが、8 は口唇部近くに施文後原体条痕が見られ、また10は内器面に明瞭な指圧痕が確認できる。 $11 \cdot 12 \cdot 13$ の資料は何れも胴部資料であるが、これから胴部はやや膨らむ傾向と円筒状を呈するものが想定される。楕円施文原体は径 $7 \sim 9$  mmの範囲であり差異がある。

山形文はその施文形態として外器面は縦位・内器面は横位であるが4・6の外器面はやや斜行のようであり、楕円文と同様に原体に差異が見られる。山形文の場合ピッチ幅が狭いが、1・4・8・9は広く、特に8は一見楕円文と見間違う。山形文と楕円文との施文関係を示唆するものか。また本遺跡資料で楕円・山形に原体条痕が見られることからも今後の考察資料となる。7の底部は平底を呈し緩やかに立ち上がることを示唆する資料である。11・12は施文から同一個体であろう。

その他 5 区からも山形や楕円の押型文土器が多数出土し、Ph. 21-①・②は楕円文の押型文である。Ph. 21-③は楕円文と考えられるが、一部ナデ調整をしており山形文に近い文様を呈する。

Ph. 21-④・⑤は楕円押型文を施した部分と丁寧になでて無文の部分が見られるものである。Ph. 21-④は口縁に向けて外方に開きかけている部分と推定できる。Ph. 21-⑦・⑧は口縁部資料で、いずれも楕円押型文であるが、Ph. 21-⑦は厚さ1.2cmで直立すると推定でき、内面・口唇部とも丁寧にナデており無文である。Ph. 21-⑨は楕円押型文の底部で底部径約8.2cmの平底で、外面の押型の施文がナデによりつぶれている箇所があり、底部外面はナデ調整、厚みは1.0~1.2cmである。Ph. 21-⑩・⑪は押型文であるが、Ph. 21-⑩は文様が平坦でPh. 21-⑪は文様の凹凸が顕著である。

#### ②円筒系(形) 土器 (Ph. 22)

Ph. 22-①は厚さは1.0cmの円筒形条痕文土器である。外面は横方向に条痕文を施している。内面は横方向に丁寧なミガキを施している。Ph. 22-②・③は横方向に撚糸文を施文した土器で厚さ1.0cmで内面を丁寧にナデ調整を施している。Ph. 22-④は胴部の破片で横位の撚糸文の上に斜位の撚糸文を施している。内面は丁寧にナデている。Ph. 22-⑤は撚糸文土器で施文が明瞭である。口縁部がやや外反する。内面は横方向のヘラミガキを施している。他にも数点円筒系土器は、出土している。

### イ. 縄文時代前期 (Ph. 10・26)

Ph. 10-①は頸部の破片で押し引き文と考えられる。

Ph. 26-①は縦方向の沈線を施している。 4 本以上が単位となり、 V 字状を呈する。 曽畑式系の土器と推定できる。

#### 第3項 縄文時代後・晩期の遺構・遺物

調査の概要 (第7・16・18図)

竪穴住居6基、埋設土器3基、が出土した。その他の遺構として土坑を11基検出した。遺物包含層中から も後・晩期の土器を検出しており、埋設土器以外に竪穴住居等が周辺に存在した可能性が高い。

#### (1) 1区の調査(第7図)

顕著な遺構は検出できなかった。しかしながら、調査区中央の1箇所、径約70cmの範囲に焼土及び焼成粘土塊を検出した。周辺を精査したが、ピット等は検出できなかった。遺物包含層からは縄文時代後・晩期の土器・石器が出土している。当該期の集落が周辺に存在した可能性が高い。

#### ①遺物包含層の遺物

#### a. 石器 (Ph.35)

磨製石斧 (Ph. 35-①) や凹石 (Ph. 35-②)、剥片等 (Ph. 35-③・④) が出土している。磨製石斧は幅5.2cm、長さは10.5cm以上で基部側が欠損している。凹石は、長さ約9.5cm、幅約5.3cmの河原石を利用しておりで両面にそれぞれ長さ4.5cm・幅2.0cm、長さ6.2cm・幅1.2cmの使用痕が残存している。使用痕の深さは0.3cm程度である。

#### b. 土器 (Ph. 24·25)

黒色磨研土器様式の深鉢・浅鉢を中心とする。

深鉢は波状口縁 (Ph. 24-①、Ph. 25-①) と平口縁のもの (Ph. 25-②、Ph. 25-③)、がある。Ph. 25-①・Ph. 24-①は、磨消縄文系の土器に併行する可能性がある。Ph. 25-②は口縁部の5条施した沈線は退化している。Ph. 25-③は内外面横方向の沈線を施している。内面は肥厚して一条の沈線を施している。

浅鉢は、口縁部に1条沈線のもの (Ph. 24-②、Ph. 25-④)、短い口縁部で内側に肥厚するもの (Ph. 24-④) (Ph. 25-⑤) の2形式のものが出土している。

Ph. 25-⑥は平底の底部である。外面を赤彩している可能性がある。また、その他出土した破片を見ると 頸部が明瞭なものが多く(Ph. 24-⑤~⑦)、黒色磨研土器様式でも御領式土器を中心とするものの時期幅を 持つと考えられる。突帯文土器(Ph. 25-⑦)も出土している。

#### (2) 2区の調査

土坑を1基検出している。遺物包含層中から多数の縄文時代後・晩期の土器が出土している。

① 1 号土坑 (第13·52図、Ph. 2·9·25)

位置 2区調査区北側から1/3位の西側に位置する。検出面の標高は約89.5mである。

形態 平面形態はほぼ円形を呈し、長軸1.8m、短軸1.7mを測る。検出面からの深さ56cmである。断面の形状は凹字状である。埋土は三角堆積が若干見られるが、その他の層は、一気に埋まっていることから、ある程度埋まった段階で一気に埋められたと考えられる。

遺物出土状況 遺物は土器の破片が多い。遺物出土レベルは高く、土坑の底面からは遺物の出土は少ない。 遺物は、一気に埋められた層に多量に出土したと考えられる。土坑内から深鉢5個体以上と浅鉢が出土した。 胴部片はかなり多く個体数はもっと多いと考えられる。石器は剥片のほか石鏃も1点出土している。

土器 Ph. 25-8~②、Ph. 9-①、②は土坑内上層部から出土したものである。平口縁のもの(Ph. 25-8・①・②、第52図1)と波状口縁のもの(Ph25-⑨・⑩、第52図2)が存在する。

Ph. 25-®は深鉢の口縁部で全面に横方向の磨きを施し、口縁端部が内傾し、外面側に幅1.1cmの面を残す。

Ph. 25-⑨は、全面に横方向の磨きを施す波状口縁の深鉢で口縁端部が内傾し、外面側に幅0.8~1.6cmの面を残す。

Ph. 25-⑩は波状口縁の深鉢で口縁部が内傾し、外面側に幅1.3~2.0cmの面を残す。その面に2条の沈線の外側に磨消縄文を施している。波状口縁の頂部には長さ2.0cm、幅0.4cmの凹点も施している。

Ph. 25-⑪は口縁部外面の幅3cmの区画に深さ約5mmの3条の沈線文を施し、さらに縦方向の沈線を有した棒状浮文を施し左右縦列3つの刺突文を施している。

Ph. 25-⑫は、浅鉢の口縁部で、幅2.3cmの口縁の区画に3条の沈線を施している。

Ph. 9-②は、深鉢で、全面に横方向条痕文が残存する。口縁端部が内傾し、外面側に幅1.1cmの面を残す。 頸部から胴部が緩やかに膨らむ器形である。

Ph. 9-①は深鉢の頸部から胴部にかけての部分である。頸部の胴部よりの面に上段に3条の沈線、下段に2条の沈線を施し、それぞれにX字文を伴う。

第52図2は1号土坑内として取り上げた遺物と遺物包含層が接合できた資料である。口径30.4cmで4ヶ所が波状になる深鉢である。口縁部の面は幅1.0cmで2条の沈線を伴う。頸部の胴部よりの面に上段に2条の沈線、下段に3条の沈線を施し、1条の沈線を共有し、1/8ずつずらしてX字文を施している。

第52図1は、深鉢で口径34cmを測る。口縁部ほぼ水平で、頸部は緩やかである。深鉢の口縁部は直立して、口縁端部が内傾し、外面側に幅1.2cmの面を残す。面を残す部分は横方向のヘラミガキで、その他の外面は縦方向に丁寧なヘラミガキを施している。内面は横方向にヘラ磨きを施している。

第52図3は注口土器の注口部で基部に磨消縄文が土器に残存する。

まとめ 出土遺物は廃棄されたものと考えられ、磨消縄文が残存し、波状口縁を持ちX字文を頸部に施文する等の特徴を持つ太郎迫式土器の時期で、この土坑の掘削時期は、その時期に近いと考えられよう。

#### ②遺物包含層の遺物

a. 土器 (第52図、Ph. 9)

ほとんどが縄文時代後・晩期の土器である。第52図4は、底部径約5.8cm、器高9.9cmの平底の浅鉢である。 口縁部外面の1.8cm幅の面に4条の沈線文を施し、4条の幅にX字文を部分的に施す。

b. 土製品 (第64図、Ph. 30)

第64図1は土偶の脚の付け根部から腹部にかけての部分である。背中側の尻部から側面部にかけて鈎状の 2条の沈線、太股部に1条の沈線が描かれている。腹部は盛り上がりが顕著に見られる。

#### (3) 3区の調査(第7図)

顕著な遺構は検出できなかった。遺物包含層から、縄文時代後・晩期の土器や磨石が出土している。

#### (4) 4区の調査 (第7・14図)

調査区の中央付近に土坑を8基検出した。遺物は、それぞれの遺構に伴うものは少ない。縄文時代晩期~ 弥生時代前期にかけてのものと推定される。

#### ①土坑

SX01 (第15·52 図、Ph. 9)

位置 4区調査区中央に位置する。検出面の標高は約87.1mである。

形態 平面形態は半円形を呈し、長軸1.96m、短軸1.68mを測る。検出面からの深さ20cmである。断面の形状は台形状であるが、西側部分がやや深くなりW字状を呈する。埋土は南北に斜の堆積が見られるが、1

層と考えられる。

遺物出土状況 検出時に土器が出土している (第52図6)が、直接遺構に伴うものではない。

遺物 第52図6は小型の浅鉢である。口径7.9cmで器高4.5cmで口縁部に2箇所焼成前穿孔が偏在している。 口縁部はわずかに短く外反する。底部内面に指頭圧痕が残存する。.

SX02·SX10 (第15図、Ph. 9)

位置 4区調査区中央に位置する。SX02の検出面の標高は約86.9mでSX10の検出面は約87.1mである。

形態 SX02は平面形態は長方形を呈し、長軸1.6m、短軸1.2mを測る。検出面からの深さ76cmである。断面の形状は凹字状である中にピット状の落ち込みがある。SX10はSX02の20cm上で検出しており、長軸1.0m、短軸0.52mで埋土は4層に分けられる。SX10はSX02の20cm上で検出しており、SX02とSX10は平面的に重複しており、埋土の一部の可能性もある。

遺物出土状況 検出時に土器が出土している(第52図7)が、直接遺構に伴うものではない。(SX01参照) 遺物 第52図7は大洞式系の土器である。長さ6cmの5条の弧文を単位とする文様と長さ3cmの4条の弧文、その上段の円形の浮文を特徴とする。口縁部に2条の沈線が施されている。

SX03·SX11 (第15図)

位置 4区調査区中央に位置する。SX03の検出面の標高は約86.9mで、SX11の検出面は、87.1mである。

形態 SX03は平面形態は不定形を呈し、長軸0.85m、短軸0.8mを測る。検出面からの深さ56.0cmである。断面の形状は凹字状である。SX11はSX03の20cm上で検出しており、長軸0.6m、短軸0.5mで埋土は2層に分けられる。SX11はSX03の20cm上で検出しており、SX03とSX11は平面的に重複しており、埋土の一部の可能性もある。

遺物出土状況 検出時に土器が出土しているが、直接遺構に伴うものはない。

SX04 (第15図)

位置 4区調査区中央に位置する。検出面の標高は約86.8mである。

形態 平面形態は楕円形を呈し、長軸2.25m、短軸1.15mを測る。検出面からの深さ28cmである。断面は皿 状を呈する。

遺物出土状況 検出時に土器が出土しているが、直接遺構に伴うものはない。

SX05 (第15図)

位置 4区調査区中央に位置する。検出面の標高は約86.85mである。

形態 平面形態は不定形を呈し、長軸1.4m、短軸0.72mを測る。検出面からの深さ14cmである。断面は皿状を呈する。

遺物出土状況 検出時に土器が出土しているが、直接遺構に伴うものはない。

SX06 (第15図)

位置 4区調査区中央に位置する。検出面の標高は約86.8mである。

形態 平面形態は不定形を呈し、長軸1.4m、短軸0.88mを測る。検出面からの深さ56cmである。断面はU字 状を呈する。

遺物出土状況 検出時に土器が出土しているが、直接遺構に伴うものはない。(SX01参照)

まとめ この土坑群は、深さ及び平面形態にばらつきがある。貯蔵穴や墓や落とし穴等様々な用途が推定できよう。また、検出時に大洞系の土器及び突帯文土器や黒色磨研土器が数点出土している。このことから、時期的には縄文晩期~弥生時代の初頭にかけての土坑群と推定できよう。

#### (5) 5区の調査 (第8・16図)

埋設土器3基が出土した。その他の遺構として土坑を2基検出した。遺物包含層中からも縄文時代後・晩期の土器が出土しており、埋設土器以外に竪穴住居等が周辺に存在した可能性が高い。

#### ①埋設土器

SX24 (第17·53図、Ph. 2·11)

位置 5区の調査区中央(2804G)に位置する。検出面の標高は約82.3mである。

形態 検出した状況では上部が削平されており、正確な形状は不明であるが、口縁部を下位にして出土した。 倒立された状況で土器を埋設していると推定できる。掘り方は円形で径約50cm、残存している深さは、約10 cmである。また、土器を取り上げた跡を精査した結果、倒立する土器の口縁部分を深さ約5cm、幅約10cmで リング状に掘り込んで据えている状況が伺えた。

**埋設土器** 内外面に横方向やや左上がりの条痕が残存する粗製の深鉢でリボン状の突起を持つ。リボン状突起は、1方向しか残存しないが、口縁部に磨滅した箇所があり、2箇所に残存した可能性がある。

まとめ 黒色磨研土器様式の埋設土器であり、用途を推定する状況は確認できなかった。

SX35 (第17·54図、Ph. 10)

位置 5区の調査区中央(2904G)に位置し、SX24から北に2.5m離れた位置で検出した。検出面の標高は約81.9mである。

形態 検出した状況では上部が削平されており、正確な形状は不明であるが、底部を下位に正位置で埋設されたと推定できる。埋設土器の掘り方はほぼ円形で径35~38cmで検出面からの深さは、約20cmである。断面形態はU字状で埋設土器に合わせて掘り込まれている状況である。、残存している深さは、約15cmである。

**埋設土器** 縄文時代後・晩期の粗製の深鉢で口縁部から胴部にかけて外面に指頭圧痕が顕著に残存する。周辺の遺物包含層出土土器や土器の形状から黒川式後半段階の粗製深鉢と推定できる。

まとめ 縄文時代晩期の埋設土器であり、用途を推定する状況は確認できなかった。

SX26 (第17·53·54図、Ph.11 )

位置 5区の調査区中央 (2904G) に位置し、SX35から東に50cm離れた位置で検出した。検出面の標高は 約82.0mである。

形態 検出した状況では、掘り方はほぼ円形で径約60cmである。合わせの埋設土器(第54図1・2)で、正位置の粗製の深鉢に黒色磨研土器様式の浅鉢が蓋状に倒立された状況の埋設土器であると推定できる。

遺物出土状況 上記の合わせの土器(第54図  $1 \cdot 2$ )の他掘り方や周辺から 7 点以上の土器(第53図  $2 \sim 8$ )が出土している。浅鉢 5、深鉢 2 である。底面に張り付いた状況のものはなく、埋設土器との関係は、埋設土器が据えられた以後に入り込んだ土器と推定できる。それ以外の埋設土器との関係は不明である。

土器 第54図1・2は、埋設土器である。1は黒色磨研土器の浅鉢である。外面は胴部下半に縦方向のミガキを施し、胴部上半~口縁部は横方向のミガキを施している。2は粗製の深鉢で、調整は口縁部から頸部まで横方向の条痕で、胴部から下は縦から左上がり方向の斜めハケ目である。口縁部にリボン状突起を持つ。第53図2~6は浅鉢である。2・5は、胴部が内傾して口縁部が上方に伸びるタイプ黒色磨研の浅鉢であ

る。 2 は、肩部に 2 重の X字状の沈線文が施されている。 5 は、肩部に横位の 1 条の沈線を施している。 3 ・ 4 はで肩部から明瞭な頸部を持たず、口縁部が上方に広がるタイプの黒色磨研土器の浅鉢である。底部は上げ底で、内外面全体に横方向にミガキを施している。 6 は底径約10cmで胴部が上方に向かう。胴部の底部よりに 2 条の横位の沈線、と高さ約 9 cmに横位の沈線を1条施している。全面を単位が判明しない程丁寧にミガキを施している。

第53図7・8は深鉢である。黒色磨研土器の深鉢で外面胴部上半に条痕が残存する。外面は横方向に丁寧なミガキを施している。第53図8は粗製土器の胴部である。

#### ②土坑

S X36 (第17図、Ph. 2)

位置 5区の調査区東部 (2805G) に位置する。検出面の標高は約82.0mである。

形態 平面形態は楕円形で長軸約0.7m、短軸約0.7m、深さ25cmを測る。断面がU字~逆台形状で、底面中央部が2段堀の様な形状(小さいところで径35cmの楕円形)を呈する。

まとめ 土坑の形態や断面形状から埋土2層を埋めた後、埋設土器を据えていた可能性もある。

SX38 (第17図、Ph. 3)

位置 5区の調査区北部(2904G)に位置し、検出面の標高は約81.6mである。

形態 平面形態は楕円形で長軸約0.6m、短軸約0.5m、深さ8cmを測る。埋土は2層に分けられる。掘削した断面が皿状である。

まとめ 土坑の形態や断面形状から埋土2層を埋めた後、埋設土器を据えていた可能性もある。

#### ③遺物包含層の遺物

#### a. 石器 (第45図、Ph.31)

第45図1はスクレイパーで、2側面に礫面が残存する。1側縁の片側に剥離を行い刃部を作り出している。他の側縁は部分的に調整を行い刃つぶしを行っている。2は、礫面を残す打面転移を行っている黒曜石製石核である。 $3\sim6$ は、黒曜石製の縦長剥片である。いずれも、礫面を残す打面調整剥片である。弥生時代の住居跡から出土しているが、縄文時代晩期に帰属すると考えられる。

#### b. 土器 (Ph. 10·11·26)

Ph. 10-②は径15.8cm、高さ9cmの浅鉢で2重のリボン状突起が1箇所につく。口縁部内外面横方向のミガキ、胴部外面ナデ、内面は縦方向のミガキ調整である。Ph. 10-③は復元口径約9cmの浅鉢で1箇所突起が残存する。ミガキとナデ調整と考えられるが口縁部外面に一部条痕が残存する。底部は尖底である。

Ph. 10-④は黒色磨研土器の鉢と推定できる。胴部が算盤玉状を呈し、底部が尖底気味の丸底の形式である。最大胴部径約13cmで口縁部が欠損する。

Ph. 11-①は屈曲する頸部を顕著にもつ波状口縁の浅鉢で1箇所以上に突起を持つ。リボン状突起かどうか不明である。口縁部は内側へ丸く折り返している。内外面横方向のミガキを施しているが尖底部付近に縦方向の条痕文が残存する。

Ph. 11-②は頸部径約8.5cm、底部径 7 cmの浅鉢で底部内面は縦から横方向のミガキを施す以外は全面に横方向のミガキを施す。厚さ 6 mmを測る。黒色を呈する。

Ph. 26-②~⑤は磨消縄文土器である。Ph. 26-②はⅣ層出土の口縁部で口縁部内面に磨消縄文を施す。2条の沈線で区画している。浅鉢と推定される。Ph. 26-③はⅣ層出土の波状口縁の深鉢と推定され、細かい

横位の縄文が施され、2条の沈線により区画されている。

Ph. 26-④は弥生時代の竪穴住居 (SB12) の埋土出土の口縁部である。細かい横位の縄文が施され、波状の1条の沈線と2条の平行沈線により区画されている。

Ph. 26-⑤は頸部に3条の沈線とX字文が施されている。

 $Ph. 26-⑥ \sim ⑩は組織痕土器である。 <math>Ph. 21-⑥$ は1見楕円押型文に見えるが、一定方向の糸に直交して1重に引っかけて格子状に編んだものに粘土を押しつけて作った組織痕土器と考えられる。

Ph.11-③は刻目突帯文土器で口径は推定が困難であるが、大型品である。刻目は指によるものか。左指による施文の可能性がある。

#### (6) 6区の調査 (第9・18図)

竪穴住居6軒を検出した。そのうち炉や柱穴を持つものは2軒に過ぎない。住居の時期は、磨消縄文期を中心とするもので、縄文時代後期を中心とした後・晩期の時期のものと推定できる。

#### ①竪穴住居

SI34 (第18·55図、Ph. 3)

位置 調査区南部 (C·D-3) に位置する。床面の標高は約85.9mである。

住居形態 平面形態は円形を呈し、長軸4.80m、短軸2.76m以上を測る。西側が調査区外に伸び詳細は不明である。検出面からの深さは、16cmである。埋土は2層からなる。

柱穴 柱穴は2基検出した。1基が径30cm、深さ49cmでもう1基が径44cm、深さ53cmである。

炉 長軸0.52m、短軸0.48m、深さ7cmで地床炉と推定できる。

遺物出土状況 住居の床面に伴うような遺物は出土していない。流れ込みの土器が出土している。

土器 黒色磨研土器の深鉢の底部(第55図1)である。

**まとめ** 竪穴住居の半分近くが未検出なので全容は不明である。住居の時期についても住居に直接伴う土器等が見られないが、縄文晩期と推定できる。

SI35 (第19·55図、Ph.3)

**位置** 遺跡南部 (C-4・5) に位置する。床面の標高は約85.7mである。**SI**40に中央部を削平されており、 情報は少ない。

住居形態 平面形態は円形を呈し、直径4.6m以上を測る。西側が調査区外に伸び、詳細は不明である。検 出面からの深さは、13cmである。埋土を2層検出した。

柱穴・炉 検出できなかった。

遺物出土状況 住居の床面に伴うような遺物は出土していない。流れ込みの土器が出土している。

土器 黒色磨研土器の深鉢の口縁部(第55図2)と底部(第55図3)である。

**まとめ** 竪穴住居の半分近くが未検出なのと弥生時代の住居に切られているため、全容は不明である。掘り 方の形態等から竪穴住居と考えられる。

SI36 (第19·55図、Ph. 3)

位置 調査区南部 (C-5) に位置する。床面の標高は約85.6mである。SI40に中央部を削平されており、情報は少ない。

住居形態 平面形態は円形を呈し、長軸3.80m以上、短軸1.90m以上を測る。西側が調査区外に伸び、詳細

は不明である。検出面からの深さは、12cmである。埋土を2層検出した。

柱穴・炉 検出できなかった。

遺物出土状況 住居の床面に伴うような遺物は出土していない。流れ込みの土器が出土している。

土器 いずれも黒色磨研土器の深鉢の胴部(第55図4・5)と底部(第55図6)である。

**まとめ** 竪穴住居の半分近くが未検出なのと弥生時代の住居に削平されているため、全容は不明である。掘り方の形態等から竪穴住居と考えられる。

SI37 (第19·55図、Ph. 3·11·27)

位置 調査区南部 (C-4・5) に位置する。床面の標高は約85.7mである。SI35に削平されている。

住居形態 平面形態は円形を呈し、長軸3.6m、短軸2.25m以上を測る。検出面からの深さは、10cmである。 埋土は2層からなる。柱穴は検出されていない。

炉・貯蔵穴 検出できなかった。

遺物出土状況 住居の床面に伴うような遺物は出土していない。流れ込みの土器が出土している。

土器 いずれも黒色磨研土器の深鉢である。第55図12はほぼ水平な口縁部を持つ。全面を丁寧に横方向に磨いている。口縁端部は丸く収める。その他(第55図9・10)は波状口縁で、口縁端部付近でやや内傾し、面を持つ。第55図7・8は頸部で第55図8はX字文が二重になって発達した文様、第55図7は直線と弧の沈線文が施されている。第55図11は底部で下面を一定方向に丁寧に磨いている。

**まとめ** 竪穴住居の半分近くが未検出なので全容は不明である。住居の時期についても住居に直接伴う土器 等が見られないが、縄文時代晩期と推定できる。

SI38 (第19·55図、Ph. 3·27)

位置 調査区南部(B·C-4)に位置する。床面の標高は約85.8mである。SI37に削平されている。

住居形態 平面形態は円形を呈し、長軸4.4m以上、短軸1.6m以上を測る。東側は近代の溝に削平され詳細は不明である。検出面からの深さは、9cmである。埋土は2層からなる。柱は検出されていない。

炉・貯蔵穴 SI37により壊されておりかつ東側が削平されているためか検出できなかった。

遺物出土状況 住居の床面に伴うような遺物は出土していない。流れ込みの土器が出土している。

土器 第55図14は波状口縁の深鉢の口縁部で2条の沈線と波状口縁の頂部に凹点を施している。

第55図15は深鉢の口縁部から頸部で口縁端部に面を持つ。第55図16は黒色磨研土器の浅鉢の口縁部で口縁 部に磨消縄文と波状文が施されている。

**まとめ** 竪穴住居の半分近くが未検出なので全容は不明である。住居の時期については住居に直接伴う土器 等が見られないが、埋土中に磨消縄文を持つ土器が出土することから縄文後期まで遡ると推定できる。

SI39 (第18図、Ph. 3)

位置 調査区南部 (B・C-5) に位置する。床面の標高は約85.6mである。近代の溝に削平されている。 住民形態 平面形態は田形を呈し 長軸4.6m 毎軸2.8m以上を測る 亜側が調査区外に伸び詳細は五田2

住居形態 平面形態は円形を呈し、長軸4.6m、短軸2.8m以上を測る。西側が調査区外に伸び詳細は不明である。検出面からの深さは、6 cmである。埋土は1層である。柱は検出されていない。

炉 住居中央に位置し、長軸0.5m、短軸0.48m、深さ13cmで地床炉と推定できる。

貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 柱穴は2基検出した。1基が径25cm、深さ56cmでもう1基が径40cm、深さ64cmである。

**遺物出土状況** 住居の床面に伴うような遺物は出土していない。流れ込みの土器が出土している。

**土器** ほとんど遺物が出土していない。黒色磨研土器の細片のみである。

**まとめ** 竪穴住居の半分近くが未検出なので全容は不明である。住居の時期についても住居に直接伴う土器 等が見られないが、埋土中の土器から見て縄文後晩期までさかのぼると推定できる。

#### ②遺物包含層の遺物

#### a. 石器 (第45 図、Ph. 32)

第45図7は打製石斧である。刃部もしくは基部が欠損する。片面に礫面を残す。両面とも片側に顕著に細かい剥離調整を行っている。

第45図  $9 \cdot 10 \cdot 11 \cdot 13$ は礫面を残す使用痕剥片である。いずれも、礫面を打面調整のために剥ぎ取った縦長剥片で、第45図  $9 \cdot 10$ は鋭利な片方の側面に使用痕が残存する。

第45図11は両側辺に使用痕が残る。第45図13はネガ面・ポジ面の両方にそれぞれ違う側縁に使用痕を残す。 第45図8は平行した両側縁に使用痕を持つ縦長剥片である。先端部は欠損している。

第45図12は縦長剥片で両側縁を欠損していて詳細は不明である。

#### b. 土器 (Ph.11·26·27·28·29)

Ph. 11-④は口径約40cmの深鉢で、口縁部がやや内傾しながら外方に大きく伸びる。外面はケズリ調整の後ミガキ及びナデ調整を施している。内面は条痕後ナデ調整である。

Ph. 26-⑪は厚さ1.2cmの口縁部で口縁部外面の縁帯に横方向に縄文を施している。Ph. 26-⑫は弧状の沈線と直線で囲まれた範囲に撚糸文が残存する。Ph. 26-⑬は内面に横方向のミガキを施しており、外面は幅1.3~1.5cmの貝殻復縁文を施している。Ph26-⑭は内面は丁寧に磨いており、外面は撚糸文である。Ph. 27-①・②は磨消縄文系土器に棒状の浮文を貼り付けている。①は口縁部、②は頸部である。これらの土器群は北久根山式系土器と考えられる。Ph. 27-⑥は磨消縄文系の鉢の口縁部と頸部に横方向に磨消縄文が残存し、その他外面は丁寧な横方向のミガキで調整している。

Ph. 27-③~⑤は波状口縁の磨消縄文の深鉢である。Ph. 27-③は口縁部に横方向の縄文が施された後2条の沈線を施している。その他外面は縦方向のミガキ、内面は横方向の沈線と横方向のミガキである。Ph. 27-④は口縁部外面に2条の沈線が施され、中央部分が磨り消されている。X字文も施されている。口縁部以外は内外面横方向のミガキが施されている。Ph. 27-⑤は波状口縁の頂部を含む破片で口縁部外面の屈曲部に縄文を施している。口縁部頂部に凹点を施している。

Ph. 27-⑦~⑨はX字文を持つ磨消縄文系の土器で、特に⑦は3条の沈線とX字文と列点文を頸部下部に持つものである。これらは太郎迫式系の土器と考えられる。

Ph. 28-①は波状の口縁部を持つ深鉢で、口縁部には2条の沈線と磨消縄文が施文されている。その他外面は縦方向のミガキを施している。

Ph. 28-②~④は波状の口縁の最高部に縦列し、2~3個の円形の突起を貼り付けて角状を呈する。Ph. 28-⑤は、ヘラミガキを内外面施しており、口縁部頂部内面に中央に向けて放射線状に突帯を貼り付けている。Ph. 28-⑥も同様の個体で平口縁の外面に縦方向の突帯、内面に十字に突帯を貼り付けている。横方向の突帯には縄文が残存する。Ph. 28-⑦は全面にヘラミガキを施した波状口縁の頂部を含む破片である。頂部の角度は鋭角である。Ph. 28-⑧は球条の突起を2段に貼り付けたもので口縁部付近と推定できる。Ph. 28-⑨は磨消縄文系土器の波状の頂部の破片で環状の浮文を貼り付けている。

Ph. 29-①は直立する口縁で、口縁部やや下に突帯を貼り付け貝殻による刻み目文、縦方向に 2 条の沈線を施す。横方向のミガキを全面に施している。

Ph. 29-②・③は屈曲する短い口縁を持つ黒色磨研の浅鉢である。Ph. 29-②は胴部外面に横方向のミガキを施しているが、条痕が残る。内面は横方向のミガキを施している。Ph. 29-③は胴部内面が横方向に削りを施し、その他は横方向に丁寧に磨いている。

Ph. 29-④は4条の浅い沈線を口縁部に施している。口縁部付近が内側に屈曲する浅鉢である。

Ph. 29-⑤・⑥は刻目突帯文土器である。

#### c. 土製品 (第55·64図、Ph.30)

第64図3は用途は不明である。欠損部は直線的に伸び、半円形を呈すると考えられる。断面の形状は二等辺三角形状である。側面には4条の沈線、正面には2条の沈線が施され、全面に一定方向のミガキが丁寧に施されている。側面に1箇所、両側の面に対向して2箇所に焼成前穿孔が見られる。穿孔部には摩擦痕跡があり、紐状のもので吊り下げられていた可能性がある。用途は不明である。熊本県菊池郡七城町小野崎遺跡で類似している例が見受けられる。

第64図 2 は  $\mathbb{N}$  層出土で全長 6 cm以上、厚さ約 1 cmの楕円形の土製品である。裏面は剥離している可能性がある。長軸の端部から長さ4.5cm付近に径1.3cmの凹点を施す。また、 4 条の条痕文がスタンプ状に残る。凹点と 4 条の条痕文の間に長軸方向に沈線が残存する。。

Ph. 30-®は、土製の装飾品と推定できる。平面形は楕円形を呈すると考えられる。凹面と凸面になり、 凸面が表面と考えられる。凹面からの片面穿孔で径約7mmの穿孔が2個ある。出土層位がⅢ層であるため、 時代の特定は困難である。

Ph. 30-⑨は、Ⅲ層中からの出土で剥離痕があり、土偶の手の部分か。径 7 mmの高さ 5 mm以上の吸盤状突起が付く。

Ph. ⑩~⑫は出土層位がⅢ層や撹乱であり、時代が特定できない。径1.2~1.4cmで筒状である。

第55図17は、注口土器の一部で注口部径長軸2.5cm、短軸2.0cmの楕円形を呈し、胴部接続部付近は径3.5cmの円形である。器壁の厚さは $7 \, \mathrm{mm}$ である。全面に丁寧なミガキを施している。

第55図18は把手で刺突文と2条1単位の沈線を把手に沿って左右に施している。付け根部分に右側の貫通 しない穿孔(刺突文)と左側の貫通している穿孔が対をなして残存する。黒橋式土器や北久根式土器等と併 行する時期のものと推定できる。

#### 第4項 弥生時代の遺構・遺物

調査の概要 (第7・8・9・20・22・26図)

竪穴住居18軒と土坑数基検出した。竪穴住居は切り合っており、4時期以上に分けられる。土坑は、土器などを廃棄したものが2基、用途不明のものが2基である。墓地群は調査区内では検出されていない。時期的には弥生時代後期前葉から後葉にかけての集落と考えられる。

#### (1) 3区の調査(第7図、Ph. 1)

住居の輪郭は検出できなかったが、硬化面を検出した。

#### ①竪穴住居

1号住居跡 (第20図、Ph. 4·12)

位置 調査区ほぼ中央に位置する。硬化面の標高は約88.3mである。

住居形態 検出した硬化面の範囲が部分は不定形を呈し、長軸3.0m、短軸1.5mの範囲である。また、柱穴の配置から考えて一辺4m以上の竪穴住居と推定される。

柱穴 主柱穴は2本柱と考えられる。柱穴の大きさは、径24~40cmで深さは20~70cmと様々である。柱穴の深さと配置を考えると3回建て替えられており、70cm、100cmの深さの柱穴が一番新しい段階のものと推定できる。中間距離は2.4m以上と推定できる。貯蔵穴・炉は検出されていない。

**遺物出土状況** 硬化面まで遺物包含層のように掘削しているので、この住居に伴う遺物は不明である。

まとめ 調査区内で出土している土器から時期幅を考えるしかないが、3区で出土している弥生土器は少量で時期を確定できる資料がほとんどない。ただし、Ph.12-①の土器などから、弥生時代後期中葉から後葉にかけての竪穴住居と推定できる。

#### ②遺物包含層の土器

Ph. 12-①は口径9.4cm、高さ4.0cmのジョッキ形土器と考えられる。幅1.5~1.7cmの把手部分の剥離した痕跡が残存する。

### (2) 4区の調査 (第7図)

遺構としては、竪穴住居1軒しか検出できなかった。

#### ①竪穴住居

2号住居跡 (第14·21·46·56図、Ph. 4·12·32)

位置 調査区の北側に位置する。床面の標高は約86.6mである。

住居形態 平面形態は長方形を呈し、長軸6.58m、短軸4.6mを測る。床面積は約30.27㎡で、検出面からの深さは、46cmである。埋土は3層からなる。長軸方向は南北よりやや西方向に振れる。(N-40°-E)

ベット状遺構は長軸の両側に 2 カ所持つ。長さ約4.5m、幅は0.9~1.0mである。床面からの比高差は約10~15cmである。

柱穴 主柱穴は長軸方向に並ぶ 2 本柱で柱穴の大きさは、径32~48cmで深さは88cmである。柱間距離は2.6 mである。柱痕跡は径15cmである。

**貯蔵穴** 東側の中央の壁際に位置する。長軸1.0m、短軸0.68m、深さ32cmである。断面はU字状を呈する。 埋土は3層からなり、再掘削している様子が伺える。

炉 住居の中央に位置し、長軸0.63m、短軸0.58m、深さ17cmで地床炉と推定できる。北側が炉の最深部とほぼ同じ深さである。2層目に顕著に炭や焼土を含む。

**遺物出土状況** 住居の北側のベット状遺構に接している箇所で土器が集中して出土した。廃棄された土器の 可能性がある。

土器 第56図1は底径7.1cmの平底の短頸壷で、口縁は外反し、端部に面を持つ。内外面をでハケ目調整している。第56図2は口径25cm、器高が21.6cmの高坏で口縁部が水平に肥厚するタイプである。脚部外面を丁寧にミガいている。坏部も丁寧になでている。

**まとめ** 長方形住居でベット状遺構を持つ竪穴住居であり、主柱穴は2本で出土土器から弥生時代中期から 後期初頭にかけての住居と推定できる。

### (3) 5区の調査 (第8·22図、Ph. 4·5)

Ⅲ層下層から竪穴住居跡 5 軒、土坑 2 基を検出している。住居については、主軸方向からみると 3 つのグループに分けられる。 3 時期に分けられる可能性がある。住居埋土から、ガラス小玉や銅鏃が出土している。また、住居は調査区の南側に出土しており、住居域の北端部の可能性がある。

#### ①竪穴住居

SB12 (第23·46·56·65·66図、Ph. 36·38)

位置 調査区南部 (2805G) に位置する。床面の標高は約81.3mである。

住居形態 平面形態は方形を呈する。東側が撹乱・調査区外に伸びる。長軸の向きは、ほぼ東西と推定できる。長一辺4.84m以上を測る。検出面からの深さは50cmである。埋土は3層からなる。図示できないが、調査記録で西側にベット状遺構が残存した可能性がある。その他は硬化面が残存する。

**遺物出土状況** 住居の床面からガラス小玉40点以上、石製穂摘具が出土している。ガラス小玉は床(硬化)面中からも出土している。この住居に伴うものと考えられる。しかしながら、土器は細片であり、流れ込みと推定できる。床面直上より鉇(第66図 4)、埋土から鉄鏃(第66図 3)も出土している。

土器 第56図3・4・5は埋土4層からの出土である。第56図3は甕の口縁部、第56図4は、甕の脚台である。第56図5は、器台の脚部で外面に縦方向のハケ目が残存する。

**ガラス小玉** 径  $3\sim 5$  mmの円盤状を呈する。孔径は $0.8\sim 2.5$ mmである。平坦面が明瞭なものと不明瞭なものがある。全点鉛ガラスである。大きさは径 $2.7\sim 5.5$ mmである。正確な計測ができる23点のうち $3.5\sim 3.8$ mmが1 1点と最も多い。小さいもので $2.7\sim 2.9$ mmのもので5点出土している。大きなもので $5.4\sim 5.5$ mmのもので2点出土している。(観察表参照)色は濃色系(紺)と淡色系(水色・緑色)に分けられ、それぞれの比率は5:1である。 1点のみヒスイ製の小玉(第65図41)が出土している。側面を丁寧に研磨している状況が残存する。面取りは、側縁で不均等である。

鉄器 第66図4は鉇で、先端より約3.5cmのところで屈曲しており、逆V字状を呈する。

第66図3は鉄鏃で無茎のタイプで、基部の抉部がV字状を呈し、先端部がさらに屈曲している。鉄の残存 状況はいずれも良好でない。

まとめ 現地調査の記録が不備で、十分構造を表せないが、調査日誌等の記録によると方形のベット状遺構を持つ竪穴住居であると推定できる。時期を決定する材料は不足するが、住居構造や流れ込みの土器などから推定して弥生時代後期中葉から後葉であると推定できる。

また、ガラス小玉が多数出土している点と鉄器が2点出土していることが注目される。住居よりも工房等 に利用されたことも考慮すべきと考える。 SB15 (第24·45·56·57·65図、Ph.4·12·13·38)

位置 調査区南部 (2704G) に位置する。床面の標高は約82.3mである。

住居形態 平面形態は長方形を呈し、長軸6.36m、短軸3.4mを測る。床面積は約21.6m<sup>2</sup>で、検出面からの深さは、36cmである。埋土は3層からなる。長軸方向は東西よりやや北方向に振れる。(N-74<sup>2</sup>-W)

南西部分と東側に 2 つのベット状遺構を持つ。南西側のベット状遺構は $1.92m \times 1.2m$ の北東隅が隅丸方形状になっており、床面からの比高は約20cmである。東側は短辺すべてベット状遺構で、長さ3.2m、幅1.3mである。床面からの比高差は15cmである。

柱穴 主柱穴は長軸方向に並ぶ2本柱で、柱穴の大きさは、径20cmで、深さは48cmと72cmである。

貯蔵穴 南側の中央の壁際に位置する。長軸0.96m、短軸0.7m、深さ32cmである。断面は皿状を呈する。

炉 長軸0.84m、短軸0.72m、深さ12cmで地床炉と推定できる。埋土は3層からなり、1層目に顕著に炭や焼土を含む。

**遺物出土状況** 住居北側の床面及び貯蔵穴と、炉周辺の3箇所から土器が出土している。床面直上からガラス小玉6点が出土している。住居の北側に土器の集中が特に見られることから北側から土器が廃棄されたと考えられる。復元できるものとして、甕9、鉢4、壺5、高坏2である。

土器 甕は、口縁がいずれも外反するタイプで内外面は縦方向を基本とするハケ目調整で、底部に脚台を持つものを基本とする。口径が30cmの大型甕 1(第57図 3)、口径が22~24cmの中型甕 4(第56図 9・11、第57図 1・2)、口径が17~18cmの小型甕が 2(第56図 6・7)、口径13.8cmの平底の甕 1(第56図10)と甕の容量にバリエーションがある。鉢は 3 種類である。頸部が明瞭で口縁部が上方に開くものと、頸部がなく内傾する口縁を持つものに大きく分けられ、後者には、脚台を持たないもの(第57図 8)と持つもの(第57図 4・5)に分けられる。第57図 4・5 は、手捏ね土器で、指頭ナデ痕を外面に残す。 4 は口径・高さ約 5 cmでミニチュア土器である。

壺は、口径約19cmの大型壺(第57図 9・10)、口径14cmの中型壺(第57図11)、小型壷(第57図12)がそれぞれ 1 点ずつ出土している。11は、複合口縁壺である。

**ガラス小玉** 径2.8~4.1㎜の円盤上を呈する。孔径は1.1~1.8㎜である。平坦面が明瞭なものと不明瞭なものがある。色は紺色のみで、全点鉛ガラスである。土器が復元できるものが多い一方、ガラス小玉は完形のものが 2 点で他の 4 点は2/3~1/6欠損しているのが特徴としてあげられる。中にSB17のガラス小玉の破片と接合できるものがある。(第65図39)

**まとめ** 長方形住居でベット状遺構を持つ竪穴住居であり、主柱穴は2本で、出土土器から弥生時代後期中葉であると推定できる。欠損したガラス小玉が多いことも特徴としてあげられよう。

SB17 (第25·58図、Ph. 4·13·38)

位置 調査区東部 (2804G) に位置する。床面の標高は約81.7mである。

住居形態 平面形態は長方形を呈し、長軸6.0m、短軸4.5mを測る。床面積は約27.0㎡で、検出面からの深 さは、約48cmである。埋土は4層からなる。長軸方向は東西よりやや北方向に振れる。(N-83°-E)

南西部分に $1.45 \times 1.1$ mと、南東部分に $1.5 \times 1.36$ mの方形のベット状遺構を持つ。床面からの比高はいずれも約10cmである。硬化面は、ベット状遺構と東側幅約1mを除いた部分に検出された。床面の3/4は、硬化面である。

柱穴 主柱穴は 4 本柱で、桁行2.7m、梁行1.2mである。柱穴の大きさは $28\sim44$ cmで深さは $64\sim80$ cm、柱の大きさは、約15cmと推定できる。

貯蔵穴 南側の中央の壁際に位置する。長軸1.08m、短軸0.8m、深さ32cmである。断面はU字状を呈する。

埋土は3層からなる。西側にも土坑状のもの(長軸約1m、短軸0.4mで深さは、0.4m)が見られるが、中がピット状になっており、入り口などの施設の一部かもしれない。

炉 住居中央に位置する。長軸1.08m、短軸0.96m、深さ16cmで地床炉と推定できる。埋土は3層からなり、 1層目に顕著に炭や焼土を含む。

遺物出土状況 住居の床面近くからは、ガラス管玉1点(第65図40)が出土している。土器も床面近くから 出土している。しかしながら、土器は細片が多く、住居に伴う土器は出土していない。流れ込みもしくは、 廃棄した土器類と推定できる。第58図1は炉の埋土から出土している。

土器 第58図  $1 \cdot 2$  は甕で、口縁部が上方に開くタイプである。 1 は炉内から出土したもので、口径21.6cm、 器壁が2.5mmと薄く、口唇部に沈線が残存する。 2 は口径25.6cmで、口縁部の器壁が $4 \sim 5$  mmと厚みがある。 第58図 3 は鉢で、 1 次調整が縦方向のハケ目で、丁寧にナデ消している。脚台がつく可能性がある。

4は、無頸壺で、胴部最大径の部分に断面三角形の突帯を張り付けている。口縁端部付近も強くなでて突帯を意識していると考えられる。

第58図5は頸部に突帯を持つ長頸壺と考えられる。第58図6は壺の底部である。

第58図7はジョッキ形土器の形状を呈しているが、把手部分が不明で鉢と呼んで良いかもしれない。

玉類 ガラス小玉3点、管玉1点が出土している。

第65図26は径2.6mm、厚さ2.4mmで円盤状で紺色を呈するガラス小玉である。

第65図27は径3.7mm、厚さ3.4mm、孔径1.2mmで紺色を呈するガラス小玉である。

その他、SB15のガラス小玉の破片と接合できる破片が出土している。(第65図39)

第65図26・27はいずれも鉛ガラスである。

管玉 (第65図40) は長さ14㎜で、径は約6㎜と推定できる。カリガラスである。

まとめ 長方形住居でベット状遺構を持つ4本柱の竪穴住居であり、硬化面や西側の土坑の形状から西側が 入り口の可能性がある。出土土器から弥生時代後期中葉~後葉であると推定できる。

SB18 (第24·45·58·66図、Ph. 4·13·14·37)

位置 調査区東部 (2803 G) に位置する。床面の標高は約82.2mである。

住居形態 平面形態は長方形を呈し、長軸6.28m、短軸4.84mを測る。床面積は約30.4m°で、検出面からの深さは、約30cmである。埋土は3層からなる。長軸方向は南北よりやや東方向に振れる。(N-4°-E)

住居の東側1/3がベット状遺構で「コ」状に配置されている。柱部分を避ける形状と推定できる。長さ4.9 mで幅1.6~2.8mのベット状遺構を持つ。床面からの比高はいずれの大きさも20m未満である。ベット状遺構を除いた部分はほとんど硬化面が残存する。

**柱穴** 主柱穴は4本柱で桁行2.4~2.5m、梁行0.56~0.8mである。柱穴の大きさは32~56cmで、深さは32~56cm、柱の大きさは、約15cmと推定できる。

**貯蔵穴** 西側の中央の壁際に位置する。長軸1.12m、短軸0.68m、深さ52cmである。断面はU字状を呈する。 埋土は3層からなる。埋土1層に炭化物を含み、2層に焼土を含む。

炉 住居の中央に位置し、長軸0.96m、短軸0.88m、深さ32cmで、やや深く灰穴炉の可能性がある。埋土は 2層からなり、1層目に炭や焼土塊を多量に含む。

**遺物出土状況** 埋土 2 層から銅鏃(第66図 2)が出土している。掘り込み等については検出できなかった。 土器については、住居埋土 2 層から甕 3、壺 1、器台 1、ジョッキ形土器 1 等が出土している。貯蔵穴の埋土から甕 1 (第58図 8) が出土している。接合状況からみると完形のものが少ない。しかし、ジョッキ形土器は把手部分を欠落しているが、その他の部分は完形である。住居がある程度埋まった段階で、廃棄もしく は祭祀等の行為が行われた可能性がある。

つまり、遺物は柱穴の直上や貯蔵穴が埋没してから入り込んだもので、これらの遺物は、住居の年代には 近いものの、住居に直接伴うものではない。

土器 第58図9・10は中型の甕で、口径20cm前後である。外面に1次調整の縦方向のハケ目の痕跡が残存する。

第58図8は小型の甕で、口径14.5cmで口縁部が顕著に外反する。

第58図12は平底の壺で、内面は横方向のハケ目で調整している。外面も底部付近には横方向のハケ目の痕跡を残すが、胴部の大半を丁寧にナデている。

第58図13は器台の胴部で、坏部の高さが脚部の高さに比べて低くなっているタイプである。内面には絞り 痕と指頭ナデが顕著に残る。第58図14はジョッキ形土器で把手部が欠落している。

**銅鏃** 刃部を両面とも欠損しているので法量は明確でないが、全長2.5cm以上、幅1.0以上、厚さ0.5cmである。 かなり劣化している。

まとめ 長方形住居でベット状遺構を持つ4本柱の竪穴住居であり、硬化面の形状から、西側が入り口の可能性がある。出土土器から弥生時代後期中葉~後葉であると推定できる。

SB39 (第25·58·66図、Ph. 5·14·36)

**位置** 調査区東部(2704 G・2705 G)に位置する。床面の標高は約82.1mである。SK42がこの住居に壊されている。

住居形態 平面形態は長方形を呈し、長軸5.2m、短軸3.36mを測る。床面積は17.5m<sup>2</sup>で、検出面からの深さは、約24cmである。埋土は2層からなる。長軸方向は南北方向よりやや東に振れる(N-22°-E)。

住居の南側1/3以上がベット状遺構で、「L」状に配置されている。幅約1.2m面積4.8m2である。

柱穴・炉 主柱穴は 4 本柱で桁行 $2.3\sim2.8$ m、梁行 $1.5\sim2.2$ mである。柱穴の大きさは $16\sim28$ cmで、深さは $10\sim15$ cm、柱の大きさは不明である。中央に径16cm、深さ54cmのピットがあるが、炉は存在しないと推定できる。

遺物出土状況 住居の床面近くからは、甕・壺等が出土しているが、接合状況等を考えると流れ込みの遺物 と推定できる。鉇(第66図 5 )も埋土中より出土している。また、住居東側に長さ25cm、幅18cmの台石が出土している。

土器 第58図15は口径25cmの中型の甕で、内外面左上がり方向のハケ目が残存する。

第58図17は頸部に櫛描文を施す長頸壺で、外面に1次調整の縦方向のハケ目の痕跡が残存し、内面には横 方向のハケ目が残存する。

第58図16は刻目突帯文土器 (小型壺) で、時期的には第58図15・17の土器より古い年代に位置づけられよう。

**鉄器** 第66図 5 は鉇の先端部である。基部が欠損して詳細な形態は不明である。断面形は緩やかな逆U字状であると推定できる。

**まとめ** 長方形住居でベット状遺構を持つ竪穴住居である。出土土器から弥生時代後期中葉であると推定できる。

# ②土坑

SK42 (第23図)

位置 調査区東部 (2705G) に位置する。SB39の下層で検出している。底面の標高は約81.6mである。

住居形態 平面形態は長方形を呈し、長軸1.6m、短軸1.2mを測る。検出面からの深さは、約50cmである。 SB39の住居の検出の深さが24cmあったので、深さ74cm以上の深さが推定できる。長軸方向は南北よりやや東方向に振れる。埋土は1層である。

遺物出土状況 遺物等は確認できなかった。

#### ③不明遺構

SX25 (第23·59 図、Ph. 5·14 )

位置 調査区東部 (3003 G) に位置する。検出面の標高は、約82.1mである。

形態 平面形態は円形で、長軸2.2m、短軸2.1m、土器が出土している底面の深さは検出面から約15cmである。土器が出土している底面はほぼ水平で壁面は斜めに立ち上がる。上面は、削平されたと推定できる。

本来の深さは、もう少し深かった可能性があるが、記録上明確でない。

**遺物出土状況** 埋土内の底面付近の中心部付近に遺物を検出した。小型甕、中型甕、壺4個体以上、鉢、器 台等が出土している。出土状況から考えて、廃棄された可能性がある。

土器 第59図2は、口径25.7cmの中型の甕で口縁端部が丸くおさまっている。

第59図1は、口径16.8cmの小型の甕で、口縁部が緩やかに外反し、端部に緩やかな面を持つ。

第59図3は、甕の脚台で、内外面を丁寧にナデている。

第59図 4 は、口径8.4cmの小型の鉢で、口縁部は上方に緩やかに開く。底部から胴部外面に指頭圧痕が残存する。

第59図5は、頸部に突帯を持つ大型の壺である。

第59図6は、口縁部が大きく上方に開く広口壺の口縁と考えられる。

第59図7・8は壺の底部で、外面を丁寧になでている。

第59図9は器台で、頸部(屈曲部)が高さの1/4程にある。外面は縦方向のハケ目が残存するが、ナデている。頸部(屈曲部)内面に指頭圧痕が残存する。

#### ④遺物包含層の遺物

a. 石器 (第46·47図、Ph.32·33)

IV層中より 3点の石製穂積具が出土している。結晶片岩製で第46図 4 は緑泥片岩と呼称してよいと思われる。全長 5 cm前後で刃部に平行して研磨痕が残るもの(第46図 4)と全長が3.5cm前後のもので研磨痕が刃部に直交して残るもの(第46図  $5\cdot 6$ )とがある。孔間距離 $2.5\sim 2.7$ cm、孔背間距離 $0.8\sim 0.9$ cmとほぼ共通する。

また、石製穂積具の未製品と推定できるものも出土している。打製石斧の可能性はあるが、側面の形状が非対称で弧を描いていたり、長軸側縁の一方の断面が鋭利になっていることを特徴とする。

#### b. 土器 (Ph. 30)

鈎形文土器、重弧文土器や算盤玉状の胴部の壷等が出土している。

Ph. 30-①は壷の頸部の破片で2条の平行する突帯とその上に胴部側に貼り付けた「ノ」字状の浮文が残存する。鈎形の文様を構成する可能性がある。

Ph.30-2~⑦は、重弧文土器の破片である。 $Ph30-2\cdot3$ は2~9条の重弧文に胴部最大径の部分に2条の沈線と刻目文を施す。胴部下半は横方向のハケ目調整である。 $Ph30-4\cdot5$ も同様の破片の一部と考えられる。Ph.30-6は破片であるが重弧文が4条残存している。Ph.30-7は、重弧文(確実でない)が7条

であるが沈線が浅く、7条の平行沈線のうち3条と切り合っている。

いずれも、細片が多く復元できない。住居埋土等からは、免田式土器は出土しておらず、祭祀行為等に伴う場を隣接地に想定できる。

#### c. 鉄器 (第66図、Ph. 36)

Ⅲ層中より鉄鏃1点が出土している。

第66図 6 は全長7.3cm、全幅2.5cmの無茎の大型品で抉部は深さ9 mmあり、鋭角のカーブを描く。先端部から1.5cmが鋭角に曲がり刺突部を作り出している。それより基部の両側縁は、ほぼ平行で直線的である。

第66図7はIV層中からの出土で、鑿状を呈する。18mm以上の刃部幅を呈する。基部の断面の幅は2 mmと細い。いずれも残存状況は良好でない。

#### (4) 6区の調査 (第9・26図)

Ⅲ層下層から竪穴住居跡10軒、土坑2基を検出している。住居については、切り合い関係から3時期、主軸方向や位置関係から考えて4つのグループに分けられ、4時期の可能性がある。住居埋土から、銅鏡が出土している。

また、住居は調査区の西側に検出しており、住居域の東側に位置する可能性がある。

#### ①竪穴住居

SI15 (第27·60·65図、Ph. 5·15·16·38)

位置 調査区北部中央 (B-10・11) に位置する。床面の標高は約84.2mである。検出が難しく、住居の南東部しか明確に検出していない。

住居形態 平面形態は長方形を呈し、長軸約5.4m、短軸4.5mを測る。床面積は約24.3 $\text{m}^2$ で、検出面からの深さは、約48cmである。埋土は3層からなる。埋土 $1\sim2$ 層に多量の焼土粒が混じる。下層になるほどしまりが強くなる。貯蔵穴・ベット状遺構は検出されなかった。

長軸方向は南北より東方向に振れる (N-57°-E)。硬化面が残存する。

柱穴 主柱穴は2本柱で掘り方の径は22~30cm、深さ70~75cmである。柱間距離は約2.2mである。

炉 住居の中央に位置し、長軸0.9m、短軸0.65m、深さ18cmを測る。地床炉である。埋土は2層からなり、 1層目は焼土が多量でブロック状になっている部分も見られた。2層目はしまりがあり、1層目の土が部分的に混じる。

遺物出土状況 住居床面付近から甕やジョッキ形土器が出土している。土器の出土は、北東側に集中している。北東側の柱穴周辺には、平底の甕(第60図 5)とジョッキ形土器(第60図 8)が散らばって出土している。これら2つは床面近くに廃棄された可能性がある。鉄器が住居北側、ガラス小玉は、住居南側で出土している。埋土2層から甕3、壺1、器台1、ジョッキ形土器等が出土している。ジョッキ形土器は把手部を欠落している。第60図 1 等が住居に伴うものである可能性がある。

土器 図示したのは、床面近くから出土したものである。原位置は保っていない。第60図 1~5 は甕で斜め 方向のハケ目を内外面に残す。第60図 1 は口径28.4cmの大型の甕で口縁部はややつまみ上げている。第60図 4 は、口径19.5cmの中型の甕で口縁部はやや外方に開き、端部はやや面を持つ程度である。外面に 1 次調整の縦〜斜め方向のハケ目の痕跡が残存する。第60図 5 は平底の甕で、口縁部が大きく上方に外反して開くもので、口縁端部に明瞭な面を持つ小型の甕である。

第60図6は、口縁部がほぼ直立する鉢である。底部は丸底を呈する。

第60図7は広口壷の口縁部~頸部で、一条の櫛描平行文と二条の櫛描波状文を施している。内外面に一次調整の右上がり方向のハケ目が残存する。

第60図8はジョッキ形土器で把手部が欠落している。丁寧になでているものの、内外面に斜め方向のハケ目による調整が見られる。

**ガラス小玉** 水色のガラス小玉 1 点のみが出土している。(第65図43)丸形で径4.5m、厚さ3.8m、孔径2.0m と中型である。平坦面が明瞭である。鉛ガラスである。

**まとめ** 検出状況が良好でないので、ベット状遺構の有無が問題である。ジョッキ形土器や櫛描波状文を施す壺等が出土しているのが特徴である。

SI19 (第27·61図、Ph. 5·17)

**位置** 調査区北部中央 (B-10・11、C-10) に位置する。床面の標高は約84.4mである。大部分がSI15に削平されている。

住居形態 平面形態は長方形を呈し、長軸5.6mを測る。床面積は約13.8㎡以上で、検出面からの深さは、38 cmである。埋土は3層からなる。2層目は焼土粒を多量に含み、3層目は硬くしまり、少量の炭とニガ土のブロックを多量に含む。長軸方向は南北よりやや東方向に振れる。(N-27°-E)

柱穴 主柱穴は2本柱で、掘り方の径は28cmで、深さ35~46cmである。柱間距離は、約3.3mである。

炉・貯蔵穴 大部分がSI15に削平されており、不明である。

遺物出土状況 大部分がSI15に削平されており、住居に伴う遺物は少ないが、南西部に甕が1点床面近くから出土した。(第61図1)

土器 第61図1は、口径27.6cmの大型の甕で、口縁が緩やかに外反し、端部は緩やかな面を持つ。

第61図3は口径11.0cmの小型の壷で、短く外反する口縁を持つ。SI15出土土器との型式差は認められない。 まとめ 長方形の掘り方を持つ竪穴住居であり、主柱穴は2本で、出土土器から弥生時代後期中葉であると 推定できる。

SI17 (第28·48·60·65図、Ph. 5·17·34·38)

位置 調査区北部中央部 (B·C-9·10) に位置する。床面の標高は約84.4mである。

住居形態 平面形態は長方形を呈し、長軸6.0m、短軸4.2mを測る。床面積は約25.2m $^{\circ}$ で、検出面からの深さは、約35cmである。埋土は3層からなる。2層目以下焼土粒を含む。長軸方向は南北よりやや東方向に振れる。 $(N-58^{\circ}-E)$ 

南部分隅に $1.2m \times 0.4m$ の長方形 $+0.8m \times 0.2m$ の三角形のベット状遺構が検出されている。上面がやや硬化している。床面からの比高は約18cmである。また、A-A'の断面の北西側の断面の土層の4は、硬質土でありベット状遺構が存在した可能性がある。貯蔵穴は検出されていない。

柱穴 主柱穴は 2 本柱である。柱穴の大きさは $28\sim32$ cmで、深さは $40\sim44$ cmである。柱間距離は、約2.3mである。

炉 住居の中央に位置し、長軸0.8m、短軸0.58m、深さ15cmで地床炉と推定できる。埋土は2層からなり、 1層目はしまりが弱く、多量の炭や焼土粒、砂粒を含む。2層目はしまりが強く、細かい焼土粒や炭を多量 に含む。

遺物出土状況 炉を中心として西側壁付近と東側壁付近の2カ所の住居最下層(床面近く)から出土している。床面近くに廃棄された可能性が高く、復元できた土器は、特に西側壁から出土したものである。ガラス小玉は炉から西側に約1mの付近から出土している。

土器 第60図9は、口径13.5cmの小型の甕で底部が上げ底である。口縁部が外反し、端部に面を残す。

第60図10は口径7.0cmの小型の鉢である。内外面に指頭圧痕を残す。口縁部は外方に開き、端部内側に面を残す。

第60図11は口径14.0㎝の中型の短頸壺で、口縁部が外方に広がる。第60図12は平底の壷の底部である。 ガラス小玉 第65図44は径4.0㎜で厚み2.7㎜で円盤状を呈する。孔径は1.7㎜で水色を呈する。鉛ガラスである。

まとめ 長方形住居でベット状遺構を持つ2本柱の竪穴住居であり、西側の硬化面の範囲から西側が入り口の可能性がある。住居の時期は、出土土器から弥生時代後期中葉~後葉であると推定できる。

SI18 (第28·60·65図、Ph. 5·38)

位置 調査区中央部 (B-11・12) に位置する。床面の標高は約84.4mである。

住居形態 平面形態は長方形を呈し、長軸5.26m、短軸約3.8mを測る。床面積は約19.9㎡で、検出面からの深さは、約40cmである。埋土は3層からなる。長軸方向は南北よりやや西側に振れる。(N-14°-W) 硬化面が床面全域に認められる。ベット状遺構は伴わない。

柱穴 主柱穴は2本柱で、柱穴の径は25~28cmで、深さは42~44cmである。柱間距離は、約3.2mである。 炉 住居の中央に位置し、長軸0.82m、短軸0.64m、深さ20cmで地床炉と推定できる。埋土は2層からなり、 1層目に顕著に炭や焼土を含む。

遺物出土状況 床面に伴う遺物は、出土しておらず、流れ込みの遺物しか出土しなかった。

土器 第60図13は壷の胴部で、刻目突帯が残存する。内外面とも右斜め上方へのハケ目調整をしている。 ガラス小玉 第65図45は径3.0㎜で厚み3.0㎜で円盤状を呈する。孔径1.3㎜で紺色を呈する。

**まとめ** 中央に炉を持つ2本柱の建物である。住居の時期は、出土遺物等から弥生時代後期前葉を中心とする時期と推定できる。

SI24-A (第29·48·61図、Ph. 6·17·34·37)

位置 調査区北部中央 (D-14・15) に位置する。床面の標高は約83.8mである。SI24-BとSI28を削平している。西側は調査区外である。

住居形態 平面形態は長方形を呈し、長軸約4.64m、短軸約3.8mを測る。床面積は約17.6㎡で、検出面からの深さは、約30cmで、深いところは、南側で45cmである。埋土は3層からなる。ただ、最下層は、南側2/5にしか堆積していない。1層目から焼土・炭粒を多量に含み、遺物も多く含む。埋土2層は、焼土・炭粒を少量含み、しまりがある。貯蔵穴、ベット状遺構は検出されなかった。

長軸方向はほ南北より西側に振れる。(N-45°-W)

柱穴・炉 検出できなかった。

遺物出土状況 住居南側の壁近くの床面に近いレベルから、遺物がまとまって出土している。ただ、廃棄された土器の可能性がある。埋土1層から多くの細片土器が出土し、同層から完形の連弧文鏡系小形仿製鏡が出土している。鏡背を上にして水平に埋置されていたと考えられる。掘り込み等は検出できなかった。また、埋土1層から、石製穂積具の未製品もしくは打製石斧と考えられるもの(第48図3)や埋土3層中より、磨製石製穂積具(第48図1)が1点ずつ出土している。

土器 第61図 5 は南側の住居の壁近くで検出された土器で、胴部に刻目突帯を持つ壷である。口縁部は直立 しており、端部に面を持つ。胴部外面の調整は縦方向のハケ目調整の後丁寧になでている。また内面の調整 は斜め方向のハケ目調整が著しく残る。 第61図4は広口壺の口縁と推定できる。

鏡 面径約8.0cmの連弧文鏡系小形仿製鏡で、紐痕、布痕等は見られない。文様などは表面の凹凸がにぶく、詳細は不明であるが、鈕は丸鈕、丸孔である。円座部分の文様が存在するようであるが、詳細は不明である。内区の内側に幅2mm程度の縁取りをもつ2重の連弧文と思われる文様帯がある。区画帯があり、外区は斜行 櫛歯文帯である。丸縁は幅3mmでかまぼこ状を呈する。断面は周縁部に向かって若干反っている。残存状況 は良好でなく、縁の部分が特に劣化している。現状の質量は61.3gである。

**まとめ** 柱穴及び炉が検出できなかったので、住居と断定できないが、掘り方の構造などから竪穴住居と考えられる。住居の時期は、出土遺物から推定して、弥生時代後期前葉から中葉と推定できる。

#### SI24-B (第29図、Ph. 6)

位置 調査区北部中央(D-14・15)に位置する。床面の標高は約83.8mである。SI28を削平している。

住居形態 平面形態は方形を呈し、判明している長さは南北方向で約4.8mを測る。検出面からの深さは、約40~50cmである。長軸の方位は、ほぼ、南北である。埋土は5層からなる。埋土3層に炭化物・炭粒の混入の割合が多い。埋土4層にはニガ土のブロックが、埋土5層には少量の焼土粒、炭化物、ニガ土のブロックに加えてロームのブロックを含む。ベット状遺構は床面半分に見られる。比高は15cm程度である。

柱穴 径33cm、深さ26cmの柱穴を1基検出した。

炉・貯蔵穴 検出できなかった。

**遺物出土状況** SI24-Aに大部分削平されており、また、SI24-A・Bをほとんど一緒に調査することとなり、出土状況は不明である。まとまった遺物は出土していない。

**まとめ** 1 基検出された柱穴の位置から考えて 2 本柱を主とする竪穴住居と考えられる。住居の時期は、新 旧関係等から推定して、弥生時代後期前葉から中葉と推定できる。

SI28 (第29·61図、Ph. 6)

**位置** 調査区北部中央 (C・D-13・14) に位置する。床面の標高は約84.0mである。SI 24-AとSI24-Bに 削平されている。

住居形態 平面形態は方形を呈し、一辺の長さは、判明している長さは南北方向で約4.6mを測る。検出面からの深さは、54cmである。長軸の方向は南北より西側に振れる。 $(N-30^{\circ}-W)$  埋土は4層からなる。埋土2層に焼土粒を少量含む。二ガ土をそれぞれの層にブロックで含む。埋土4層は、しまりが強く、 $5\sim7\,\mathrm{cm}$ 大のニガブロックを多量に含み、炭粒も少量含む。いわゆる硬化面になっている。全面に広がる。ベット状遺構は明確でない。

柱穴 径26cm、深さ24cmの柱穴を1基検出した。

炉 平面形態はほぼ円形と推定され、径は64cm、深さは6cmで地床炉である。埋土はしまりが強く、多量の ニガ土ブロックと少量の焼土粒を含む。

貯蔵穴 平面形態は楕円形を呈し、長軸0.64mで深さ13cmを測る。埋土は1層で、焼土粒を少量含む。

遺物出土状況 床面に伴う遺物はなく、流れ込みの遺物のみである。

土器 第61図9は口径22.6cmの中型の甕で口縁部が外反し、端部は面を持つ。口縁部より最大胴部径が大きい器形である。外面は縦方向、内面は右上がり方向のハケ目調整である。

**まとめ** 炉と柱穴の位置から考えると北側にベット状遺構があった可能性が高く、2本柱を主とする竪穴住居であったと考えられる。住居の時期は、住居の新旧関係等から推定して、弥生時代後期前葉から中葉と推定できる。

SI25 (第30·61図、Ph. 6)

**位置** 調査区北部中央(C-14・15、D-14)に位置する。床面の標高は約84.0mである。SI29とSI24-Aに削平されている。

住居形態 平面形態は方形を呈し、長軸約4.46m、短軸4.10mを測る。床面積は約18.28㎡で、検出面からの深さは、約45cmである。埋土は3層(一部4層あり)からなる。埋土1層は、焼土・炭粒を少量含みしまりがある。埋土2層は、焼土・炭粒が多くしまりがある。最下層は、ブロック状の土を少量含み、硬くしまっている。ベット状遺構は検出されなかった。長軸方向は、ほぼ東西である。

柱穴 主柱穴は2本柱で掘り方の径は、28~38cm、深さ68~75cmである。柱間距離は、約2.1mである。埋土は、褐色土で柱穴部分にロームが混ざる。

炉 住居中央に位置する。長軸0.81m、短軸0.61m、深さ16cmを測る。地床炉である。埋土は2層からなり、1層目に細かい焼土粒を多量に含み、少量の炭とニガ土のブロックと砂粒を含む。2層目は柔らかくサクサクした土でガラス質の砂粒状のものを含む。

貯蔵穴 平面形態は楕円形を呈し、長軸0.64m、短軸0.34m、深さ13cmを測る。埋土は2層に分けられる。最下層の堆積は、 $2 \sim 3$  cmと薄い。

遺物出土状況 遺物は細片が多く、床面に伴う遺物は出土していない。流れ込みと推定される。埋土 2 層中に土器の出土が多い。

土器 第61図 7 は貯蔵穴の埋土と住居埋土 2 層中から出土しているが、流れ込みの遺物である。口径26.8cm の中型の甕で口縁部は外反し、端部に面を持つ。ただ、口径と最大胴部径がほとんど変わらない器形である。 外面は縦方向のハケ目調整の後ナデがあり、内面には斜め方向のハケ目調整がある。

第61図 6 は甕の脚部で、底部径10.6cmで脚部の高さが5.0cmと長脚化している。

第61図8は壷の底部と推定できるが、煤が付着しており、甕として転用されている。

**まとめ** 他の遺構に削平されているため、ベット状遺構の有無はわからない。住居の時期は、流れ込みの遺物から推定して、弥生時代後期前葉から中葉と推定できる。

SI29 (第30·61·65図、Ph. 6·38)

**位置** 調査区北部中央 (B・C-14・15) に位置する。北側が調査区外に伸びる。床面の標高は約83.5mである。

住居形態 平面形態は方形を呈し、一辺の長さは、5.7m以上である。検出面からの深さは、30cmである。 長軸の方向は東西である。埋土は3層からなる。埋土1層に炭・焼土粒が混じり、埋土2層から遺物が多く出土する。埋土3層は、ロームブロックが混じりしまっている。硬化面はベット状遺構を除く部分に全面に広がる。南西と北西及び東側に3つ以上のベット状遺構を持つ。南西側のベット状遺構は1.5m×1.3mで北東隅の角に面ができている。北西側のベット状遺構は1辺1.7mで南東隅の角に面ができている。東側のベット状遺構の幅は1.45mである。床面との比高は約20cmである。東側は短辺すべてベット状遺構で、長さ3.2m、幅1.3mである。床面との比高は10~15cmである。長軸の方位はほぼ東西である。

炉 平面形態は不定形の楕円形で、長軸0.73m、短軸0.66mで深さ10cmの地床炉である。埋土は3層で、埋土1層と2層は焼土粒・炭を含む。1層は土がしまる。最下層は焼けて赤くなっている。

柱穴 主柱穴は 2 本である。柱穴は32~39cmで、深さは64~67cmである。柱間距離は、約2.2mである。

**貯蔵穴** 平面形態は楕円形を呈し、長軸0.80m、短軸0.58mで深さ20cmを測る。埋土は3層からなる。埋土 1層は、焼土粒を少量含む。最下層にロームブロックが混じる。

**遺物出土状況** 床面近くから遺物は出土しているが、床面に伴う遺物ではなく、流れ込みの遺物のみである。

細片が多い。ガラス小玉が1点(第65図46)出土している。

土器 第61図10・11は甕で、口縁部が外反し、端部は面を持つ。

ガラス小玉 径5.9mm、厚さ3.6mmのやや大型のものである。紺色を呈する。

まとめ ベット状遺構を3方以上持つ竪穴住居である。住居の時期は、出土遺物等から推定して、弥生時代 後期中葉から後葉と推定できる。

SI23 (第28図、Ph. 5)

位置 調査区北部中央 (A-11) に位置する。床面の標高は約84.3mである。近代の溝に削平されている。 住居形態 平面形態は方形を呈し、一辺の長さは、長軸3.2mである。検出面からの深さ33cmである。長軸 の方向は南北より東側に振れる。埋土は2層からなる。焼土粒、炭を少量含む。硬化面はほぼ全面に広がる。 ベット状遺構ははっきりしない。柱穴・炉・貯蔵穴は、検出されていない。

遺物出土状況 床面に伴う遺物はなく、流れ込みの遺物のみである。

土器 図化できる遺物が出土していない。

**まとめ** 炉・柱穴ははっきりしないが、遺構の底面が平坦で硬化面が残存することから建物と推定できる。 住居の時期ははっきりしない。

SI40-A·B (第31·32·61図、Ph. 6·18)

位置 調査区北部中央  $(C-4\cdot5)$  に位置する。床面の標高は約85.5mである。下層に縄文時代後・晩期 の住居が重複していたため、うまく検出できなかった。

住居形態 検出した平面形態は方形を呈し、長軸の方向はほぼ南北である。南北の辺の長さは、7.2m以上 検出面の深さ32cmである。(SI40-Aと呼称)

ただし、炭化材の分布が南側に偏在していて検出した住居の床面より浮いた状況で検出しているために2つの住居跡が重なっていたと推定できる。

炭化材の分布から上層に推定できる住居(SI40-Bと呼称)の長さは南北方向で約4.6mと推定できる。検 出面からの深さは24cmである。埋土は2層からなると推定できる。2層目に弥生土器及び炭化材を含む。炭 化材は住居の推定角から内側にかけて分布している。

**貯蔵穴** 検出面は縄文時代の住居の面で検出したが、その位置からこの住居に伴う貯蔵穴である可能性が高い。平面形態は楕円形を呈し、長軸1.02mで、短軸0.88m、深さ22cmを測る。断面は逆台形状である。埋土は3層以上に分けられる。

遺物出土状況 床面に伴う遺物はなく、流れ込みの遺物のみである。埋土2層から出土したと記録されており、 SI40-Bの遺物の流れ込みの土器と推定できる。

土器 第61図12は口径19.0cmの小型の甕で、口縁部が短く外反する。最大胴部径より口径が大きいタイプである。第61図13は端部に面を残すもので、口縁部内側の上面に2対ずつ3方(推定4方)と胴部外面に一ケの円形の浮文を持つ。

**まとめ** 炉と柱穴を確認できていないが、炭化材の分布と貯蔵穴の存在から竪穴住居と推定できる。炭化材は垂木材と推定される。住居の時期は出土遺物等から推定して、SI40-Bは弥生時代後期前葉から中葉、SI40-AはC4、C5の遺物包含層の土器もその範囲で収まることからさほどさかのぼらない時期と推定できる。

#### ②土坑

SX16 (第33·34·62図、Ph. 6·18·19 )

**位置** 調査区東部 (C-10) に位置する。検出面の標高は、約84.7mである。SI15及びSI19によって削平されている。

形態 平面形態は不整円形で、長軸1.3m以上、短軸0.88m以上を測る。検出面からの深さは55cmを測る。断面はV字状に近いU字状を呈する。遺構検出した段階で土器が露出していたので、本来の土坑の深さは45cmより深かったと考えられる。(SX16-Bと呼称)

また、深さ30cm埋没後、土器を廃棄していると推定できる。この土器廃棄遺構をSX16-Aと呼称する。断面の形状は皿状を呈する。深さ約25cmを測る。

遺物出土状況 上記で触れているようにSX16-Bが深さ30cm程埋没後、土器を廃絶していると考えられる。 (この遺構をSX16-Aと呼称) 小型甕、中型甕、壺3個体以上、鉢、器台等が出土している。SX16-Aから は遺物は出土していない。

土器 第62図 2 は口径17.4cmの中型の甕で口縁端部が丸くおさまっている。胴部は左上がりの斜め方向のハケ目調整である。底部は平底と考えられる。

第62図1は口径15.9cmの中型の平底の甕で、口縁部が緩やかに外反し端部に緩やかな面を持つ。第62図3 は径25cmの大型の壷で、口縁部は外反し、端部に面を持つ。胴部中央に1条の突帯を施している。胴部は左 上がりの斜め方向のハケ目が残存する。

Ph. 19-①は胴部が算盤玉状を呈する壷で、胴部上半に凹線文7条を施している。Ph. 19-①は、算盤玉状の胴部を呈し、刻目突帯の上部に凹線文を施す。

Ph. 18-②は口径19.5cmの中型の甕で、底部径10.3cm、高さ30.1cmである。内外面に縦方向のハケ目もしくは左上がり方向のハケ目調整痕が残存する。

SX50 (第27·62図、Ph.15·16)

位置 調査区北部中央 (B-10・11) に位置する。床面の標高は約84.4mである。SI15の上層部である。

形態 平面形態の詳細は不明、長軸約5.4m、短軸約4.2mを測る。検出面からの深さは、約35cmである。埋土は2層からなる。多量の焼土粒が混じる。住居が廃絶したくほみと考えられる。

遺物出土状況 SI15の床面に $10\sim15$ cm堆積した後に完形に近い土器を廃棄もしくは祭祀行為を行った後埋められた遺物と考えられる。

土器 第62図4は口径17.4cmの中型の甕で、口縁端部に面を持ち脚台付である。内外面左上がり方向のハケ目調整である。

第62図5は口径19.7cmの広口壺で、頸部から肩部にかけて1条の櫛描平行文と1条の櫛描波状文を施す。 内外面に左上がり方向のハケ目が残存する。

第62図  $6\sim8$  は、ジョッキ形土器である。第62図 7 は内面に絞り痕を残す。いずれも外面を丁寧にナデていて、幅  $4\sim5$  cm、厚み $0.8\sim1$  cmの把手を貼り付ける。第62図 6 は口径12.0cm、高さ14.2cm、第62図 7 は口径13.0cm、高さ14.6cmである。底部径が口縁部径よりやや大きい。第62図 8 は口径10.6cm、高さ11.1cmで底部径が口縁部径より大きい。

また、Ph.16-①~④は埋土上層から出土している。Ph.16-①は口径約8.3cm、器高7.7cmの小型鉢である。 底部に径1.8cmの範囲に剥離痕跡が残存するため、台付鉢と推定できる。6 条を単位とする波状文の口縁部 側には 4 条の直線文と底部側には 6 条の直線文を施している。

Ph. 16-②は口径13cmの大型の直口壷で口縁部内面 4 箇所(推定 5 箇所)に径約 1 cmの円形浮文を装飾し、

胴部には波状文と直線文を施す。Ph. 16-③は口径約9cmの無頸壷で口縁端部は丸みを帯びる。内外面を丁寧にナデ調整している。Ph. 16-④も口径約20cmの広口壺で口縁部内面に円形浮文を施している。

Ph. 18-①は口径27cmの甕の胴部から口縁部にかけての部分である。口縁部は端部を丸くおさめ、やや横方向に広がる。外面の調整は縦方向のハケ目後ナデ調整、内面は左上がり方向のハケ目痕が顕著に残る。煤が付着している。

Ph. 18-②は口径20cm高さ29cm、底部径約10cmの甕で口縁端部には面を持つ。外面の調整は縦方向のハケ目後ナデ調整、内面は左上がり方向のハケ目痕が顕著に残る。煤が付着している。

Ph. 19-③は算盤玉状の胴部を呈する壷の胴部で突帯のすぐ上部に6条の凹線文を施している。

#### ③遺物包含層の遺物

#### a. 石器 (第48·49図、Ph.34·35)

ⅡからⅢ層中及び撹乱より4点の石製穂積具が出土している。いずれも緑泥片岩製で、全体の形が推定できるものは第48図7のみである。全長3.6cm前後で孔間距離2.3cm、孔背間距離1cmである。研磨痕が刃部に対して斜めに残存する。他の破片も孔背間距離は1cm前後で共通すると推定できる。

また、石製穂積具の未製品と推定できるものも出土している。打製石斧の可能性はあるが、長側縁の形状が一方が直線的でもう1方がゆるやかな曲線を描いていたり(第48図9、第49図2・3)、長側縁の一方の断面が鋭利になっている(第48図9、第49図2・3)ことを特徴とする。

#### b. 土製品 (第64図、Ph. 20)

第64図 4 は土鈴で釣鐘状を呈し、上部に焼成前穿孔を持つ。上部の側面に 4 条の沈線文、上面に 5 条と 4 条の沈線を組み合わせた格子文が施されている。出土層位からは時期を確定できず、弥生時代に帰属する資料か不明である。

#### c. 玉 (第65図、Ph. 38)

第65図48は滑石製の管玉で径5.0mmの長細状を呈する。面取りの痕跡が六角形状に残存する。両面穿孔で中央部が若干狭い。孔径は2.0mmである。稜は外縁部から内縁部に向かって傾斜している。第65図47は、ガラス小玉で径5.3mm、厚さ3.2mmである。孔径も2.0mmでやや大型である。水色を呈する。

## d. 鉄器 (第66図、Ph. 36)

Ⅲ層中より鉄鏃1点と袋状鉄斧1点が出土している。第66図8は全長3.1cm、全幅1.7cmの小型品で抉部は、 V字状を呈する。抉部や刃部形成の屈曲部が直線的で、たがねのような工具を使って切断した可能性がある。 第66図10は残存状況が悪く詳細は不明であるが、全長6cm以上、推定刃部幅は4.1cm以上である。基部も欠 損する。錆膨れがひどく、現状で崩壊寸前である。

#### 第5項 古代の遺構・遺物

#### 調査の概要

竪穴住居1軒が出土している。

#### (1) 5区の調査 (第8・35図)

#### ①竪穴住居

SB05 (第36·63図、Ph. 7·19)

位置 調査区南部(2904G)に位置する。床面の標高は約81.5mである。SK02により南東部東側が削平されている。

住居形態 平面形態は隅丸方形を呈する。長軸の向きは、ほぼ南北である。長軸3.8m、短軸3.2mを測る。 検出面からの深さは40cmである。北側に竈が残存する。床面の一部分に硬化面が残存する。

**柱穴** 柱穴は検出できなかったが、浅くくぼんだ硬化面(特に硬化した部分)が3箇所に検出できた。柱を立てた部分が屋根の加重でくぼんだもの(直柱)とも考えられる。

電 住居の北側に残存する。袖部幅15~30cm、竈内凹面長軸約80cm、短軸約50cm、最下層には、灰等が堆積し、埋土3層に土器類が出土した。煙道部も残存する。煙道の開口部分の径は、約30cmである。竈の焚き口中央からは約1.5mの距離で、焚き口の深さは約50cmである。

遺物出土状況 遺物は竈内及び住居の北側に集中して出土した。竈内から出土した土器(第63図7)は、竈の床面から浮いた状況で出土しており、廃棄された土器であると推定できる。(第37図)また、竈の東側袖部周辺からも第63図8・9・13等が出土している。その他は床面近くから出土(第63図1・3・4・11・12)したものである。その他の遺物は埋土上層から出土したものである。図示した以外にも細片が埋土から出土している。

また住居の掘り方のトレンチ部分を上層から 1 mm メッシュによるwater separationを実施した。同時に、最も遺物が多かった最下層と硬化面については、全面water separationを行った。その結果、建材らしい木質片炭化粒が多数検出されている。

土器 第63図1・2は甕で、1は口径26.1cmの中型の甕、2は口径19.0cmの小型の甕である。口縁部はあまり肥厚せず、端部付近でやや外方に広がる。外面は縦方向のハケ目、内面は縦方向のケズリで調整している。 第63図3・4は鉢で、胴部外面の底部付近に回転ヘラケズリが施されている。

第63図8・9は土師器埦で口径13~14cmを測る。内外面に回転ナデを施している。

第63図7・10は高台付きの坏である。7は須恵器で底径は9.4cm、高台高が約2.2cm である。10は土師器で底径8.6cm、高台高が約1.0cmである。

第63図13は、黒色土器A類の坏で外面底部付近は、右斜め上がり方向の静止ヘラケズリを施し、内面は、 丁寧なヘラミガキを施している。

第63図11は、高坏の口縁部と推定できる。第63図12は坏もしくは高坏の口縁部と推定できる。

第63図5・6は、須恵器の坏蓋である。5は口縁端部を丸くおさめている。ヘラ削りの範囲も狭いと推定できる。6は、宝珠つまみを持つもので、天井部のヘラ削りの範囲も3/4近くに施している。

まとめ 出土遺物は若干移動しているとはいえ、竈が北側の壁際に付属していることから考えて北側の空間 は炊事や貯蔵の空間と言える。出土遺物は床面近くから出土しているが、土器型式は若干の幅が見られる。 そのことを考慮するとこの住居の時期は、8世紀後半から9世紀にかけてと推定できる。

#### 第6項 中世の遺構・遺物

5・6区で土坑を数基検出した。遺物はほとんど遺構に出土していないが、遺構の年代が推定できるものと埋土等から時期を判断した。

#### (1) 5区の調査 (第8・38図)

#### ①土坑

中世の土坑が8基以上出土した。楕円形、円形、方形の形のものがあるが、長軸の長さ $1.3\sim1.8$ m、短軸の長さ $1\sim1.3$ mのものが多数を占める。

#### SK01 (第39図)

位置 調査区北東部 (2904G) に位置する。検出面の標高は、約81.8mである。

形態 平面形態は楕円形で、長軸1.74m、短軸1.16m、検出面からの深さ64cmを測る。底面はほぼ水平で壁面は斜めに立ち上がるが、東側は2段堀状になっている。

遺物出土状況 流れ込みの遺物があるが、時期を確定できる遺物はない。

#### SK02 (第39図)

位置 調査区北東部(2904G)に位置する。検出面の標高は、約81.8mである。

形態 平面形態は楕円形で、長軸2.4m、短軸1.24m、検出面からの深さ76cmを測る。底面はほぼ水平で壁面は斜めに立ち上がるが、西・東側は明確な2段堀状になっている。

遺物出土状況 流れ込みの遺物はあるが、時期を確定できる遺物はない。

#### SK03 (第40図、Ph. 7)

位置 調査区中央部 (2803G) に位置する。検出面の標高は、約82.6mである。

形態 平面形態は楕円形で、長軸1.3m、短軸0.88m、検出面からの深さ44cmを測る。断面の形状は逆台形状を呈する。埋土の中層は中央部分にのみ堆積している。

遺物出土状況 流れ込みの遺物はあるが、時期を確定できる遺物はない。

#### SK04 (第40図、Ph. 7)

位置 調査区南部 (2704G) に位置する。検出面の標高は、約82.6mである。

形態 平面形態は楕円形で、長軸2.44m、短軸1.48m、検出面からの深さ92cmを測る。断面の形状は逆台形状を呈し、2段掘り状になっている。

遺物出土状況 流れ込みの遺物はあるが、時期を確定できる遺物はない。

#### SK08-A (第40·63図、Ph. 7·20)

位置 調査区東部(2903 G)に位置する。検出面の標高は、約82.1mである。SK08-Bに削平されている。

形態 平面形態は楕円形で、長軸1.5m、短軸1.28m、検出面からの深さ58cmを測る。断面の形状は逆台形状を呈する。

**遺物出土状況** 流れ込みの遺物はあるが、時期を確定できる遺物はない。調査において遺構番号が混乱しており、以下に述べるSK08-Bの遺物と混在して取り上げている可能性がある。

SK08-B (第63図、Ph. 7·20)

位置 調査区東部 (2903 G) に位置する。検出面の標高は、約82.1mである。SK08-Aを削平している。

形態 平面形態は円形で、径1.4m、検出面からの深さ60cmを測る。断面の形状は逆台形状を呈する。SK08-Aと形態が類似するため、関連があると推定できる。

**遺物出土状況** 底面から浮いた状況で出土している。流れ込みの遺物か、蓋等の上に置かれた遺物が落ち込んだかいずれかであると考えられる。土師器の坏及び皿が合わせて3点出土している。他にも流れ込みの遺物があるが、弥生土器・土師器の細片である。

土器 第63図16は土師器の坏で口径11.0cm、器高2.8cmを測る。第63図14は皿で口径約8.6cm、器高1.4cmを測る。第63図15は土師器の皿で口径6.8cm、器高1.4cmを測る。いずれも底部に回転の糸切り痕が残存する。

まとめ この土坑は、土師器小皿 (第63図14、Ph. 20) などの出土により14世紀以降の墓の可能性もある。

SK09 (第40図、Ph. 8)

位置 調査区中央部 (2903 G) に位置する。検出面の標高は、約82.5mである。

形態 平面形態は隅丸方形で、長軸1.52m、短軸1.08m、検出面からの深さ76cmを測る。断面の形状は逆台 形状を呈する。埋土は3層に分けられる。

遺物出土状況 流れ込みの遺物はあるが、時期を確定できる遺物はない。

SK14 (第40·63図、Ph. 8)

位置 調査区中央部 (2803G) に位置する。検出面の標高は、約82.4mである。

形態 平面形態は隅丸方形で、長軸1.7m、短軸1.06m、検出面からの深さ30cmを測る。断面の形状は皿状を呈する。埋土は2層に分かれる。

遺物出土状況 流れ込みの遺物はあるが、時期を確定できる遺物はない。

#### (1) 6区の調査(第9・41、63図)

中世の土坑が 8 基等を検出した。楕円形、円形、方形の形のものがあるが、長軸1.3~1.8m、短軸1~1.3m のものが多数を占める。

①土坑

SK01 (第42図、Ph. 8)

位置 調査区北部 (B·C-14) に位置する。検出面の標高は、約84.4mである。

形態 平面形態は隅丸の方形で、長軸1.2m、短軸1.14m、検出面からの深さ42cmを測る。底面はほぼ水平で壁面はほぼ直立する。埋土は3層に分かれる。

**遺物出土状況** 流れ込みの遺物はあるが、時期を確定できる遺物はない。ほとんどが弥生土器の細片で若干縄文土器や土師器の細片らしきものを含む。

SK02 (第42図、Ph. 8)

位置 調査区北部 (B·C-13) に位置する。検出面の標高は、約84.6mである。

形態 平面形態は不整円形で、長軸1.54m、短軸1.4m、検出面からの深さ66cmを測る。底面はほぼ水平で壁面は逆台形状を呈する。埋土は2層に分かれる。

**遺物出土状況** 流れ込みの遺物はあるが、時期を確定できる遺物はない。山形押型文土器や縄文後・晩期土器に混じり、土師器片や黒色土器か瓦質土器の破片を含む。

SK05 (第42図、Ph. 8)

位置 調査区北部 (C-11・12) に位置する。検出面の標高は、約84.8mである。

形態 平面形態は長方形~楕円形で、長軸2.54m、短軸1.5m、検出面からの深さ78cmを測る。底面はほぼ水平で壁面はほぼ直立する。埋土は3層に分かれる。

**遺物出土状況** 流れ込みの遺物はあるが、時期を確定できる遺物はない。弥生土器に混じり、土師器の細片 らしきものが出土している。

**まとめ** 東西断面の観察によると二段堀で西側に直立する細長い土層堆積 (5層) を見ることができる。このことから木棺墓の可能性があると言える。

SK07 (第43図、Ph. 8)

位置 調査区北部 (C-15 · D-14 · 15) に位置する。検出面の標高は、約84.5mである。

形態 平面形態は長方形で、長軸2.16m以上、短軸1.6m、検出面からの深さ82cmを測る。底面はほぼ水平で 壁面は逆台形状を呈する。埋土は5層に分かれる。2層以下はレンズ状堆積である。

**遺物出土状況** 流れ込みの遺物はあるが、時期を確定できる遺物はない。縄文土器・弥生土器に混じり、土 師器の坏もしくは境の細片が出土している。

**まとめ** 法量がSK05と類似する。堆積は、50cmまでは、レンズ状堆積で埋まっているが、それより上層は一気に埋められている様な埋土である。木棺墓等の可能性もある。

SK08 (第43図、Ph. 8)

位置 調査区北部 (A·Z-13·14) に位置する。検出面の標高は、約84.3mである。

形態 平面形態は長方形で、長軸2.0m、短軸1.8m、検出面からの深さ84cmを測る。底面はほぼ水平で壁面は逆台形状を呈する。

**遺物出土状況** 流れ込みの遺物はあるが、時期を確定できる遺物はない。縄文土器・弥生土器に混じり、土 師器の坏もしくは境の細片が出土している。

SK13 (第43·63図、Ph. 8)

位置 調査区北部 (Z-13) に位置する。検出面の標高は、84.3mである。

形態 平面形態は隅丸方形で、長軸約1.6mで検出面からの深さ72cmを測る。底面はほぼ水平で壁面は逆台 形状を呈する。埋土は2層に分かれる。

遺物出土状況 流れ込みの遺物 (土師器の坏、皿、埦等の細片) がある。

土器 第63図17は、口径12.2cm、底部径9.8cmの坏で器高3.2cmを測る。糸切りの痕跡が残存する。

SK20 (第43図)

位置 調査区北部 (B·C-14·15) に位置する。検出面の標高は、84.4mである。

形態 平面形態は隅丸方形で、長軸約1.4m、短軸0.93mで検出面からの深さ79cmを測る。底面はほぼ水平で 壁面は逆台形状を呈する。埋土は3層に分かれる。

遺物出土状況 流れ込みの遺物 (土師器甕の細片) はあるが、時期を確定できる遺物はない。

#### ②不明遺構

SX14 (第43·63図、Ph. 20)

位置 調査区北部に位置する。検出面の標高は、約84.3mである。

遺物出土状況 この遺構に確実に伴う遺物は検出できなかった。

土器 第63図18 (Ph. 20) は径約 8 cmの小皿で器高1.3 cmを測る。内外面は回転ナデ調整で底部には回転糸切り痕が残る。

**まとめ** 焼土坑の埋土より土師器皿が2点出土している。柱穴群の位置関係や周りの遺構などから考えて、何らかの上部構造が存在した可能性がある。

# 第IV章 考古学的分析

## 弥生時代

## 第1節 弥生時代の竪穴住居群について

#### 第1項 構造

平面形態 平面形態はほとんど長方形である。

**主軸方位** 5区については長軸がほぼ、南北 (SB18・39) 及び東西方向 (SB12・17・19) の2群に大別できるが、細かく分けると長軸東西方向それぞれ2群に分けられる。

6区では、大別の2群のほか、45°程方位がずれている1群が加わる。

法量 長軸が6.5m前後のものと、5.5m前後のものに分けられる。床面積にすると20m²前後のものと15m²前後のものに分けられる。6区では一辺7mを超えるものSI40があるが、上記2タイプの法量におさまる。

検出状況では、竪穴部の深さは、30~60cmが標準である。

柱穴 掘り方の大きさは20~33cm程で、柱痕跡は10~15cm程と推定できる。深さは、40~70cm程である。大きく抜き取った柱穴は検出できなかった。柱穴の再利用は顕著に見られない。

主柱穴の配置は、2本柱構造の住居が一般的であるが、6区SI17・18では、4本柱構造である。いずれも長軸の長さが6m以上である。また貯蔵穴もあり、典型的な住居構造を持つ。2本柱構造の住居と4本柱構造の住居は、遺物等から見る限り大きな時期差を指摘できない。建物の用途としての差等が考えられる。時期切り合い関係でつかめるのは、6区で4時期と推定される。5区では切り合い関係にあるものはないが、6区ではSI17→SI19→SI15、SI25→SI28→SI24B→SI24Aの関係が成立し、4時期以上が推定できる。貯蔵穴 貯蔵穴は8軒の住居跡に検出された。検出できない住居を除くと7割以上の住居で検出された。5区ではほとんどの住居跡に検出できている。法量は、小型のもので長軸60~80cm程度で深さは10cm程度である。大型のものは、100cmを超える。深さは、30cm程度、深いものは50cm以上である。平面形の大きさと深さには相関関係がある。用途の差であろう。位置的には、中央土坑は、ほとんどなく、長軸の壁際中央に偏在している。

炉 構造的には、地床炉が多く、灰穴炉は少ないようである。

検出された竪穴住居のうち検出できない部分を持つもの以外はほとんどに検出されたが、検出されない住居も存在した。5区SB39等はベット状遺構の床面に占める割合が多く、日常的な住居以外の倉庫機能も考えることができる。このように炉を持たないものと持つもので機能差を考えねばなるまい。

ベット状遺構 5区ではほとんどの住居でベット状遺構を検出している。6区ではSI29以外は切り合い関係も重複しているため、検出が困難であったと考えられる。比高は10~20cmである。

#### 第2項 変遷

遺構の重複(切り合い)から見て4時期以上にわたる。竪穴住居に直接伴う遺物が少ないので出土土器から遺構の時期差を直接求めるのは危険である。しかしながら、切り合い関係だけでは住居の時期決定はできない。そのため、住居埋土の出土土器でも時期変遷を考えるには土器群の時期差も参考にする必要がある。

参考にする前提としては、住居廃棄後それほど変わらない時期に埋土に遺物 (特に土器) が廃棄及び埋没 したと言うことが必要である。ここでは、この仮定に基づき検討する。

5 区では甕の口径及び最大胴部径の割合から SB17→SB15の土器群を推定できる。(最大胴部径より口縁部径が大きいものから小さいものへと推移すると仮定して)(SB17第58図1の土器は型式的に混入の可能性がある。)

5区SB18の土器群は SB17に近い様相を持つ。甕の口縁部(第58図2・第58図10)を比較すると 前者 の方が口縁が厚く、口径が最大胴部径を上回るため、後者の方が若干新しい様相を持つと推定できる。

5区SB39はSB15と近い様相を持つが、口径に対する最大胴部径の割合が大きくなる等後続する様相がある。 5区と6区の土器の様相から併行関係を推定できれば良いが、6区SI15出土土器は型式的に新旧が混在 し、6区SI17出土土器は特定の器種のみである。6区の他の住居跡出土土器も型式が異なるものが混在す る可能性を含み、住居の重複(切り合い)も多く、5区と6区の併行関係を推定するのは困難である。

5区SI12及び6区SI40出土土器は前者が平口縁の高坏、後者が鋤先形の口縁の壷を出土するなど古い様相を持つことから他の住居群より古いと推定できる。

ジョッキ形土器については 5 区SB18・6 区SI15の埋土等から出土している。 5 区SB18出土土器(第58図 14)は胴部の形態が 6 区SI15出土土器(第60図 8)より直線的で型式的に古い様相を持つと推定できる。

また、6区SX50出土広口壷(第62図5)と6区SI24出土広口壷(第61図4)を比較すると後者の方の口縁部の広がりが大きいため、後者が後出すると推定される。

さらに、完全に型式を同じ段階と推定するにはセット関係が乏しいが、敢えて甕の型式から 5 区SB15と 6 区SI19、 5 区SB39と 6 区SI28(SI15(SX50))をほぼ同じ型式段階期と想定すると下記の変遷を推定できる。

1期(5区SB12、6区SI40)、2期(5区SB17・18、6区SI17・25の時期)、3期(5区SB15、6区SI19)、4期(5区SB39、6区SI28・15)、5期(6区SI24)と推定できる。その中でも2期は2小期に細分できる可能性がある。

先述したように6区の主軸方向が南北から45°振れる住居跡が併行関係を複雑にしている。6区の住居跡の検出が正しければ、東西・南北方向の主軸を持つグループと45°主軸が振れるグループの大きく2つのグループに分かれて変遷したと考えられる。

#### 第2節 玉類について

形態・色について 玉類は径  $3 \sim 5$  mmで大きく 2 種類に分けられる。また、玉の厚さは、径に対して扁平なものと高いものに分けられる。後者が  $2 \sim 3$  点しかなく、前者の形態が一般的である。色は、紺、水色、緑色を呈する。比率的に、濃色系のものが多く、淡色系のもは、 1 割に過ぎない。濃色系のものも破砕しているものは断面が淡色で透明度が高い。成分分析の結果は 1 つを除いて鉛ガラスである。 6 区SI17の管玉はカリガラスである。これは淡緑色で透明度がやや低い。

出土状況 ガラス玉は大部分が5区のSB12、SB15から30点以上出土している。完形のものも多いが、破砕していて接合するものも13点以上ある。中には、SB15出土ガラス小玉とSB17出土ガラス小玉が接合しているものもある (第65図39)。近くの住居から出土しているものもあり、その他の住居では数点のみの出土であるので、大部分が本来5区SB12の住居に伴うものであった可能性がある。

6区の出土例は調査区周辺にガラス小玉を出土する住居が存在する可能性もあるが、5区に隣接した調査区であり、5区SB12から40mしか離れていないところからの出土である。

## 第3節 石製穂摘具について

竪穴住居の埋土から3点、遺物包含層から6点以上の磨製の石製穂摘具が出土している。孔背間距離が0.8~1.1cmと短く、いずれも後期に所属する。

また、打製石斧の可能性があるが、短辺部に抉りがあるもの(第47図3)や杏仁形(長側縁の形状が一方が直線的でもう1方がゆるやかな曲線を描いている;第46図9・第47図1・6、第48図2・9))や長側縁の一方の断面が鋭利になっている(第47図2、第48図9、第49図2・3等)ことを特徴とする。

いずれも、長側縁の1辺を刃部として加工または利用するものと考えられる。

第46図7・8、48図3は、側縁部に細かい剥離を施している。結晶(緑泥)片岩を荒割し、短辺を加工し、 刃部に細かい剥離を施したと考えられる。そのまま使用したものや研磨後使用したものもあると考える。

第48図6は全長15.5cm以上の大型品である。剥離面を側縁に残すが全体を研磨している。そのままの使用に耐えうるが、石製穂摘具の製作途上のものと推定される。

これらの形態は縄文晩期から存在する打製石斧と必ずしも区別が明確ではないが、分類して、石製穂摘具の可能性がないか検討する必要があると考えられる。

## 第4節 鏡について

型式 連弧文鏡系小形仿製鏡である。日光銘帯が残存するか判別できない。日光銘帯連弧文鏡系小形仿製鏡とすれば、高倉洋彰分類第 II b 型、高木恭二氏分類第 1 型 B 類である。連弧文帯が二重の弧文を持つ(連弧文に縁取りを施している)ことを特徴とする。県内では、二重の弧文(連弧文)を持つものが七城町小野崎遺跡・大津町西弥護免遺跡で出土している。後者は二重六弧の連弧文帯を持つもので、面径8.6cm、重量76.13gである。ヲスギ遺跡と異なる点は、弧文が半分の個数であるということと、平縁ということである。七城町小野崎遺跡出土のものも平縁のものがある(高木分類第 II 型 B 類)。当遺跡出土の鏡の縁の形状は、かまはこ形の細い形状(高木分類第 I 型)でありこれらとは差異がある。面径約 6 cmの 8 弧文の類似したものも1 例見られる。

出土状況 鏡が出土した6区SI24-Aの埋土1層から多くの細片土器が出土し、同層から完形の連弧文鏡系小型仿製鏡が出土している。鏡背を上にして水平に埋置されていたと考えられる。掘り込み等は検出できなかった。また、埋土1層から、石製穂積具の未製品もしくは打製石斧と考えられるもの(第48図3)や、埋土3層中より、磨製石製穂積具(第48図1)が1点ずつ出土している。

出土の意義 熊本県の弥生時代の鏡の出土例は約30例にのぼり、完形の小形方製鏡は、10例近くに及ぶ。

住居内から出土することが多いのもこの鏡の特徴である。当遺跡の出土例のように掘り込み等は検出できず、住居跡上層に検出されることが多い。また、鏡の出土状況は、必ずしも明確ではないが、当遺跡の例のように鏡背を上にしてほぼ水平に埋置される例が多いようである。

先ほど触れた西弥護免遺跡例は溝と住居の切り合い部分に鏡背面を上にわずかに傾いた状況で検出され、 表面にベンガラで赤くそまった布片が付着していたようである。儀礼行為に伴う埋置の例と考えられる。

このように鏡を埋納する例は集落内の祭祀の一例である。他に当遺跡では $5 \boxtimes SX16$ の様に土器を廃棄する例や $6 \boxtimes SX50$ の様に $6 \boxtimes SX15$ の上層にほぼ完形の土器が廃棄される例がある。特に $6 \boxtimes SX50$ はコップ形土器が3 個体以上出土しており、儀礼に伴う廃棄と推定できる。こうした土器廃棄儀礼は例が多い。

鏡の埋置はこうした儀礼とは違う特別な儀礼に伴うものと考えられる。

七城町小野崎遺跡の例は墓地を中心に出土しているが、北部九州では墓からの出土も多い。そうした副葬品としての遺物を住居に埋納する儀礼の意義を出土状況及び集落構造などから再考する必要がある。

(参考文献) 『考古資料大観』 5 弥生・古墳時代 鏡 2002 小学館 高倉洋影「弥生時代小形仿製鏡」『金属器の考古学』 学生社 藤丸詔八郎、武末純一ほか『弥生時代古鏡を掘る』 1991 北九州市立考古博物館

# 第V章 まとめ

## 第1節 旧石器時代

遺構は、出土していないが、ナイフ形石器が2点出土している。1点は5区のV層中から出土しており、 調査区内には集落等は存在しなかったが、当該期の生活域が周辺に存在した可能性が考えられる。今後、生 活域及び石器製作跡がどこに広がるのかが注目される。

## 第2節 縄文時代早期

5区で土坑及び煙道付き炉穴の残部と考えられる焼土坑を検出した。周辺で円筒形土器の他、押型文が出土していることや検出面から考えて当該期の遺構と推定できる。ただ、炉穴の上層部が残存しておらず、焼成面のみの確認で構造的には詳細をつかむことはできなかった。

周辺部の6区にも、楕円押型文、山形押型文のほか、押し引き文も出土している。住居域が炉周辺に存在 したと考えられるが、竪穴住居等がどこに存在するかどの程度の集落の規模なのかが不明である。

また、5区で尖頭器も出土している。小型のものはV層中であり、細かい剥離で整形しているが、その他のものは、V層中の出土である。これら3点は長軸の中軸線が傾いており、調整も粗く、主要剥離面を残す。機能差とも考えられるが、時期差の可能性が高い。

土器・石器等の遺物の型式差から見て長期間にわたって生活が営まれていたと考えられる。

## 第3節 縄文時代後・晩期

6区で縄文時代の後期の竪穴住居跡を6軒検出した。いずれも円形の住居と推定されるものであるが2軒の住居跡で2基ずつしか柱穴を検出していない。重複の前後(切り合い)から3時期に分けられる。住居に伴う遺物は少ないが、5区・6区の遺物包含層では磨消縄文土器から黒色磨研土器まで出土しているため、その間の時期差があると考えられる。

また、2区で大型土坑(1号土坑)を検出した。平面形はほぼ円形を呈し、長軸1.8m、短軸1.7mを測る。 検出面からの深さ56cmである。土器が多数出土しており、廃棄されたと考えられる。

4 区でも 1 辺 2 m程の不整円形や方形の土坑を検出した。その他 4 区では長さ約0.8cmの不定形の土坑や長さ1.4~1.6mの長さ隅丸方形の土坑を検出した。 4 区 $\mathbf{S}\mathbf{X}06 \cdot \mathbf{S}\mathbf{X}02$ では深さ約50cmを測る。断面の形状も凹字状で墓の可能性も考えられよう。

墓域としては5区で3基以上検出した。特徴としては、SX26の蓋をしている浅鉢(第54図1)以外はSX24の口縁部にリボン状突起を持つもの(第53図1)の外面には内外面に条痕を顕著に残す粗製土器である点である。SX26では小形の浅鉢が4点、大形の鉢が1点と周辺に土器が出土しており、埋葬に伴いなんらかの儀礼をしていた可能性がある。

遺物としては、大洞系の土器が土坑群検出時に出土しており、4区SX06・02等土坑墓とする遺構に関わる可能性がある。東方などとの交流が考えられる。また、土製品として、吊り下げられたと推定できる不明土製品、破砕した土偶等、祭祀に伴う遺物が出土している。

これらのことから当該地区が縄文後期の集落の共有の空間と住居域を含んでいたと考えられる。ただ、6 区でしか竪穴住居を検出できず、また、後期を中心とするものである。5区の埋設土器は晩期を中心とする もので、集落域と墓域ないしは貯蔵域との関係を把握する必要があろう。 また先述したように東方との交流が明らかになったが、墓域周辺で出土しており、どのレベルのものかを 他の種類の遺物・遺構等で解明することが必要である。突帯文土器も出土しているが、遺物包含層のもので あり、周辺での遺構の検出が待たれる。

なお、打製石斧や磨石等は出土しているが、遺物包含層中のものであるため図化しなかった。石器の器種 組成や土器形式・型式の組成の分析が不十分である。今後、図化や統計化等の分析により当遺跡の当該期の 様子が解明されると考えられる。

## 第4節 弥生時代後期

弥生時代後期の集落を検出した。切り合い関係から4時期以上にわたると考えられ、土器様相からは5時期以上の時期変遷を追える。土坑(6区SX16)土器はさらに新相の住居の存在が想定でき6時期以上の時期変遷を追える。出土の遺物から弥生時代後期前葉から後葉にかけてと推定される。

ベット状遺構を持つ中小の住居を中心として、土坑等を検出した。炉やベット状遺構・貯蔵穴のあり方主柱穴構造や竪穴住居が様々な機能の建物として利用されたと考えられる。集落内で使われた土器は、大・中・小の甕を中心に鉢形土器が多様である。また、ジョッキ形土器がまとまって出土した遺構(6区SX50)も存在する。土器廃棄の祭祀も想定できる。

青銅鏡や銅鏃等の青銅器が出土し、その出土状況から、土器廃棄儀礼などの儀礼行為の他、集落内の特別な祭祀が行われていた様子が伺えた。その他5区SB12から玉類が床面直上・中から30点以上出土し、SB17出土の破片がSB12出土の破片と接合するなど、玉類の加工等が行われたことも考慮の1つに入れることができよう。

石製穂摘具は6点以上出土している。その他、打製石斧と形態的に類似する石製穂摘具未製品もしくは打製石製穂摘具と想定できるものが存在すると考えられた。

## 第5節 古代

竪穴住居が1軒のみ出土している。煙道部分の残存状況が良好であり竈の構造がよくわかる事例である。 出土土器も大型甕1、小型甕1、鉢2、高坏1、須恵器坏蓋2、土師器高台付椀2、無高台椀2、黒色土器 坏1と図化できるものが出土し、当時の食器のセットを大まかにつかめる資料である。

集落域は、検出位置と周辺の地形から5区の北東側に広がっていたと考えられる。

## 第6節 中世

建物等は検出できなかったが、土坑を多数検出した。

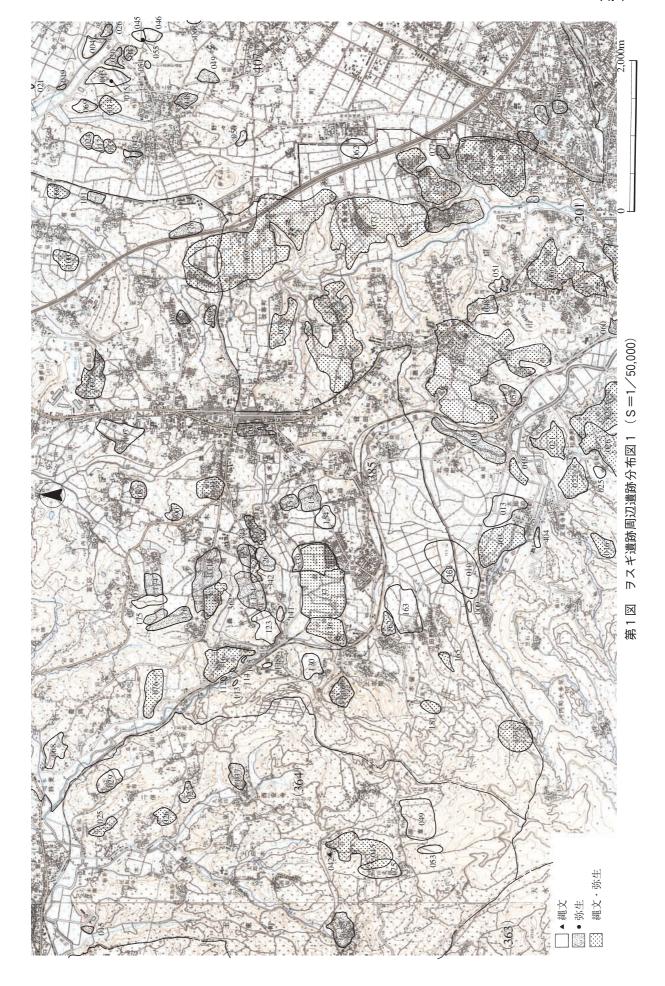
1.4~1.5mのほぼ正方形のタイプと幅1.5m、長さ2.5mの細長いタイプに分類できる。後者は、6区SK05の断面等から、墓の可性もある。(一部は木棺墓と推定される。)前者の性格は不明だが、建物等を検出してしないことから墓域の可能性が高い。

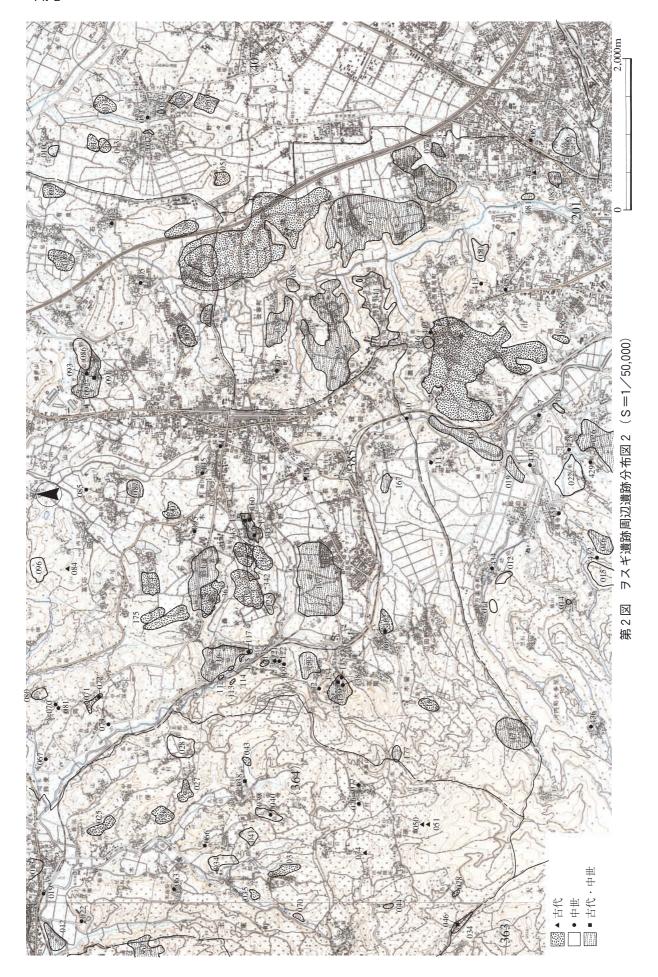
- 5・6区での両タイプの分布の仕方が類似している。6区では前者が偏在しており、周りに後者が分布している。
- 5 · 6 区共に北側が撹乱及び調査区外で詳細な分布が判明していないが、5 区でも同様な分布をするとも みてとれる。

今後前者のタイプと後者のタイプの相関関係等を追求する必要があろう。良好な遺構が出土した時に埋土

等の分析を試みるのもその解明の1つの方法と考えられる。

# 図面





## 分布表 1 ヲスギ遺跡周辺遺跡分布表 (縄文・弥生)

遺跡番号	遺跡名	所 在 地	時 代	種別	指定	備考
137	ヲスギ	滴水 ヲスギほか	縄文・弥生・他	包蔵地		縄文晩期・弥生・須恵器
068	田原一の坂	豊岡 西原・岡林	縄文	包蔵地		縄文土器
075	外土井	富応 外土井	縄文	包蔵地		
076	中久保	豊岡 橘木	縄文・弥生	包蔵地		
087	古閑	鞍掛 古閑屋敷・辻畑	縄文~中世	包蔵地		
090	諏訪原	鞍掛 諏訪原	縄文~古代	包蔵地		
092	馬場	岩野 馬場	縄文~中世	包蔵地		馬場小路、三重土塁
097	ーツ木	山本一木	縄文	包蔵地		小小小小山、一里工生
099	白石	有泉 白石	縄文~古代	包蔵地		
100	小畑	有泉 小畑	縄文~古代	包蔵地		
101	石川	石川 小迫	弥生	包蔵地		
107	烏帽子	小野 烏帽子	弥生・他	包蔵地		弥生、土師器
111	塔の本	轟 乗尾・塔の本	弥生・古代・中世	埋葬		甕棺
112	埋原 1 号岩陰	轟 埋原屋敷	弥生~古代	包蔵地		
113	那知 1 号岩陰	那知 夫婦木	弥生~古代	包蔵地		
114	埋原 2 号岩陰		弥生~古代	包蔵地		
115				包蔵地		
	埋原 3 号岩陰		弥生~古代			
116	埋原		縄文~中世	包蔵地		
118	那知 2 号岩陰	那知 本村	弥生~古代	包蔵地		
123	辻畑	轟 辻畑	縄文	包蔵地		縄文土器
124	轟今古閑	轟 今古閑・久保	弥生後期・古代	包蔵地		(旧)今古閑・久保遺跡
125	髙	轟 今古閑	弥生・古代	包蔵地		銅鉾4本・鉄斧1
126	滴水西原	滴水(通称大道端)西原	縄文・弥生・古代	埋葬		甕棺 (旧) 滴水遺跡
	生野原	円台寺 生野原	縄文・古代・中世			
130				包蔵地	$\vdash$	(旧)生野遺跡 埋立・改生 共大石谷
136	河原立	円台寺 河原立	縄文・弥生	包蔵地	-	縄文・弥生、抉人石斧
139	円台寺	円台寺 本村	縄文~中世	包蔵地	_	(15) ( 5) (15)
141	下道丸	轟 ヲスギ	縄文	包蔵地		(旧) 内目遺跡
143	滴水館	滴水 東屋敷・原口	縄文~中世	包蔵地		
144	二葉パン工場	舞尾 西原・前畑	縄文・弥生	包蔵地		縄文後期・弥生後期・晩期
151	東原	平野 東原	弥生	埋葬		甕棺 2
152	平野	平野 東原・東中原	弥生~古墳	包蔵地		弥生~古墳期土器、甕棺
154	平野	荻迫 表畑・萩原ほか	縄文・他	包蔵地		加工で日頃知工品、発作
					$\vdash$	
159	植木草場	広住 向原ほか	縄文~中世	包蔵地	$\vdash$	
161	植木町三丁目	植木町3丁目	弥生	埋葬		甕棺
162	木留	木留 北中原	縄文~古代	包蔵地		
163	笹尾	木留 笹尾	縄文	包蔵地		縄文早期後期晩期土器・石器 (旧)笹尾A遺跡
165	笹尾B	木留 笹尾	弥生・縄文	包蔵地		集落、縄文早期土器・石斧・石棒、甕棺
168	山海道	辺田野 山海道	縄文	包蔵地		縄文後・晩期土器
173	山口迫	木留 山口迫	縄文~中世	包蔵地		PEXIX NOVOLUL
174	久保	富応 久保	弥生~古代	包蔵地		
175	田中原	富応 田中原	弥生~古代	包蔵地		
176	沖野	轟 沖野	弥生~古代	包蔵地		
178	柳迫	石川 柳迫	弥生~古代	包蔵地		
181	茶山	木留 櫟山	縄文~古代	包蔵地		
339	滴水向原	滴水 向原・ヲスギ	縄文	包蔵地		
342	尖り	滴水 尖り	縄文・弥生・古代〜近世	包蔵地		弥生中期集落跡 甕棺群
343	内山	滴水 内山	縄文・弥生・古代・中世	包蔵地		縄文後期 弥生中期集落跡
						神又1支別 7小土中别朱冷助
362	轟田中原	轟 田中原	縄文・弥生・古代	包蔵地		
本県(4	3) 玉東町(364)					
015	音丸	白木   上古閑	弥生・古墳	包蔵地		弥生土器・土師器
025	陣林	二俣 陣林	縄文~古代	包蔵地		
026	堂の元	二俣 堂の元	縄文~古代	包蔵地		
027	京塚	二俣京塚	縄文~古代	包蔵地		
029	进	二俣辻	縄文後晩期	包蔵地		
						弥生土器・石器
032	原倉		弥生	包蔵地		
037	西安寺	西安寺 上の原ほか	弥生末	包蔵地		土師器・須恵器片、住居跡
042	立岩石器製作	原倉 立岩屋敷	縄文	生産		一石斧・剥片多数
045	東山西	原倉 荒平	縄文~弥生	包蔵地		縄文後晩期御領式、弥生
049	東山	原倉 荒強当	縄文	包蔵地		縄文後期の土器・石器包含
053	大谷石器製作	原倉 大谷	縄文	生産	町	
	六本楠	TT A	/m	4 -44-1-1	1	A
		原篇	縄又	包蔵地		I .
	3) 西合志町(407)					
003	沖田	野々島 沖田	縄文・他	包蔵地	┕	丸木舟、御領式・野辺田式・土師器・石器
004	黒松岡原	合生 黒松	縄文	集落		表面に土器細片散布・石斧出土
012	アミダメ	野々島 古閑・前田	縄文~古代	包蔵地		
013	延寿寺	野々島 古閑	縄文~古代	包蔵地		
014	巡畑	野々島 巡畑	縄文~古代	包蔵地		
014	永田支石墓 	野々島 永田	弥生	埋葬		   支石墓
						入口型
019	笹塚	上生 笹塚	弥生・古墳	包蔵地	$\vdash$	
020	永田	野々島 永田	弥生・古墳	包蔵地		
021	向原	上生向原	弥生・古墳	包蔵地		
024	古閑原	野々島 古閑	弥生・古墳	包蔵地	∟∟	
026	中尾	野々島 天神島・中尾原	縄文・弥生・古墳	包蔵地	┕	縄文・弥生・古墳期土器片
042	野々島	野々島 北	弥生・他	包蔵地		畑地、弥生・野辺田式土器・土師器
043	八反畑	野々島 八反畑	縄文~弥生	包蔵地		縄文~弥生土器、中央小校庭
		野々島 中原・枇杷田	縄文	包蔵地		縄文早期
045	枇杷田		縄文・古墳	包蔵地		御領式土器・古式勾玉・野辺田式・須恵器
				- ピパペンピ		ラファット エン・コード とんだし スペショ
046	西合志中学校敷地	野々島 東原		与商业		
046 048	西合志中学校敷地 花園	野々島 東原 野々島 花園	弥生~古代	包蔵地		
046 048 049	西合志中学校敷地 花園 野田原	野々島     東原       野々島     花園       野々島     野田原	弥生~古代 弥生・古墳	包蔵地		T-B4 4.4. 在了
046 048 049 054	西合志中学校敷地 花園 野田原 二子山石器製作	野々島     東原       野々島     花園       野々島     野田原       野々島     天神免	弥生〜古代 弥生・古墳 縄文	包蔵地 包蔵地	玉	石器各種・原石
046 048 049 054 055	西合志中学校敷地 花園 野田原 二子山石器製作 中原支石墓	野々島 東原 野々島 花園 野々島 野田原 野々島 天神免 野々島 中原	弥生~古代 弥生・古墳 縄文 弥生	包蔵地 包蔵地 埋葬	玉	石器各種・原石
046 048 049 054 055	西合志中学校敷地 花園 野田原 二子山石器製作 中原支石墓 丸の内	野々島 東原 野々島 花園 野々島 野田原 野々島 天神免 野々島 中原 野々島 丸の内	弥生〜古代 弥生・古墳 縄文	包蔵地 包蔵地	围	石器各種・原石
046 048 049 054 055 056	西合志中学校敷地 花園 野田原 二子山石器製作 中原支石墓	野々島 東原 野々島 花園 野々島 野田原 野々島 天神免 野々島 中原	弥生~古代 弥生・古墳 縄文 弥生	包蔵地 包蔵地 埋葬	围	石器各種・原石
046 048 049 054 055 056	西合志中学校敷地 花園 野田原 二子山石器製作 中原支石墓 丸の内 中野	野々島 東原 野々島 花園 野々島 野田原 野々島 天神免 野々島 中原 野々島 丸の内 野々島 中野	<ul><li>弥生~古代</li><li>弥生・古墳</li><li>縄文</li><li>弥生</li><li>編文</li><li>縄文</li></ul>	包蔵地 包蔵地 埋葬 包蔵地 包蔵地	玉	
046 048 049 054 055 056 061	西合志中学校敷地 花園 野田原 二子山石器製作 中原支石墓 丸の内 中野 木原野A・B	野々島 東原 野々島 花園 野々島 野田原 野々島 天神免 野々島 中原 野々島 丸の内 野々島 中野	<ul><li>弥生~古代</li><li>弥生・古墳</li><li>縄文</li><li>弥生</li><li>縄文</li><li>縄文</li><li>縄文</li><li>縄文</li><li>縄文</li></ul>	包蔵地 包蔵地 埋葬 包蔵地 包蔵地	1	石鏃
046 048 049 054 055 056 061 062	西合志中学校敷地 花園 野田原 二子山石器製作 中原支石墓 丸の内 中野 木原野 A・B 宿の山 (須屋)	野々島 東原 野々島 花園 野々島 野々島 天神免 野々島 中原 野々島 中原 野々島 丸の内 野々島 木原野 野々島 宿の山	弥生~古代 弥生、古墳 縄文 	包蔵地 包蔵地 埋葬 包蔵地 包蔵地 包蔵地 セース をおいます をおいます セース をおいます ロース	围	
046 048 049 054 055 056 061 062 063	西合志中学校敷地 花園 野田原 二子山石器製作 中原支石墓 丸の内 中野 木原野 A・B 宿の山 (須屋) 梨の木	野々島 東原 野々島 花園 野々島 野田原 野々島 天神免 野々島 丸の内 野々島 中原 野々島 中野 野々島 中野 野々島 如の内	<ul><li>弥生~古代</li><li>弥生</li><li>古墳</li><li>縄文</li><li>縄文</li><li>縄文</li><li>縄文</li><li>縄文</li><li>縄水生</li><li>縄文</li></ul>	包蔵地 包蔵 地 生 一 包蔵 蔵 地 生 一 包蔵 蔵 地 包蔵 蔵 地 包蔵 蔵 地 生 食蔵 地	玉	石鏃
046 048 049 054 055 056 061 062 063 064	西合志中学校敷地 花園 野田原 二子山石器製作 中原支石墓 丸の内 中野 木原野A・B 宿の山 (須屋) 製の木 向島	野々島 東原 野々島 花田 野	<ul><li>弥生~古代</li><li>弥生·古墳</li><li>鄉文</li><li>弥生</li><li>縄文</li><li>郷文</li><li>縄文</li><li>姚生</li><li>縄文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li></ul>	包蔵地 包蔵 地 里 包蔵 越地 包蔵 藤 地 地 包蔵 蔵 越 地 里 包蔵 蔵 華 地 地 包蔵 越 地 田 包蔵 越 地	国	石鏃
046 048 049 054 055 056 061 062 063 064	西合志中学校敷地 花園 野田原 二子山石器製作 中原支石墓 丸の内 中野 木原野 A・B 宿の山 (須屋) 梨の木	野々島 東原 野々島 花園 野々島 野田原 野々島 天神免 野々島 丸の内 野々島 中原 野々島 中野 野々島 中野 野々島 如の内	<ul><li>弥生~古代</li><li>弥生</li><li>古墳</li><li>縄文</li><li>縄文</li><li>縄文</li><li>縄文</li><li>縄文</li><li>縄水生</li><li>縄文</li></ul>	包蔵地 包蔵 地 里蔵 地 包蔵 蔵 地 包蔵 蔵 地 包蔵 蔵 地 包蔵 蔵 地 生 蔵 地 生 蔵 地	王	石鏃
046 048 049 054 055 056 061 062 063 064 065	西合志中学校敷地 花園 野田原 二子山石器製作 中原支石墓 丸の内 中野 木原野 A・B 宿の山 (須屋) 梨の木 向島 巡畑	野々島 東原 野々島 花田 野	<ul><li>弥生~古代</li><li>弥生·古墳</li><li>鄉文</li><li>弥生</li><li>縄文</li><li>郷文</li><li>縄文</li><li>姚生</li><li>縄文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>魏文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li><li>张文</li></ul>	包蔵地 包蔵 地 里 包蔵 越地 包蔵 藤 地 地 包蔵 蔵 越 地 里 包蔵 蔵 華 地 地 包蔵 越 地 田 包蔵 越 地	围	石鏃
046 048 049 054 055 056 061 062 063 064 065 069	西合志中学校敷地 花園 野田原 一子山石器製作 中原支石墓 丸の内 中野 木原野 A・B 宿の山(須屋) 梨の島 巡畑 3) 熊本市(201)	野々島 東原 野々島 花園 野々島 野田原 野々島 天神免 野々島 丸の内 野々島 中原 野々島 中原 野々島 中野 野々島 本原野 須屋 都の山 須屋 梨の木 須屋 梨の木 須屋 別加	弥生~古代 弥生文 弥生 郷生 縄文 郷文 郷文 郷文 赤生 縄文 弥生 縄文 弥生 縄文 赤生 縄文 赤生 縄文 赤生 縄文 赤生 縄文 赤生 の 赤生 の 赤生 の 赤生 の 赤生 の 赤生 の 赤生 の 赤生 の 赤生 の 赤生 の 赤生 の の の の の の の の の の の の の	包蔵地 埋藏 地地地地 地名 包藏 超 地 地地地地地地地地地地地地地地地地地地地地地地地地地地地地地地地地	国	石鏃
046 048 049 054 055 056 061 062 063 064 065 069 年 (4	西合志中学校敷地 花園 野田原 二子山石器製作 中原支石墓 丸の内 中野 木原野 A・B 宿の山 (須屋) 製の木 向島 巡畑 3) 熊本市(201) 万楽寺貝塚	野々島 東原 野々島 花園 野々島 野田原 野々島 天神免 野々島 中原 野々島 中野 野々島 中野 野々島 本原野 須屋 初の木 須屋 向島 野々島 巡畑	<ul><li>弥生~古代</li><li>弥生・古墳</li><li>編文</li><li>郷文</li><li>縄文</li><li>郷文</li><li>縄文</li><li>殊生</li><li>縄文</li><li>弥生・古墳</li><li>縄文</li></ul>	包蔵地 包藏 地 埋	国	石鏃 弥生合口甕棺・土師器片一括
046 048 049 054 055 066 062 063 064 065 069	西合志中学校敷地 花園 野田原 二子山石器製作 中原支石墓 丸の内 中野 木原野 A・B 宿の山 (須屋) 製の木 向島 巡畑 3) 熊本市 (201) 万楽寺貞塚	野々島 東原 野々島 花園 野々島 野田原 野々島 天神免 野々島 中原 野々島 中原 野々島 中野 野々島 中野 須屋 宿の山 須屋 向島 野々島 流畑	<ul><li>弥生~古代</li><li>弥生・古墳</li><li>郷文</li><li>郷文</li><li>郷文</li><li>郷文</li><li>郷文</li><li>郷文</li><li>郷生・古墳</li><li>縄文</li><li>旧石器・縄文</li></ul>	包包 理包 包 包 包 包 包 包 包 应 一 包 包 应 应 应 应 应 应 应 应	国	石鏃 弥生合口甕棺・土師器片一括  剥片尖頭器(黑曜石)、土偶、縄文後晩期土器
046 048 049 054 055 056 061 062 063 064 065 069 年間 (4	西合志中学校敷地 花園 野田原 二子山石器製作 中原支石墓 丸の内 中野 木原野 A・B 宿の山 (須屋) 梨の木 向島 巡畑 3) 熊本市(201) 万楽寺貞塚 太郎迫	野々島 東原 野々島 下田原 野々島 野田原 野々島 天神免 野々島 中原 野々島 中原 野々島 中原 野々島 東京 河屋 福の山 須屋 柳の木 須屋 柳の木 須屋 柳の木 万楽寺町三字甲笹尾 太郎迫町字大原など	弥生~古代         弥生         赤生         縄文         弥生         縄文         弥生・古墳         縄文         郷土         銀文         縄文         郷土         銀工         日本	包藏藏葬藏藏藏 埋包 包藏藏葬藏藏藏 建包包 包裹 医多种	国	石鏃 弥生合口甕棺・土師器片一括
046 048 049 054 055 056 061 062 063 064 065 069 \$\$\\$\\$\\$	西合志中学校敷地 花園 野田原 二子山石器製作 中原支石墓 丸の内 中野 木原野 A・B 宿の山 (須屋) 梨の木 向島 巡畑 3) 熊本市(201) 万楽寺貝塚 山海道 徳門	野々島。東原 野々島 花園 野々島 野田原 野々島 天神免 野々島 中原 野々島 中原 野々島 中野 野々島 中野 野々島 中野 野々島 中野 野々島 中野 野々島 市野 須屋 和の木 須屋 和の木 須屋 和の木 須屋 和の木 須屋 和の木 須屋 和の木 須屋 カー島	弥生~古代 弥生~古墳 縄文 郷生 縄文 郷生 縄文 弥生 縄文 弥生 縄文 弥生 縄文 赤生 縄文 赤生 縄文 赤生 縄文 赤生 縄文 赤生 縄文 赤生 縄文 赤生 縄文 赤生 縄文 赤生 縄文 赤生 縄文 赤生 地 本 は 、 は は は に は は は は は は は は は は は は は	包藏藏華藏藏藏 塚落藏藏藏 塚落藏藏藏 塚落藏藏藏 塚落藏藏藏	国	石鏃 弥生合口甕棺・土師器片一括 別片尖頭器(黑曜石)、土偶、縄文後晩期土器
045 046 048 049 054 055 056 061 062 063 064 065 069 \$	西合志中学校敷地 花園 野田原 二子山石器製作 中原支石墓 丸の内 中野 木原野 A・B 宿の山 (須屋) 梨の木 向島 巡畑 3) 熊本市(201) 万楽寺貞塚 太郎迫	野々島 東原 野々島 下田原 野々島 野田原 野々島 天神免 野々島 中原 野々島 中原 野々島 中原 野々島 東京 河屋 福の山 須屋 柳の木 須屋 柳の木 須屋 柳の木 万楽寺町三字甲笹尾 太郎迫町字大原など	弥生~古代         弥生         赤生         縄文         弥生         縄文         弥生・古墳         縄文         郷土         銀文         縄文         郷土         銀工         日本	包藏藏葬藏藏藏 埋包 包藏藏葬藏藏藏 建包包 包裹 医多种	重	石鏃 弥生合口甕棺・土師器片一括 別片尖頭器(黒曜石)、土偶、縄文後晩期土器

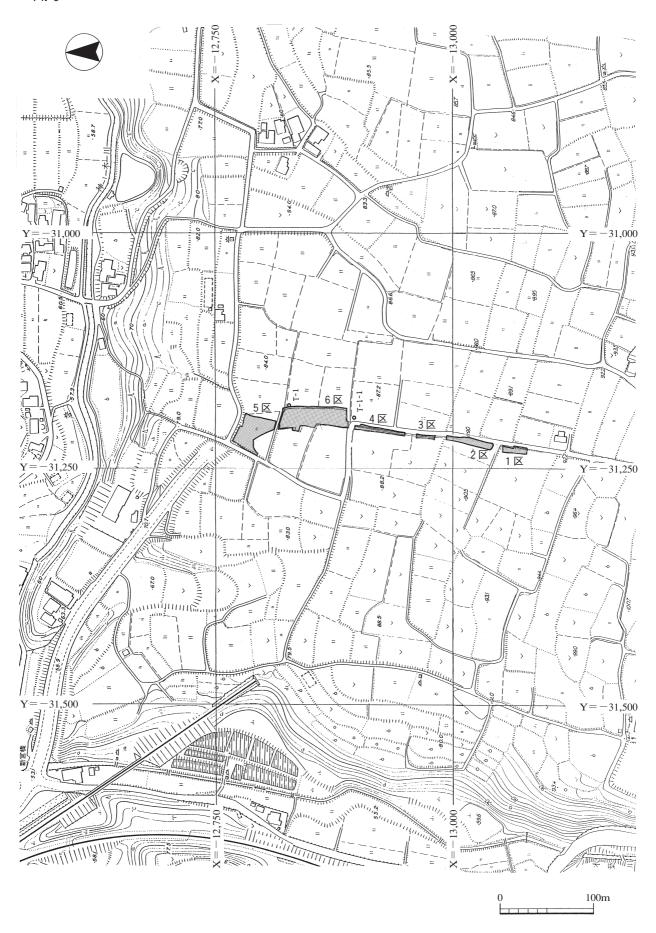
遺跡番号	遺 跡 名	所 在 地	時 代	種 別 指定	備考
019	妙見遺跡群	立福寺町今熊	縄文・中世	包蔵地	後晩期土器(太郎迫式・御領式・晩期中葉)
021	川東遺跡群	和泉町幡宮	縄文・弥生	包蔵地	川東縄文後晩、庄弥生、板碑(大永3年銘)
022	皮籠石	和泉町川東	縄文~中世	包蔵地	
025	中尾	花園 4 丁目	縄文	包蔵地	後期中葉末の太郎迫式の口縁部破片
026	桑鶴遺跡群	和泉町桑鶴	縄文~中世	包蔵地	板碑(天文2年銘)
028	五丁中原遺跡群	貢町字馬場・三つ塚	旧石器~弥生	包蔵地	弥生後期環壕集落調査、縄文晩期住居跡調査、巴形銅器
035	宝出原	改寄町	縄文~中世	包蔵地	
039	小糸山遺跡群	小糸山町居屋敷	縄文~中世	包蔵地	縄文後期土器、縄目圧痕土器など、西南戦争官軍墓地
047	硯川遺跡群	硯川・下硯川町	縄文~平安	包蔵地	板碑(大永4年銘)、窯跡(平安期?)2基以上
048	四方寄	四方寄町	縄文	包蔵地	縄文後晩大集落、調査あり
051	四方寄御馬下	四方寄町御馬下	縄文	包蔵地	
054	柚ノ木	硯川町市迫	縄文・古墳	包蔵地	縄文後期土器、石棺数基
060	坂下遺跡群	硯川町北井川谷	弥生・古墳	包蔵地	坂下A・B甕棺出土、坂下B窯跡あり
066	飛田遺跡群	飛田町塔の木など	縄文~古墳	包蔵地	葉山古墳調査報告書あり
067	清水町遺跡群	清水町山室など	縄文~古墳	包蔵地	楢山甕棺群、山室甕棺・土師器、八景水谷縄文前後晩・甕棺
069	立石遺跡群	改寄町	縄文~平安	包蔵地	
073	大鳥居遺跡群	大鳥居町	縄文~中世	包蔵地	
075	梶尾遺跡群	梶尾町中尾原	弥生	包蔵地	弥生中期~後期の土器、大明神甕棺群
076	梶尾古閑原・古屋敷	梶尾町古閑原など	縄文~中世	包蔵地	
077	梶尾立野	梶尾町立野	縄文~中世	包蔵地	
078	鶴羽田(鶴ノ原・垣ノ外)	鶴羽田町	縄文~古墳	包蔵地	縄文後晩期土器、先端を失った銅戈工事中に出土
081	山際畑	鶴羽田町	縄文~中世	包蔵地	
403	万楽寺出口	太郎迫町	縄文~弥生	包蔵地	県調査あり
404	春山	太郎迫町	縄文	包蔵地	早期土器

## 分布表2 ヲスギ遺跡周辺遺跡分布表(古代・中世)

77 113 22		小匹医助 刀 旧五	(ПТС ТЕ)			
	3) 植木町(385)	=r + 114	n+ /(2	17 DII	北六	/# +/
遺跡番号	遺跡名	所 在 地	時 代	種別	指定	備考
137	ヲスギ	滴水 ヲスギほか	縄文・弥生・他	包蔵地		縄文晩期・弥生・須恵器
067	谷板碑	豊岡谷	中世	石造物		
070	田原の五輪塔付板碑	豊岡栗木平	中世	石造物	町	田原寺跡、在銘板碑、塔片あり
071	公園	豊岡 船底	古墳・古代	包蔵地	町	須恵器・土師器
072	公園板碑	豊岡 船底	中世	石造物		石造物
073	船底の五輪塔付板碑	豊岡 船底	中世	石造物	県	
080	城山城跡(田原城)	豊岡本村	中世	城		
081	田原寺跡	豊岡宮の原	中世	寺社		
084	富応廃寺跡	富応 谷浦	古代	寺社	町	(#LUI per 7 pL 3/ 2 [Feb)
085	古閑板碑	鞍掛 阿弥陀堂	中世	石造物	町	(鞍掛阿弥陀堂の板碑)
086	岩野城跡(道祖城)	岩野(城山) 馬場	中世	城		
087	古閑	鞍掛 古閑屋敷・辻畑	縄文~中世	包蔵地		
090	諏訪原	鞍掛 諏訪原	縄文~古代	包蔵地		
091	次郎丸屋敷	岩野 馬場・一町畑	古代・中世	屋敷		压坦 J. Db
092	馬場	岩野 馬場	縄文~中世	包蔵地		馬場小路、三重土塁
093	福乗寺	岩野 馬場	中世	寺社		
095	鞍掛山城跡	鞍掛 萩尾屋敷	中世	城		
096	荒平城跡 丸石	山本 荒平	中世	城	<u> </u>	
099	白石	有泉白石	縄文~古代	包蔵地		
100	小畑	有泉 小畑	縄文~古代	包蔵地		
102	石川の板碑群	石川 小迫	中世	石造物		ACT to A LL
105	小野の宝塔	小野 居屋敷	中世	石造物		板碑あり
108	広住	広住の原・浦田	古墳・古代	包蔵地		土師器壺
111	塔の本	轟 乗尾・塔の本	弥生・古代・中世	埋葬		甕棺
112	埋原 1 号岩陰	轟 埋原屋敷	弥生~古代	包蔵地		
113	那知 1 号岩陰	那知 夫婦木	弥生~古代	包蔵地		
114	埋原 2 号岩陰	轟 埋原屋敷	弥生~古代	包蔵地		
115	埋原 3 号岩陰	轟 埋原屋敷	弥生~古代	包蔵地		
116	埋原	轟 埋原屋敷	縄文~中世	包蔵地		南京とい
117	埋原城跡	轟 埋原屋敷	中世	城		空濠あり
118	那知 2 号岩陰	那知 本村	弥生~古代	包蔵地		
119	龍源寺跡十二仏龕佛	那知 本村	中世	石造物		
121	能源寺跡	那知 本村	中世	寺社		
122	龍源寺跡板碑 轟今古閑	那知 本村		石造物		
124 125	種ラウト	森 今古閑・久保 森 今古閑	弥生後期・古代 弥生・古代	包蔵地		(旧) 今古閑・久保遺跡 銅鉾4本・鉄斧1
125	滴水西原	瀬 ラロ闲	縄文・弥生・古代	埋葬		朝鮮4本・鉄片 I 甕棺 (旧) 滴水遺跡
			神 大・が土・古れ			器作 (ID)尚小遺跡
127	滴水阿弥陀板碑	滴水	中世	石造物 城		城関係墓地あり 大堀あり
128	毒城跡	両 城の内   円台寺 生野原				
130	生野原		縄文・古代・中世	包蔵地		(旧) 生野遺跡
132	円台寺五輪塔群	円台寺 菱形 円台寺 本村	<u>中世</u> 中世	石造物	県	八幡宮西に多く埋没   (円台寺古塔碑群) 2基、建久4年2月銘、建久7年2月銘
134	円台寺の石造笠塔婆		中世	石造物	県	
135	円台寺磨崖仏群 円台寺跡廃寺跡	円台寺 本村 円台寺 本村	中世	石造物 寺社	肝	浮彫、龕色仏画   一堂に薬師・十二神将・金剛力士あり
			縄文~中世	包蔵地	Щ	一主に栄削・丁一仲付・査削刀工のリ
139 141	円台寺 下道丸	円台寺 本村 轟 ヲスギ	縄文	包蔵地		(旧) 内目遺跡
141	高水館跡	滴水 東屋敷・原口	中世	館跡		(ロ) 内日遠跡 居館、土塁
142	滴水館	滴水 東屋敷・原口	縄文~中世	包蔵地		/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /
143	周水照 舞尾薬師堂板碑	凋水 東座敷・原口   舞尾 本村屋敷	伸又~中世 中世	石造物		
145	舞尾の板碑	舞尾 石仏	中世	石造物	町	千本桜乃木記念碑と並ぶ、六地蔵線刻
153		平野 東谷	中世	石造物	μј	工本体乃不記る碑と业ふ、八地劇縁刻    五輪塔片多数、瓦器・甕棺
153	十野五輪培群 植木草場	平野 東台   広住 向原ほか	#世 縄文~中世	包蔵地		ユ
	恒へ早場 滴水東屋敷の板碑		伸又~中世 中世	石造物	町	
160					μј	
162	木留 (#宮地)	木留 北中原	縄文~古代	包蔵地		
166	木留城跡(推定地)	木留本村・北中原	中世	城		瓦器 外
167	服仏長	發田 服仏長 小野 小学	古代・中世	包蔵地		
170	小道	小野 小道	古代	集落跡		断面に竪穴住居跡(カマド付)
173 174	山口迫 久保	木留 山口迫 富応 久保	縄文~中世 弥生~古代	包蔵地		
174	久保 田中原			包蔵地	_	
1/5	四甲尿	富応 田中原	弥生~古代	己戚地		

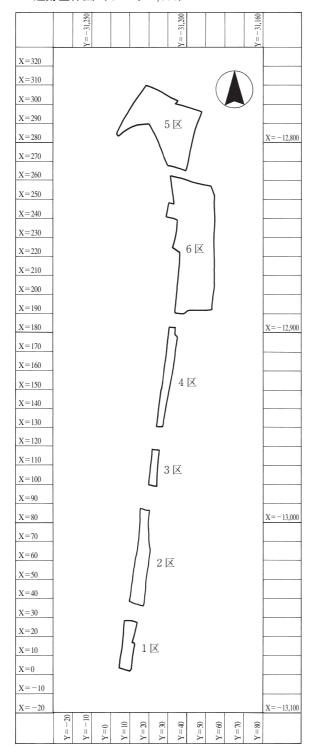
遺跡番号	遺跡名	所 在 地	時 代	種別	指定	備考
176	沖野	事 沖野	弥生~古代	包蔵地	10/E	ула 75
177	葛山製鉄跡	木留 葛山	古代・中世	生産		
178	柳迫	石川 柳迫	弥生~古代	包蔵地		
181	茶山	木留 櫟山	縄文~古代	包蔵地		
342	尖り	滴水尖り	縄文・弥生・古代〜近世	包蔵地		弥生中期集落跡 甕棺群
343	内山	滴水内山	縄文・弥生・古代・中世	包蔵地		縄文後期 弥生中期集落跡
362	轟田中原	轟田中原	縄文・弥生・古代	包蔵地		
	3) 玉東町 (364)					
012	町下	木葉 町下	古代・中世	包蔵地		青磁・土師器・須恵器・瓦器破片
013	木葉宇都宮城跡	木葉 丸田	中世	城		小森田城跡、役場裏手
019	揚の六地蔵	木葉 前田	中世	石造物	_	銘があるが風化し、不詳
022	世尊寺跡	木葉 世尊寺	中世	寺社	-	真言宗、寺号築地蓮華院に移す
025	陣林	二俣陣林	縄文~古代	包蔵地	-	
026 027	堂の元   京塚	二俣 堂の元 二俣 京塚	縄文~古代	包蔵地	-	
027	前久保古塔碑群	二俣 京塚 二俣 前久保ほか	縄文~古代   中世	石造物		
031	西原製鉄跡	原倉西原	古代	生産	県	鉱滓・焼灰あり
034	城山城跡	上白木 城山ほか	中世	城	214	山北小校地一帯
035	太朗丸権現山	上白木 太朗丸	古代	生産		スラッグ・ふいごの羽口
038	久満坊埋蔵銭出土地	西安寺 吉丸	古代・中世	包蔵地		中国唐~明479個
039	西安寺跡	西安寺 寺中尾ほか	中世	寺社	県	礎石・排水溝
040	西安寺五輪塔群付板碑群	西安寺 寺中尾	中世	石造物	県	相良氏五輪塔 外、板碑
041	座主古塔碑群	上白木 座主	中世	石造物		笠塔婆・五輪塔
043	西安寺製鉄	西安寺 寺中尾	古代	生産		スラッグ
044	釜の口製鉄跡	原倉山口原	古代・中世	生産		鉱滓多量散布、ふいごの羽口、焼土
046	金糞谷製鉄跡	原倉 藤原	古代・中世	生産	-	A'b Rode
050	むくろじ製鉄跡	原倉 荒強当	古代	生産	町	
051	むくろじかじ墓群	原倉 荒強当	古代	墳墓	-	山林中にいくつもの小墳丘点在
063	山北八幡宮仁王像	白木 栗地原	中世	建造物 石造物	-	
066 070	即身成仏の碑 清田原製鉄	上白木 小林 原倉 清田原	一中世 古代・中世	生産 生産	<b>—</b>	
070	清田原製鉄   菖蒲谷製鉄所跡	原倉 荒平	古代	生産	<u> </u>	
074	原倉清田氏板碑群	原倉 登立	中世	建造物	町	
077	原倉清田氏五輪塔	原倉 尾池	中世	建造物	町	
078	馬伏製鉄	原倉馬伏	古代	生産	1	
	13) 西合志町 (407)	,				
010	積雪城跡	上生 城敷	中世	城		
012	アミダメ	野々島 古閑・前田	縄文~古代	包蔵地		
013	延寿寺	野々島 古閑	縄文~古代	包蔵地		
014	巡畑	野々島 巡畑	縄文~古代	包蔵地		
047	野々島土塁跡	野々島 八通丸	中世	包蔵地		八通丸
048	花園	野々島 花園	弥生~古代	包蔵地		
050	駄飼場	野々島 駄飼場	古代	包蔵地	_	
051	弁天山磐座	野々島 野々島	古代	祭祀	-	
052	愛楽寺跡 	野々島 外園	中世	寺社	-	
053 066	花園土塁跡 須屋城跡	野々島 花園 須屋 城跡	中世	包蔵地	-	中世城跡
067	須座吶砂	須屋 <u></u>	中世		1	丁 12 7%[0]
		八生	1 1 12	1 11 11	_	1
既本県 (4 011	荒平城跡	万楽寺町字神園	中世	城		
012	万楽寺経塚	万楽寺	中世	経塚		
014	横山一字一石経塚	立福寺町横山	中世	経塚		
015	東門寺城山城跡	立福寺町合戸	中世	城		
016	惚門	立福寺町小原	縄文~中世	包蔵地		
018	北迫川底遺跡群	北迫町北迫	弥生~中世	包蔵地		
019	妙見遺跡群	立福寺町今熊	縄文・中世	包蔵地	_	後晩期土器(太郎迫式・御領式・晩期中葉)
024	赤水城跡	和泉町崩平	中世	城	_	古墳を利用した高台に城
022	皮籠石	和泉町川東	縄文~中世	包蔵地	-	
026	桑鶴遺跡群	和泉町桑鶴	縄文~中世	包蔵地	-	板碑(天文 2 年銘)
035	宝出原 # L t k k k	改寄町 改寄町井上	縄文~中世 中世	包蔵地 城		
038	井上城跡   小糸山遺跡群	小糸山町居屋敷	縄文~中世	包蔵地	1	   縄文後期土器、縄目圧痕土器など、西南戦争官軍墓地
039	楠古閑	楠野町	中世	包蔵地		プレスススの工品、売日工以工品でもC、日刊刊プロ子坐地
046	伝鹿子木館跡	鹿子木町花の木	中世	包蔵地		
047	視川遺跡群	視川・下硯川町	縄文~平安	包蔵地		板碑(大永4年銘)、窯跡(平安期?)2基以上
050	城ヶ辻城跡	四方寄町城ヶ辻	中世	城		貝塚あり、城主は西牟田常陸守
053	四方寄六地蔵・庚申塔	四方寄町外屋敷	中世	石造物	市	
056	山川窯跡群	下硯川町	古代	生産		須恵器
069	立石遺跡群	改寄町	縄文~平安	包蔵地	_	
073	大鳥居遺跡群	大鳥居町	縄文~中世	包蔵地	-	
076	梶尾古閑原・古屋敷	梶尾町古閑原など	縄文~中世	包蔵地	-	
077 081	梶尾立野   山際畑	梶尾町立野   鶴羽田町	縄文~中世 縄文~中世	包蔵地	-	
081	羽田	鶴羽田町	一 相父~中世 古代・中世	包蔵地		
407	尾当阿弥陀堂板碑	改寄町飼根	中世	石造物	$\vdash$	天文16年
410	舞踏堰記碑	北迫町舞足	中世	石造物		名民政官であった鹿子木量平の顕彰碑である
411	伝鹿子木寂心墓	北迫町図形	中世	墓地		THE STATE OF THE PARTY OF THE P
412	花の木観音堂板碑	鹿子木町鹿子木	中世	石造物		残欠、永正13年銘
	半田天神板碑・石仏	四方寄町宮の跡	中世	石造物		板碑大永6年銘
413		鶴羽田町上の原	古代	包蔵地		
413 414	古代官道		中世	石造物		大永6年銘
413 414 427	浦畑地蔵板碑	庄町浦畑		石造物		大永 4 年銘
413 414 427 428	浦畑地蔵板碑 川東地蔵板碑	和泉町川東屋敷	中世			
413 414 427 428 429	浦畑地蔵板碑 川東地蔵板碑 仁王堂板碑	和泉町川東屋敷 大多尾	中世中世	石造物		天文 2 年銘
413 414 427 428 429 430	浦畑地蔵板碑 川東地蔵板碑 仁王堂板碑 菰田六地蔵板碑	和泉町川東屋敷 大多尾 立福寺	中世 中世 中世	石造物 石造物		天文 2 年銘
413 414 427 428 429 430 431	浦畑地蔵板碑 川東地蔵板碑 仁王堂板碑 菰田六地蔵板碑 薬師堂板碑	和泉町川東屋敷 大多尾 立福寺 立福寺鶴畑	中世中世中世中世	石造物 石造物 石造物		天文 2 年銘     大永 5 年銘
413 414 427 428 429 430 431 432	浦畑地蔵板碑 川東地蔵板碑 仁王堂板碑 茲田六地蔵板碑 薬師堂板碑 立福寺磨崖仏	和泉町川東屋敷 大多尾 立福寺 立福寺鶴畑 立福寺杉山	中世 中世 中世 中世 中世	石造物 石造物 石造物 石造物		天文 2 年銘       大永 5 年銘       不動明王
413 414 427 428 429 430 431 432 434	浦畑地蔵板碑 川東地蔵板碑 仁王堂板碑 菰田六地蔵板碑 薬師堂板碑 立古寺磨崖仏 万楽寺板碑	和泉町川東屋敷 大多尾 立福寺 立福寺鶴畑 立福寺杉山 万楽寺町	中世 中世 中世 中世 中世	石造物 石造物 石造物 石造物		天文 2 年銘     大永 5 年銘
413 414 427 428 429 430 431 432 434 436	浦畑地蔵板碑 川東地蔵板碑 仁王堂板碑 菰田六地蔵板碑 薬師堂板碑 立福寺磨崖仏 万楽寺板碑 出羽宝篋印塔	和泉町川東屋敷 大多尾 立福寺 立福寺鶴畑 立福寺杉山	中世 中世 中世 中世 中世	石造物 石造物 石造物 石造物		天文 2 年銘       大永 5 年銘       不動明王
413 414 427 428 429 430 431 432 434 436 熊本県 (4	浦畑地蔵板碑 川東地蔵板碑 仁王堂板碑 菰田六地蔵板碑 薬師堂板碑 立福寺磨崖仏 万楽寺板碑 山羽宝篋印塔 13) 天水町 (363)	和泉町川東屋敷 大多尾 立福寺 立福寺鶴畑 立福寺杉山 万楽寺町 河内町大多尾	中世 中世 中世 中世 中世 中世 中世	石造物 石造物 石造物 石造物 石造物 石造物 石造物 石造物		天文 2 年銘       大永 5 年銘       不動明王       天文 7 年銘
413 414 427 428 429 430 431 432 434 436 熊本県 (4	浦畑地蔵板碑 川東地蔵板碑 仁王堂板碑 菰田六地蔵板碑 薬師堂板碑 立福寺磨崖仏 万楽寺板碑 山羽宝篋印塔 3) 天水町 (363) かなくそ谷製鉄跡	和泉町川東屋敷 大多尾 立福寺 立福寺鶴畑 立福寺杉山 万楽寺町	中世 中世 中世 中世 中世	石造物 石造物 石造物 石造物		天文 2 年銘       大永 5 年銘       不動明王
413 414 427 428 429 430 431 432 434 436 熊本県 (4	浦畑地蔵板碑 川東地蔵板碑 仁王堂板碑 菰田六地蔵板碑 薬師堂板碑 立福寺磨崖仏 万楽寺板碑 山羽宝篋印塔 13) 天水町 (363)	和泉町川東屋敷 大多尾 立福寺 立福寺鶴畑 立福寺杉山 万楽寺町 河内町大多尾	中世 中世 中世 中世 中世 中世 中世	石造物 石造物 石造物 石造物 石造物 石造物 石造物 石造物		天文 2 年銘       大永 5 年銘       不動明王       天文 7 年銘

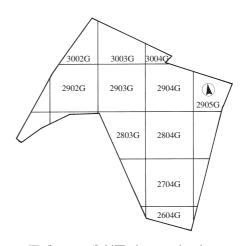
<sup>\*</sup>ここで使用したデータは、『熊本県遺跡地図』1994をベースにして、部分的に『植木町遺跡地図』1999をもとに加筆・修正したものである。



第3図 ヲスギ遺跡周辺地図 (S=1/4,000)

## 遺跡全体図(S=1/2,000)





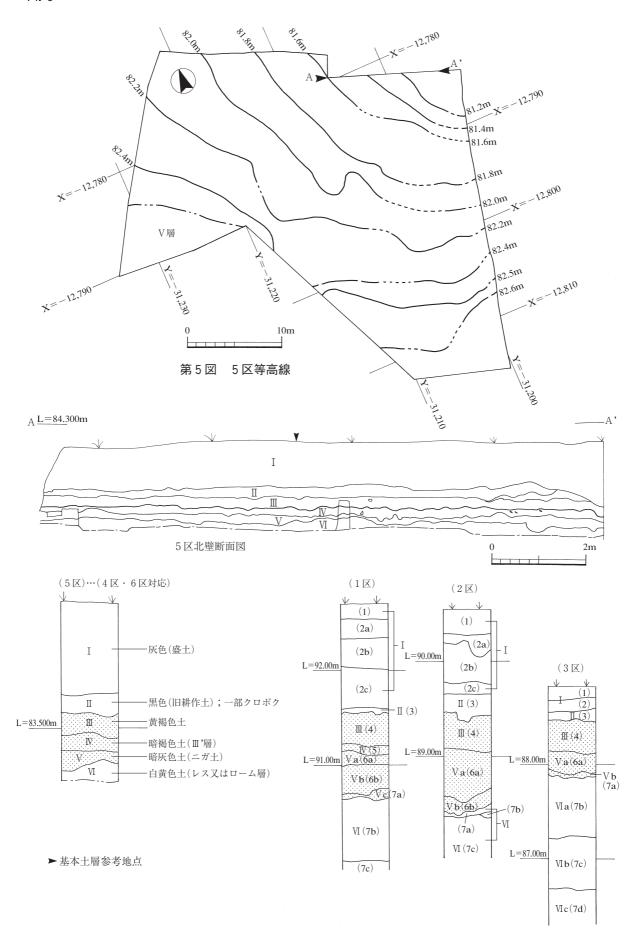
5区グリット分割図 (S=1/800)

	D-15	C 15	B-15	A-15	<b>(A)</b>
	D-14	C-14	B-14	A-14	<del>Z</del> √4
	D-\3	C-13	B-13	A-13	Z-13
	D=12	C-12	B-12	A-12	Z-12
4	D-11	C-11	B-11	A-11	Z-11
	D-10	C-10	B-10	A-10	Z-10
	D/9	C-9	B-9	A-9	Z-9
	10-8	C-8	B-8	A-8	Z-8
	D=7	C-7	B-7	A-7	Z-7
	D-6	C-6	B-6	A-6	Z-6
	D-5	C-5	B-5	A-5	Z-5
	D-4	C-4	B-4	A-4	Z-4
	D-3	C-3	B-3	A-3	Z-3
	D-2	C-2	B-2	A-2	Z-2
	D-1	C-1	B-1	A-1	Z-1

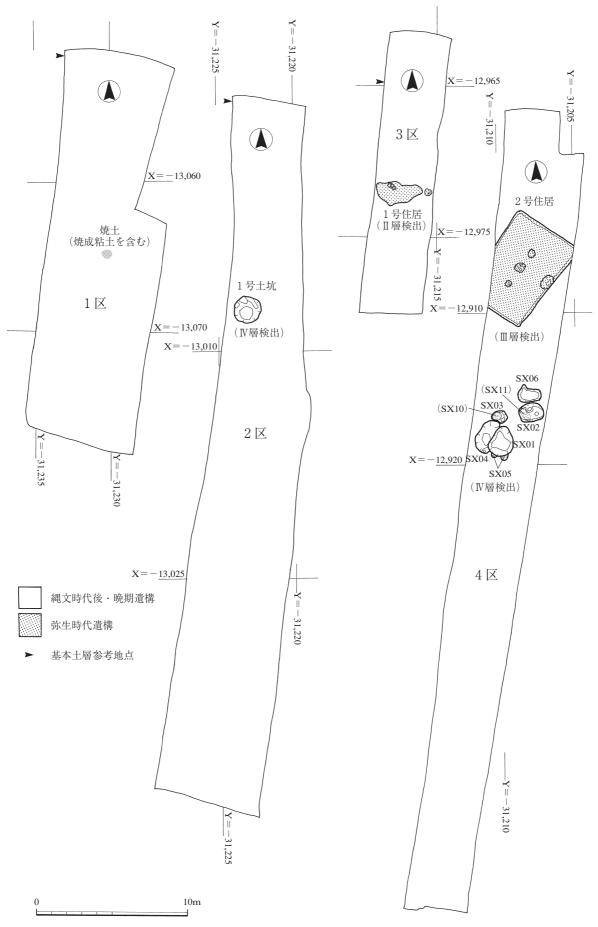
6区グリット分割図 (S=1/800)

公式座標 (上·右欄) 独自座標 (下·左欄)

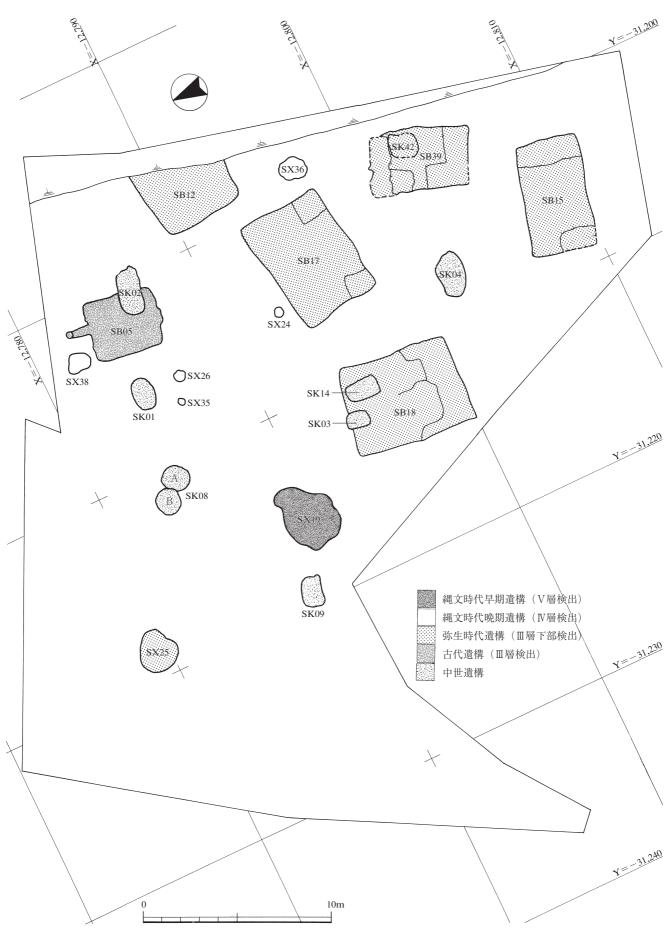
第4図 ヲスギ遺跡調査区全体図及び5区・6区グリット分割図



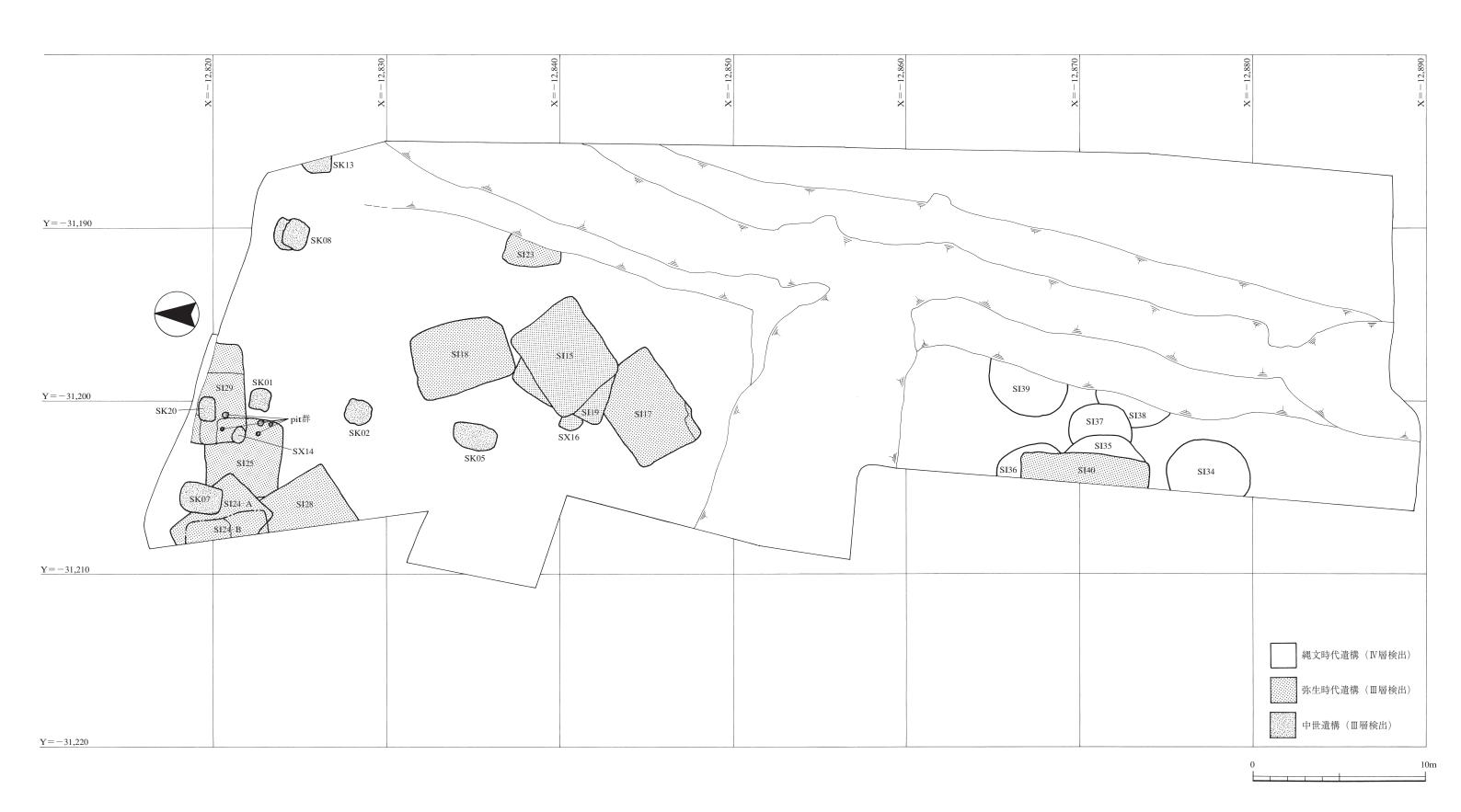
第6図 ヲスギ遺跡基本土層図

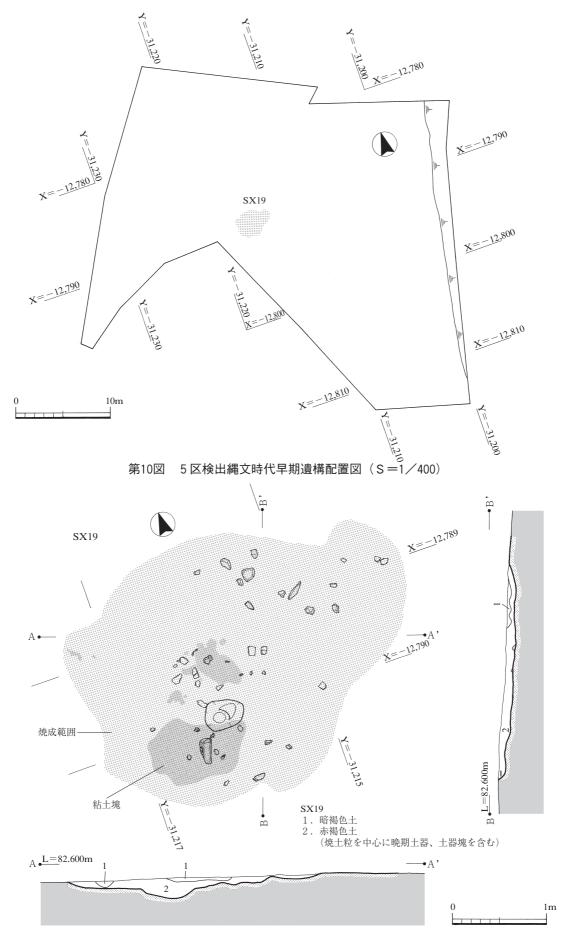


第7図 1区~4区遺構配置図(S=1/250)

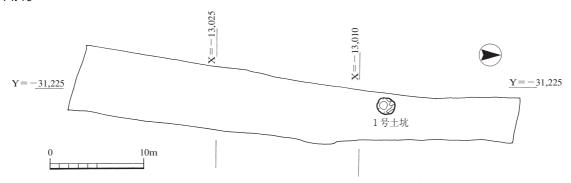


第8図 5区遺構配置図 (S=1/200)

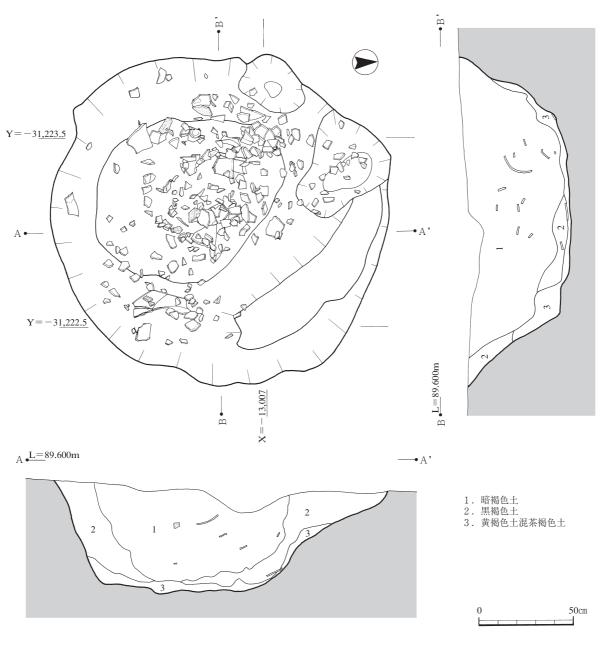




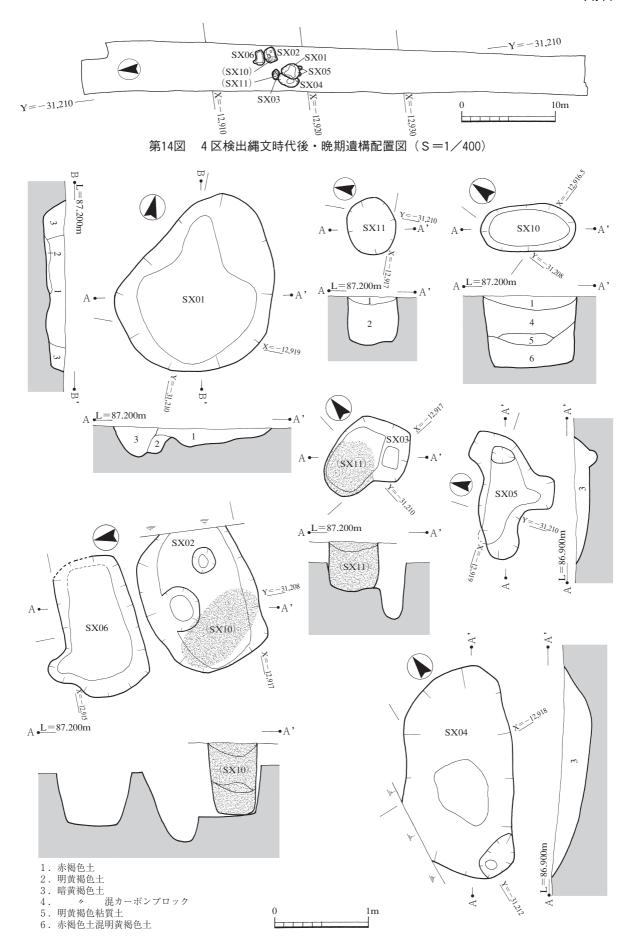
第11図 SX19 平面, 断面図 (S=1/40)



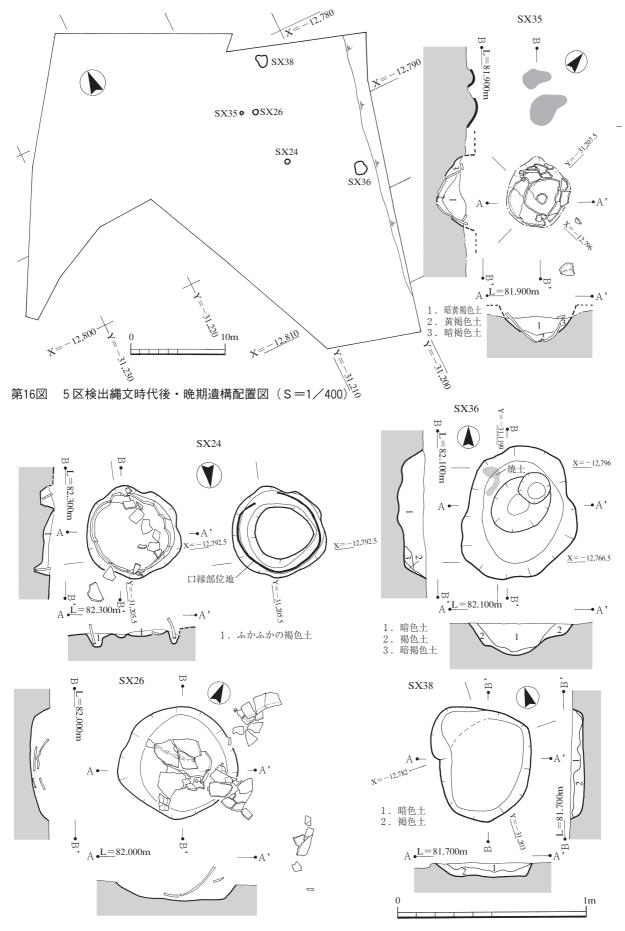
第12図 2区検出縄文時代後·晚期遺構配置図(S=1/400)



第13図 1号土坑遺物出土状況平面,断面図(S=1/20)

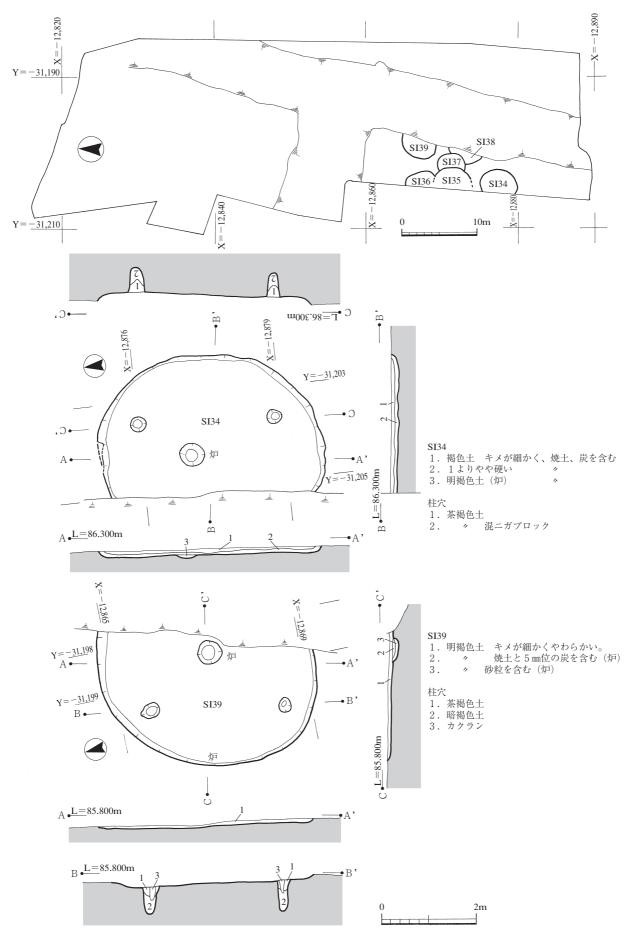


第15図 SX01~SX06·SX10·SX11平面, 断面図 (S=1/40)

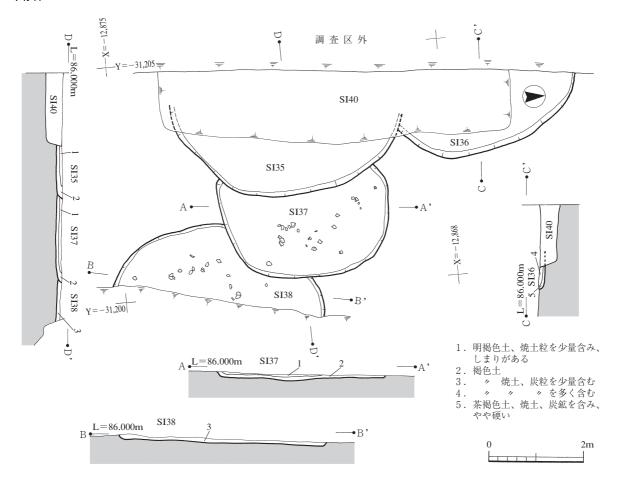


第17図 SX24・SX26・SX35・SX36・SX38平面, 断面図 (S=1/20)

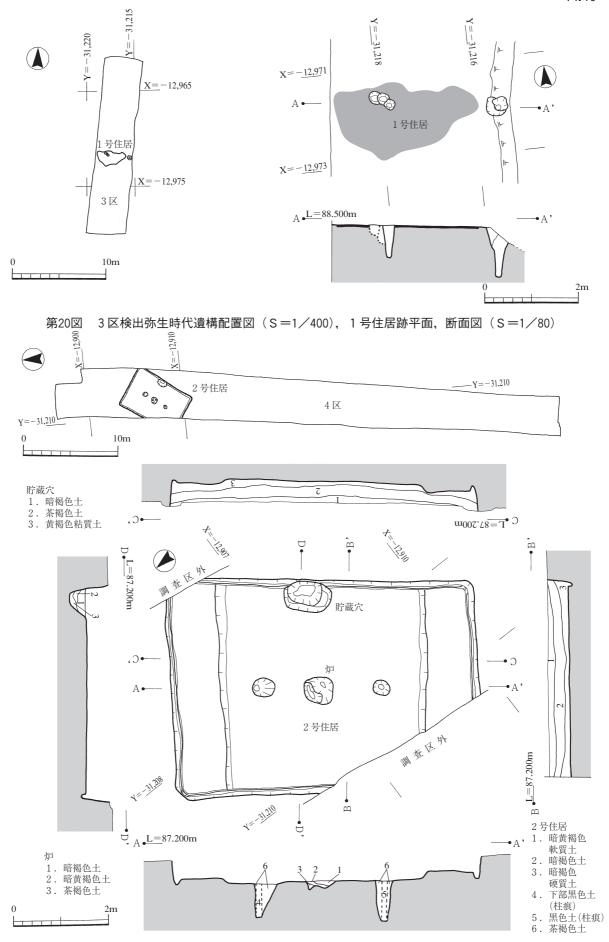




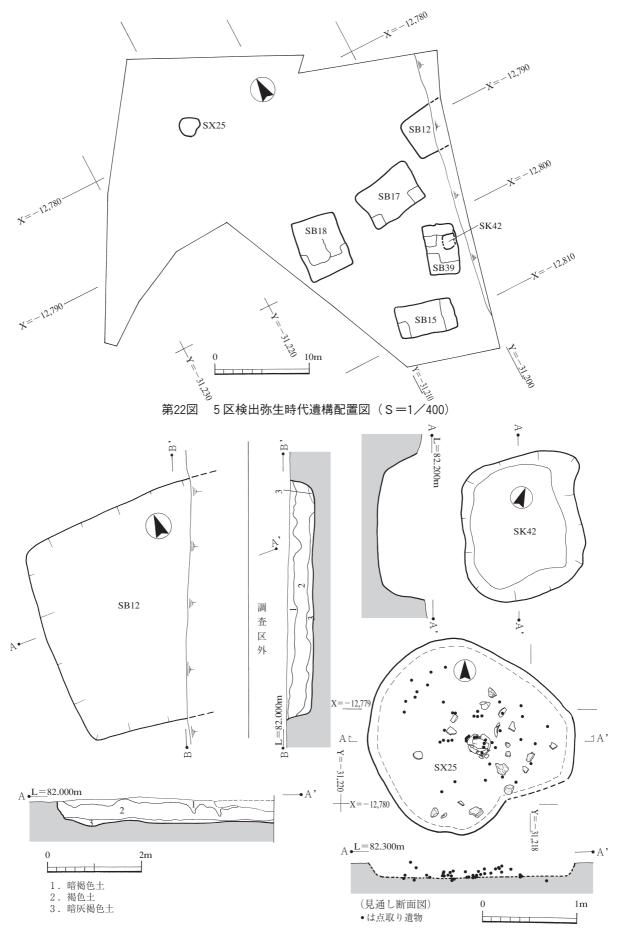
第18図 6区検出縄文時代後・晩期遺構配置図 (S=1/500), SI34・SI39 平面, 断面図 (S=1/80)



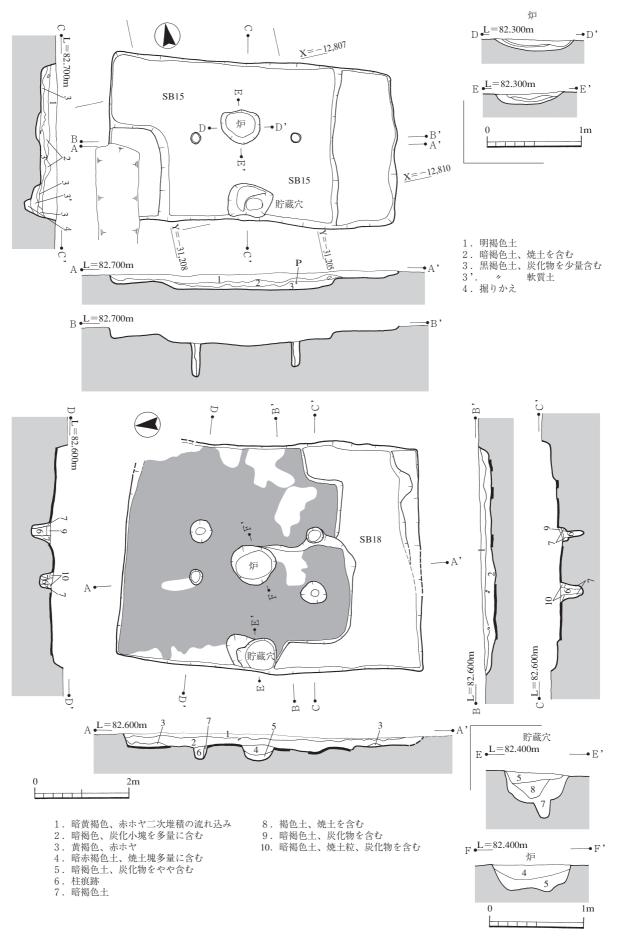
第19図 SI35~SI38 平面, 断面図 (S=1/80)



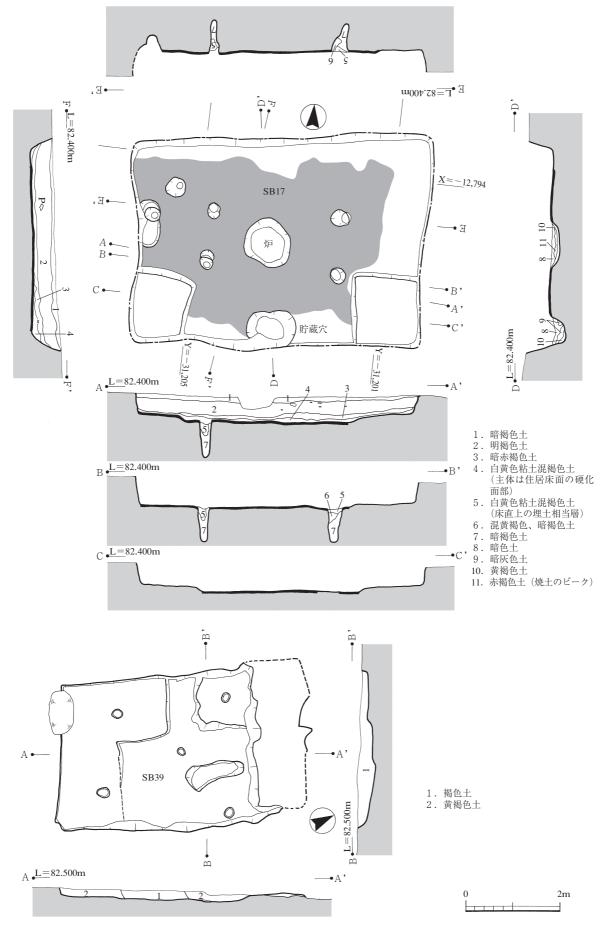
第21図 4区検出弥生時代遺構配置図(S=1/400), 2号住居跡平面, 断面図(S=1/80)



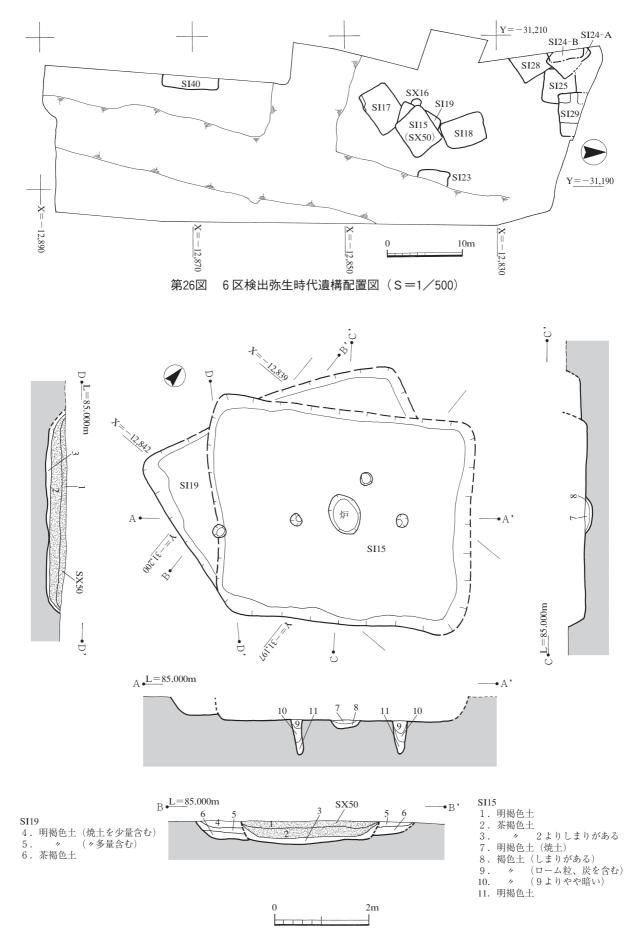
第23図 SB12·SK42·SX25 平面, 断面図 (S=1/80) (S=1/40)



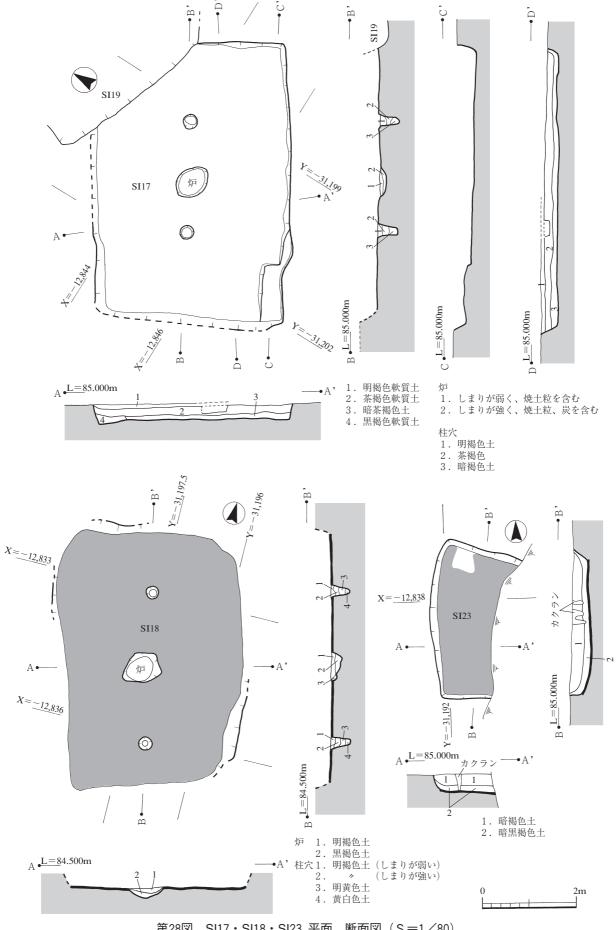
第24図 SB15・SB18 平面, 断面図 (S=1/80) 炉・貯蔵穴 (S=1/40)



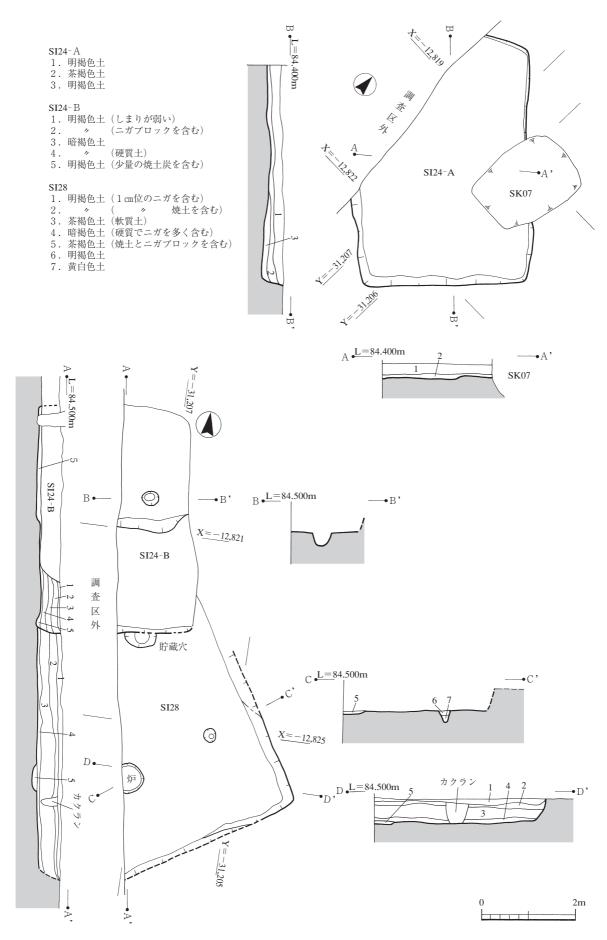
第25図 SB17·SB39 平面, 断面図 (S=1/80)



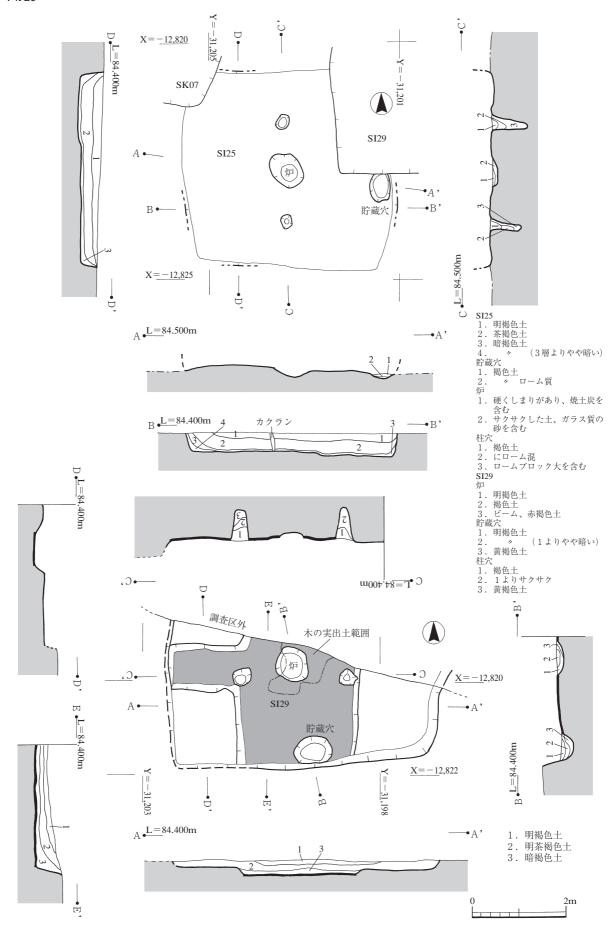
第27図 SI15(SX50)·SI19 平面, 断面図 (S=1/80)



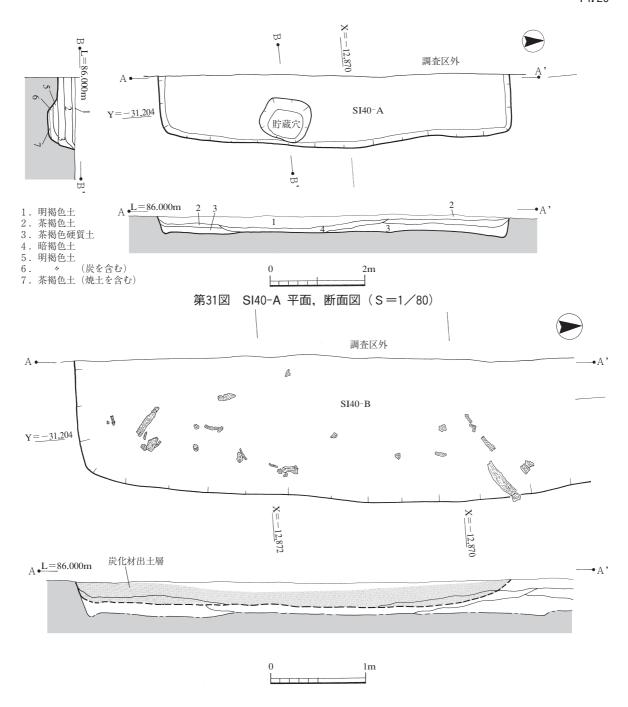
SI17・SI18・SI23 平面, 断面図 (S=1/80) 第28図



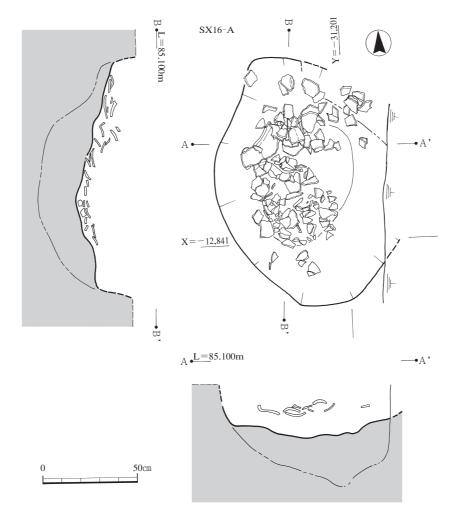
第29図 SI24-A·B·SI28 平面,断面図(S=1/80)



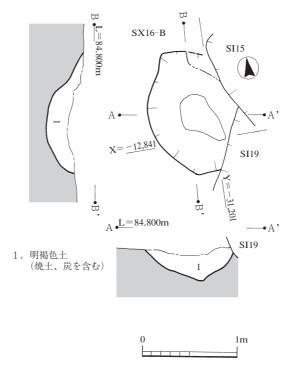
第30図 SI25・SI29 平面, 断面図 (S=1/80)



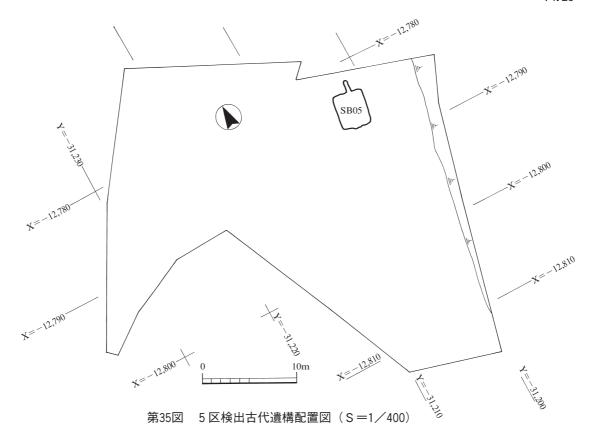
第32図 SI40-B炭化材出土状況平面,断面図(S=1/40)

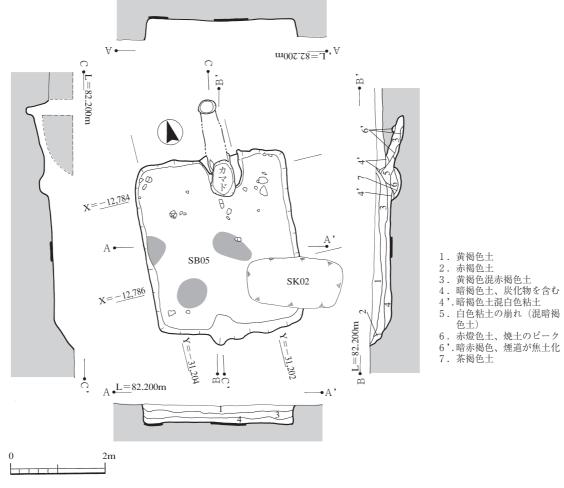


第33図 SX16-A遺物出土状況平面, 断面図(S=1/20)

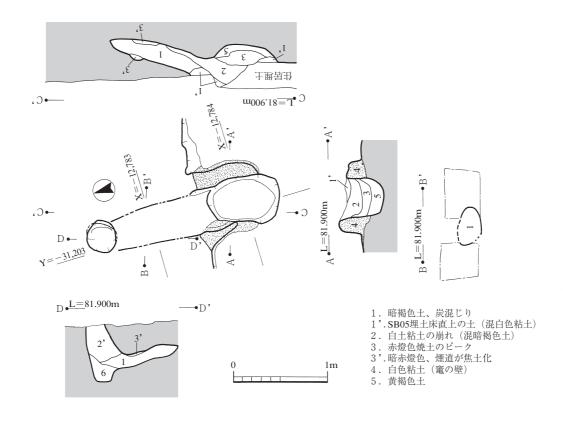


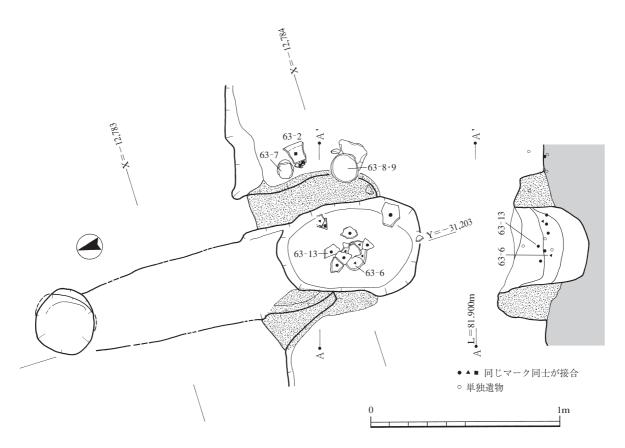
第34図 SX16-B平面, 断面図(S=1/40)



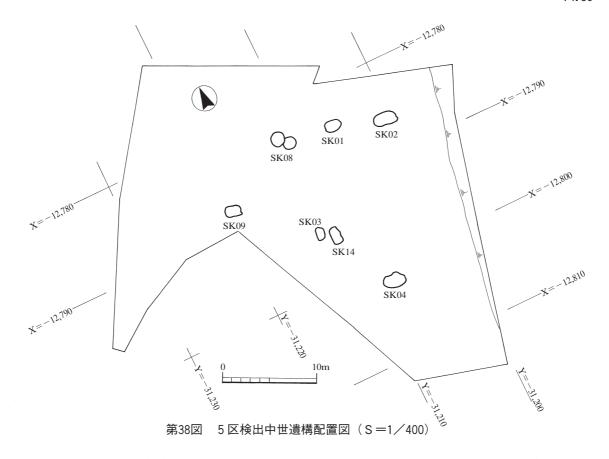


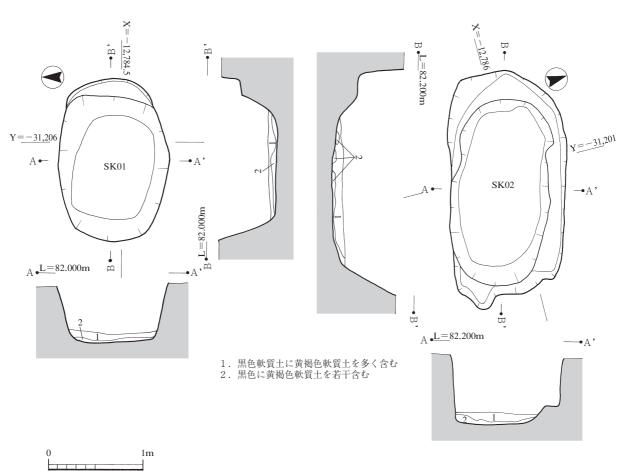
第36図 SB05 平面, 断面図 (S=1/80)



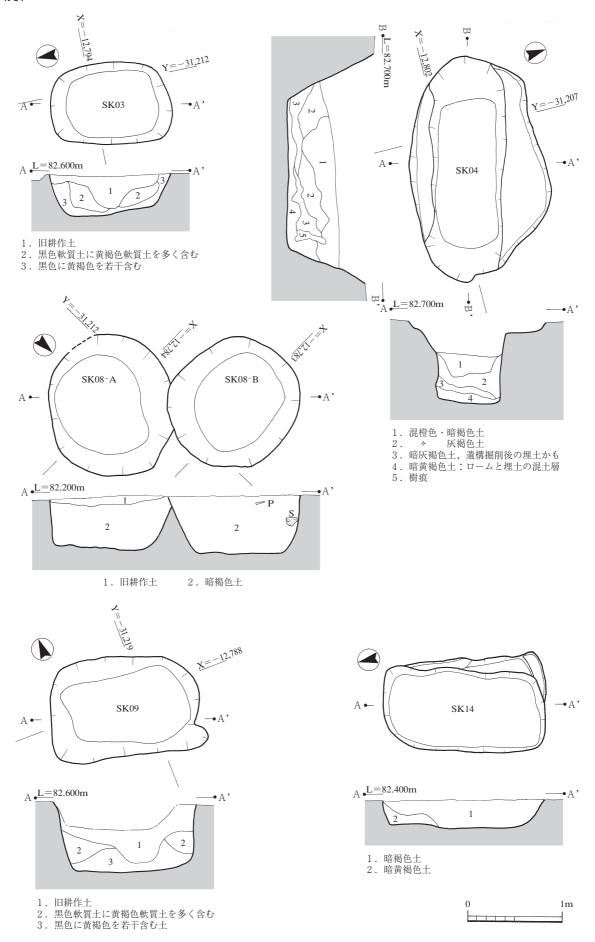


第37図 SB05内電検出状況 (S=1/40), 電内遺物出土状況 (S=1/20)

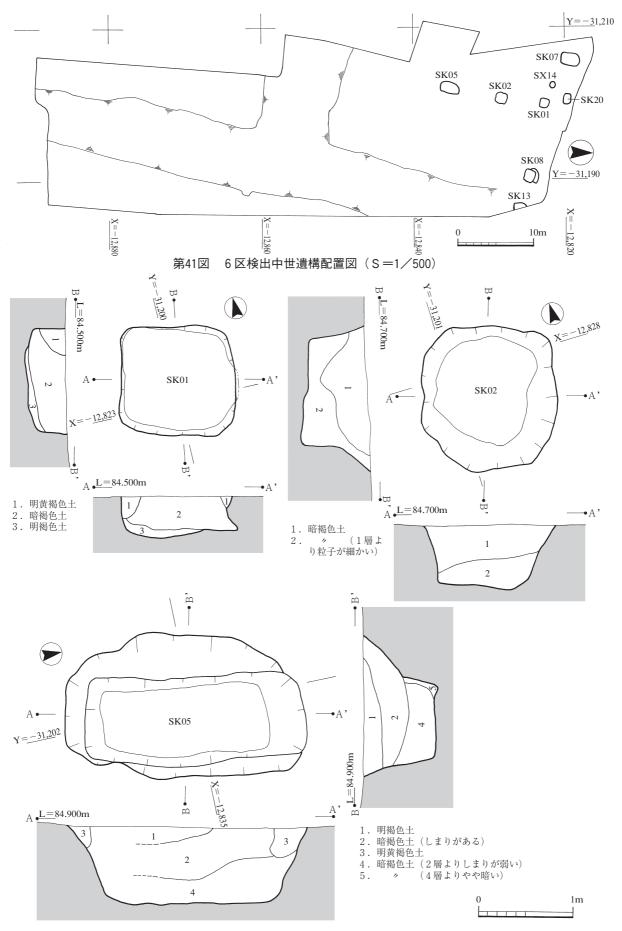




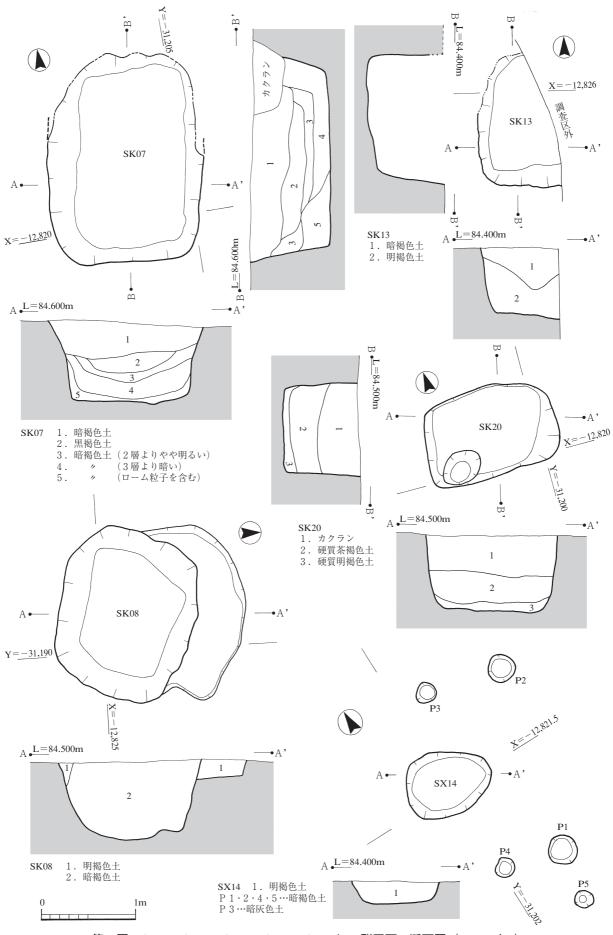
第39図 SK01·SK02 平面, 断面図 (S=1/40)



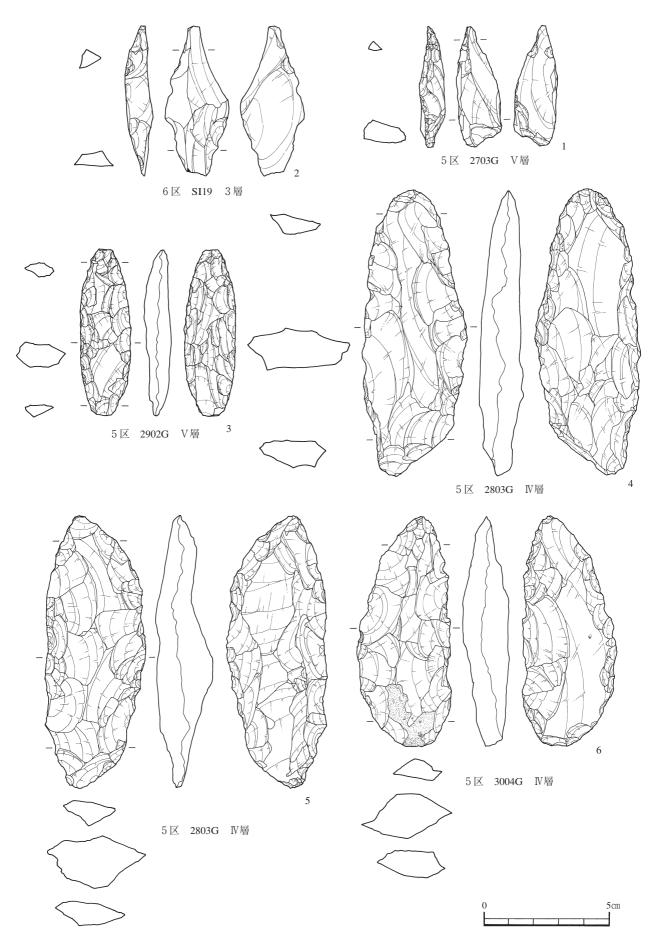
第40図 SK03・SK04・SK08・SK09・SK14平面, 断面図 (S=1/40)



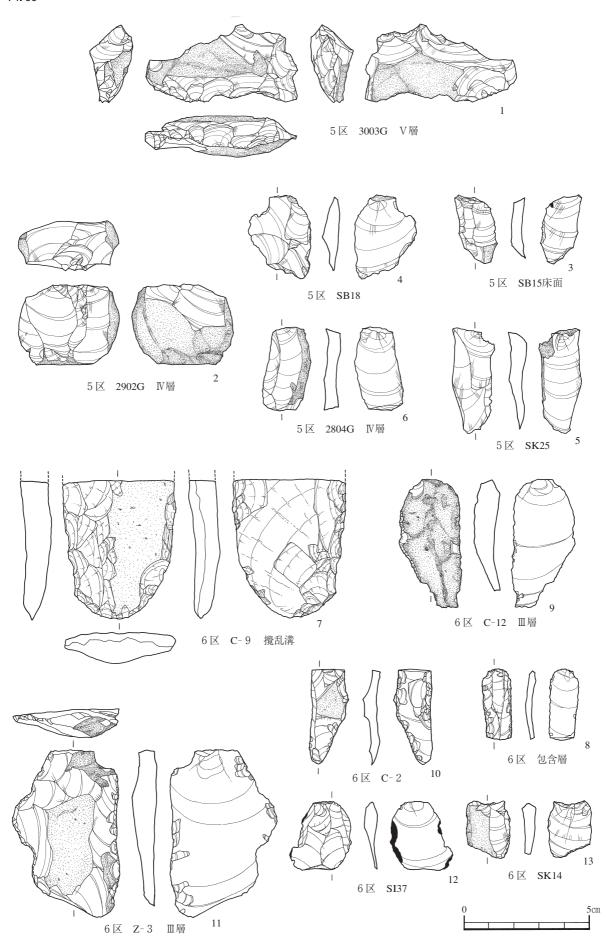
第42図 SK01·SK02·SK05平面, 断面図(S=1/40)



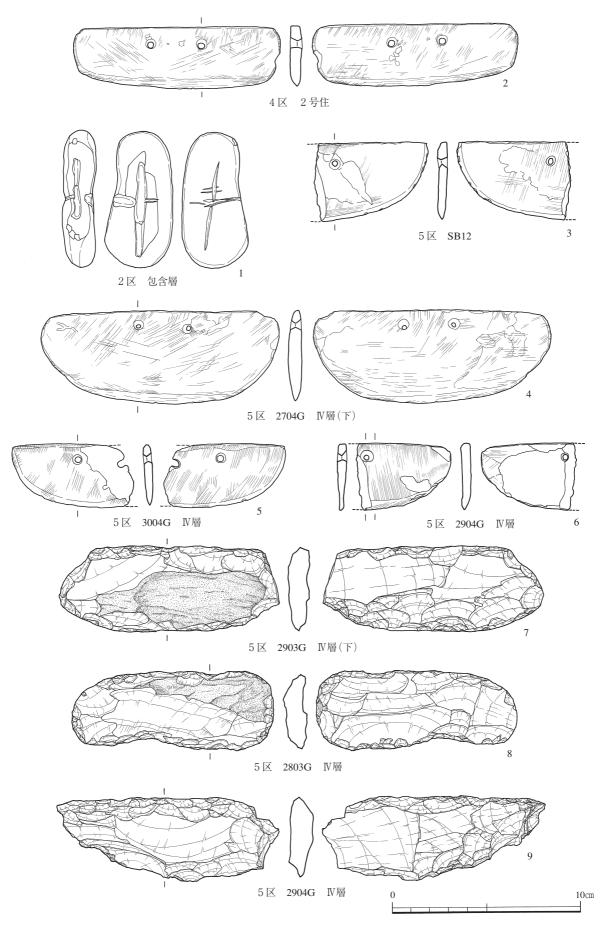
第43図 SK07・SK08・SK13・SK20・SX14とPit群平面,断面図(S=1/40)



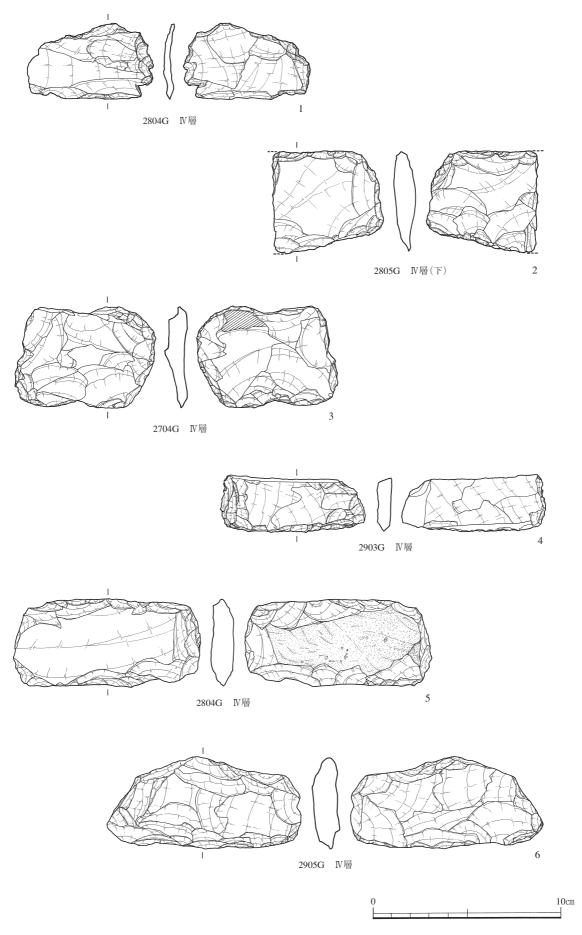
第44図 5・6区出土石器実測図(旧石器・縄文時代早期)(S=2/3)



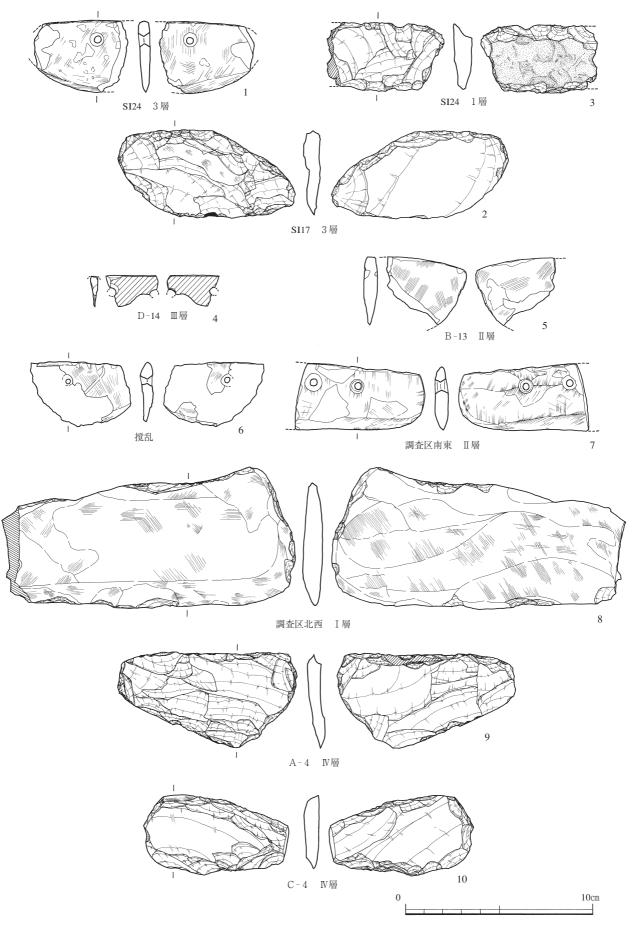
第45図 5・6区出土石器実測図(縄文時代後・晩期)(S=2/3)



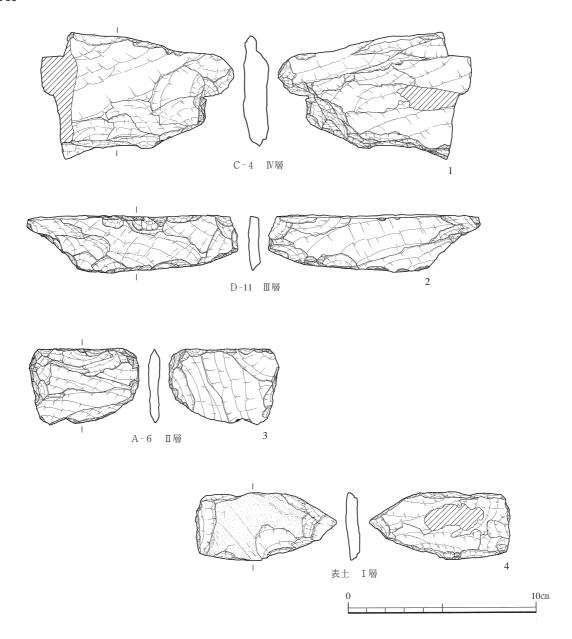
第46図 2 · 4 · 5 区出土石器実測図(縄文時代後・晩期~弥生時代)(S=1/2)



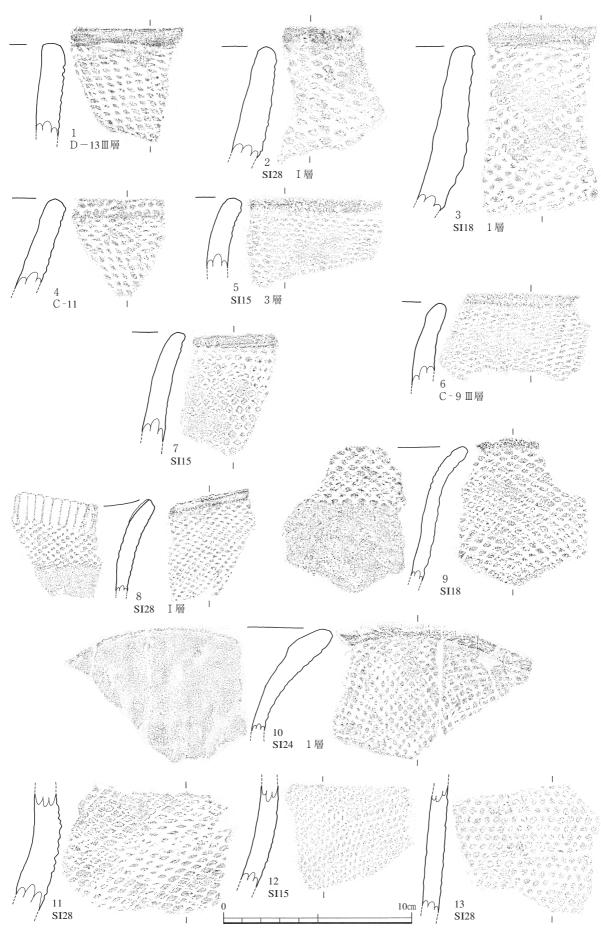
第47図 5区遺物包含層出土石器実測図(縄文時代後・晩期~弥生時代)(S=1/2)



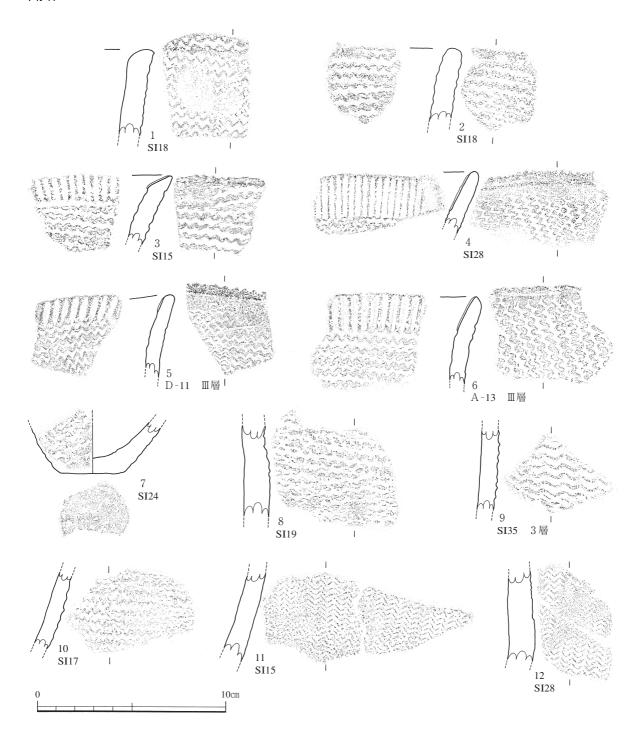
第48図 6区遺物包含層等出土石器実測図(縄文時代後・晩期~弥生時代)(S=1/2)



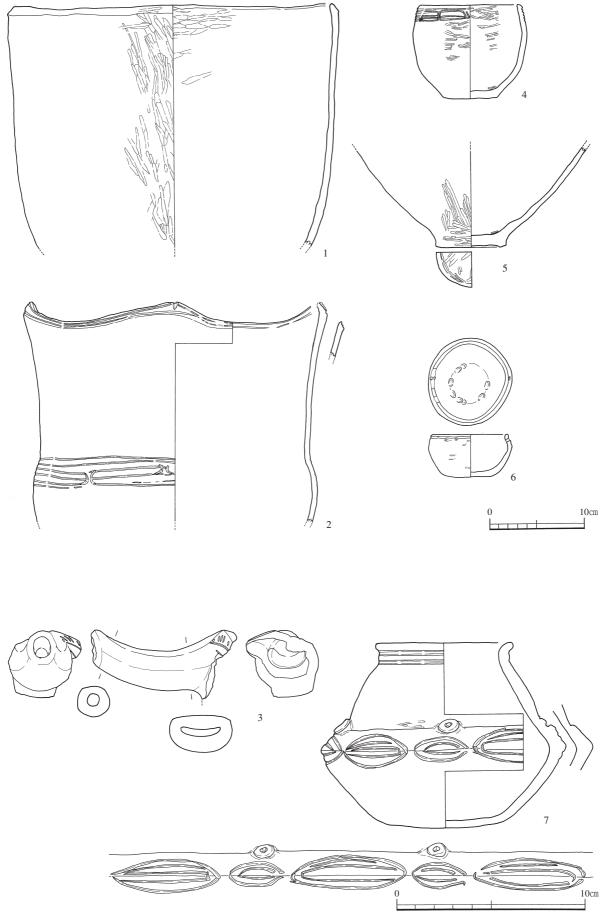
第49図 6区遺物包含層等出土石器実測図(縄文時代後・晩期~弥生時代)(S=1/2)



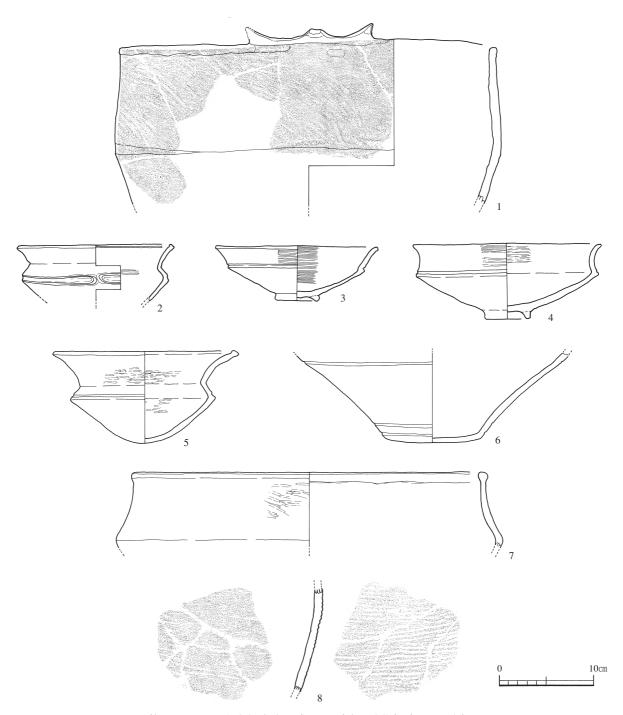
第50図 6区出土縄文土器実測図1 (早期) (S=1/2)



第51図 6区出土縄文土器実測図2 (早期) (S=1/2)

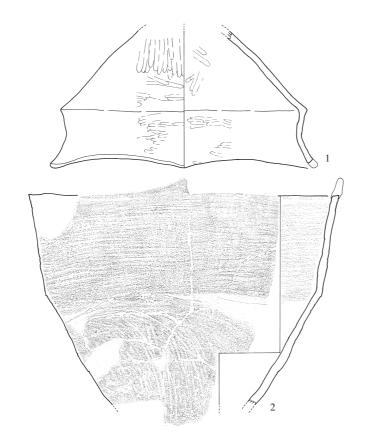


第52図 2・4区出土縄文土器実測図(後・晩期)(S=1/4)(3,7のみS=1/2) 2区1号土坑(1~3)遺物包含層(4,5)4区SX01(6)SX02(7)



第53図 5区出土縄文土器実測図(後・晩期)(S=1/4)

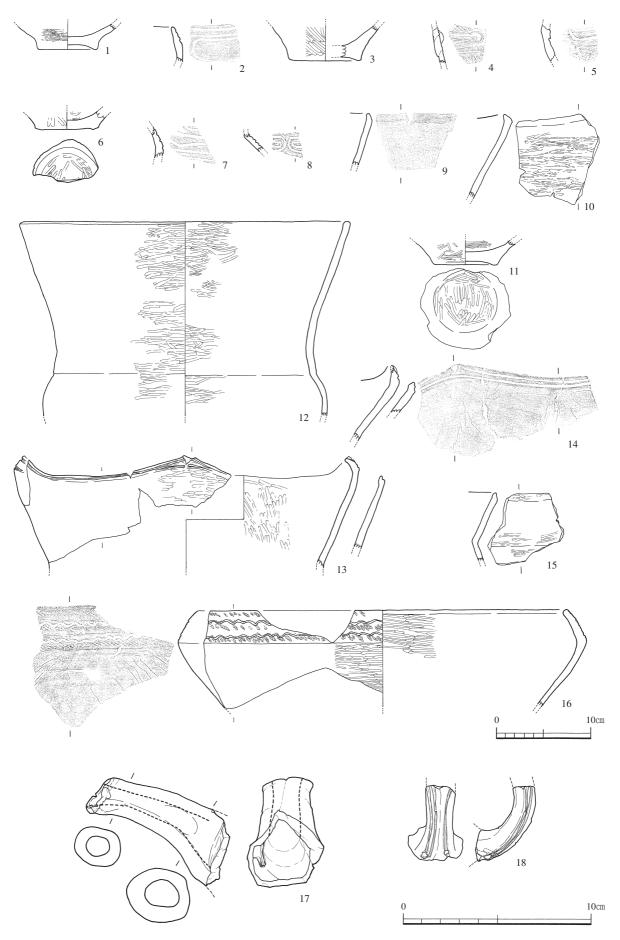
SX24 (1) SX26 (2~8)



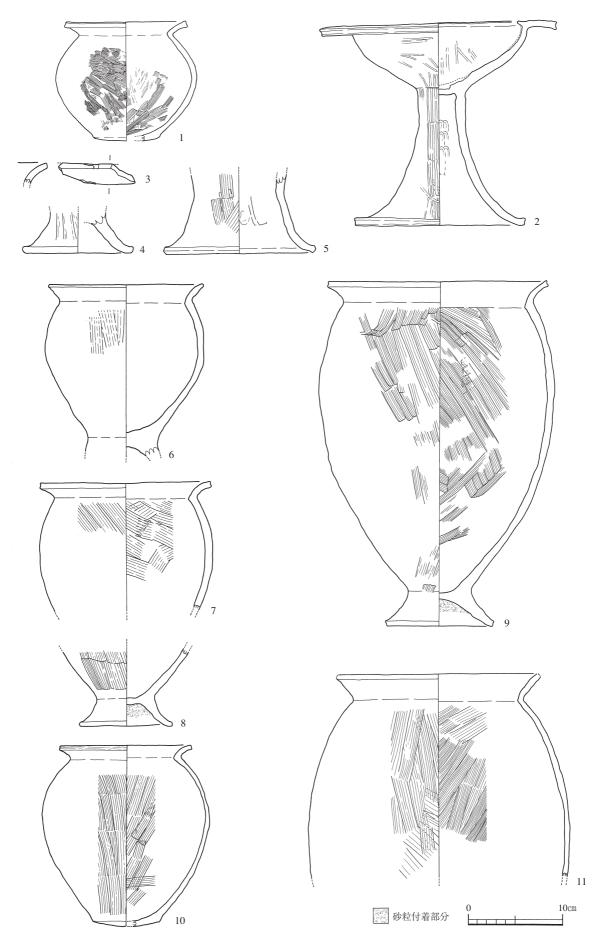


第54図 5区出土埋設土器実測図(縄文時代後・晩期)(S=1/4)

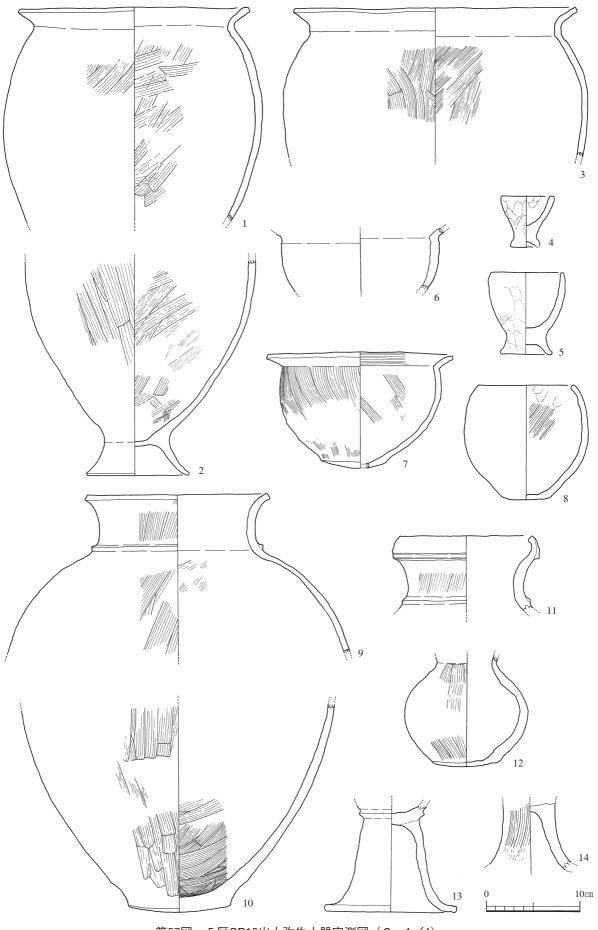
SX26 (1, 2) SX35 (3)



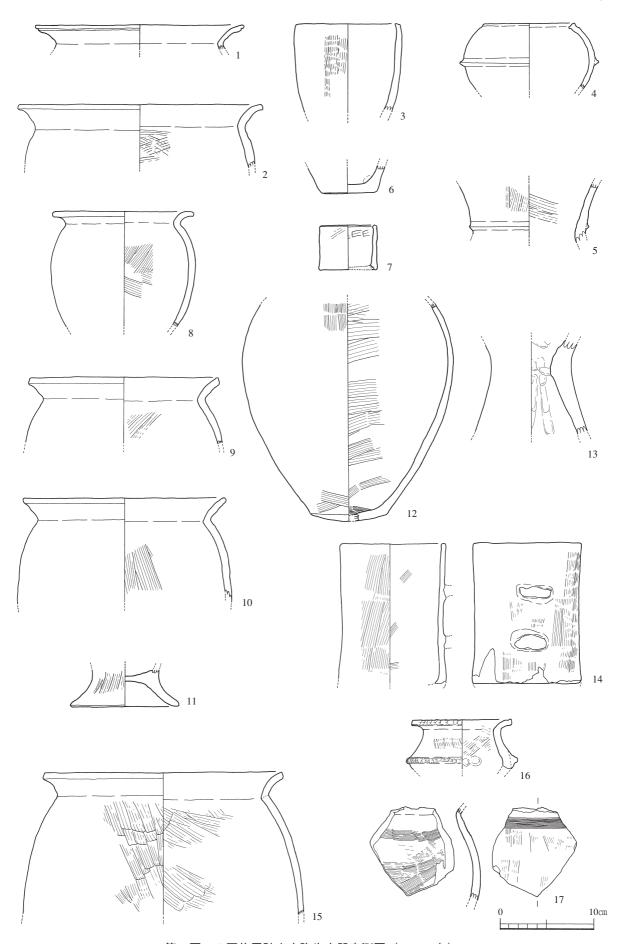
第55図 6区出土縄文土器実測図(後・晩期)(S=1/4)(17, 18のみS=1/2) SI34(1)SI35(2, 3)SI36(4~6)SI37(7~13)SI38(14~16)遺物包含層(17, 18)



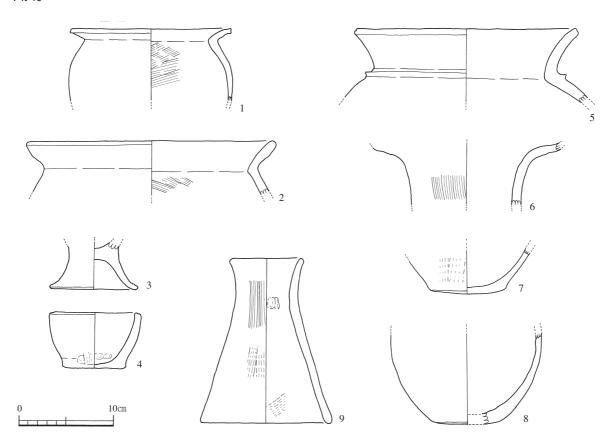
第56図 4 · 5 区住居跡出土弥生土器実測図(S=1/4) 4 区 2 号住(1, 2) 5 区SB12(3~5) SB15(6~11)



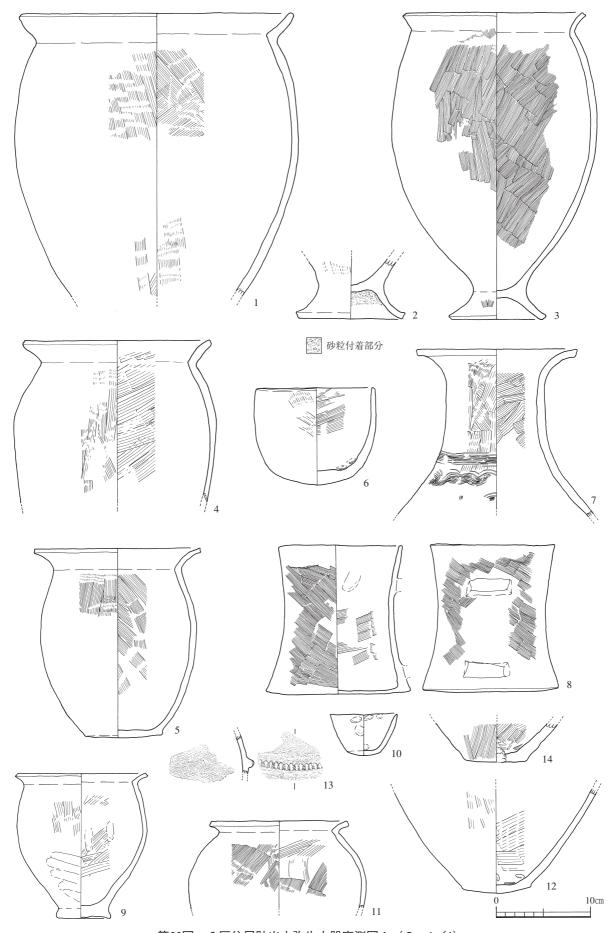
第57図 5区SB15出土弥生土器実測図(S=1/4)



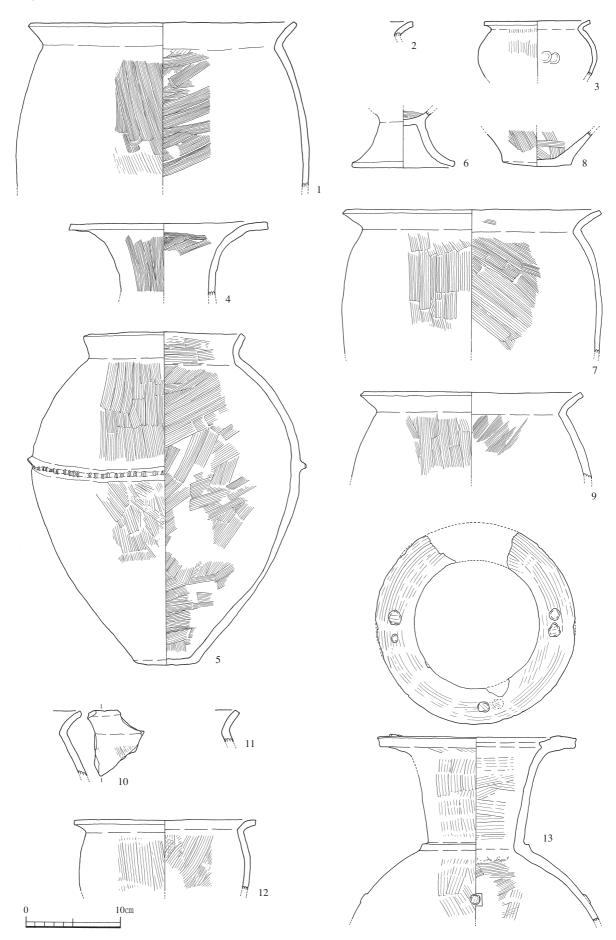
第58図 5 区住居跡出土弥生土器実測図(S=1/4) SB17 (1~7) SB18 (8~14) SB39 (15~17)



第59図 5区SX25出土弥生土器実測図(S=1/4)

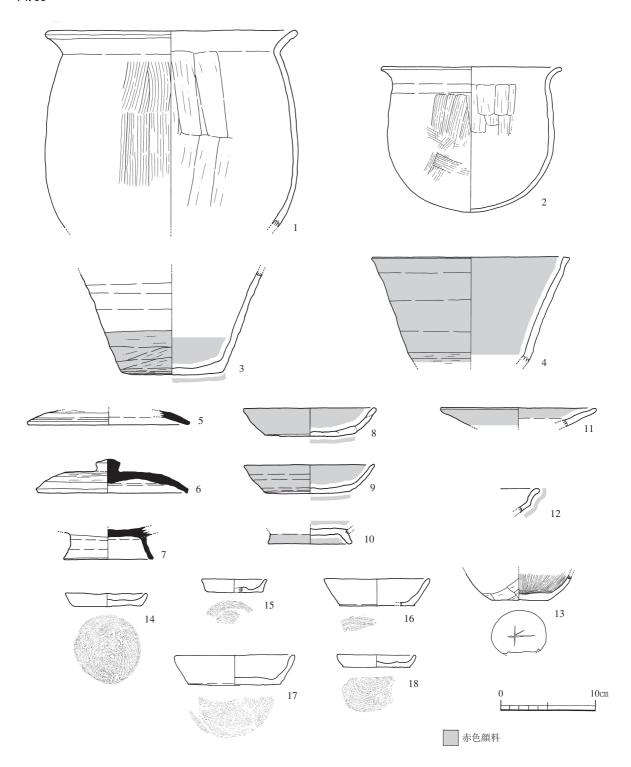


第60図 6 区住居跡出土弥生土器実測図 1 ( S = 1/4)  $SI15 \,\,(\,1\sim8\,)\,\,SI17 \,\,(\,9\sim12)\,\,SI18 \,\,(13)$ 

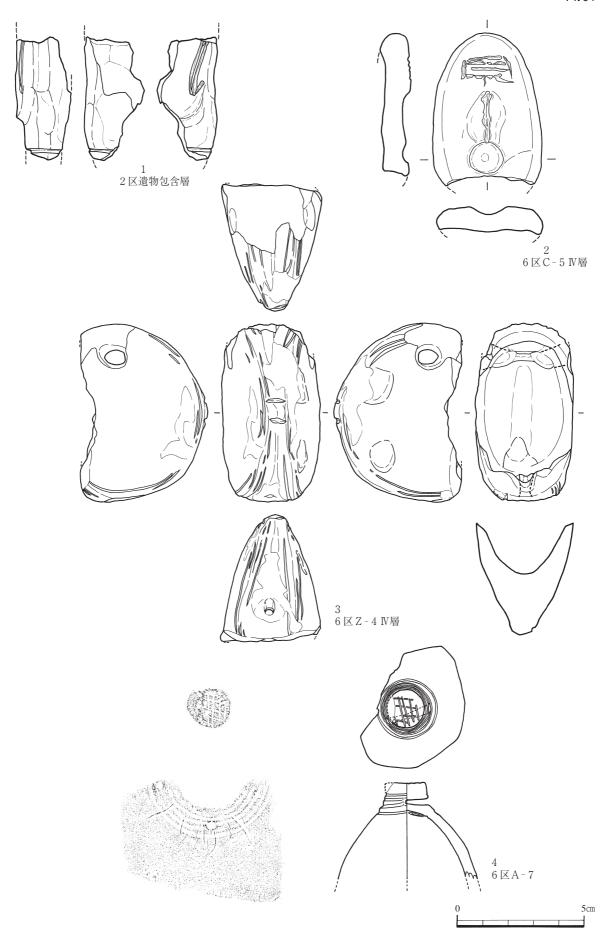


第61図 6 区住居跡出土弥生土器実測図 2 (S=1/4) SI19 (1~3) SI24-A (4,5) SI25 (6~8) SI28 (9) SI29 (10,11) SI40 (12,13)

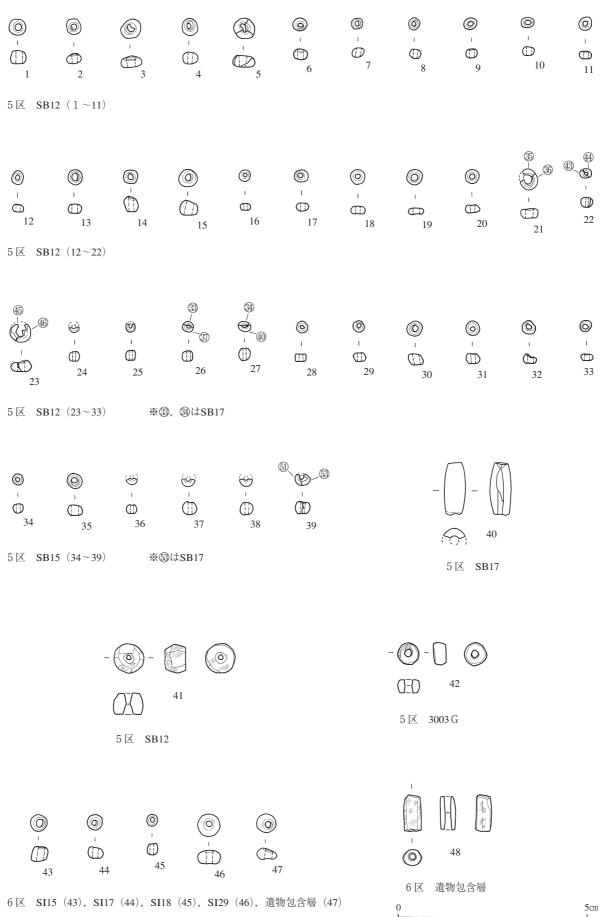




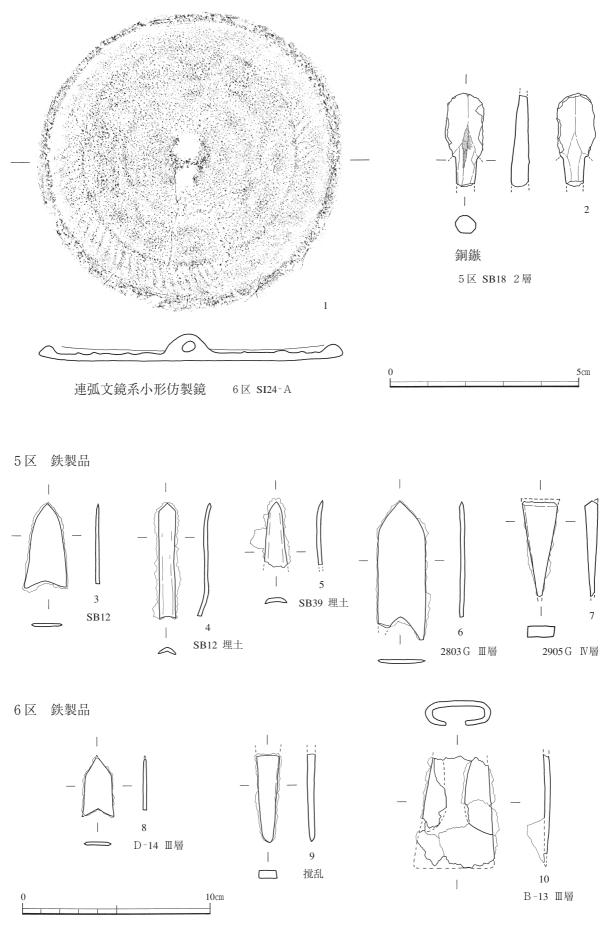
第63図 5 ・ 6 区出土須恵器・土師器実測図(古代・中世)(S=1/4) 5 区SB05 (1~13) SK08 (14~16) 6 区SK13 (17) SX14 (18)



第64図 2 · 6 区遺物包含層出土土製品実測図(S=2/3) 縄文時代( $1\sim3$ ) 弥生時代(4)



第65図 5・6区出土玉類実測図(S=1/1)



第66図 5・6区出土銅製品・鉄製品実測図 (S=1/2) (1, 2のみS=1/1)

## 観察表

N-2°-W 1.2mの煙道付竈を検出、竈付近から多量 の土器片が出土している。

備考(硬化面・ベット状の有無・その他)

長軸方向

柱穴 (cm) 大きさ 深さ

が账

貯蔵穴 (m) 長軸 知軸 1

> 位置 1

が账 9.0

(m) 短軸 8.0

| 位置 | 長軸 2.0

床面積 12.16

法量 (m) (m<sup>i</sup>) 短軸 深さ 0.4

中本 3.8

床面標高 (m) 81.5

グリッド

遺構番号 SB05

料区 5

挿図番号 古代住居

3.2

隅丸方形 形態

2904G

第36図

I

I

竪穴住居法量表 第1表

住居
時代
維文

1 2 2 2	Į			THE H			w/ 回力	(20)			[4]			-68	10世纪		4			
挿図番号	型図	遺構番号	グリッド	米国条画 (m)	形態	上	l		床面積	位置	5	中国	深さ位	位置 長軸	版入 (III)   軸   短軸	新深さ	+	が账	長軸方向	備考(硬化面・ベット状の有無・その他)
	<u>N</u>	SI34	C • D - 3	85.92	田形	4.8	2.76+	0.16	(18.1)	中央	0.52 0	0.48 0	- 20.0				30~44	4 49~53	ı	西側は調査区外
	<u>N</u>	SI35	C-4 · 5	85.74	田形		4.6+	0.13	1	1	1	1	· 	_	-	1	1	ı	ı	西側は調査区外
第19図	<u>図</u> 9	SI36	C-5	85.6	田形	3.80+	1.90+	0.12	1	ı	1	1				1	I	ı	1	西側は調査区外
Н	<u>N</u>	SI37	C-4 · 5	85.74	田形	3.6	2.25+	0.1	1	ı	1	1	<u>'</u>	-			ı	ı	ı	西側をSI35に切られている
	<u>N</u>	SI38	B • C - 4	82.8	田形	4.4	1.6+	0.09	(15.19)	1	1	1	_ _	 	_	-	I	-	1	東側は撹乱に切られている
第18図	<u>N</u>	SI39	B • C - 5	85.58	田形	4.6	2.8+	90.0	(16.61)	中央(	0.5 0	0.48 0	0.13	1		1	25~40	0 56~64	1	東側は撹乱に切られている
弥生時代住居	阳																			
中国	12	日本井市	ž :: I <u>ř</u>	床面標高	日と信		法量 (m	(m) (m)			(m) 型			金	貯蔵穴 (m)		柱穴	(cm)	10十十二	サール はいばい
		退伸笛万	1 かつひ	(E)	1000	中山	短軸	が既	床面積	位置	長軸 第	短軸 浴	新さー位	位置 長軸	軸 短軸	お账 番	せた大	が账	大器クラ	(破化間・ヘット体の有無・
第20図	3   X	1号住居	X105 · Y20	88.3	ı	(3.0)	(1.5)	ı	(4.38)	1	1	1	<u>'</u>			1	24~40	0 20~70	1	上層部のほとんどを削平されており、硬化 面の出土から住居跡であると思われる。
第21図	A 図	2号住居	X170 · Y30	86.4	長方形	6.58	4.6	0.44	30.27	4	0.63 0	0.58 0	0.17 東	東側 1.0	0.68	38 0.32	2 32~48	8 72~88	N -40° - E	北側と南側に30cm幅のベット状遺構、床全 面に硬化が見られる。住居周囲に16cm位の 溝が掘られている。
第23図	2 🗵	SB12	2805G	81.3	方形	4.84+	3.2	9.0	(15.5)	1	1	1			_	1	I	1	N-84°-W	床面近くでガラス小玉、やりがんなが出土
第24図	2 🗵	SB15	2704G	82.3	長方形	6.36	3.4	0.36	21.6	中央 (	0.84 0	0.72 0	0.12   南	南側 0.96	96 0.7	7 0.32	2 20∼	48~72	N -74° -W	m×1.3m)、南西部 ト状遺構が見られ
第25図	2	SB17	2804G	81.7	長方形	0.9	4.5	0.48	27.0	4	1.08 0	0 96:0	0.16 庫	南側 1.08	0.8	3 0.32	2 28~44	4 64~80	N -83° - E	住居の南東部 (1.5m×1.36m)、南西部(1.45m×1.1m) にベット状遺構、床の3/4に硬化面が見られる。
第24図	2 🗵	SB18	2803G	82.2	長方形	6.28	4.84	0.32	30.4	中央 (	0.96 0	0.88 0	0.32   歴	西側 1.12	12 0.68	38 0.52	2 32~56	32~56	N - 4 ° - E	住居の東側(4.9m×1.6~2.8m)にベット 状遺構、床全体に硬化面が見られる。
第25図	2	SB39	2704G 2705G	82.1	長方形	5.2	3.36	0.24	17.5	1	1	I	#	中央 1.28	28 0.4	1 0.3	16~28	8 10~15	N 22° – E	住居の南側と北側に1m幅のベット状遺構 が見られる。
第27図	<u>×</u> 9	S115	B-10 • 11	84.2	長方形	5.4	4.5	0.48	24.3	中央	0.9	0.65 0	0.18	 	  -		22~30	0 70~75	N -27° - E	上端は全て削られ、住居の南東部のみ残存
第28図	<u>×</u> 9	SI17	B · C-9 · 10	84.4	長方形	0.9	4.2	0.35	25.2	中央	0.8 0	0.58 0	0.15	 		 	28~32	2 40~44	N -58° - E	南側にステップ(1.2m×0.4m)状遺構が 見られる。
$\neg$	<u>X</u>	SI18	B-11 • 12	84.4	長方形	5.26	3.8		$\dashv$	中	0.82	0.64 0	0.2				25~28	8 42~44	N-14°-W	住居の上端は大部分が削られ、残存部なし
第27図	<u>N</u>	SI19	B-10 · 11 C-10	84.35	長方形	5.6	ı		13.8+	ı	1	1	<u>'</u> 		<u> </u>		28	35~46	N -27° - E	住居の大部分がSI15に切られている。
	-	SI23	A-11	84.3	長方形	3.2	1.36+	0.33	(4.35)	ı	ı	1				1	1	I	Ι	硬化面である。
第29図	-	SI24 A	D-14 · 15	83.8	長方形		3.8	$\dashv$	17.6	ı	ı	1	<u>'</u> 			  -		I	N-45°-W	西側は調査区外、上層部に青銅鏡を検出。
$\neg$	以 9	S124B	D-14 · 15	83.86	力形	4.8	1.44+	0.55	(89.9)	1	1	1	<u>'</u>	<u>'</u>	<u> </u>		33	26	ほぼ南北	上層はSI24(A)に切られている。
第30図	<u>N</u>	SI25	C-14 · 15 D-14	84.0	正方形	4.46	4.1	0.45	18.28	中中	0.81	0.61 0	0.16   東	東側 0.64	34 0.42	12 0.08	8 28~38	8 68~75	真北	上層部は削平され北東部はSI29に削平され ている。
第29図	<u>N</u>	SI28	C • D-13 • 14	84.0	力形	4.6+	3.0+	0.54	(13.8)	世 (大	0.64	0.5 0	0.06 庫	東側 0.64	54 (0.34)	34) 0.13	3 26	24	N -30° -W	西側は調査区外、北側はSI24に削平されて いる。
第30区	凶 9	SI29	B · C -14 · 15	84.56	力形	5.78	2.8+	0.3	(16.2)	世 出	0.73	0 99:0	0.1	東側 0.8	3 0.58	58 0.2	32~39	9 64~67	N-88°-W	西側は調査区外、東と西側にベット状 (ステップ) 遺構あり。床全面に硬化面が見られる。炉の周りに木の実を検出。
第31区	凶 9	SI40	C-4 · 5	85.52	力形	7.2+	1.44+	0.32	(10.36)	<b>4</b>	1.02	0.88 0	0.22		1	1	I	I	N - 5 ° -W	西側は調査区外、上層部に炭化材が検出されているが、2つの住居の重複と考えられる。

\*各計測値については、( ) の数値は残存値を表し、数値の後の十は、実際の値はそれ以上になると予測されるもの。

第2表 土坑ほか法量表

縄文時代遺構

																	ı		_				ı			_					_									_
	m 老	土器溜まり							SX02の20cm上で検出	SX03の20cm上で検出	煙道付炉と思われる。	埋甕(口縁部が下)	埋甕(合わせ)	埋甕				₩		<b>1</b>				兼																焼土坑と思われ、ピット群と一緒に検出
	中代	縄文後晩期	縄文後晩期	縄文後晩期	縄文後晩期	縄文後晩期	縄文後晩期	縄文後晩期	編文後晩期 S		編文早期 煙	縄文後晩期 垣		縄文後晩期 埋	縄文後晩期	縄文後晩期		(	土器片、石の散乱	SB39の下層で検出	土器溜まり			無	2段4個1)	2段掘り		2段掘り				2段掘り				2段掘り				焼土坑と思われ、
	が账	0.56	0.2	0.76	0.56	0.28	0.14	0.56	0.4	0.56	0.20	0.10	0.15	0.20	0.25	0.08		が、	0.15	0.5	0.55	0.25		4	0.64 0.64	0.76	0.44	0.92	0.58	9.0	0.76	0.3	0.42	99.0	0.78	0.82	0.84	0.72	0.79	0.25
(ш) 雪米	短軸	1.7	1.68	1.2	8.0	1.15	0.72	0.88	0.52	0.5	3.0	0.5	9.0	0.35	9.0	0.5		(m) 治量 短軸	2.1	1.2	0.95+	十88.0		法量 (m)	1.16	1.24	0.88	1.48	1.28	1.4	1.08	1.06	1.14	1.4	1.5	1.6	1.8	8.0	0.93	0.7
	中華	1.8	1.96	1.6	0.85	2.25	1.4	1.4	1.0	9.0	3.6	0.5	0.64	0.38	0.7	9.0		出	2.2	1.6	1.4	1.3+		#	1.74	2.4	1.3	2.44	1.5	1.4	1.52	1.7	1.2	1.54	2.54	2.16+	2.0	1.6	1.4	1.0
1	上 選 工 正 正 正 正 正 正 正 正 正 正 正 正 正	m	æ	-	2	-	-	-	4	2	2	-	2	-	2	2			-	-	-	-		神上層 一	5+	2+	က	4+	2	-	က	2	3	2	4	2	-	2	3	-
	断面形態	四字状	W字状	四字状	四字状	共目	半目	し予栄	四字状	し予栄	共目	し予栄	し字状	し字状	し字状	目法		断面形態	共目	当	<b>美目</b>	すり鉢状		断面形態	好台形法	逆台形状	逆台形状	逆台形状	逆台形状	逆台形状	逆台形状	共目	逆台形状	逆台形状	逆台形状	逆台形状	逆台形状	逆台形状	逆台形状	共目
	半面形態	田影	不製円形	楕円形	不定形	楕円形	不定形	不定形	楕円形	田影	楕円形	田影	田影	田影	田形	田影		平面形態	田影	力形	不製円形	不製円形		平面形態	権田影	楕円形	楕円形	楕円形	楕円形	田形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸方形	隅丸方形	長方形~楕円形	長方形	隅丸方形	隅丸方形	楕円形
格王蘭山	E (E)	89.55	87.1	86.9	86.9	86.8	86.85	86.8	87.1	87.1	82.4	82.3	82.0	81.9	82.0	81.6		検出標高 (m)	82.1	82.1	84.7	84.85		検出標高	81.8	81.8	82.56	82.6	82.1	82.15	82.5	82.35	84.4	84.6	84.8	84.5	84.3	84.3	84.4	84.25
	クリッド	X 70 · Y 15	X 165 · Y 30	X165 · Y30	X 165 · Y 30	X165 · Y30	X165 · Y30	X 165 · Y 30	X 165 · Y 30	X165 · Y30	2903 G	2804 G	2904 G	2904 G	2805 G	2904 G		グリッド	3003 G	2705 G	C-10	C-10		グリッド	2904 G	2904 G	2803 G	2704 G	2903 G	2903 G	2903 G	2803 G	B • C-14	B • C-13	C-11 · 12	C-15 · D-14 · 15	A · Z -13 · 14		B · C-14 · 15	C-14 84.25 楕円形
1	遺構番号	1号土坑	SX01	SX02	SX03	SX04	SX05	90XS	SX10	SX11	SX19	SX24	SX26	SX35	9X36	SX38		遺構番号	SX25	SK42	SX16-A	SX16-B		遺構番号	SK01	SK02	SK03	SK04	SK08-A	SK08-B	SK09	SK14	SK01	SK02	SK05	SK07	SK08	SK13	SK20	SX14
!	윘	2	4	4	4	4	4	4	4	4	2	2	2	2	2	2	瓣	対対	2	2	凶 9	凶 9		型型	ις.  X	2	2	2 🗵	2 🗵	2	2	2	図 9	<u>×</u> 9	凶 9	図 9	⊠ 9	⊠ 9	<u>N</u>	<u>⊠</u>
1	挿図番号	第13図	第15図	第15図	第15図	第15図	第15図	第15図	第15図	第15図	第11図	第17図	第17図	第17図	第17図	第17図	弥生時代遺構	挿図番号	第23図	第23図	第33図	第34図	中世遺構	挿図番号	第39図	第39図	第40図	第40図	第40図	第40区	第40区	第40区	第42図	第42図	第42図	第43図	第43図	第43図	第43図	第43図

\*各計測値については、数値の後の十は、実際の値はそれ以上になると予測されるもの。

## 第3表 石器観察表1

5区	+1	フ形石器観察表
그 C	<b>ブ</b> 1	ノ形句砳観祭衣

	「1 ノガル	石器観察:	表										
図面番号		図版番号	遺構名	グリッド	出土層位	石 材	全長(cm)	全幅(cm)	器厚(cm)	質量(g)	備	考	実測番号
第44図	1	Ph. 31	包含層	2703 G	V層	安山岩	4.8	1.8	1.0	8.0	宮田山タイプか	国府型系か	36
€ [V +	イコエジ	石器観察:	±								·		
図面番号		口 話 既 奈 : 図 版 番 号		グリッド	出土層位	石材	全長(cm)	全幅(cm)	器厚(cm)	質量(g)	備	 考	実測番号
第44図	2	Ph. 31	BIH19	7991	3層	安山岩	5.9	2.5	1.1	12.3	国府型か	5	子例留与
710	-		3113		3 眉	- 女田石	5.5	2.5	1.1	12.3	国的至为		3
5区 尖	頭器観	察表											
図面番号	枝番号	図版番号	遺構名	グリッド	出土層位	石 材	全長(cm)	全幅(cm)	器厚(cm)	質量(g)	備	考	実測番号
第44図	3	Ph. 31	包含層	2902 G	V層	安山岩	6.6	2.1	1.1	15.2			41
第44図	4	Ph. 31	包含層	2803 G	IV層	安山岩	11.4	4.1	1.7	81.7	縄文早期		45
第44図	5	Ph. 31	包含層	2803 G	IV層	安山岩	10.8	4.0	2.5	71.9	縄文早期		54
第44図	6	Ph. 31	包含層	3004 G	IV層	安山岩	9.1	3.7	1.8	55.9	縄文早期		46
5区 ス	クレイ	パー観察	表										
図面番号	枝番号	図版番号	遺構名	グリッド	出土層位	石材	全長(cm)	全幅(cm)	器厚(cm)	質量(g)	備	考	実測番号
第45図	1	Ph. 31	包含層	3003 G	V層	黒曜石	3.1	6.0	1.7	22.4			23
6区 打	制工谷	钼宏丰		'			•			•			
図面番号	枝番号	図版番号	遺構名	グリッド	出土層位	石材	全長(cm)	全幅(cm)	器厚(cm)	質量(g)	備	 考	実測番号
第45図	7	四版番写 Ph. 32	包含層	C-9	山工層区	安山岩	5.5+	主响(cm) 4.5	1.2	貝里(g) 38.9	1/19	ち	天/JI音写 105
			己占盾	C - 9		女叫石	3.3+	4.5	1.2	30.3			105
6区 使	1	-											
図面番号	枝番号	図版番号	遺構名	グリッド	出土層位	石材	全長(cm)	全幅(cm)	器厚(cm)	質量(g)	備	考	実測番号
第45図	8	Ph. 32	包含層			黒曜石	2.8	1.2	0.5	1.7	鈴踊技法		73
第45図	9	Ph. 32	包含層	C-12	III層	黒曜石	5.1	2.5	1.0	9.0			81
第45図	10	Ph. 32	包含層	C - 2		黒曜石	3.8	1.6	0.7	2.9			80
第45図	11	Ph. 32	包含層	Z - 3	III層	黒曜石	6.6	4.2	1.1	23.6			82
5区 剥	片観察	表											
図面番号	枝番号	図版番号	遺構名	グリッド	出土層位	石材	全長(cm)	全幅(cm)	器厚(cm)	質量(g)	備	考	実測番号
第45図	3	Ph. 31	SB15			黒曜石	2.5	1.5	0.4	1.5			11
第45図	4	Ph. 31	SB18			黒曜石	3.3	2.5	0.6	3.8			14
第45図	5	Ph. 31	SK25			黒曜石	4.2	1.7	0.7	3.8			16
第45図	6	Ph. 31	包含層	2804 G	IV層	黒曜石	3.3	1.9	0.6	4.4			13
			01/1			,		110					
6区 剥			\m 1# 4-	4511 18		T.I.	A = / \	A 4= / \		55 FI / \	/++-	+	4
図面番号	枝番号	図版番号	遺構名	グリッド	出土層位	石材	全長(cm)	全幅(cm)	器厚(cm)	質量(g)	備	考	実測番号
第45図	12	Ph. 32	SI37			黒曜石	2.7	2.5	0.5	2.6			74
第45図	13	Ph. 32	SK14			黒曜石	1.3	1.8	0.5	1.9			75
		-											
5区石	核観察	委											
5区石図面番号			遺構名	グリッド	出土層位	石材	全長(cm)	全幅(cm)	器厚(cm)	質量(g)	備	考	実測番号
			遺構名 包含層	グリッド 2902G	出土層位 Ⅳ層	石材 黒曜石	全長(cm) 3.2	全幅(cm) 4.0	器厚(cm) 2.0	質量(g) 29.6	備	考	実測番号
図面番号 第45図	枝番号 2	図版番号 Ph. 31									備	考	_
図面番号 第45図 2区 砥	枝番号 2 石観察	図版番号 Ph. 31 表	包含層	2902 G	IV層	黒曜石	3.2	4.0	2.0	29.6			20
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号	枝番号 2 石観察 枝番号	図版番号 Ph. 31 表 図版番号	包含層			黒曜石石材	3.2 全長(cm)	4.0 全幅(cm)	2.0 器厚(cm)	29.6 質量(g)	備	考	20 実測番号
図面番号 第45図 2区 砥 図面番号 第46図	枝番号 2 石観察 枝番号 1	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32	包含層 遺構名 包含層	2902 G グリッド	IV層	黒曜石	3.2	4.0	2.0	29.6			20
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 剥	枝番号 2 石観察 枝番号 1 片(石	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具	包含層 遺構名 包含層 未製品)	2902G グリッド 観察表	出土層位	黒曜石 石材 砂岩	3.2 全長(cm) 7.2	4.0 全幅(cm) 3.5	2.0 器厚(cm) 1.8	29.6 質量(g) 63.0	備弥生か	考	実測番号
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 剥 図面番号	枝番号 2 石観察 枝番号 1 片(石 枝番号	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号	包含層 遺構名 包含層 未製品) 遺構名	2902G グリッド 観察表 グリッド	出土層位出土層位	黒曜石 石材 砂岩 石材	3.2 全長(cm) 7.2 全長(cm)	4.0 全幅(cm) 3.5 全幅(cm)	2.0 器厚(cm) 1.8 器厚(cm)	29.6 質量(g) 63.0	備		20       実測番号       120       実測番号
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号	枝番号 2 石観察 枝番号 1 片(石 枝番号 7	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33	包含層 遺構名 包含層 未製品) 遺構名 包含層	2902G グリッド 観察表 グリッド 2903G	IV層 出土層位 IV層(下)	黒曜石 石材 砂岩 石材 結晶片岩か	3.2 全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5	4.0 全幅(cm) 3.5 全幅(cm) 11.8	2.0 器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2	29.6 質量(g) 63.0 質量(g) 94.8	備弥生か	考	20  実測番号   120  実測番号   42
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 剥 図面番号 第46図 第46図	枝番号 2 石観察 枝番号 1 片(石 枝番号 7 8	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 33	包含層 遺構名 包含層 未製品) 遺構名 包含層	2902G グリッド 観察表 グリッド 2903G 2803G	以層 出土層位 以層(下) 以層	黒曜石 石材 砂岩 石材 結晶片岩か 縁泥片岩	3.2 全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5 4.2	全幅(cm) 3.5 全幅(cm) 11.8 10.6	2.0 器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2 1.3	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1	備弥生か	考	実測番号 120 実測番号 42 160
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第46図 第46図	枝番号 2 石観察号 1 片(番号 7 8 9	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33	包含層 遺構名 包含層 未製構名 包含含層 包含層	グリッド 観察表 グリッド 2903G 2803G 2904G	以層 出土層位 以層(下) 以層	黒曜石 石材 砂岩 石材 結晶片岩か 緑泥片岩 結晶片岩か	3.2 全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5 4.2 4.4	全幅(cm) 3.5 全幅(cm) 11.8 10.6 11.7	2.0 器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2 1.3	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0	備弥生か	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第46図 第46図 第46図 第47図	枝番号 2 石観察号 1 片(石号 7 8 9	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33	包含層 名層 名層 名層 包含含含含含含含含含含含含含含	グリッド 観察表 グリッド 2903G 2803G 2904G 2804G	以層 出土層位 以層(下) 以層 以層	黒曜石 石材 砂岩 石材 結晶片岩か 緑泥片岩 結晶片岩か	3.2 全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5 4.2 4.4	全幅(cm) 3.5 全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7	2.0 器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2 1.3 1.3	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2	備弥生か	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第46図 第46図 第46図 第47図	枝番号 2 石観察 枝番号 1 片(石 枝番号 7 8 9 1 2	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33	包含 遺構含 品 人名 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層	2902G グリッド 観察表 グリッド 2903G 2803G 2904G 2804G 2805G	以層 出土層位 以層(下) 以層 以層 以層 以層	黒曜石 石材 砂岩 石材 結晶片岩か 縁泥片岩 結晶片岩 縁泥片岩	3.2 全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5 4.2 4.4 4.0 5.4	全幅(cm) 3.5 全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7 5.9+	2.0 器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2 1.3 1.3 0.6 1.2	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2 56.8	備弥生か	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162 164
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第46図 第46図 第47図 第47図 第47図	枝番号 2 石観察 枝番号 1 片(石 枝番号 7 8 9 1 2 3	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33	包含 遺情含 品 横含 品 人名 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層	2902G グリッド 観察表 グリッド 2903G 2803G 2904G 2804G 2805G 2704G	以層 出土層位 以層(下) 以層 以層 以層 以層 以層	黒曜石 石材 砂岩 石材 結晶片片片 緑泥片岩 か 緑泥片岩 か 緑泥片岩 線泥片岩 緑泥片岩	全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5 4.2 4.4 4.0 5.4 5.3	全幅(cm) 3.5 全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7 5.9+ 7.4+	器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2 1.3 0.6 1.2	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2 56.8 62.6	備弥生か	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162 164 155
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第46図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図	枝番号 2 石観察号 1 片(番号 7 8 9 1 2 3 4	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33	包含 構含 品 人名 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層	グリッド 観察表 グリッド 2903G 2803G 2904G 2804G 2805G 2704G 2903G	以層 出土層位 以層(下) 以層 以層 以層 以層 以層 以層	黒曜石 石材 砂岩 石材 結晶片片片片片片片片片片片片岩線泥形片岩線泥形片岩線泥形片岩線泥形岩岩線泥形岩岩線泥	全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5 4.2 4.4 4.0 5.4 5.3 3.1	全幅(cm) 3.5 全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7 5.9+ 7.4+ 7.6	2.0   器厚(cm)   1.8   器厚(cm)   1.2   1.3   1.3   0.6   1.2   1.2   0.8	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2 56.8 62.6 32.0	備弥生か	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162 164 155
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第46図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図	枝番号 2 石観察号 1 片(番号 7 8 9 1 2 3 4 5	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 33	包含 構含 日 名 層 图 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層	2902G グリッド 観察表 グリッド 2903G 2803G 2904G 2804G 2805G 2704G 2903G 2804G	IV	黒曜石 石材 砂岩 石材 岩晶 片岩 片岩 岩線 泥 に 片岩 岩	全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5 4.2 4.4 4.0 5.4 5.3 3.1 4.6	全幅(cm) 3.5 全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7 5.9+ 7.4+ 7.6 9.9	器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2 1.3 0.6 1.2 1.2 0.8 1.2	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2 56.8 62.6 32.0 92.8	備弥生か	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162 164 155 156 40
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第46図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図	枝番号 2 石観察号 1 片(番号 7 8 9 1 2 3 4	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33	包含 構含 品 人名 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層 層	グリッド 観察表 グリッド 2903G 2803G 2904G 2804G 2805G 2704G 2903G	以層 出土層位 以層(下) 以層 以層 以層 以層 以層 以層	黒曜石 石材 砂岩 石材 結晶片片片片片片片片片片片片岩線泥形片岩線泥形片岩線泥形片岩線泥形岩岩線泥形岩岩線泥	全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5 4.2 4.4 4.0 5.4 5.3 3.1	全幅(cm) 3.5 全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7 5.9+ 7.4+ 7.6	2.0   器厚(cm)   1.8   器厚(cm)   1.2   1.3   1.3   0.6   1.2   1.2   0.8	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2 56.8 62.6 32.0	備弥生か	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162 164 155
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47	枝番号 2 石観察 1 片(石 枝番号 7 8 9 1 2 3 4 5 6	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 33	包含 人名 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医	2902G グリッド 観察表 グリッド 2903G 2803G 2904G 2804G 2805G 2704G 2903G 2804G	IV	黒曜石 石材 砂岩 石材 岩晶 片岩 片岩 岩線 泥 に 片岩 岩	全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5 4.2 4.4 4.0 5.4 5.3 3.1 4.6	全幅(cm) 3.5 全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7 5.9+ 7.4+ 7.6 9.9	器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2 1.3 0.6 1.2 1.2 0.8 1.2	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2 56.8 62.6 32.0 92.8	備弥生か	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162 164 155 156 40
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47	枝番号 2 石観察号 1 片(石号 7 8 9 1 2 3 4 5 6	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33	包含 人名 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医	グリッド 観察表 グリッド 2903G 2803G 2804G 2804G 2805G 2704G 2903G 2804G 2905G	UV層 出土層位 IV層(下) IV層 IV層 IV層 IV層 IV層 IV層 IV層 IV層 IV層	黒曜石 石材 砂岩 石材 岩晶 片岩 片岩 岩線 泥 に 片岩 岩	全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5 4.2 4.4 4.0 5.4 5.3 3.1 4.6	全幅(cm) 3.5 全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7 5.9+ 7.4+ 7.6 9.9	器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2 1.3 0.6 1.2 1.2 0.8 1.2	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2 56.8 62.6 32.0 92.8	備弥生か	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162 164 155 156 40
図面番号 第45図 2 区 磁 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47	枝番号 2 石観察号 1 片(石号 7 8 9 1 2 3 4 5 6	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 33	包含 遺包 製 遺包含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含	グリッド 観察表 グリッド 2903G 2803G 2804G 2804G 2805G 2704G 2903G 2804G 2905G 観察表	UV層 出土層位 IV層(下) IV層 IV層 IV層 IV層 IV層 IV層 IV層 IV層 IV層	黒曜石 石砂 石材 岩	3.2       全長(cm)       7.2       全長(cm)       4.5       4.2       4.4       4.0       5.4       5.3       3.1       4.6       10.2	全幅(cm) 3.5 全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7 5.9+ 7.4+ 7.6 9.9 4.9	器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2 1.3 1.3 0.6 1.2 1.2 0.8 1.2	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2 56.8 62.6 32.0 92.8 94.9	備 弥生か  備	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162 164 155 156 40 47
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47	枝番号 2 石観響号 1 片(番号 7 8 9 1 2 3 4 5 6	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 35 Ph. 35	包含 遺包 製 遺包 包含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含含	グリッド 観察表 グリッド 2903G 2803G 2804G 2804G 2805G 2704G 2903G 2804G 2905G 観察表	IV	黒曜石 石砂岩 石材岩 か 結晶泥泥泥泥片片片片片片片岩岩 緑源泥泥泥片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片岩岩 が 結結晶 古 右 オカーカ	3.2 全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5 4.2 4.4 4.0 5.4 5.3 3.1 4.6 10.2	全幅(cm) 3.5 全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7 5.9+ 7.4+ 7.6 9.9 4.9	器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2 1.3 1.3 0.6 1.2 1.2 0.8 1.2	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2 56.8 62.6 32.0 92.8 94.9	備 弥生か  備	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162 164 155 156 40 47
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第48図	枝番号 2 石観察号 1 片(番号 7 8 9 1 2 3 4 5 6	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 34	包含 人名 医 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电	グリッド 観察表 グリッド 2903G 2803G 2804G 2804G 2805G 2704G 2903G 2804G 2905G 観察表	IV   M   M   M   M   M   M   M   M   M	黒曜石 石砂岩 石材岩 か 結晶泥泥に片片片片片片片片岩岩 緑泥泥泥泥片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片	3.2 全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5 4.2 4.4 4.0 5.4 5.3 3.1 4.6 10.2 全長(cm)	全幅(cm) 3.5  全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7 5.9+ 7.4+ 7.6 9.9 4.9	器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2 1.3 1.3 0.6 1.2 1.2 0.8 1.2 1.6	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2 56.8 62.6 32.0 92.8 94.9	備 弥生か  備	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162 164 155 156 40 47
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第48図 第48図 第48図	枝番号 2 石観察号 1 片(番号 7 8 9 1 2 3 4 5 6	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 34 Ph. 34	包含 人名 医 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电 电	グリッド 観察表 グリッド 2903G 2803G 2804G 2804G 2805G 2704G 2903G 2804G 2905G 観察表	IV   M   M   M   M   M   M   M   M   M	黒曜石 石砂岩 石材岩 か 結晶泥泥泥泥泥片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片片	全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5 4.2 4.4 4.0 5.4 5.3 3.1 4.6 10.2  全長(cm) 4.7 3.6	全幅(cm) 3.5  全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7 5.9+ 7.4+ 7.6 9.9 4.9  全幅(cm) 9.4 6.2+	器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2 1.3 1.3 0.6 1.2 1.2 0.8 1.2 1.6	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2 56.8 62.6 32.0 92.8 94.9	備 弥生か  備	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162 164 155 156 40 47
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第48図 第48図 第48図 第48図	枝番号 2 石観番号 1 枝番号 7 8 9 1 2 3 4 5 6 K番号 7 8 9 1 2 3 4 5 6 8	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 34	包含層	2902 G グリッド 観察表 グリッド 2903 G 2803 G 2804 G 2805 G 2704 G 2903 G 2804 G 2905 G 3905 G	IV   M   M   M   M   M   M   M   M   M	黒曜石 石材 おり おり おり おり かり	全長(cm) 7.2  全長(cm) 4.5 4.2 4.4 4.0 5.4 5.3 3.1 4.6 10.2  全長(cm) 4.7 3.6 7.5	全幅(cm) 3.5  全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7 5.9+ 7.4+ 7.6 9.9 4.9  全幅(cm) 9.4 6.2+ 15.5+	器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2 1.3 1.3 0.6 1.2 1.2 0.8 1.2 1.6	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2 56.8 62.6 32.0 92.8 94.9 質量(g) 39.2 30.8 177.3	備 弥生か  備	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162 164 155 156 40 47 実測番号 85 86 119
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第48図 第48図 第48図 第48図	枝番号 2 石観番号 1 枝番号 7 8 9 1 2 3 4 5 6 K番号 7 8 9 1 2 3 4 5 6	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 34	包含層	2902 G グリッド 観察表 グリッド 2903 G 2803 G 2804 G 2805 G 2704 G 2903 G 2804 G 2905 G 3905 G	IV   M   M   M   M   M   M   M   M   M	黒曜石 石砂岩 村	全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5 4.2 4.4 4.0 5.4 5.3 3.1 4.6 10.2  全長(cm) 4.7 3.6 7.5 5.1	全幅(cm) 3.5  全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7 5.9+ 7.4+ 7.6 9.9 4.9  全幅(cm) 9.4 6.2+ 15.5+ 9.5	器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2 1.3 1.3 0.6 1.2 1.2 0.8 1.2 1.6 器厚(cm) 0.9 1.0 1.0 1.0	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2 56.8 62.6 32.0 92.8 94.9 質量(g) 39.2 30.8 177.3 53.2	備 弥生か  備	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162 164 155 156 40 47 実測番号 85 86 119 95
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第48図 第48図 第48図 第48図 第48図 第48図 第48図	枝番号 2 石観番号 1 枝番 7 8 9 1 2 3 4 5 6 K番 9 1 2 3 4 5 6 7	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 34	包含 基	2902 G グリッド 観察表 グリッド 2903 G 2803 G 2804 G 2805 G 2704 G 2903 G 2804 G 2905 G 3905 G 4 G 4 G 4 C - 4	IV   M   M   M   M   M   M   M   M   M	黒曜石 のかける おおり おり おり おり おり おり おり おり かり おり おり かり	全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5 4.2 4.4 4.0 5.4 5.3 3.1 4.6 10.2  全長(cm) 4.7 3.6 7.5 5.1 4.3	全幅(cm) 3.5  全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7 5.9+ 7.4+ 7.6 9.9 4.9  全幅(cm) 9.4 6.2+ 15.5+ 9.5 7.7	器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2 1.3 1.3 0.6 1.2 1.2 0.8 1.2 1.6  器厚(cm) 0.9 1.0 1.0 0.8	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2 56.8 62.6 32.0 92.8 94.9 質量(g) 39.2 30.8 177.3 53.2 50.2	備 弥生か  備	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162 164 155 156 40 47 実測番号 85 86 119 95 103
図面番号 第45図 2 区 砥 図面番号 第46図 5 区 录 図面番号 第46図 第46図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第48図 第48図 第48図 第48図 第48図 第48図 第48図 第48	枝番号 2 石観番号 1 枝番 7 8 9 1 2 3 4 5 6 H枝番 5 6 A 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂摘具 図版番号 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 34 Ph. 35	包含 人名 医 包含	2902 G グリッド 観察表 グリッド 2903 G 2803 G 2804 G 2805 G 2704 G 2903 G 2804 G 2905 G 3905 G 4 C C C C C C C C C C C C C C C C C C C	IV   M   M   M   M   M   M   M   M   M	黒曜石 のかける。 おおおり おおり おおり おおり おおり おおり おおり おり おり かり	全長(cm) 7.2  全長(cm) 4.5 4.2 4.4 4.0 5.4 5.3 3.1 4.6 10.2  全長(cm) 4.7 3.6 7.5 5.1 4.3 6.7	全幅(cm) 3.5  全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7 5.9+ 7.4+ 7.6 9.9 4.9  全幅(cm) 9.4 6.2+ 15.5+ 9.5 7.7 10.2+	器厚(cm) 1.8 器厚(cm) 1.2 1.3 1.3 0.6 1.2 1.2 0.8 1.2 1.6 器厚(cm) 0.9 1.0 1.0 0.8 1.4	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2 56.8 62.6 32.0 92.8 94.9 質量(g) 39.2 30.8 177.3 53.2 50.2 116.5	備 弥生か  備	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162 164 155 156 40 47 実測番号 85 86 119 95 103 104
図面番号 第45図 2 区 磁 図面番号 第46図 影46図 第46図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47図 第47	核番号 2 石観番1 1 片核番9 1 2 3 4 5 6 片K番9 1 2 3 4 5 6 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	図版番号 Ph. 31 表 図版番号 Ph. 32 製穂版番号 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 33 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 34 Ph. 35 Ph. 35	包含 大	2902 G グリッド 観察表 グリッド 2903 G 2803 G 2804 G 2805 G 2704 G 2905 G 2905 G 観察表 グリッド	IV	黒曜石 不砂が には、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	全長(cm) 7.2 全長(cm) 4.5 4.2 4.4 4.0 5.4 5.3 3.1 4.6 10.2  全長(cm) 4.7 3.6 7.5 5.1 4.3 6.7	全幅(cm) 3.5  全幅(cm) 11.8 10.6 11.7 6.7 5.9+ 7.4+ 7.6 9.9 4.9  全幅(cm) 9.4 6.2+ 15.5+ 9.5 7.7 10.2+ 3.0	2.0   器厚(cm)   1.8   器厚(cm)   1.2   1.3   1.3   0.6   1.2   1.2   0.8   1.2   1.6     器厚(cm)   0.9   1.0   1.0   0.8   1.4   0.7	質量(g) 63.0 質量(g) 94.8 68.1 89.0 18.2 56.8 62.6 32.0 92.8 94.9 質量(g) 39.2 30.8 177.3 53.2 50.2 116.5 31.7	備 弥生か  備	考	実測番号 120 実測番号 42 160 50 162 164 155 156 40 47 実測番号 85 86 119 95 103 104 108

<sup>\*</sup>数値の後の十は、実測の値はそれ以上になると予測されるもの \*出土層位は取上げ時のもの \*石材は、肉眼判定による

Tab. 4

## 第4表 石器観察表2

### 4区 石製穂摘具観察表

図面番号	枝番号	図 版番 号	遺構名	グリッド	出土 層位	石 材	全長 (cm)	全幅 (cm)	器厚 (cm)	質量 (cm)	基部長 (cm)	基部幅 (cm)	刃部長 (cm)	刃部幅 (cm)	孔径 (cm)	孔間距離 (cm)	孔刃間距離 (cm)	孔背間距離 (cm)	備考	実測 番号
第46図	2	Ph. 32	2 号住			結晶片岩か	3.3	10.9	0.7	34.0	2.7	10.6	10.9	0.6	0.6	2.7	1.7	1.0	穿孔は両側から	138

#### 5区 石製穂摘具観察表

図面番号	枝番号	図 版番 号	遺構名	グリッド	出土 層位	石 材	全長 (cm)	全幅 (cm)	器厚 (cm)	質量 (cm)	基部長 (cm)	基部幅 (cm)	刃部長 (cm)	刃部幅 (cm)	孔径 (cm)	孔間距離 (cm)	孔刃間距離 (cm)	孔背間距離 (cm)	備考	実測 番号
第46図	3	Ph. 32	SB12			結晶片岩か	4.2	6.0+	0.5	17.2	4.0	6.0+	5.6+	0.2	0.6	_	(3.3)	(1.1)	穿孔は両側から	35
第46図	4	Ph. 32	包含層	2704 G	IV層 (下)	緑泥片岩	5.0	12.5	0.7	57.5	4.4	12.5	12.5	0.6	0.5	2.7	0.9	0.9	穿孔は両側から	44
第46図	5	Ph. 32	包含層	3004 G	IV層	結晶片岩か	3.4	6.4+	0.5	11.5	2.9	6.4+	6.1+	0.5	(0.5)	_	(2.2)	(0.9)	穿孔は両側から	52
第46図	6	Ph. 32	包含層	2904 G	IV層	結晶片岩か	3.5	4.9+	0.5	13.3	3.0	4.9+	4.2+	0.5+	(0.7)	_	-	(8.0)	穿孔は両側から	55

## 6区 石製穂摘具観察表

図 面番 号	枝番号	図版番号	遺構名	グリッド	出土 層位	石 材	全長 (cm)	全幅 (cm)	器厚 (cm)	質量 (cm)	基部長 (cm)	基部幅 (cm)	刃部長 (cm)	刃部幅 (cm)	孔径 (cm)	孔間距離 (cm)	孔刃間距離 (cm)	孔背間距離 (cm)	備考	実測 番号
第48図	1	Ph. 34	SI24		3層	結晶片岩か	3.8	5.0+	0.7	17.0	3.5	5.0+	3.3+	0.3	(8.0)	_	(2.5)	(1.0)	穿孔は両側から	87
第48図	4	Ph. 34	包含層	D-14	Ⅲ層	結晶片岩か	1.7+	2.7+	0.4+	1.4	1.7+	2.7+	_	-	_	_	_	_		122
第48図	5	Ph. 34	包含層	B-13	Ⅱ層	結晶片岩か	3.6	4.2+	0.7	11.3	3.6+	4.2+	_	_	-	_	_	_		102
第48図	6	Ph. 34				緑泥片岩	3.4+	5.3+	0.7+	14.9	3.5+	5.3+	1.6+	0.4	_	_	_	(1.1)	穿孔は両側から 近代遺構出土	93
第48図	7	Ph. 34			川層	結晶片岩か	3.6	6.9+	0.7	22.4	3.1	6.9+	6.7+	0.7	0.9	2.3	1.9	1.0	断面側は穿孔の 際、工具を変え たものか	117

<sup>\*</sup>数値の後の+は、実測の値はそれ以上になると予測されるもの \*出土層位は取上げ時のもの \*石材は、肉眼判定による \*表中の包含層とは遺物包含層のことである。

	東海測号	23	15	6	22	4	21	е	17	∞	13	-	2	16	10	=	2	18	25	24	14	12	20	7	9	19		無無	-	2	ro	т	4		乗 番 号	2	-
	₩			6.6)				松			5数残る	2																₩	計	波状最頂部に凹点 条沈線、胴部五条沈線に 帯(X字状文)	)沈線と櫛歯文の	直下に四条の沈いくる(X字状	/着 内器面炭化 5 反転復元		₩	内底面に指頭圧痕	[結文 (長・短)
	備		内器面指頭圧痕	内器面指頭圧痕あ	内器面指頭圧痕		内器面指頭圧痕	内外器面の一部黒変	波状口縁		内器面指頭圧痕多数残る	底部に近い部分か							波状口縁									典	外器面一部スス付着	波状口縁 波状部 口縁部二条沈線, よる文様帯(X字	付根部分に2条の沈線と櫛歯文の ような文様が残る	口縁に一条沈線、直下に四条の沈線による文様帯をつくる(X字状文) 反転復元	外器面一部スス付着 物付着 底部上底 D		備	二箇所穿孔 一条沈線、内底面	瘤状突起と弧線連結文(長・短 大洞式土器
	焼戍	良	良	良	良	良	良	맆	良	良	良	۔	良	맆	۔	۔	良	良	良	맆	۔	良	맆	۔	良	民		数 <sup>化</sup>	□     X     □     □     X     □	不良	굍	۔012(	良		供送	良	良
	調勵制	ロ~胴横ナデ	ロ~胴ナデ	ロ~胴ナデ	胴横ナデ	ロ~胴横ナデ	ロ~調ナデ	胴横ナデ	口原体条痕、 横ナデ・胴楕円押型	口楕円押型・胴ナデ	胴横ナデ	胴横ナデ	胴斜ナデ	胴ナデ	ロ~胴横ナデ	胴山形押型	口原体条痕・胴山形押型	口原体条痕・胴山形押型	口原体条痕・胴山形押型	口原体条痕・胴山形押型	胴~底ナデ	胴横ナデ	胴ナデ	胴ナデ	胴ナデか	胴横ナデ		翻图		□~胴横ミガキ	ドナデか	ロ~胴横ミガキ・底ナデ	胴~底縦ミガキー部ナデ		調整(内面)	ロ~底横ナデ	ロ~底ナデ
	調 整 (外 回)	口横ナデ・胴楕円押型	口横ナデ・胴楕円押型	□~胴楕円押型	口~胴楕円押型	口横ナデ・胴楕円押型	口横ナデ・胴楕円押型	胴楕円押型	口~胴楕円押型	口~胴楕円押型	口横ナデ・胴楕円押型	胴楕円押型	胴楕円押型	胴楕円押型	口横ナデ・胴山形押型	口横ナデ・胴山形押型	口横ナデ・胴山形押型	口横ナデ・胴山形押型	口横ナデ・胴山形神型	口横ナデ・胴山形押型	胴山形押型・底ナデ	胴山形神型	胴山形神型	胴山形神型	胴山形革型	胴山形押型		調整物	١.	ロ~胴横ミガキ	注一定ミガキ	ロ〜胴横ミガキ・底ナデ	胴縦ミガキ, 横ミガキ・底ミガキ		調整(外面)	口~胴横ミガキ・底ナデ	ロ〜頚ミガキ・ 胴〜底横ミガキ
	6 (内国)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	にぶい黄橙	にぶい黄橙	塑	にぶい黄橙	にぶい黄橙	にぶい黄橙	黒褐	にぶい黄橙	聞いぶい	にぶい黄橙	にぶい黄橙	灰褐	にぶい	にぶい櫓	塑	黄灰	にぶい黄褐	にぶい黄橙	塑	にぶい黄橙	にぶい黄褐	にぶい黄橙	灰黄褐		色調の	明黄褐	響いかじ	浅黄橙	褐灰	塑		色 (內面)	灰褐	明赤褐
	色 (外面)	にぶい黄橋	浅黄橙	にぶい黄橙	明黄褐	襲いたい	觐	にぶい黄橙	にぶい黄橙	にぶい黄橙	にぶい黄橙	聖いぶい	にぶい黄橙	響いぶい	響いぶい	にぶい	響いぶい	にぶい褐	黒褐	暗灰黄	靶	響いたい	にぶい黄橙	にぶい黄橙	暗灰黄	灰黄褐		色調(外面)	にぶい黄褐	型いぶご	浅黄橙	にぶい黄橙	明赤褐		色 (外面)	灰褐	明赤褐
	出	石英・角閃石・長石	角閃石・長石	石英	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・雲母	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	角閃石	石英・角閃石・雲母	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・雲母	石英・角閃石・雲母	石英・角閃石・雲母	石英・角閃石・雲母	角閃石・雲母・長石	角閃石・長石・雲母	石英・角閃石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・雲母	石英・角閃石・雲母	角閃石		器	角閃石	角閃石	角閃石・長石・雲母	角閃石・長石	石英・角閃石・長石		胎	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石
ŀ		4.9+	5.9+	+9.8	4.7+	4.0+	4.5+	5.8+	4.9+	7.1+	5.5+	6.2+	5.3+	6.7+	4.5+	3.9+	3.6+	3.3+ 1	4.4+	4.6+	2.7+ 4	4.8+	4.2+	4.1+	4.7+	4.7+		器	1	23.2+	3.6+	9.9	10.2+		器高 (cm)	4.5	8.6
ŀ	底径 (cm) (cm)	-	1	8	- 4	-	- 4	1	1		1	9	- 5	9	-	-	1	1	-	- 4	3.4	- 4	- 4	1	-	- 4	-	底径 器		- 23	۳ ا	( 3.8)	7.3 10		底径 器 (cm) (c	4.3 4	6 (0.9)
	最大胴径 (cm)	ı	ı	1	1	ı	1	ı	ı	1	ı	ı	ı	ı	ı	ı	1	ı	ı	ı	ı	ı	ı	ı	ı	ı		最大胴径	j I	(29.9)	1	(0.9)	ı		最大胴径 (cm)	8.8	12.8
t	型 ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (	ı	ı	ı	ı	ı	ı	ı	ı	1	ı	ı	1	ı	ı	ı	ı	ı	ı	ı	ı	ı	ı	ı	ı	ı			1_	(30.4)	ı	(10.0)	ı		口径 (cm)	7.9	(7.0)
	部位	□縁部~胴部	□縁部~胴部	口縁部	□縁部~胴部	□縁部~胴部	□縁部~胴部	□縁部~胴部	胴部	□縁部~胴部	□縁部~胴部	胴部	胴部	胴部	□縁部~胴部	□縁部~胴部	□縁部~胴部	□縁部~胴部	□縁部~胴部	□縁部~胴部	胴部~底部	胴部	胴部	胴部	胴部	胴部		部位	口縁部~胴部	口緣第~間部	<b>能</b> 口	口緣部底部	胴部~底部		部位	犯影	ほぼ完形
	器	機然	恭账	機账	光鉢	機器	*************************************	機器	恭	機機	恭账	*************************************	が数数	為然	*************************************	が数	紫	*************************************	恭账	為账	*************************************	機然	機器	機器	恭账	恭账		器	紫	恭	器十口洪	恭	**************************************		器	浅鉢	刪
	出土層位	塵	 Bai	- 國		3團	<u>@</u>		<u>—</u>						<u></u>		2層		<b>B</b>	圖		S القا	3層					出土層位							出土層位		
ľ	グリッド	D-13			C-11		6 - O												D-11	A-13								グリッド							グリッド		
	遺構名 (	包含層	SI28	SI18	包含層	SI15	包含層	SI15	S128	SI18	SI24	SI28	SI15	SI28	SI18	SI18	SI15	SI28	包含層	包含層	SI24	SI19	SI35	SI17	SI15	SI28		遺構名へ	号土坑	1号土坑	1号土坑	1000周	包含層		遺構名へ	SX01	SX02
- F	図版番号 遺	$\vdash$	Ph.23			Ph.23		Ph.23	Ph.23	Ph.23	Ph.23	Ph.23	Ph.23	Ph.23	Ph.24	Ph.24		Ph.24	-		_	Ph.24	Ph.24	Ph.24	Ph.24	Ph.24	縄文後・晩期	図版番号 遺	Ph. 9	Ph. 9	_	Ph. 9	Ph. 9 包	後・晩期	図版番号	Ph. 9	Ph. 9
₹:	5	-	2	m Σ		2	9	7	∞ ⊠	6	-	1	12	13	-	2	3	⊠ 4	N	9	7	∞	6	10	=======================================	+	離文	5号 番	+	2	ε [X]	⊠ 4	2	縄文後	号	9	
	図面番号	第50区	第50区	第50区	第50区	第50区	第50	第50区	第50区	第50区	第50区	第50区	第50区	第50区	第51区	第51図	第51図	第51区	第51図	第51図	第51図	第51図	第51図	第51図	第51図	第51区	N	図面番号	第52区	第52区	第52図	第52区	第52区	4	図面番号	第52図	第52区

第5表 土器観察表 EX (区 編文早期

乗 海	18	69	29	99	89	74	73	72	70	71	75		無無	28	30	29	31	33	32	40	39	38	36	37	34	35	41	42	43	99	22
₩	(知に回ば)	内外器面一部スス付着	上げ底	肩部に一条沈線	丸底	.線. .線. 黒斑	る無		:ット (上)	埋設セット(下)			₩	5一部炭化物付着	まわれる)		沈線, 粘土貼付			五条沈線	か X字状文	橅	胴部外器面にスス付着		場面に一部双付	最頂部に凹点, (凹点付近のみ二条)	最頂部に凹点, 一部XX付着	(内器面) に一	条の波状文と磨消縄文	接合痕あり	かけて付く把手の F孔と沈線を施す
- 二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	口唇部粘土紐貼り付け リボン状突起(中央の3	X字状文 内外器 器面摩滅	肩部に一条沈線	反転復元 肩部に 上げ底	肩部に一条沈線	胴部上方に一条沈線、 底部付近に二条沈線	内器面に接合痕残る 外器面一部スス付着	一部残存	波状口縁 埋設セッ	リボン状突起 埋	指頭圧痕		<b>#</b>	上底 底部内器面- 反転復元	口縁部に四条沈線 (文様帯の一部と思われ	反転復元	磨消縄文,条痕文,	胴部に一条沈線	反転復元	口縁部の一部か (文様帯か)	頚部と胴部の境目か	外器面一部スス付着	波状口縁か 胴部	外器面一部双付着	口縁部から胴部外器面に一部双付 着 反転復元	波状口緣,最頂部 一条沈線(凹点付	波状口緣,最頂部 二条沈線 一部xx	口縁部と頚部境目 (内器面) 条沈線	口縁部に二条の波	注口部のみ残存	口縁部から胴部にかけて付く把手の 一部か 二箇所の穿孔と沈線を施す
供成	良	良	民	良	邑	良	良	릾	良	罠	릾		焼成	良	良	릾	良	良	릾	良	良	良	良	릾	邑	良	民	邑	良	릾	やや民
調 調 閣 (区 国)	ロナデ・頚~胴条痕一部 条痕後ナデ	□∼胴横ミガキ	ロ~間横ヘラミガキ・ 間~底ナデ	□~頚横ミガキ・ 胴~底ミガキか	ロ~胴横ミガキ・底ナデ	胴横ミガキ・ 底不定ミガキ	ロ~頚ケズリ後ナデ (一部ミガキ)	胴横条痕後ナデ	□~頚横ミガキ,ナデ・ 胴縦,斜ミガキ	口~胴横条痕後ナデ	口~胴横条痕後ナデ		響 調	底ナデ	ロミガキ	胴~底ナデ	胴横条痕後ナデ	胴ナデ	底ナデ	ロナデ	胴ナデ	口横ミガキ・胴縦ミガキ	口横ミガキ・胴ナデ	底ミガキ	ロ〜胴横ミガキ後一部ナ デ	口横ミガキ・頚縦ミガキ	□~頚横ミガキ	口~胴ミガキ	口横ナデ、横ミガキ・ 胴ミガキか	ナデか	ナデか
調整 整(外面)	ロナデ・頚~胴斜条痕	□∼胴横ミガキ	ロ〜頚横ヘラミガキ・ 胴〜底ナデ	□~頚横ミガキ・ 胴~底ミガキか	ロ~底横ミガキ	胴横, 縦ミガキ・底不定ミガキ	□∼頚横ミガキ	胴横条痕	<ul><li>ロ〜頚横ミガキ・</li><li>胴斜ミガキ,縦ミガキ</li></ul>	□~頚横条痕・   胴ナデ後斜条痕	ロ〜胴横条痕後ナデ		調整(外面)	底横ミガキ, ミガキ	ロミガキ	胴ミガキ・底横ナデ	胴横ミガキ	胴横ミガキ	底縦ミガキ,ミガキ	ロナデ	胴ミガキ	口横ミガキ・胴斜ミガキ, 縦ミガキ	口横ミガキ後ナデ・ 胴横ミガキ	底縦ミガキ, ミガキ	□~胴横ミガキ後一部ナ   デ	□∼頚横ミガキ	□∼頚横ミガキ	口~胴ミガキ	胴横ミガキ	注一定ミガキ	ナデか
色 (内面)	にぶい	にぶい黄褐	褐灰	灰	灰黄褐	灰褐	にぶい黄褐	黒褐	にぶい黄褐	にぶい黄橙	にぶい褐		色 (内面)	灰褐	にぶい黄褐	灰黄褐	にぶい黄橙	黒褐	灰黄褐	にぶい黄褐	褐灰	にぶい黄褐	にぶい黄橙	灰褐	にぶい赤褐	にぶい橙	にぶい黄橙	灰褐	黒褐	灰黄褐	塑
色 (外面)	いかい	にぶい黄褐	灰黄褐	灰	灰黄褐	明褐	にぶい黄褐	褐	にぶい黄褐	にぶい黄橙	にぶい赤褐		色 (外面)	塑	にぶい黄褐	にぶい	にぶい黄橙	にぶい黄褐	にぶい黄橙	にぶい褐	灰黄褐	にぶい黄褐	灰褐	明赤褐	にぶい黄褐	にぶい櫓	にぶい黄橙	にぶい褐	にぶい黄褐	灰黄褐	塑
出	角閃石・長石	長石	石英・角閃石	石英・角閃石	角閃石	石英	石英・角閃石	石英・雲母	角閃石・長石	角閃石・長石	石英·角閃石·長石		器	石英・長石・雲母	石英・角閃石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英・雲母	角閃石・長石	角閃石・長石	石英・角閃石・長石	角閃石・長石・雲母	石英・角閃石・雲母	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石
能( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (	16.5+	+6.5	5.8	8.0	9.7	+5.6	8.1+	17.0+	14.5+	24.0+	45.4+		(cm)	2.7+	3.6+	3.8+	3.9+	3.9+	1.9+	3.4+	2.1+	2.5+	+0.6	7.6+	25.0+	12.0+	8.2+	7.2+	10.2+	+9.5	3.9+
原金 (cm)	ı	ı	4.6	4.7	1	(10.0)	ı	ı	I	I	ı		底径 (cm)	(6.4)	ı	(7.6)	ı	ı	(9.9)	ı	1	ı	ı	9.9	1	ı	ı	1	I	1	ı
最大胴径 (cm)	40.7	(15.4)	14.6	(19.3)	8.4	ı	(41.0)	ı	(26.0)	(29.0)	(40.2)		最大胴径 (cm)	ı	1	ı	ı	ı	ı	ı	I	ı	ı	ı	(30.0)	ı	ı	1	(43.1)	1	ı
(mg)	39.8	(15.8)	(17.0)	(19.8)	(18.9)	ı	(37.6)	ı	28.2	(32.6)	(38.0)		(mg)	ı	1	ı	1	1	ı	ı	ı	ı	ı	1	(34.0)	(36.2)	ı	Ι	(38.9)	1	ı
部位	□縁部~胴部	□縁部~胴部	□縁部~底部	口縁部~底部	口縁部~底部	胴部~底部	□縁部~肩部	胴部	□縁部~胴部	□縁部~胴部	□縁部~胴部		部	原部	口緣部	胴部~底部	胴部か	胴部か	底部	口縁部か	胴部	□縁部~胴部	□縁部~胴部	底部	□縁部~胴部	口縁部一頚部	□縁部~頚部	□縁部─胴部	□縁部~胴部	能口洪	把手か
器種	淡珠	浅鉢	浅鉢	浅鉢	浅鉢	浅鉢	滋味	粉蛛	浅鉢	粉	恭账		器種	紫	浅鉢	滋味	粉蛛	浅鉢	恭	恭	深鉢	恭	恭	紫	深鉢	恭	淡林	深鉢	浅鉢	器十口式	鉢か
出土層位													出土層位	埋土2層	埋土2層	埋土2層	埋土1層	埋土1層					埋土2層	埋土2層		埋土1・2 層				2	2
グリッド											Н		グリッド																	A-3	2 - 2
遺構名	SX24	SX26	SX26	SX26	SX26	SX26	SX26	SX26	SX26	SX26	SX35		遺構名	SI34	SI35	SI35	SI36	SI36	S136	SI37	SI37	SI37	SI37	SI37	SI37	SI37	SI38	SI38	SI38	包含層	命配配
林 図版番号	Ph.11	Ph. 10	Ph. 10		Ph.10	Ph.11			Ph.10	Ph.10	Ph.10	<b>炎・晩期</b>	図版番号							Ph.28	Ph.28		Ph.28	Ph.11	Ph.11	Ph.11	Ph.28		Ph.28	Ph. 29	Ph. 29
校審卓	-	2	ო	4	2	9	7	ω	-	2	3	縄文後	校審号	-	2	e	4	2	9	7	8	თ	10	=	12	13	14	15	16	17	18
図面番号	第53図	第53区	第53区	第53区	第53図	第53区	第53区	第53図	第54区	第54区	第54図	M 9	図面番号	第55区	第55図	第55図	第55区	第55区	第55図	第55区	第55図	第55区	第55区	第55区	第55区	第55区	第55区	第55図	第55区	第55区	第55区

		#	#
TM (cm) (cm) (cm) (cm)	(cm) (cm) (cm)	1 <u>W</u> (cm) (cm) (cm)	(cm) (cm) (cm)
7.17 (1.2.7) (14.8) (7.1) 12.7	(12.2) (14.8) (7.1)	~底部 (12.2) (14.8) (7.1)	口縁部~底部 (12.2) (14.8) (7.1)
55 - 18.0 21.6	- 18.0	25 - 18.0	完形 25 — 18.0
部 位 口径 最大開径 底径 (cm) (cm) (cm)	部 位 口径 最大將径 (cm)	位 口径 最大胴径 (cm) (cm)	種         部         位         口径         最大期径           (cm)         (cm)         (cm)
1練部 — — —		1	一縁出
柳部	-		
同部~脚部 — — (15.4)	ı	1	一 一
16.0 (16.8)		16.0	□   □     □
74年 (17.8) (18.3)		(17.8)	口縁部~胴部 (17.8)
同部~脚部 — —			胴部~脚部
まぼ完形 23.0 24.9 11.0	24.9	23.0 24.9	ほぼ完形 23.0 24.9
7.1) 13.8 17.6 (7.1)	17.6	13.8 17.6	口縁部~底部 13.8 17.6
1縁部~胴部 (20.8) (27.6)	Н	(20.8)	口縁部~胴部 (20.8)
□縁部~胴部 (23.8) 27.4 —	27.4	(23.8) 27.4	口縁部~胴部 (23.8) 27.4
同部~脚部 — — (10.5)		1	川部~脚部 — —
78年   (38.0)   (38.0)   一	(32.0)	(29.6) (32.0)	□縁部~胴部 (29.6) (32.0)
1練部~脚部 5.4 - 3.2	ı	5.4 —	□縁部~脚部 5.4 -
7.5 8.1		7.5	口縁部~脚部 7.5
18部~胴部 — (16.6)	(16.6)	(16.6)	- □縁部~胴部 - □ (16.6)
78部~底部 19.4 17.0		19.4	口縁部~底部 19.4
18部~底部 (10.0) (13.0)	$\dashv$	(10.0)	□縁部~底部 (10.0)
1488   (18.8)	□縁部~胴部 (18.8) −		□縁部~胴部
司部~底部 — — —	胴部~底部 — — —	1	胴部~底部 —
14.0) — 14.0) —	口縁部~肩部 (14.0) —		口縁部~肩部
頁部~底部 — 12.9		I	頚部~底部 —
5部~脚部	底部~脚部 — —	1	底部~脚部 — —
40部 — — — — — — — — — — — — — — — — — — —		1	
1縁部~頚部 (21.6) —	□縁部~頚部 (21.6) -	$\vdash$	口縁部~頚部
7縁部~胴部 (25.6) —	□縁部~胴部 (25.6) -		口緣部~脂部
口縁部~胴部 (11.0) (11.4)	$\vdash$	(11.0)	□縁部~胴部 (11.0)
78年 (9.6) (14.6)	_	(9.6)	□縁部~胴部 (9.6)
夏部~胴部 — 一	到部~胴部 — 一	3340~品轨 —	

Tab. 8

無審	38	39	47	45	46	48	44	20	49	53	52	51	09	65	64	28	62	29	61	22	63		無無	9	3	7	-	D	53	00	4	10	13
₩	頭圧痕 反転復元	外器面黑斑	部スス付着	顔料か 反転復元	计着 反転復元		<b>底</b> 反転復元	内器面指頭圧痕 黒斑	ス付着リケス	- 東京	に刻目, 肩部に刻 す 指頭圧痕	な		计着 反転復元	王痕 反転復元	小型平底鉢 外器面一部スス付着 黒斑 内外器面共に指頭圧痕 反転復元		辇滅 反転復元		器面摩滅 反転復元	內器面指頭圧痕		兼	计着 反転復元	计着	i一部スス付着 i炭化物付着	-部スス付着	<b>本</b>	王痕 口縁部, 斑	頚部~胴部に一条の櫛猫平 その下に二条の櫛猫波状文		王痕	力服日前の準備が
供	底部内器面に指頭圧痕	ミニチュア土器 反転復元	胴部外器面, 口縁部内器面一	口縁外器面赤色顔料か	外器面一部スス付着	反転復元	外器面摩減 丸底	器面摩滅 内器 反転復元	把手付近一部スス付着 底部接合部分より欠損	外器面一部スス付着	小型壺 口唇部に刻目 目突帯を一条施す 指 反転復元	胴部上方に櫛描文	外器面摩減	外器面一部スス付着	底部內器面指頭圧痕	小型平底鉢 外料 黒斑 内外器面部 反転復元	胴部に一条突帯	広口壺 内器面摩減	外器面スス付着	小型平底壺 器	外器面摩減 内 反転復元		典	外器面一部スス付着	脚部内器面砂粒付着	胴部外器面一部スス 底部内器面炭化物付	外・内器面共に一部スス付着	口縁部は一部残存 口縁部〜胴部赤変	底部内器面指頭圧痕 底部外器面に黒斑	広口壺 頚部~胴 行文,その下に二	把手部分全て欠損	胴部內器面指頭圧痕	1
供成	良	良	良	۔	良	良	良	良	邑	良	۔	릾	맆	良	卤	맆	卤	良	良	やや民	やや民		焼成	邑	邑	邑	良	良	良	民	国	良	-
響 層 (国 区)	胴~底ナデ	ロ~底横ハケ後ナデ	口横ナデ・胴縦, 横ハケ後ナデ	□~頚横ハケ後横ナデ・ 胴斜ハケ	ロ~眴ナデ・嗣総ハケ		胴~底横ハケ	胴ナデ	ロナデ・胴斜ハケ後ナデ、 横ハケ後ナデ	口横ナデ・胴斜ハケ	口横ナデ・胴斜ハケ後横 ナデ、横ナデ	胴ナデ,横ハケ	口横ナデ・胴ハケ後ナデ	ロナデ・胴斜ハケ後横ナデ	脚横ナデ、ナデ	ロ~底斜ナデ	口横ナデ・胴不明	ロ~頚ナデ	胴~底斜ハケ後ナデ	ロ~底ナデ	ロナデ・胴指ナデ, 斜ハケ後ナデ・脚ナデ		州(国内)	口横ナデ・ 胴斜ハケ後ナデ	底ナデ・脚ナデ	口横ナデ・胴斜ハケ, ハケ後ナデ	口横ナデ、斜ハケ後横ナ デ・胴斜ハケ後ナデ	口横ナデ・胴斜ハケ後ナ デ・底ナデ	ロ~胴ハケ,ナデ	口横ナデ・頚~胴横, 斜ハケ		口横ナデ・胴不定ハケ, ナデ・底ナデ	+
響 調 製 (外 面)	胴ハケ後ナデ・底ハケ	ロ~胴斜ハケ後ナデ・ 底ナデ	口横ナデ・胴不明	ロ〜胴ナデ	ロ~調ナデ	脚ハケ後ナデ	胴上縦ハケ,中ナデ, 下横ハケ・底ナデ	胴不明	ロナデ・胴縦ハケ後ナデ	ロハケ後横ナデ・ 胴縦ハケ後ナデ	口横ナデ・胴縦ハケ後ナ デ	胴横ナデ,ハケ後ナデ	口横ナデ・胴不明	ロ~胴横ナデ	脚ナデ	ロ~胴ナデ,縦ケズリ・底一定ナデ	口~胴横ナデ	ロ~頚横ナデ・頚縦ハケ, 横ナデ	胴ハケ後ナデ・底ナデ	胴~底ナデ	ロナデ・胴縦ハケ後ナデ・ 関ナデ		調整(外面)	口横ナデ・胴縦ハケ後ナ デ	底縦ハケ後ナデ・脚横ナデ	口横ナデ・胴縦ハケ, ハケ後ナデ	口横ナデ・胴縦ハケ後横 ナデ、縦ハケ後ナデ	口横ナデ・胴縦ハケ後ナ デ,ナデ・底ナデ	ロ~胴横ナデ, 縦ヘラナデ	口横ナデ・頚斜,縦ハケ・ 胴縦ハケ後ナデ	口横ナデ・   胴斜ヘラナデ (ハケか)	│□横ナデ・胴縦ハケ後横  ナデ. 縦ハケ. ナデ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
色 (内面)	婴	鲫	にぶい黄橙	浅黄橙	にぶい黄橙	聖いぶい	聞いぶい場	いるい	浅黄橙	にぶい黄橙	塑	にぶい櫓	にぶい黄橙	墾	聖	长	鏂	塑	にぶい黄褐	明赤褐	明赤褐		色 (内面)	明褐	にぶい檀	にぶい黄	霾	聞いぶい	にぶい黄橙	浅黄橙	にぶい黄橙	配ぶい櫓	
6 調 (外面)	婴	舞いぶご	舞いぶご	にぶい黄橙	にぶい黄橙	聖いたい	舞いぶい	塑	にぶい黄橙	にぶい黄橙	舞いかい	にぶい櫓	にぶい黄褐	にぶい黄橙	赤橙	华	砸	弱いぶい	にぶい黄褐	明赤褐	धूम		色 (外面)	明赤褐	聖	浅黄	塑	塑	にぶい黄橋	浅黄橙	にぶい黄橙	いぶい場	
出	長石	角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英	石英・角閃石	角閃石・長石	角閃石・長石・雲母	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	角閃石	至石	長石	石英・角閃石・雲母	石英・角閃石	石英	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・雲母	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石		出	角閃石・長石・輝石	石英・角閃石・長石	石英・長石	石英・角閃石・雲母	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石	石英・雲母・黒曜石	石英・角閃石・雲母	
器 (cm)	2.7+	4.7	12.2+	7.0+	11.0+	3.9+	23.0+	10.0+	14.8+	15.1+	4.7+	7.4+	7.6+	2.7+	4.9+	6.0	7.8+	+2.9	4.8+	9.5+	17.3		器 (cm)	29.9+	6.4+	32.5	17.1+	20.0	10.3	17.8+	15.8	15.3	
底径 (cm)	5.9	(0.9)	ı	1	1	11.4	(8.0)	1	(11.5)	ı	ı	ı	ı	1	(8.9)	(9.9)	_	ı	7.8	(8.8)	(13.6)		底径 (cm)	ı	11.0	9.2	1	1.8	ı	ı	15.1	5.6	1
最大胴径 (cm)	1	(0.9)	(15.3)	ı	(22.6)	ı	(22.2)	ı	1	ı	(11.8)	1	(17.2)	1	_	(9.4)		ı	1	(15.8)	ı		最大胴径(cm)	(30.0)	ı	(21.7)	(21.4)	16.4	12.7	ı	ı	13.6	
(cm)	ı	(0.9)	14.5	(20.2)	(21.4)	ı	ı	ı	(11.5)	(25.0)	(10.4)	ı	16.8	(25.7)	ı	(8.4)	23.2	ı	ı	ı	(7.4)		(mo)	(28.4)	1	18.0	19.5	(17.3)	12.2	17.0	13.1	(13.5)	
部位	胴部~底部	口縁部~底部	口緣部~脂部	口緣部~胴部	□縁部~胴部	底部~脚部	胴部~底部	開部	口緣部~胴部	□縁部~脂部	口縁部~胴部	胴部	□縁部~胴部	□縁部~胴部	底部~脚部	口縁部~底部	□縁部~胴部	口縁部~頚部	胴部~底部	胴部~底部	口縁部~底部		部	□縁部~胴部	底部~脚部	完形	□縁部~脂部	口縁部~底部	ほぼ完形	□縁部~胴部	口縁部~底部	口縁部~底部	
器種	HCH	ジョッキ 形土器	搬	删	嫐	删	쏌	器	ジョッキ 形土器	嬲	HGI	御	栅	臘	羅	**	HGH	쏌	栅	日	器		器	鰕	羅	鰕	鱡	鱡	恭	間	ジョッキ 形土器	雞	
出土層位	埋土3層		貯蔵穴	埋土2層	埋土2層	埋土4層	埋土2層	臣	床、 埋土2層	埋土	T T T	埋土											出土層位	埋土3層、 包含層  層	埋土3層			埋土3層	埋土2·3 層	埋土3層	肩部		
グリッド																			П				グリッド										1
遺構名グ	SB17	SB17	SB18	SB18	SB18	SB18	SB18	SB18	SB18	SB39	SB39	SB39	SX25	SX25	SX25	SX25	SX25	SX25	SX25	SX25	SX25		遺構名	SI15	SI15	SI15	SI15	SI15	SI15	SI15	SI15	SI17	
図版番号	Ph.13	Ph.13	Ph.13	Ph.13		Ph.14		Ph.14	Ph.14		Ph.14	Ph.14	Ph.14			Ph.14	Ph.14				Ph.14	器.	図版番号	Ph.15		Ph.15	Ph.15	Ph.15	Ph.16	Ph.16	Ph.16	Ph.17	
校審号	9	7	∞	თ	10	Ξ	12	13	14	15	16	17	-	2	3	4	2	9	7	00	6	弥生土器	校審号	-	2	8	4	2	9	7	8	6	
図面番号	第58区	第58区	第58区	第58区	第58図	第58図	第58区	第58区	第58区	第58区	第58区	第58図	第59区	第59図	第59図	第59区	第59区	第59区	第59図	第59図	第59図	区 9	図面番号	第60区	第60区	第60区	第60区	第60区	第60区	第60区	第60区	第60区	

乗 乗 三 明 中	12	11	14	15	2	16	17	19	18	21	20	22	23	25	24	44	45	64	63	99	28	59	62	61	09	27	26		無過	12	10
₩		底部指頭圧痕	外器面一部スス 物付着	恒			内器面指頭圧痕	壺 外内器面共に一部スス付 内器面一部摩減	突帯 外器面一 面炭化物付着	王痕	面に一部スス付	部スス付着		具		<b>青</b> 反転復元	面と胴部に 円形 の境目 一条 突帯	底部内器面指頭 B遺物	スス付着内外器 - B遺物	に一条の刻目突 部黒斑。	細	- 条の樹猫平行 文 - 部黒斑			(1) W	王痕 斑あり	痕		米		もろい
⋕	口縁部赤色顔料	外器面一部スス付着	一条の刻目突帯 外器面・ 付着 内器面炭化物付着	底部內器面指頭圧痕	反転復元	外器面スス付着	反転復元 内器面排	広口壺 外内器面: 着 内器面一部摩?	胴部に一条の刻目突帯 外器 部スス付着 内器面炭化物付	底部内器面に指頭圧痕	口縁部~胴部外器面に· 着 反転復元	外内器面共に一部: 舞として利用	反転復元	外器面一部スス付着	甕か壺か不明	外器面一部スス付着	広口壺 口縁部上面と胴部に円形 浮文 頚部と胴部の境目一条突帯 図面上復元	外・内器面摩減 底部内器面指頭 圧痕あり。SX16-B遺物	外器面一部赤変・スス付着内外器 面共に摩減。SX16-B遺物	胴部張りだし部分に一条の刻目突帯 口縁~胴部一部黒斑。 SX16-B遺物	外器面一部スス付着	広口壺 胴部付根に一条の櫛描平行 文と一条の櫛描波状文 一部黒斑	内器面指頭圧痕	内器面しばり痕 把手一部スス付着	口径より底径が大き 内器面指頭圧痕	脚部内器面に指頭圧痕 外器面一部赤変・黒斑 d	把手部分全て欠損 胴部内器面指頭圧 <sub>1</sub>		舞	無理やり反転復元	焼きが甘く非常にもろい
鉄茂	包以	回	包以	╫	良	良	良	良	۔	良	良	良	良	良	鼠		良	良	良	良	包以	良	良	良	电	良	良		焼成	良	不良
調整(內面)	口横ナデ・ 胴不定ハケ後ナデ	胴斜ハケ後ナデ・底ナデ	胴斜ハケ	胴斜ハケ・底ハケ	口横ナデ・胴斜ハケ	口横ナデ	口横ナデ・胴ナデ	口横ナデ・頚ハケ, 縦ハケ	口横ハケ後ナデ・胴斜ハ ケ後ナデ、横ハケ後ナデ	底ハケ・脚ナデ,横ナデ	ロハケ後横ナデ・ 胴斜ハケ	胴一底不定ハケ	口横ハケ後横ナデ・ 胴斜ハケ	ロー胴横ナデ・ 胴斜ハケ後横ナデ	口横ハケ後横ナデ, 斜ハケ	口横ナデ・胴不定ハケ	口横ナデ・頚横ハケ, 横ナデ・胴不定ハケ	口横ナデ・胴ハケ後ナデ	口横ナデ・胴横ハケ, 斜ハケ・底ナデ	口横ナデ・胴横ハケ, 斜ハケ・底ナデ	口横ナデ・胴縦ハケ、斜 ハケ・底ナデ・脚横ナデ	ロー頚横ナデ・胴横ハケ, 斜ハケ後ナデ	ロー胴斜ハケ,ナデ・ 底ナデ	ロナデ・胴ハケ後横ナデ・ 底ナデ	ロナデ・胴ハケ後横ナデ・ 底ナデ	口横ナデ・胴ナデ	口横ナデ・胴ハケナデ・ 底不定ハケ		欄 (回 区)	天回転ナデ	天回転ナデ
調整(外面)	口横ナデ・胴斜ハケ, ハケ後ナデ	胴縦ハケ後ナデ・底ナデ	胴斜ハケ,横ナデ,  ハケ後横ナデ	胴縦ハケ・底不定ナデ	口横ナデ・胴縦ハケ	口横ナデ	口横ナデ・胴縦ハケ, 横ナデ	口横ナデ、頚斜ハケ	口横ナデ・胴縦ハケ後ナデ、 斜ハケ後ナデ・底ナデ	底~脚横ナデ、ナデ	口横ナデ、 胴縦ハケ後ナデ	胴縦ハケ, 横ナデ・底ハケ後ナデ	口横ハケ後横ナデ・ 胴縦ハケ	ロ~胴横ナデ・斜ハケ	口横ナデ, ハケ後横ナデ	口横ナデ・胴縦ハケ	口横ナデ、斜ハケ・ 頚縦ハケ・胴縦ハケ	口横ナデ・胴ハケ後ナデ・ 底ナデ	口横ナデ・胴縦ハケ・ 底ナデ	口横ナデ・胴斜ハケ, 縦ハケ・底ナデ	口横ナデ・胴縦ハケ、 縦ハケ後ナデ・脚横ナデ	口横ナデ・頚縦ハケ・胴 斜ハケ、縦ハケ・底ナデ	口~胴ナデ・底不定ハケ	<ul><li>□~胴横ナデ・</li><li>底不定ハケ</li></ul>	ロ~胴横ナデ・ 底不定ハケ後ナデ	口横ナデ・胴横ハケ, ナデ・脚縦ハケ	<ul><li>口横ハケナデ・胴斜ハケ・ 底ナデ</li></ul>		調 整 (外 面)		天回転ヘラナデ, 回転ナ   デ
色 (内面)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	弱いぶこ	褐灰	にぶい黄橙	にぶい黄橙	灰黄褐	にぶい黄橙	にぶい黄褐	にぶい黄橙	にぶい黄褐	にぶい黄橙	にぶい黄橙	にぶい黄橙	配ぶい種	にぶい褐	塑	塑	にぶい	灰褐	浅黄橙	にぶい黄橙	にぶい黄橙	単いぶご	浅黄橙	にぶい黄橙	むいぶい		色 (内面)	灰オリーブ	にぶい黄橙
色 (外面)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	鼻いぶこ	灰黄褐	にぶい黄橋	嬰いぶい	にぶい黄橙	にぶい黄橙	明黄褐	にぶい黄橙	にぶい	にぶい褐	觐	むがいを	聖いぶい	にぶい褐	聖いぶい	霾	にぶい褐	記がい着	浅黄橙	にぶい黄橙	にぶい黄橙	にぶい黄橙	浅黄橙	にぶい黄橙	いべい		色 (外面)	及	にぶい黄橙
出	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石	石英・長石・雲母	角閃石・金雲母	石英・長石	石英・角閃石	角閃石・長石	石英・長石・雲母	石英・角閃石	石英・雲母	石英・角閃石・長石	角閃石・長石	石英・長石・雲母	石英・長石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・長石	石英・角閃石・雲母	石英・角閃石・雲母	石英・角閃石・長石	石英·角閃石		出	石英	石英
器 (cm)	9.3+	+6.01	4.2+	4.1+	17.5+	1.6+	+6:5	+7.7	35.0	+1.9	15.3+	3.6+	+1.6	7.0+	3.4+	7.5+	19.4+	20.0	21.6	27.5	28.0	36.9	14.2	14.6	1.1	40.7	14.9		器 (cm)	1.5+	3.5
底径 (cm)	1	7.2	1	(6.4)	-	1	ı	ı	6.7	10.6	-	7.3	ı	1	ı	1	-	(8.3)	(9.6)	7.0	10.0	6.4	14.1	14.4	13.3	ı	14.1		底径 (cm)	1	ı
最大胴径 (cm)	18.7	1	1	ı	(30.9)	ı	(12.4)	ı	29.4	1	(27.5)	ı	ı	ı	ı	(18.0)	1	(18.1)	(19.2)	24.2	18.9	24.7	-	ı	ı	(13.3)	1		最大胴径(cm)	1	ı
(cm)	14.0	1	ı	ı	(57.6)	ı	(11.0)	(20.7)	16.2	ı	(26.8)	ı	(22.6)	ı	ı	(19.0)	21.0	(15.9)	(17.4)	15.5	17.4	19.7	12.0	13.0	9.01	(16.2)	12.1		(ma)	(16.8)	16.0
部位	□縁部~胴部	胴部~底部	胴部	胴部~底部	□縁部~胴部	口縁部	口縁部~胴部	口緣部~頚部	口縁部~底部	底部~脚部	□縁部~胴部	胴部~底部	口縁部~胴部	口緣部~胴部	口縁部	□縁部~胴部	□縁部~胴部	ほぼ完形	口縁部~底部	口縁部~底部	口緣部~賭部	□縁部~原部	ほぼ完形	ほぼ完形	ほぼ完形	口緣部~閱部	口縁部~底部		粉	天井部~口縁部	記形
器種	HCH	捌	刪	部	鱡	鱡	刪	HGI	쏌	瓣	觀	#©l	鰕	翻	栅	鱡	础	概	嫐	础	郻	桐	ジョッキ 形土器	ジョッキ 出路	ジョッキ お井器	高坏	ジョッキ 形土器		器	坏蓋	坏蓋
出土層位	埋土3層	埋土3層	埋土3層	埋土3層	埋土3層		埋土1層							埋土2層	埋土2層	埋土2層	埋土2層	埋土2層、 No.10	埋土2層、 No.19	埋土2層、 No.4	No. 2	No.14	No.16	No.18	No.24				出土層位		
グリッド																													グリッド		
遺構名へ	SII7	SI17	SI18	SI18	SI19	SI19	SI19	SI24	SI24	SI25	SI25	SI25	SI28	8129	SI29	SI40	SI40	SX16	SX16	SX16	SX50	SX50	SX50	SX50	SX50	包含層	包含層		遺構名 //	SB05	SB05
図版番号	1 Ph.17	2 Ph.17	3	-			8 Ph.17	Ph.17	Ph.17				_	)		-2	3 Ph.18	Ph.18	Ph.18	8 Ph.19	Ph.15	5 Ph. 15	9h.16	, Ph. 16	9 Ph. 16	Ph.17	Ph.17	1 日本	図版番号		9 Ph. 19
- - - 本 - 本 - 本 - 本 - 本 - 本 - 本 - 本 -	11	12	13	14		2	<sub>∞</sub>		22	9	<u>N</u>	∞ ⊠	6	10	N	図 12	13	N	2	ε Ν	∑ 4	20	9 🗵	7	8	6	10	須恵	番 数 都 中	2 2	9 🗵
図面番号	第60区	第60区	第60区	第60図	第61図	第61区	第61区	第61区	第61区	第61図	第61図	第61区	第61区	第61区	第61図	第61図	第61区	第62図	第62図	第62図	第62図	第62図	第62図	第62図	第62図	第62図	第62図	5	図面番号	第63図	第63区

図面番号 番	ğ 図版番号	遺構名	グリッド	出土層位	器	部	( 画	最大胴径 (cm)	成(gm)	器 (E)	出	色調(外面)	色 調 (西西)	調 整 (外 面)	調 整 (凶 囚)	棋形	備	乗
第63図 7	7 Ph.19	SB05		電埋土2層	本	底部~高台		1	(9.4)	١,	長石	暗オリーブ灰	暗オリーブ灰			+	底部内器面に指頭圧痕	=
5区土館	上師器																	
図面番号 土土	楼 番 図版番号	号 遺構名	グリッド	出土層位	器	部	(圖)	最大胴径 (cm)	底径 (cm)	器 (cm)	出	色 調 (外面)	色 調 (內面)	調整(外面)	響響(国内)	供送	編	無無
第63図 1	1	SB05		埋土4層	嫐	□縁部~胴部	(26.1)	(36.6)	1	20.7+	長石	浅黄橙	浅黄橙	口横ナデ・ 胴縦ハケ後ナデ	口横ナデ・ 胴縦ヘラケズリ後ナデ	良反転	反転復元	9
第63図 2	2 Ph.19	SB05		電東側	搬	□縁部~底部	(19.0)	(17.6)	ı	15.3+ £	長石	にぶいる	響いぶじ	口横ナデ・胴縦ハケ、 不定ハケ後ナデ、ナデ	ロナデ・胴織ヘラケズリ、 ヘラケズリ後ナデ	四 四 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三	口縁部外器面に一部スス付着 底部指頭圧痕あり 反転復元	13
第63図 3	3 Ph.19	SB05		埋土4層	恭	胴部~底部	ı	ı	(10.5)	10.8+	石英	にぶい黄橙	にぶい黄橙	胴回転ナデ, 回転ヘラケズリ・底ナデ	胴〜底回転ナデ	良外器	外器面赤色顔料 反転復元	-
第63図 4	4 Ph.19	SB05		埋土4層	盆本	口縁部~胴部	20.6	1	1	11.1+	角閃石・長石・輝石	にぶい橙	にぶい櫓		ロ~胴回転ナデ	良外内	外内器面共に赤色顔料	6
第63図 8	8 Ph.19	SB05		電東側袖部 分直上	本	口縁部~底部	(13.8)	ı	(9.6)	3.0	角閃石・長石	明赤褐	明赤褐	ロ~底回転ナデ	口~底回転ナデ	良外内	外内器面共に赤色顔料 反転復元	2
第63図 9	9 Ph.19	SB05		電東側袖部 分直上	坏	口緣部~底部	13.7	1	9.0	3.0	角閃石	明赤褐	明赤褐	ロ~体回転ナデ・底ナデ	ロ〜底回転ナデ	良外内	外内器面共に赤色顔料	т
第63図 10	10 Ph.19	SB05		埋土1層	华	底部~高台	ı	1	8.6	1.5+	雲母·長石	明赤褐	明赤褐	台回転ナデ	底ナデ	良外内	外内器面共に赤色顔料	4
	-	SB05		埋土4層	副坏	口縁部~体部	(16.4)	1	1	2.0+	石英	明赤褐	明赤褐	ロ~体回転ナデ	ロ~体回転ナデ	Н	外内器面共に赤色顔料	2
第63図 12	2	SB05		埋土4層	华	口縁部	ı	ı	ı	7:2+		塑	鲫	口回転ナデ	口回転ナデ		外器面赤色顔料 高坏か	7
第63図 14	4 Ph.20				目	□縁部~底部		1	7.3	1.4	角閃石	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ロナデ・底回転糸きり	ロ~底ナデ			54
_	15	SK08			Ħ	□縁部~底部	(8.9)	-	(0.9)	1.4	角閃石	にぶい橙	にぶい櫓	ロナデ・底回転糸きり	ロ~底ナデ	-	底部回転糸きり 灯明皿	26
第63図 16	9	SK08		埋土1層	本	□縁部~底部	(11.0)	ı	(8.0)	2.8	石英・角閃石	にぶいた	いぶいを	口横ナデ・底回転糸きり	ロ〜底横ナデ	良 底部	底部回転糸きり	55
日本 図9	上師器																	
図面番号番	ğ 図版番号	号 遺構名	グリッド	出土層位	器	部	(m)	最大胴径 (cm)	底(cm)	器 (cm)	出	色 (外面)	色 (内面)	調整(外面)	調 (夕 面)	供送	編	無無
第63図 17	17 Ph.20	SK13			坏	口縁部~底部	(12.2)	1	(8.6)	3.2	角閃石・長石・雲母	にぶい櫓	母いぶい	ロ~体回転ナデ	ロ~底回転ナデ	良 底部	底部回転糸きり	20
第63図 18	8 Ph.20	SX14		ピット1か ら3層	目	口縁部~底部	(8.0)	ı	(7.0)	1.3	角閃石・長石	にぶい橙	鼻いぶこ	ロ~体回転ナデ	ロ~底回転ナデ	良底部	底部回転糸きり 反転復元	51
5区 黒色	色器																	
図面番号番号	ğ 図版番号	5 遺構名	グリッド	出土層位	器	部位	(m)	最大胴径 (cm)	底径 (cm)	器 (cm)	器	色 調 (外面)	色 調 (內面)	調整(外面)	響 調 製 (内 国)	焼成	備	無無
第63図 13	3 Ph.20	SB05		竈埋土3層	遊	体部~底部	I	1	5.8	2.8+	角閃石・長石	にぶい橙	暗灰	坏~底ヘラケズリ後ナデ	坏縫ヘラミガキ・ 底縫又は横ヘラミガキ	集色 底部 外器i	黒色土器 A 類(内器面黒色) 底部外器面へラ記号有 外器面黒斑あり	∞
2区 土鎌	上製品																	
図面番号 番号	英 野 図版番号	号 遺構名	プリッド	出土層位	器	部位	(副)	最大胴径 (cm)	成(cm)	器 (cm)	出	色 (外面)	色 調 (內面)	調整(外面)		供送	<b>一</b>	無無
第64図 1	1 Ph.30	1000層			土偶	胴部~脚部	4.8+	2.4+	2.2+		石英・角閃石・長石	にぶい櫓	聖いぶこ	縦ミガキ	縦ミガキ	型	腹部〜脚部(右側)残存背中から臀部にかけて二条沈線 関中から臀部にかけて二条沈線 脚部には一条沈線 縄文	Ŋ
田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	上製品																	
図面番号 番号	英 野 図版番号	号 遺構名	ブリッド	出土層位	器	部	(m)	最大胴径 (cm)	底径 (cm)	器 (cm)	出	色 (外面)	色 (内面)	調整(外面)	響 調	供成	備	無無
第64図 2	2 Ph.30	名配圖	C - 5	2	不明上製		+0.9	4.3	1.3+		石英・角閃石・長石	明黄褐	明黄褐	ナデ	ナデ	良民天刻形地目	と線刻が施さ 裏側は欠損 もの有 縄	57
第64図 3	3 Ph.20	包含圖	Z - 4	2	不明土製品		7.0	3.9	5.0+		石英・角閃石	にぶい黄橙	にぶい黄橙	縦ミガキ	不明	原料型型型	土笛か 三箇所に穿孔 沈線, 刻目を施す 縄文	54
第64図 4	4 Ph.20	包含層	A-7		紫井		ı	ı	ı	3.8+	石英・角閃石	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	度 上面	先端部に四条沈線, 穿孔 上面に文様 - 弥生	52
*各計測值	といここ	(t, ( )	の数値は	*各計測値については、()の数値は復元値を表し、数値の後の十は、	7、数値の1		実際の値はそれ以上		なると予	こなると予測されるもの。	; <del>6</del> 0°							

\*各計測値については、( ) の数値は復元値を表し、数値の後の十は、実際の値はそれ以上になると予測されるもの。 \*調整については、主に各部位の頭文字をとりその後に、調整の方向、調整の種類を記した。ひとつの部位に複数の調整を施すものについては、上から順に調整方法を記した。 \*口は口縁部、頚は頚部、胴は胴部、底は底部、脚は脚部、天は天井部、体は体部、台は高台を表す。 \*遺物包含層は包含層と略して表記した。

## 第6表 玉類観察表

5区 玉	類																
図面番号	枝番号	図版番号	遺構名	グリッド	取り上げ番号 (出土層位)	材質	気泡 (形)	形状	色調	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	残存度	接合	質量 (g)	備考	実測 番号
第65図	1	Ph. 38	SB12		床		まる	丸	紺	4.3	3.3	1.6	完形		0.08		1
第65図	2	Ph. 38	SB12		No. 2		まる	丸	紺	4.1	2.4	1.3	完形		0.02		2
第65図	3	Ph. 38	SB12		3層、No.2		まる	細長	紺	5.5	3.2	1.8	完形		0.09		3
第65図	4	Ph. 38	SB12		3層、No.1		まる	丸	紺	4.8	3.3	1.8	完形		0.09		4
第65図	5	Ph. 38	SB12		床面埋土		まる	丸	紺	5.4	2.7	2.5	完形	有	0.08		5
第65図	6	Ph. 38	SB12		床面埋土		まる	丸	紺	3.8	2.5	1.5	完形		0.02		6
第65図	7	Ph. 38	SB12		床面埋土		まる	丸	紺	2.7	2.3	1.6	完形		0.03		7
第65図	8	Ph. 38	SB12		床面埋土		まる	丸	紺	3.6	2.4	1.5	完形		0.02		8
第65図	9	Ph. 38	SB12		床面埋土		まる	丸	紺	3.8	2.6	1.3	完形		0.02		10
第65図	10	Ph. 38	SB12		床面埋土		まる	丸	紺	3.0	2.3	1.3	完形		0.01		11
第65図	11	Ph. 38	SB12		床面埋土		まる	丸	紺	3.6	2.1	1.4	完形		0.01		12
第65図	12	Ph. 38	SB12		床面埋土		まる	丸	紺	3.5	2.0	1.5	完形		0.01		13
第65図	13	Ph. 38	SB12		Pit内		まる	丸	紺	3.0	2.3	1.5	完形		0.01		14
第65図	14	Ph. 38	SB12		床		まる	丸	紺	3.6	3.4	1.3	完形		0.01		17
第65図	15	Ph. 38	SB12		床		まる	丸	紺	4.6	3.3	2.3	完形		0.1		18
第65図	16	Ph. 38	SB12		床		まる	丸	紺	2.9	1.8	1.3	完形		0.01		19
第65図	17	Ph. 38	SB12		床		まる	丸	紺	3.6	2.3	1.5	完形		0.02		20
第65図	18	Ph. 38	SB12		床面		まる	丸	紺	3.8	1.6	1.5	完形		0.01		22
第65図	19	Ph. 38	SB12		床面		まる、 のばし	丸	紺	4.0	1.7	1.5	完形		0.01		24
第65図	20	Ph. 38	SB12		床面		まる	丸	紺	4.1	2.3	1.1	完形		0.02		25
第65図	21	Ph. 38	SB12		水洗い一括 (Pit内)		まる	丸	紺	_	(2.3)	_	1/4	有	測定不能	36と接合	35
第65図	21	Ph. 38	SB12		水洗い一括 (Pit内)		まる	丸	紺	(5.0)	2.3	(1.7)	1/2	有	0.04	35と接合	36
第65図	22	Ph. 38	SB12		床面一括		まる	丸	紺	_	2.6	(0.9)	1/2	有	0.02	44と接合	43
第65図	22	Ph. 38	SB12		床面一括		まる	丸	紺	_	2.6	_	1/2	有	0.02	43と接合	44
第65図	23	Ph. 38	SB12		床面埋土		まる	丸	紺	(4.4)	(2.0)	_	1/2弱	有	0.04	46と接合	45
第65図	23	Ph. 38	SB12		床面埋土		まる	丸	紺	_	(2.9)	_	1/2	有	0.06	45と接合	46
第65図	24	Ph. 38	SB12		床面一括		のばし	丸	紺	_	2.4	(0.7)	1/2		測定不能		41
第65図	25	Ph. 38	SB12		床面埋土		まる	丸	紺	(2.8)	2.6	(0.8)	1/2		0.01		47
第65図	26	Ph. 38	SB12		水洗い一括、 床面		まる	丸	紺	(2.6)	2.4	(1.0)	1/2	有	0.01	33と接合	37
第65図	27	Ph. 38	SB12		床面一括		まる	丸	紺	(3.7)	3.4	(1.2)	1/2	有	0.02	34と接合	40
第65図	28	Ph. 38	SB12		床面埋土		まる	丸	水色	2.8	2.0	0.9	完形		0.01		9
第65図	29	Ph. 38	SB12		床		まる	丸	水色	2.9	2.2	0.8	完形		0.01		16
第65図	30	Ph. 38	SB12		床面		まる	丸	水色	3.7	2.6	1.5	完形		0.02		21
第65図	31	Ph. 38	SB12		床面		まる	丸	水色	3.7	2.5	1.2	完形		0.01		23
第65図	32	Ph. 38	SB12		床面		まる	丸	水色	3.6	2.0	1.5	完形		0.01		26
第65図	33	Ph. 38	SB12		床面		まる、 のばし	丸	水色	2.9	1.5	1.3	完形		0.01		27
第65図	41	Ph. 38	SB12		床	ヒスイ	_	丸	緑	7.7	5.4	3.4	完形		0.55	穿孔は両側から	15
_	_		SB12		水洗い一括、 床面		まる	丸	紺	_	(2.1)	_	1/4弱		0.01		38
_	_		SB12		水洗い一括、 床面		まる	丸	紺	_	(2.3)	_	破片		0.01		39
_	_		SB12		床面一括		まる	丸	紺	_	(2.0)	_	破片		0.01		42
_	_		SB12		床面埋土		まる	丸	水色	_	(2.8)	_	破片		測定不能		48
第65図	34	Ph. 38	SB15		床直上埋土		まる	丸	紺	2.8	2.3	1.1	完形		0.01		29
第65図	35	Ph. 38	SB15		床直上埋土		まる	丸	紺	4.1	2.6	1.8	完形		0.04		30
第65図	38	Ph. 38	SB15		床直上、 埋土内		まる	丸	紺	_	3.1	(0.8)	1/2		0.02		52
第65図	37	Ph. 38	SB15		床直上、 埋土内		まる	丸	紺	_	(3.2)	_	1/2弱		0.01		50
第65図	36	Ph. 38	SB15		床直上、 埋土内		まる	丸	紺	_	(2.3)	_	1/2		0.01		49
第65図	39	Ph. 38	SB15		床直上、 埋土内		まる	丸	紺	_	(3.2)	_	1/2	有	0.02	53と接合	51
第65図	26	Ph. 38	SB17		貯蔵穴、埋土		まる	丸	紺	(2.6)	(2.4)	(1.0)	1/2	有	測定不能	37と接合	33
第65図	27	Ph. 38	SB17		貯蔵穴、埋土		まる	丸	紺	(3.7)	(3.4)	(1.2)	1/2	有	0.01	40と接合	34
第65図	39	Ph. 38	SB17		炉、埋土		まる	丸	紺	_	3.2	_	1/2	有	0.03	51と接合	53
第65図	40	Ph. 38	SB17		硬化面中	カリガラス	まる	長細	水色	5.5+	全長 14.0	2.0+	1/4 (欠損)		0.28	管玉 穿孔は両側から	31
_	_		SB17		床直上		まる	長細	紺	(3.6)	_	_	1/4 (欠損)		測定不能		32
第65図	42	Ph. 38	包含層	3003G	3003 G	ヒスイ	_	丸	緑	5.8	3.4	2.3	完形		0.16	穿孔は両側から	28
	-	-	•		•						•				*		

6区 玉類

	.,,,,																
図面番号	枝番号	図版番号	遺構名	グリッド	取り上げ番号 (出土層位)	材質	気泡 (形)	形状	色調	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	遺存度	接合	質量 (g)	備考	実測 番号
第65図	43	Ph. 38	SI15		B-10G		まる	丸 (長め)	水色	4.5	3.8	2.0	完形		0.08		58
第65図	44	Ph. 38	SI17		床面直上		まる	丸	水色	4.0	2.7	1.7	完形		0.05		57
第65図	45	Ph. 38	SI18				まる	丸 (長め)	紺	3.0	3.0	1.3	完形		0.01		56
第65図	46	Ph. 38	SI29		埋土③上面		まる	丸	紺	5.9	3.6	1.8	完形		0.16		54
第65図	47	Ph. 38	包含層		検出面 C-6Ⅳ層		まる	丸	水色	5.3	3.2	2.0	完形		0.06		55
第65図	48	Ph. 38	包含層		④層床面		_	長細	-	5.0	全長 95.0	2.0	完形		0.3	石製管玉 穿孔は両側から	59

<sup>\*</sup>備考欄の接合Naは、観察表末尾の実番であり、図中の丸番号と一致する。 \*表中の包含層とは遺物包含層のことである。

## 第7表 銅製品・鉄製品観察表

### 6区 銅鏡

0 12.	שלש נייוש															
図面番	枝番号	図版番号	遺構名	グリッド	出土層位	器 種	面径 (cm)	縁幅 (cm)	縁高 (cm)	外区幅 (cm)	内区幅 (cm)	鈕座幅 (cm)	質量 (g)	備	考	実測 番号
第66區	1	Ph. 37	SI24 (A)			連弧文鏡系小形仿製鏡	8.0	0.5	0.4	0.5	1.3	1.4	61.3	鈕座径;1.4 平均の厚さ;(	位は全てcm) 歯紋帯	-

## 5区 銅鏃

図	面番号	枝番号	図版番号	遺構名	グリッド	出土層位	器 種	全長 (cm)	全幅 (cm)	刃部長 (cm)	刃部幅 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	厚み (g)	備考	実測 番号
図	面番 号	2	Ph. 37	SB18		2層	銅鏃	2.5+	1.0+	1.7+	1.0+	0.8+	0.5+	0.5	刃部両面ともに欠損 主面から茎部の一部に擦痕 が残る	-

### 5区 鉄製品

3 E W	4KHL														
図面番号	枝番号	図版番号	遺構名	グリッド	出土層位	器 種	全長 (cm)	全幅 (cm)	刃部長 (cm)	刃部幅 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	厚み (g)	備考	実測 番号
第66図	3	Ph. 36	SB12			鉄鏃	4.5	2.2	4.5	_	_	2.2	0.2	基部から抉り部錆膨れが大きい 取上げNo.SB12IV層一括	2
第66図	4	Ph. 36	SB12		埋土	やりがんな	6.1+	1.0+	4.6	0.2	1.5	1.0	0.2	中心部分は窪み有 基部は外反する	5
第66図	5	Ph. 36	SB39		埋土	やりがんな	3.5+	1.3+	_	_	_		0.2	器厚が錆の為はっきりせず	4
第66図	6	Ph. 36	包含層	2803 G	Ⅲ層	鉄鏃	7.3	2.5	_	_	_	_	0.2	基部の抉部の中央は錆膨れ ではっきりしない	1
第66図	7	Ph. 36	包含層	2905 G	IV層	鉄鑿	5.1+	1.8+	0.3+	1.8+	4.8+	0.3	0.7		3

#### 6区 鉄製品

0 区 业	35 III	1													
図面番号	枝番号	図版番号	遺構名	グリッド	出土層位	器 種	全長 (cm)	全幅 (cm)	刃部長 (cm)	刃部幅 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	厚み (g)	備考	実測 番号
第66図	8	Ph. 36	包含層	D-14	III層	鉄鏃	3.1+	1.7+	3.1+	_	_	1.5	0.2		6
第66図	9	Ph. 36	撹乱			楔か	4.6+	1.2	_	_	_	_	0.4		7
第66図	10	Ph. 36	包含層	B-13	III層	袋状鉄斧	6.0+	4.1+	4.1+	_	袋部長 4.3十	3.0	0.3	全体が錆で被われて大きく 膨らんでいる	8

<sup>\*</sup>表中の包含層とは遺物包含層のことである。

# 写 真

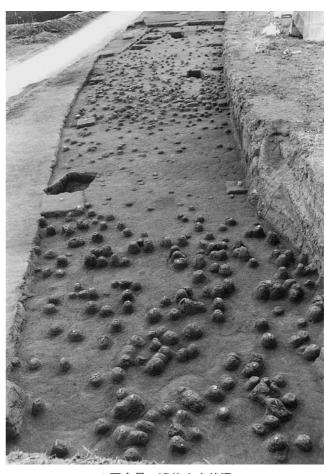


ヲスギ遺跡近景

 $1\sim4$  区調査区全景 Ph. 1



1区全景 遺物出土状況(北から)



2区全景 遺物出土状況



3区全景 遺物出土状況



4区全景 遺物出土状況(北から)



4区全景 遺物出土状況(南から)



5区 SX19 完掘状況



5区 SX19 遺物出土状況



2区 1号土坑 完掘状況



2区 1号土坑 遺物出土状況



4区 SX06上層 遺物出土状況(北から)



5区 SX24 埋設土器出土状況(東から)



5区 SX24 完掘状況(東から)



5区 SX36 土層断面(南から)



5区 SX38 完掘状況(西から)



6区 SI34 検出状況(南から)



6区 SI34 完掘状況(北から)



6区 SI39 完掘状況(西から)



6区 SI35・SI37・SI38 検出状況 (西から)



6区 SI35 検出状況(北西から)

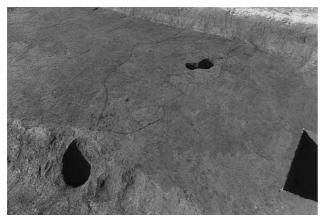


6区 SI36 遺物出土状況(北から)



6区 SI36 検出状況(北から)

Ph. 4 3 ~ 5 区弥生時代遺構



3区 1号住居跡 完掘状況



4区 2号住居跡 検出状況



4区 2号住居跡 遺物出土状況



5区 SB17 完掘状況(東から)



5区 SB15 検出状況(北から)



5区 SB15 完掘状況(南から)



5区 SB18 検出状況(北から)

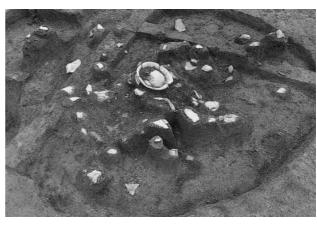


5区 SB18 銅鏃出土状況(北から)

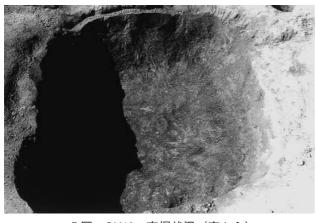
5 · 6 区弥生時代遺構 Ph. 5



5区 SB39 検出状況(北から)



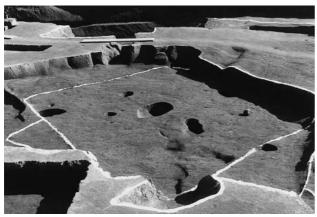
5区 SX25 遺物出土状況(南から)



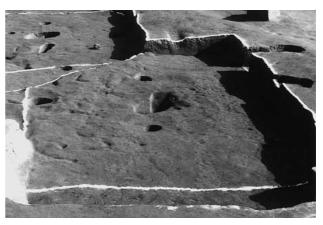
5区 SK42 完掘状況(東から)



6区 SI15 検出状況(東から)



6区 SI15・SI19 完掘状況(西から)



6区 SI17 完掘状況 (西から)



6区 SI18 完掘状況(東から)



6区 SI23 完掘状況(南から)



6区 SI24-B 完掘状況(北から)



6区 SI24-A 遺物出土状況(北西から)



6区 SI24-A 銅鏡出土状況(西から)



6区 SI28 完掘状況(南から)



6区 SI25 完掘状況(西から)



6区 SI29 完掘状況(西から)



6区 SI40 遺物出土状況(東から)



6区 SX16 完掘状況(南から)

5 区古代·中世遺構 Ph. 7



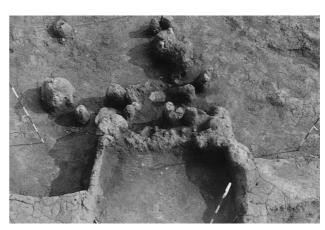
5区 SB05 北側竃検出状況(南から)



5区 SB05 遺物出土状況(南から)



5区 SB05 遺物出土状況(西から)



5区 SB05 電検出状況(北から)



5区 SK03 断面(西から)



5区 SK03 完掘状況(西から)

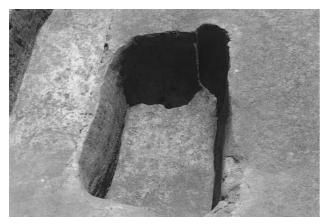


5区 SK04 完掘状況(北から)

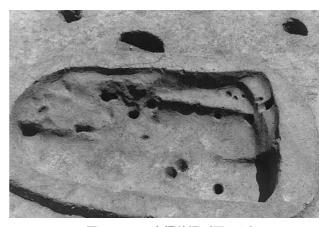


5区 SK08-A・B 完掘状況(北東から)

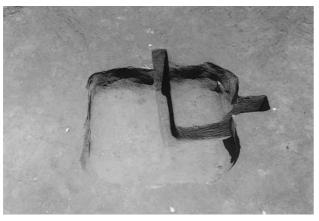
Ph. 8 5 · 6 区中世遺構



5区 SK09 完掘状況(西から)



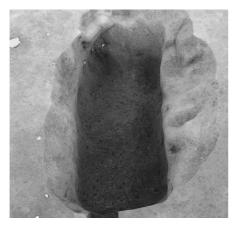
5区 SK14 完掘状況(西から)



6区 SK01 完掘状況(南から)



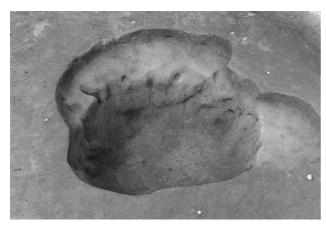
6区 SK02 完掘状況(北から)



6区 SK05 完掘状況(北から)



6区 SK07 完掘状況(北から)



6区 SK08 完掘状況(南から)



6区 SK13 完掘状況(東から)



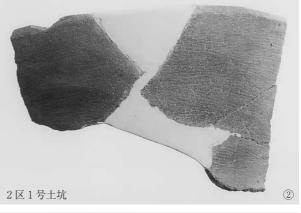














**Ph.** 10 5 区縄文土器 (後・晩期)





Ph. 12 3 ~ 5 区弥生土器



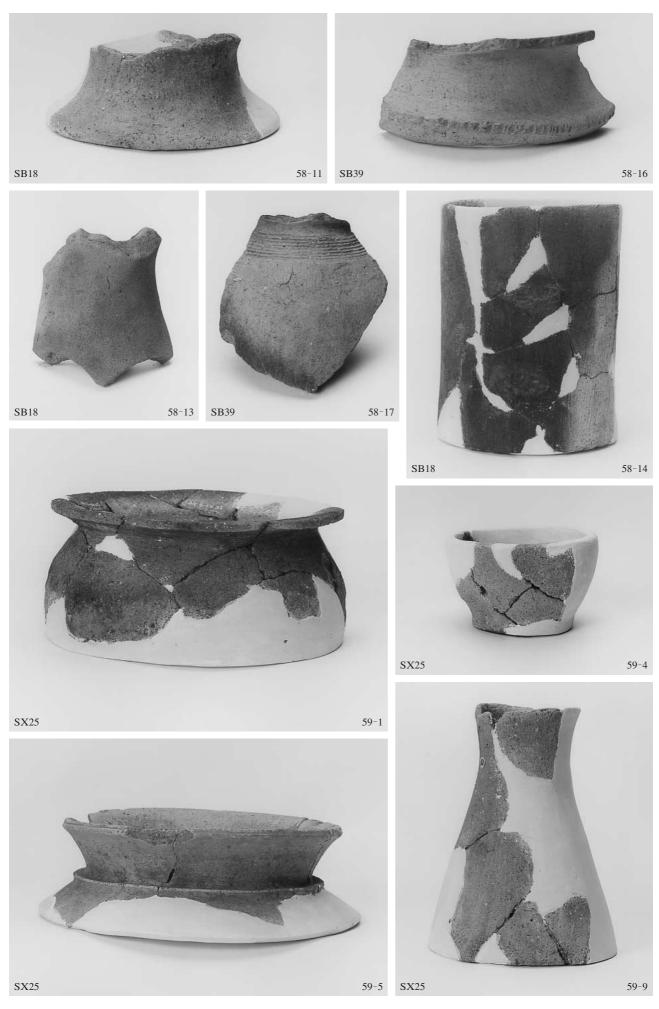




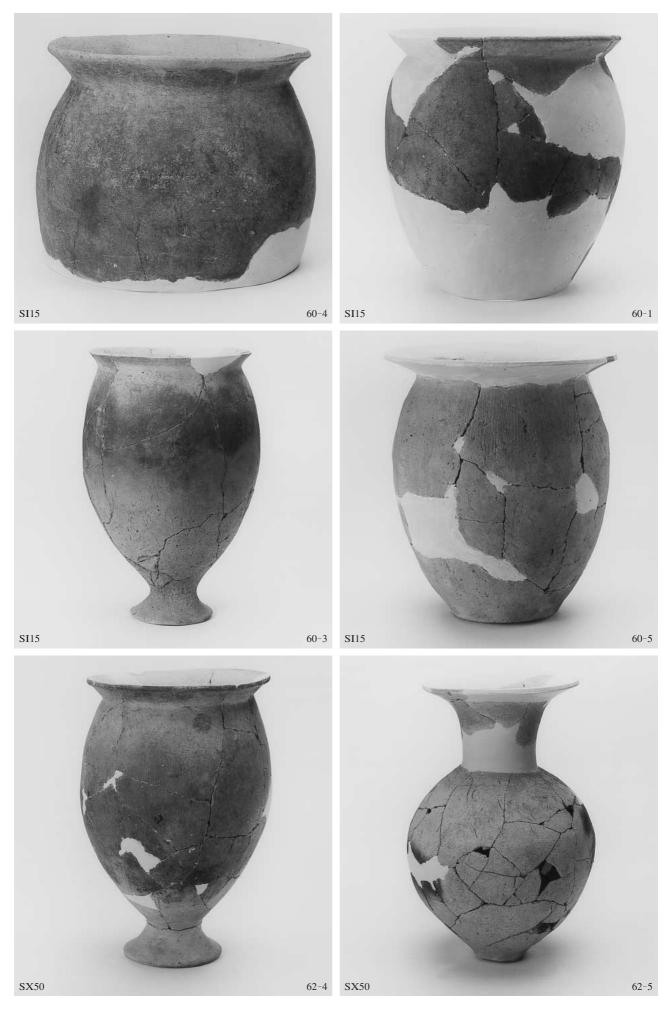
5 区弥生土器 1 Ph. 13



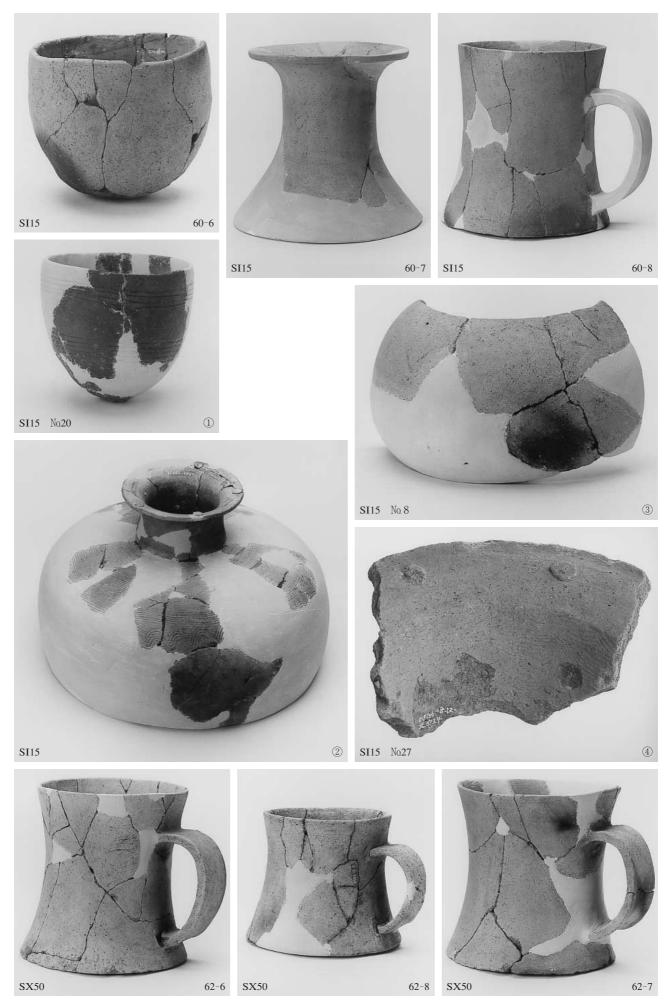
Ph. 14 5 区弥生土器 2



6 区弥生土器 1 Ph. 15



Ph. 16 6 区弥生土器 2



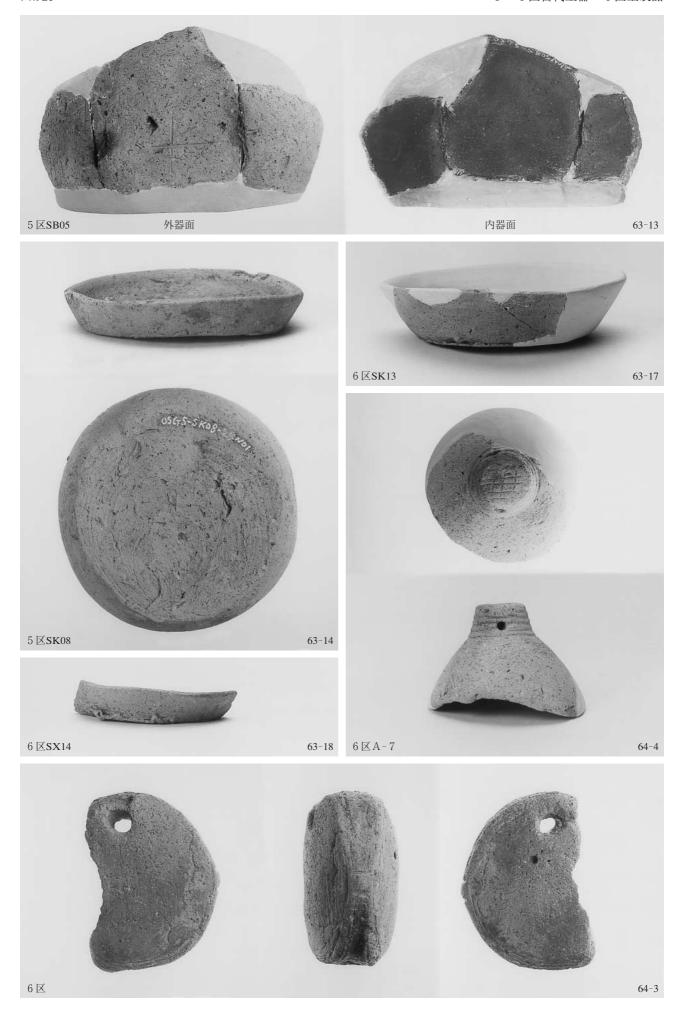
6 区弥生土器 3 Ph. 17



Ph. 18 6 区弥生土器 4



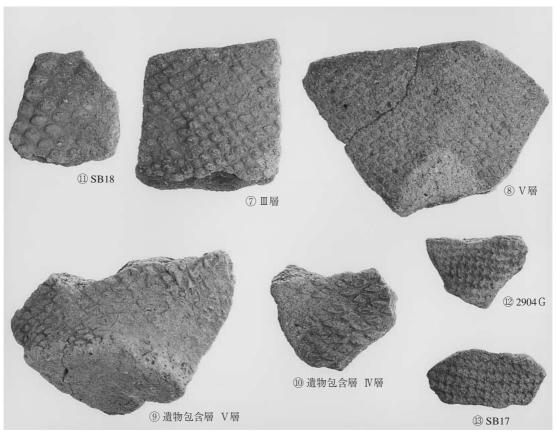




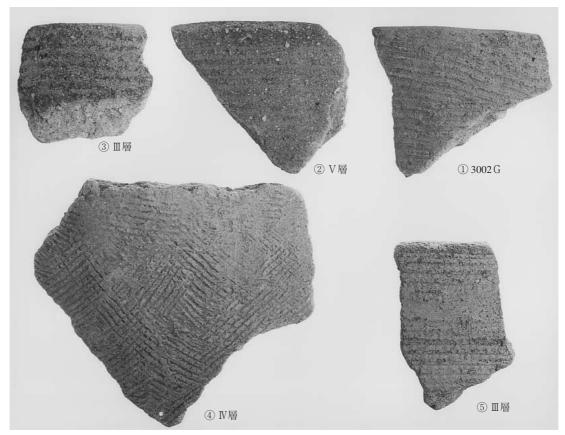
5 区縄文土器 (早期) Ph. 21



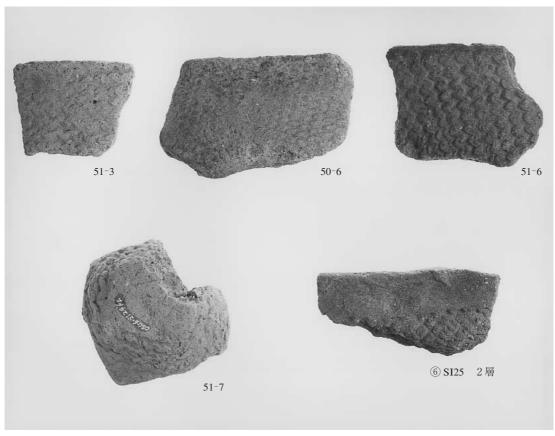
押型文土器(楕円・山形)等



押型文土器 (楕円·山形)

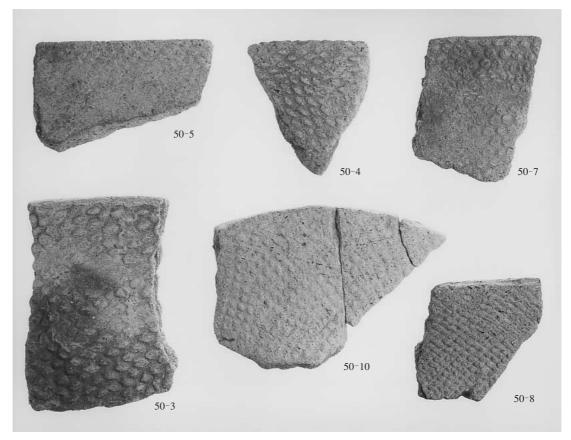


5区 円筒形土器 (撚糸文・条痕文)

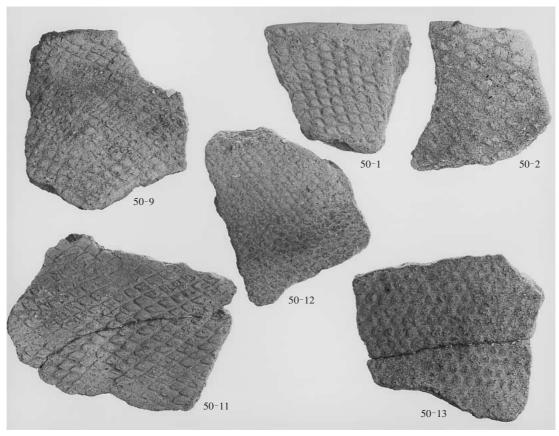


6区 押型文土器 (楕円・山形)

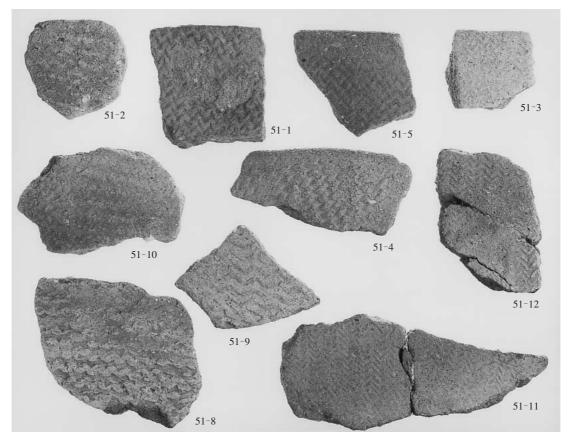
6 区縄文土器(早期) Ph. 23



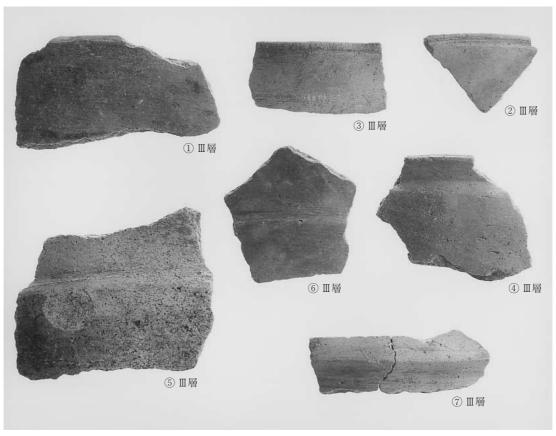
押型文土器 (楕円)



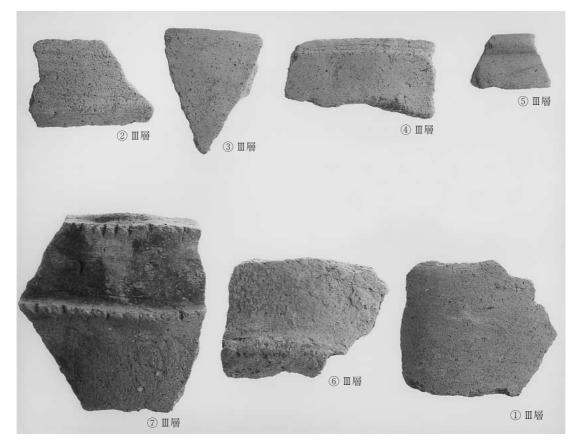
押型文土器 (楕円)



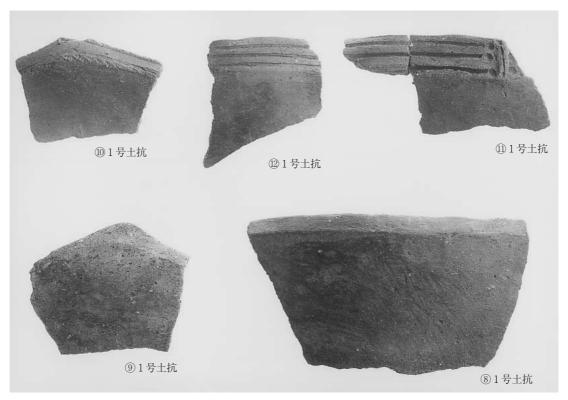
6区 押型文土器 (山形)



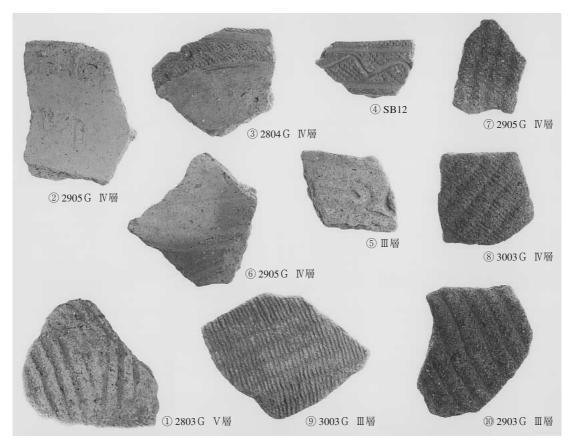
1区 黒色磨研土器



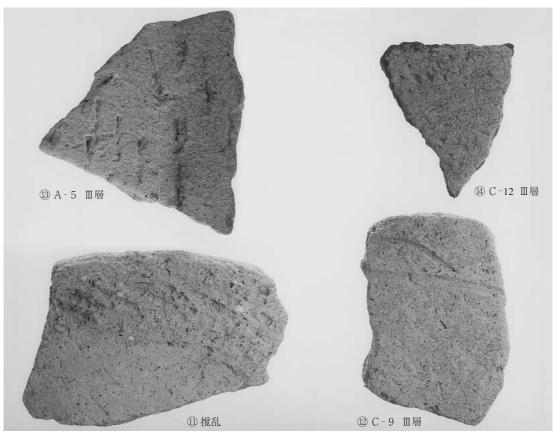
1区 黒色磨研・突帯文土器



2区 磨消縄文・黒色磨研土器

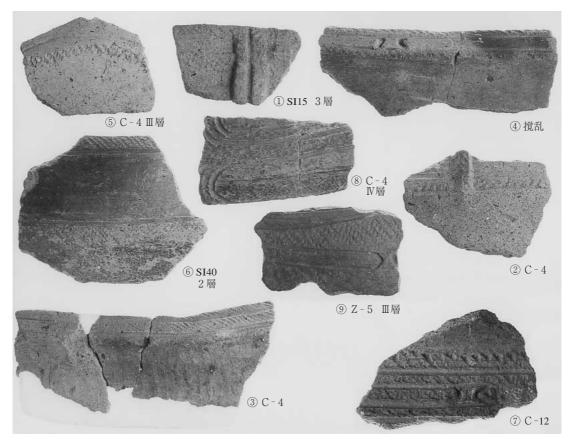


5区 磨消縄文・組織痕土器等

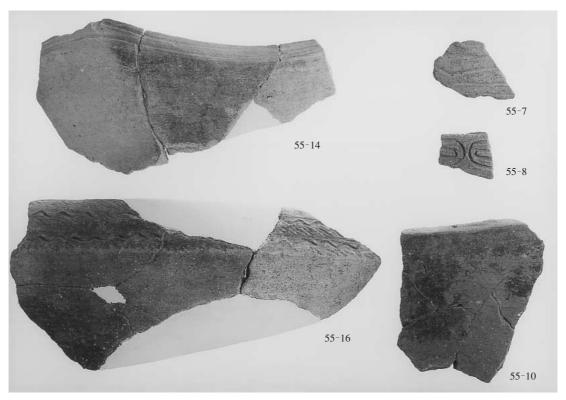


6区 貝殻腹縁文・貝殻条痕等

6 区縄文土器(後·晚期) Ph. 27



6区 磨消縄文

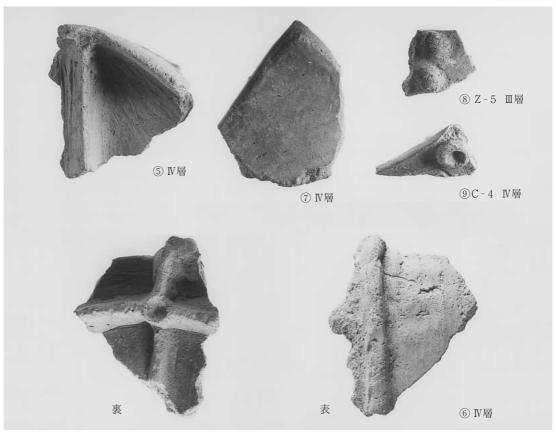


6区 黒色磨研土器 (SI37・SI38)

Ph. 28 6 区縄文土器 (後・晩期)

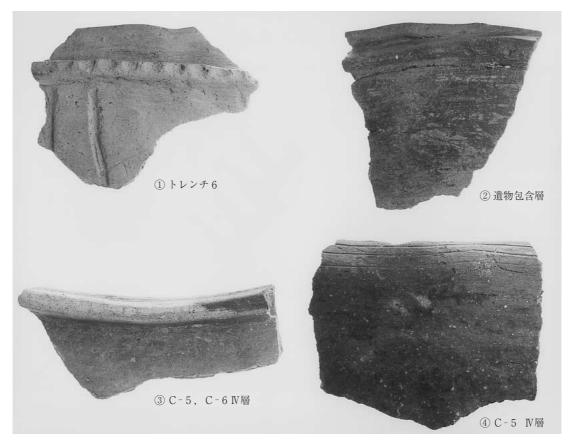


6区 磨消縄文・浮文等

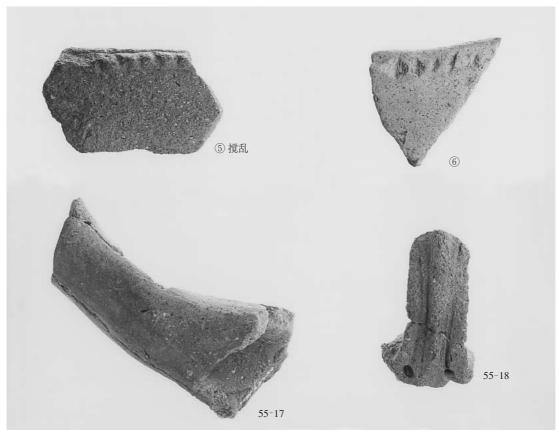


6区 不明土器等

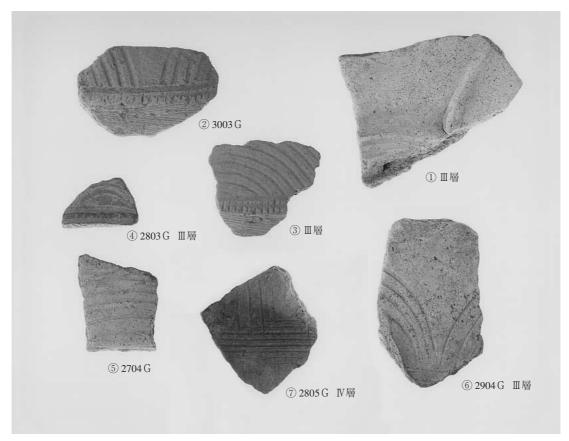
6 区縄文土器(後·晚期) Ph. 29



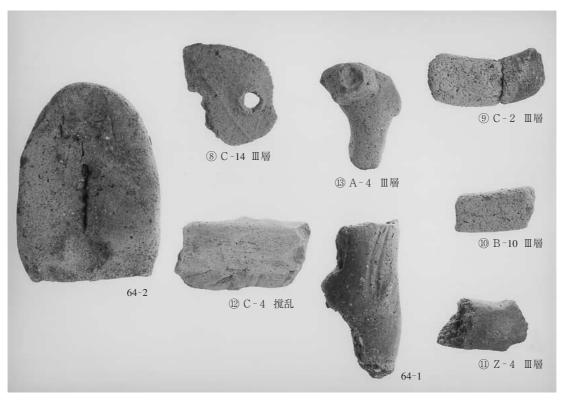
6区 黒色磨研土器等



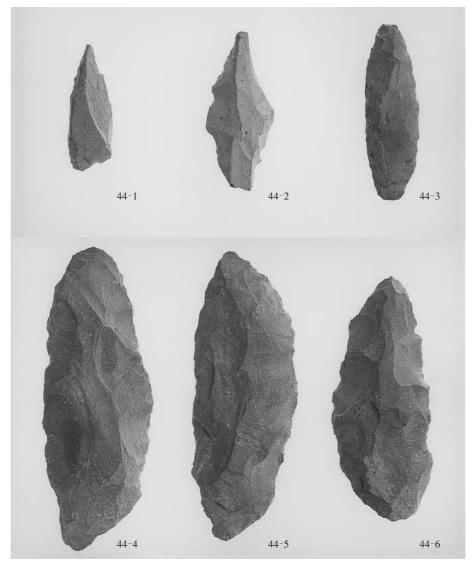
6区 刻目突帯・注口土器・把手



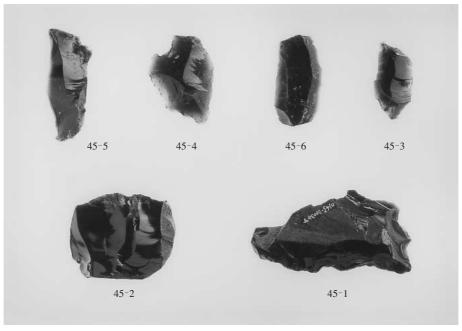
5区 免田式土器等



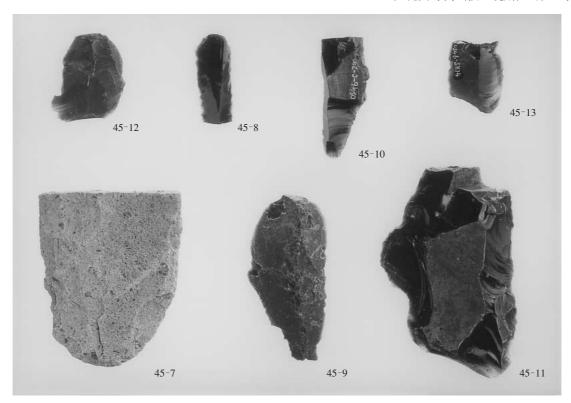
2・6区 土偶・不明土製品等



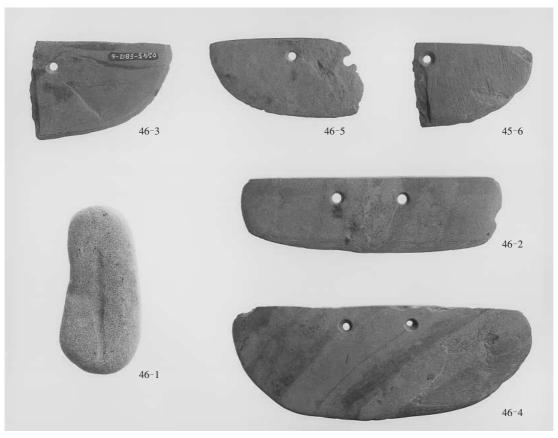
5・6区 ナイフ形石器・尖頭器



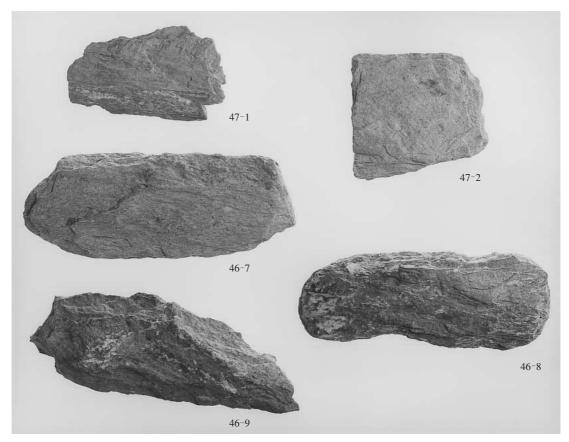
5区 剥片・石核・スクレイパー等



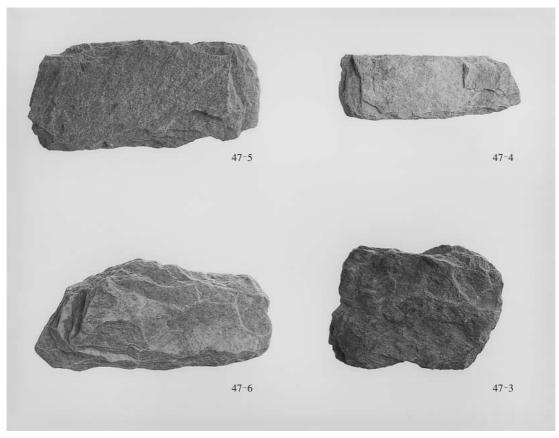
6区 打製土堀具・使用痕剥片等



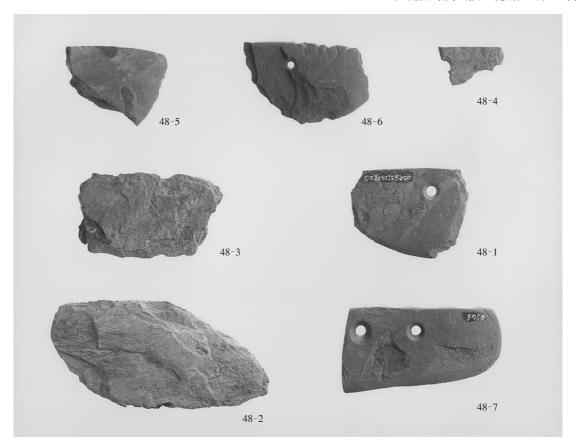
2・4・5区 砥石・石製穂摘具



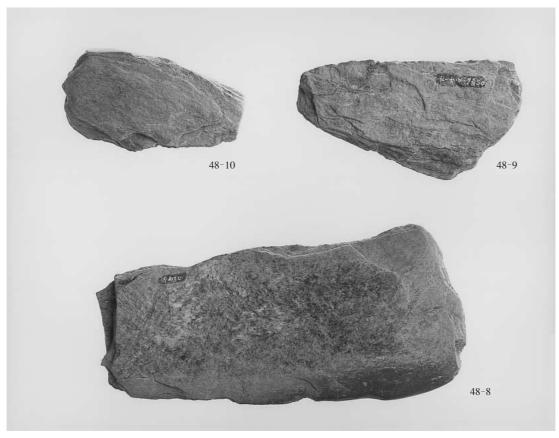
石製穂摘具未製品(打製石製穂摘具)



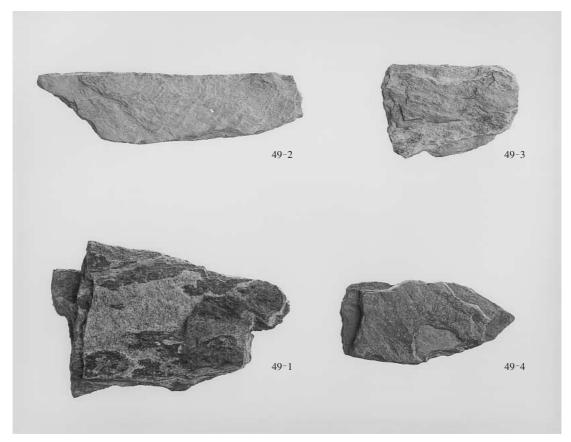
石製穂摘具未製品(打製石製穂摘具)



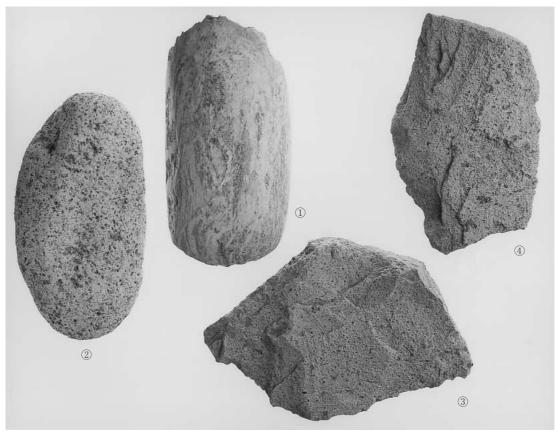
石製穂摘具・石製穂摘具未製品(打製石製穂摘具)



石製穂摘具未製品(打製石製穂摘具)

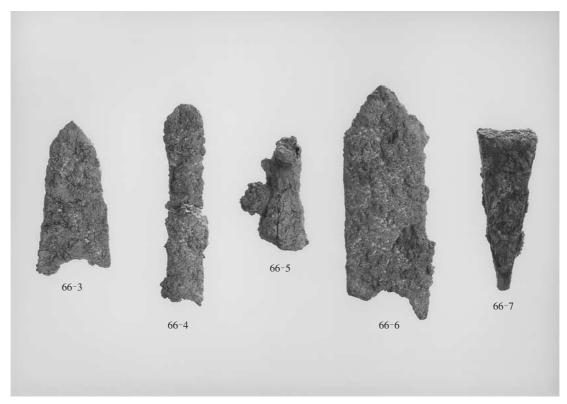


6区 石製穂摘具未製品(打製石製穂摘具)

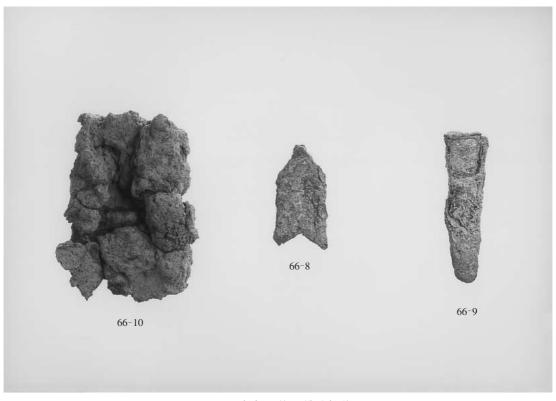


1区 凹石等

Ph. 36 5 · 6 区鉄製品

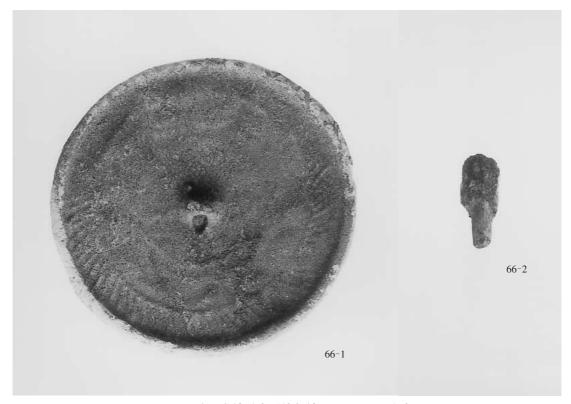


5区 鉄鏃・鉇・鉄鑿

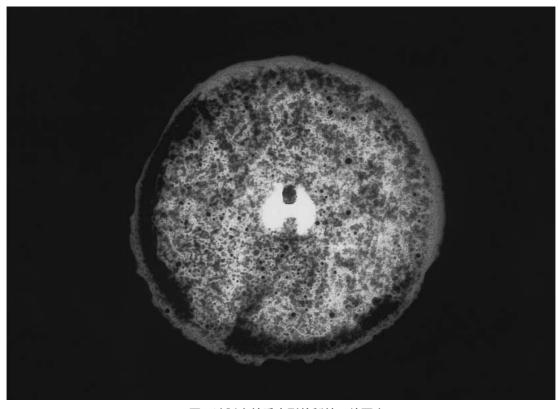


6区 鉄鏃・楔・袋状鉄斧

5 · 6 区銅製品 Ph. 37

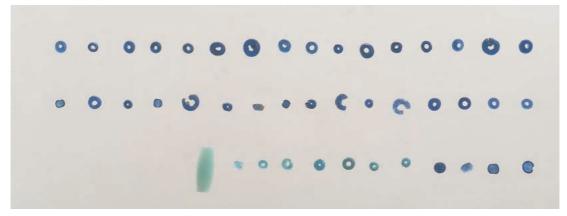


6区 連弧文鏡系小形仿製鏡 • 5区 銅鏃



6区 連弧文鏡系小形仿製鏡 X 線写真

Ph. 38 5 · 6 区玉類



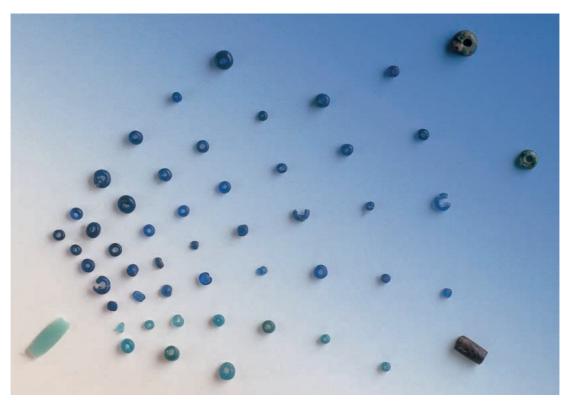
5区 ガラス小玉・管玉



6区 ガラス小玉



5・6区 ヒスイ製小玉・管玉



5・6区 玉類集合

### あとがき

現地調査期間は4か年にわたり、縄文時代~弥生時代の集落域及び墓域等の 現地調査を実施し、多大な調査成果を得ることができました。

調査終了から数年を経てようやくその成果の一部を公表できることに感謝します。

この一冊の本ができるまではたくさんの人々の協力があって作成されています。事業者や地元各位はもちろん、現地調査で遺物包含層や遺構を掘削して頂いた作業員の皆様。現地から持ち帰った遺物の洗浄・注記・接合・復元をしないと、実測(図面)や写真として記録できません。

本報告の例言にお名前を挙げた方々に作業をお願いする前にさらにたくさんの方々に協力をお願いしています。

以下にお世話になった一部の方の御芳名を記して感謝の意を表します。

浅井安治、浅生豊子、井手晴美、上野誠也、内田英美、大友清晃、落石孝子、河添雅弘、清村美津子、国武いつ子、小佐井重人、小早川サキ子、佐野新子、高木正子、中原節子、野口ツユ子、東りえ、古庄貞子、古田直也、牧坂スミ子、松尾すみ子、松村喜代子、松本嘉傳、右田弘子、安武容子、山本美津代、吉田智子、笠ウメ子、渡邊和幸、豊永新之介、浅生昭子、梅原美奈子、大久保哲哉、坂本司、青木直信、村上ミヨ子、井上ミチ子、川越淳仁、清田サナエ、清田孝子、草野真由美、島村佳男、末吉恵子、田崎よし子、中島千鶴子、原田照子、東靖子、福山由美子、藤井光子、古田ミツメ、松尾たか子、松永悦子、宮本厚子、水上順子、村上照美、村上ハルヨ、森川鶴子、森崎潔子、青木(立)、磯野、有働、今村幸枝、山内洋子、江島園子、山元友子、松本直枝、浪床せい子、木村雅子、水本寿美子、河崎節子、大畑康子、野崎千枝子、山下千栄子、渕上慶子、宮田日文、富田知子

#### (順不同)

本報告の編集者も報告書作業に携わる時間が少なく、かなりの部分を嘱託・作業員さんに頼らざるを得ませんでした。

現地調査及び報告書作成に携わって頂いた人々に感謝すると共に、本報告及 び遺物等が地域で活用されることを希望します。

# 報告書抄録

ふりがな	をすぎいせき						
書名	ヲスギ遺跡						
副書名	県道鈴麦線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査						
巻 次							
シリーズ名	熊本県文化財調査報告						
シリーズ番号	第214集						
編著者名	亀田 学						
編集機関	熊本県教育委員会						
所 在 地	〒862-8570 熊本県水前寺6丁目18番1号						
発行年月日	西暦2003年3月31日						

؞ڿ	りが	な	ふりがな	コ -	-	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所	収 遺	跡	所 在 地	市町村	遺跡番号	オレル中	不胜	<b>阿红形</b>	<b>明</b> 至田竹	門且原囚
ヲ	ス	ギ	くまもとけん かもとぐん 熊本県鹿本郡	43385	137	32度	130度	19960104	約1,100㎡	道路改良
			うえきまち たるみず 植木町滴水			53分	41分	~		
								19981225		

所収遺跡	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ヲスギ	包蔵地	弥生時代 縄文時代	竪穴住居跡、土坑	鏡、ガラス小 玉、石製穂摘 具、弥生土器、 縄文土器ほか	

### 熊本県文化財調査報告 第214集

## ヲスギ遺跡

県道鈴麦線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査

平成15年3月31日

編集·発行 熊本県教育委員会 〒862-8609 熊本市水前寺6丁目18-1 TEL 096-383-1111

印刷・製本 白木メディア株式会社 〒862-0976 熊本市九品寺5丁目9番35号 この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第214集を底本として作成しました。 閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用 してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用 方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名: ヲスギ遺跡

発行:熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話: 096-383-1111

URL: http://www.pref.kumamoto.jp/

電子書籍制作日:2015年12月8日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しく は熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会

URL: http://www.kumamoto-bunho.jp/